

高須賀堂ノ前遺跡 高須賀道城入遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成 28 年 3 月

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第406集

たかす か どう の ま え
高須賀堂ノ前遺跡

たかす か どう じょう い り
高須賀道城入遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成28年3月

国土交通省関東地方整備局常総国道事務所
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者からの委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所による一般国道468号首都圏中央連絡自動車道建設事業に伴って実施した、高須賀堂ノ前遺跡及び高須賀道城入遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、高須賀堂ノ前遺跡では、縄文時代早期の集落跡と室町時代の墓域、高須賀道城入遺跡では、縄文時代早期・前期、弥生時代後期の集落跡、古墳時代中期の廃棄場所、室町時代・江戸時代の墓域と断続的に土地利用がなされていることがわかりました。これらの成果は、当地域の社会の成り立ちや歴史を知る上で欠くことのできない貴重な資料となります。

本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上の一助として御活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から報告書の刊行に至るまで、委託者であります国土交通省関東地方整備局常総国道事務所に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、つくば市教育委員会をはじめ、関係各位からいただいた御指導、御協力に対し、深く感謝申し上げます。

平成28年 3月

公益財団法人茨城県教育財団
理事長 鈴木 欣一

例 言

- 1 本書は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成24年度に発掘調査を実施した、茨城県つくば市高須賀字堂ノ前1385-3番地ほかに所在する高須賀堂ノ前遺跡及び茨城県つくば市高須賀字道城入1939-2番地ほかに所在する高須賀道城入遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。

高須賀堂ノ前遺跡	調査	平成24年11月19日～平成25年3月31日
	整理	平成27年8月1日～平成28年3月31日
高須賀道城入遺跡	調査	平成24年8月1日～平成25年3月31日
	整理	平成27年8月1日～平成28年3月31日
- 3 発掘調査は、調査課長櫻村宣行のもと、以下の者が担当した。

首席調査員兼班長	稲田 義弘
調査員	近江屋成陽
調査員	大久保隆史
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長後藤一成のもと、以下の者が担当した。

調査員	近江屋成陽	平成27年8月1日～平成28年3月31日
首席調査員兼班長	奥沢 哲也	平成28年3月1日～3月31日
- 5 本書の執筆分担任は、下記のとおりである。

近江屋成陽	第1章～第4章第4節・校正
奥沢 哲也	校正
- 6 本書の作成にあたり、矢立・槍先の保存処理についてはパリオ・サーヴェイ株式会社に依頼した。

凡 例

- 1 高須賀堂ノ前遺跡・高須賀道城入遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅱ系座標に準拠し、 $X = +7600$ m, $Y = +16,960$ m, $X = +7,440$ m, $Y = +17,200$ mそれぞれの交点を基準点(A1a)とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A1区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3、…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A1a1区」のように呼称した。

- 2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 F-炉跡 FP-炉穴 HG-遺物包含層 P-ピット PG-ピット群 SA-柱穴列
SB-掘立柱建物跡 SD-溝跡 SI-堅穴建物跡 SK-土坑 SY-竈跡 UP-地下式坑
遺物 DP-土製品 M-金属製品 Q-石器・石製品 TP-拓本記録土器 W-木製品 T-瓦
土層 K-攪乱

- 3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

- (1) 遺構全体図は400分の1、各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (2) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。
- (3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

● 石器 ○ 土製品 □ 石器・石製品 △ 金属製品	----- 硬化面 ----- 焼土範囲

- 4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、各々総量を記述した。

- 5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

- (1) 計測値の単位はm、cm、gで示した。なお、現存値は（ ）を、推定値は[]を付して示した。
- (2) 遺物観察表の備考の欄は、残存率、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。
- (3) 遺物番号は通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

- 6 堅穴建物跡の「主軸」は、炉・竈を通る軸線とし、主軸方向は、その他の遺構の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N-10°-E）。

- 7 今回の報告分で、整理の段階で遺構名を変更したものと及び欠番にしたものは以下のとおりである。

変更 高須賀堂ノ前遺跡 SX 1→SI 9 高須賀道城入遺跡 SX 1→第1号堅穴遺構
欠番 高須賀堂ノ前遺跡 SI 2・SI 5・SI 6、SK13・SK23・SK28・SK37・SK40・SK43

目 次

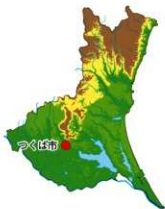
序	
例 言	
凡 例	
目 次	
概 要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	4
第1節 位置と地形	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 高須賀堂ノ前遺跡	9
第1節 調査の概要	9
第2節 基本層序	9
第3節 遺構と遺物	12
1 縄文時代の遺構と遺物	12
(1) 竪穴建物跡	12
(2) 炉穴	22
(3) 土坑	28
2 室町時代の遺構と遺物	44
(1) 地下式坑	44
(2) 土坑	46
3 その他の遺構と遺物	48
(1) 竪穴建物跡	48
(2) 溝跡	49
(3) 遺構外出土遺物	51
第4節 まとめ	52
第4章 高須賀道城入遺跡	57
第1節 調査の概要	57
第2節 基本層序	57
第3節 遺構と遺物	59
1 縄文時代の遺構と遺物	59
(1) 竪穴建物跡	59

(2) 炉穴	69
(3) 土坑	71
2 弥生時代の遺構と遺物	100
(1) 竪穴建物跡	100
(2) 土坑	105
3 古墳時代の遺構と遺物	109
遺物包含層	109
4 室町時代の遺構と遺物	114
土坑	114
5 江戸時代の遺構と遺物	118
(1) 掘立柱建物跡	118
(2) 土坑	126
(3) 溝跡	138
6 その他の遺構と遺物	149
(1) 竪穴遺構	149
(2) 炉跡	150
(3) 竈跡	151
(4) 土坑	151
(5) 溝跡	153
(6) 台地整形遺構	154
(7) 柱穴列群	155
(8) ビット群	158
(9) 遺構外出土遺物	158
第4節 まとめ	162
写真図版	PL. 1～PL44
抄録	
付図	

たかすかどうのまえ たかすかどうじょういり 高須賀堂ノ前遺跡・高須賀道城入遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

高須賀堂ノ前遺跡と高須賀道城入遺跡は、つくば市の南西部に位置し、西谷田川と小貝川に挟まれた標高17～25mの樹枝状に開析された台地上に立地しています。一般国道468号首都圏中央連絡自動車道建設事業にともない、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、茨城県教育財団が平成24年度に発掘調査を行いました。



高須賀堂ノ前遺跡の調査と成果

調査区域は、遺跡の南東端部にあたり、台地の平坦部から緩斜面部にかけての範囲です。調査の結果、縄文時代の^{たてあな}堅穴建物跡5棟、^{ろあな}炉穴7基、^{どこう}土坑101基、室町時代の^{ちかしきこう}地下式坑1基、土坑3基、室町時代以降の^{みぞあと}溝跡1条などを確認しました。

主な出土遺物は縄文土器^{ふかばら}（深鉢）、土師質土器^{はじしつどき}（小皿・内耳鍋）、石器^{すり}（磨石・^{いたたきいし}敲石）、^{えいらくつうほう}銭貨（永楽通寶）などです。

これらの遺構や遺物から、縄文時代早期の集落跡であることが分かりました。



高須賀堂ノ前遺跡・高須賀道城入遺跡遠景（北東から）

楕円形の竪穴建物に住み、屋外の炉で火を焚いて、調理などをして暮らしをしていたようです。また、時代は流れて、室町時代になると、墓域として土地利用されていることが分かりました。



高須賀堂ノ前遺跡調査区全景



第1号地下式坑の内部の様子

高須賀道城入遺跡の調査と成果

調査区域は、遺跡の北部にあたり、台地の平坦部から低地部にかけての範囲です。調査の結果、台地の平坦部では、縄文時代前期の集落と墓域、室町時代、江戸時代の掘立柱建物跡とお墓と考えられる土坑、区画した溝がみつかりました。掘立柱建物跡は、お墓に伴うお堂とそれに付随する建物の可能性があります。低地部では、弥生時代後期の集落と墓域の一部がみつかり、その上を古墳時代中期には土器などを廃棄した場所として、江戸時代には、排水用の溝が掘り込まれ、断続的に土地利用されていました。主な出土遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、土師質土器、瓦質土器、陶器、磁器、土製品、石器、石製品、金属製品などです。特に、江戸時代の携帯用筆記用具である矢立^{やたて}は、茨城県域では初めて出土した貴重な資料です。



縄文時代の竪穴建物跡



溝から出土している矢立

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成17年9月27日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて照会した。これを受けて、茨城県教育委員会は、平成17年10月7日現地踏査を、平成23年8月10・11日、9月13～15日、10月4日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成23年10月13日、茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、事業地内に高須賀堂ノ前遺跡及び高須賀道城入遺跡が所在すること及びその取り扱いについて別途協議が必要である旨を回答した。平成24年2月9日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに文化財保護法第94条の規定に基づき、土木工事のための埋蔵文化財包蔵地の発掘について通知した。平成24年2月22日、茨城県教育委員会教育長は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると判断し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。平成24年2月23日、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、一般国道468号首都圏中央連絡自動車道建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施についての協議書を提出した。平成24年2月24日、茨城県教育委員会教育長は国土交通省関東地方整備局常総国道事務所長あてに、高須賀堂ノ前遺跡及び高須賀道城入遺跡について、発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて財団法人茨城県教育財団（現公益財団法人茨城県教育財団）を紹介した。公益財団法人茨城県教育財団は、国土交通省関東地方整備局常総国道事務所所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成24年8月1日から平成25年3月31日まで発掘調査を実施することになった。

第2節 調査経過

高須賀堂ノ前遺跡・高須賀道城入遺跡の調査は、平成24年8月1日から平成25年3月31日までの8か月にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程	期間	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調査準備 表土除確 遺構確認			(高須賀道城入遺跡)			(高須賀堂ノ前遺跡)			
遺構調査									
遺物洗浄 写真整理									
撤収									

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

高須賀堂ノ前遺跡は、茨城県つくば市高須賀字堂ノ前 1385-3番地ほかに、高須賀道城入遺跡は同つくば市高須賀字道城入 1939-2番地ほかに所在している。

つくば市は、筑波山を北端にして、その南西側に広がる標高約 20～25m の平坦な台地上に位置している。この台地は筑波・稲敷台地と呼ばれ、東を霞ヶ浦に流入する桜川、西を利根川に合流する小貝川によって区切られている。さらに、筑波・稲敷台地には、東から花室川、連沼川、小野川、谷田川、西谷田川などの中小河川がほぼ北から南に向かって流れており、これらの河川によって台地は浅く開析され、谷津や低地が細長く入り込んでいる。

筑波・稲敷台地は、貝化石を産する海成の砂層である成田層を基盤として、その上に竜ヶ崎砂礫層と呼ばれる斜交層理顕著な砂層・砂礫層、さらに常総粘土層と呼ばれる泥質粘土層 (0.3～5.0m) 及び褐色の関東ローム層 (0.5～2.0m) が連続して堆積し、最上部は腐植土層となっている¹⁾。

高須賀堂ノ前遺跡・高須賀道城入遺跡は、つくば市の南西部旧谷田町区域の高須賀地区に所在し、西谷田川と小貝川に挟まれた高須賀堂ノ前遺跡は、長さ 230m、幅 160m、高須賀道城入遺跡は、長さ 500m、幅 250m のそれぞれ西側へ張り出す樹枝状の台地上に位置し、標高は 20～23m である。当遺跡群の西側には、谷津が入り込んでいる。高須賀地区の台地上は主に畑地として、また低地は水田としてそれぞれ利用されており、台地と低地との比高は約 6m である。当遺跡群の調査前の現況は、山林及び畑地であった。

第2節 歴史的環境

高須賀堂ノ前遺跡・高須賀道城入遺跡周辺の西谷田川や小貝川流域の台地上には、旧石器から近世にかけての遺跡が多く所在している。ここでは、周辺遺跡の様相について、時代ごとに概観する。

旧石器時代の遺跡は、西谷田川左岸台地上の手子生遺跡²⁾(27)や元宮本前山遺跡²⁾(40)、下河原崎谷中台遺跡³⁾(42)が確認されている。元宮本前山遺跡からは、石器集中地点 1 が所が確認され、ナイフ形石器や石核・台石などが、下河原崎谷中台遺跡では、石器集中地点 2 が所が確認され、ナイフ形石器、角錐状石器のほか石核や剥片が多量に出土したことから一定の期間生活し、石器を製作していたことが判明している。遺跡は河川に近い台地の縁辺部に分布している。

縄文時代の遺跡は、西谷田川左岸台地上縁辺部に位置する元宮本前山遺跡で早期後葉の炉穴が、下河原崎谷中台遺跡では早期の炉穴や後・晩期の堅穴建物跡が確認されている。小貝川左岸の台地上に位置する高須賀中台遺跡⁴⁾(15)からは、前期の堅穴建物跡 1 棟が確認されている。上郷神谷森遺跡⁵⁾(7)からは前期から後期にかけての土器が出土するとともに、中期の堅穴建物跡 18 棟が確認されている。高須賀熊の山遺跡⁶⁾(9)では、試掘調査によって後期の土器が出土している。真瀬山田遺跡⁷⁾(48)からは、中期から後期の土器や石器が広範囲にわたって出土し、隣接する真瀬堀附南遺跡⁸⁾(50)、真瀬山田北遺跡⁹⁾(47)、鍋沼新田長峰遺

跡〈46〉などからも縄文土器片が出土している。これらのことから、当該地域は早期から晩期にかけて断続的に集落が営まれてきたことがうかがえる。

弥生時代の遺跡は少なく、当遺跡周辺では、高須賀熊の山遺跡と中期から後期の遺物が出土した下河原崎高山遺跡〈43〉の2遺跡が確認されているのみである。

古墳時代の遺跡は多く、当遺跡周辺の各地でみられるようになる。前期では、高須賀中台遺跡において竪穴建物跡2棟が確認されている。上郷神谷森遺跡では28棟確認されており、当該期から集落が形成されていたことが明らかとなっている。また、高須賀中台東遺跡^{カササキ}〈3〉では、竪穴建物跡が24棟確認されており、鏡形土製品、糸巻形土製品、翼状土製品、ミニチュア土器などが出土している。遺物の種類や出土状況から住居の廃絶時における祭祀行為が想定されている。

中期になると、集落は西谷田川沿いまで広がりを見せ、数多くの竪穴建物跡が確認されている。元宮本前山遺跡では、集落内に滑石製模造品製作跡が確認され、下河原崎谷中台遺跡では、県内初の琴柱形石製品が出土している。高須賀熊の山古墳群〈10〉からは前期・中期の土器が出土し、周辺に人々が生活していたことを示唆している。前・中期のこうした集落は、いずれも台地の縁辺部や低湿地へ向かう緩斜面部に適度な距離において営まれており、集落の立地や形成には、台地裾部の自然湧水を利用した谷津田との関わりが強いと想定されている⁸⁾。

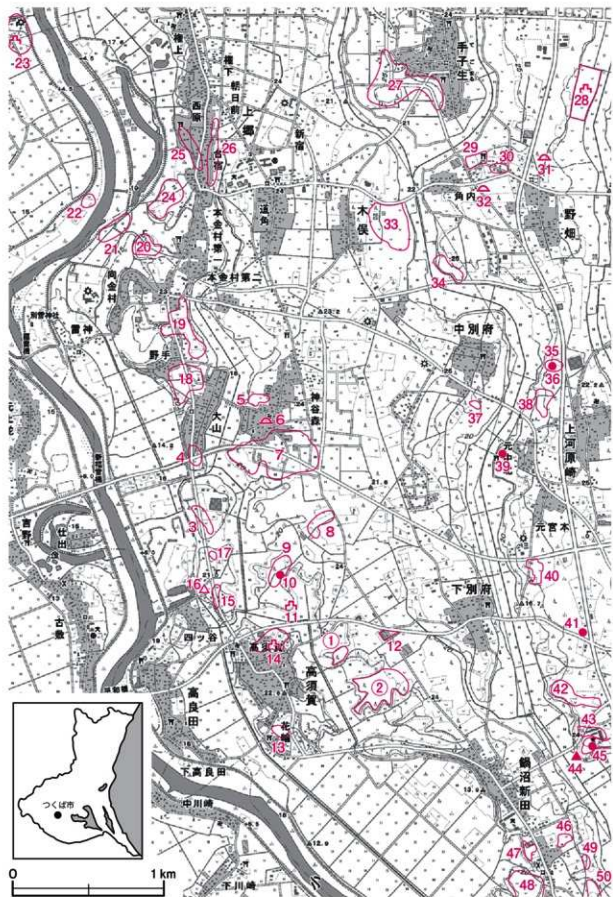
集落跡の様相は、中期においては台地縁辺部から低地にかけて小規模な集落が形成されてきたのに対し、後期になると次第に大集落が形成され、台地の内陸部まで及ぶようになっている。当遺跡から東方約4kmに位置する鳥名熊の山遺跡^{カササキ}〈9〉からは、前期から平安時代までの2,500棟以上の竪穴建物跡が確認されており、その規模は県内でも最大級のものである。また、当該期には当遺跡周辺においても古墳が築造されることになり、高須賀熊の山古墳群では、円墳6基、上郷台宿古墳群^{カササキ}〈25〉では円墳4基、上河原崎小山台古墳^{カササキ}〈36〉では円墳1基、元中北鹿島明神古墳^{カササキ}〈39〉では円墳1基、下河原崎古墳群^{カササキ}〈41〉では円墳135基（推定円墳も含む）、下河原崎高山古墳群^{カササキ}〈45〉では円墳17基などが確認されている。今日では消滅等により古墳群の全容を解明することは極めて困難であるが、当該期の人々が多くの古墳を築造していったことが見て取れる。

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代から集落が継続している鳥名熊の山遺跡や、9世紀前半の火葬墓が確認された下河原崎谷中台遺跡がある。『新編常陸国誌』によると高須賀地区は、律令期に河内郡嶋名郡に属していたと推定され、当遺跡は嶋名郡の北西部に比定されている。

中世の遺跡は、塚や城館跡がその大半を占めている。鎌倉幕府の成立後、小田氏の支配下となった近接一帯には、多くの城が築かれた。中でも当遺跡群から北西約400～600mの場所に所在する高須賀城跡〈14〉は、建保2年（1214）、豊田下総守治基の三男山田逸江守が築いたものである。高須賀の北端の約2haの台地がその跡といわれ、土塁や堀の跡が今でも残っている。

慶長5年（1600）、関ヶ原の戦いの後、徳川の世となり高須賀を統治していた佐竹氏は慶長7年（1602）に秋田へ国替えとなり、高須賀の地は、江戸幕府の天領（直轄領）になっている¹¹⁾。貞享3年（1686）の『上郷村と別府村地論裁許絵図』によれば、当遺跡群周辺は、山林と畑になっている。近世の遺跡は、包蔵地や塚が周知されているが、発掘調査例が少ない。下河原崎谷中台遺跡で炭窯1基のみが確認されているだけである。

※文中の〈 〉内の番号は、第1図及び表1の当該番号と同じである。なお、本章は『茨城県教育財団調査報告』第382集を基にし、若干加筆した。



第1図 高須賀堂/前遺跡・高須賀遺城入遺跡周辺遺跡分布図(国土地理院25,000分の1「谷田部」「上郷」)

表1 高須賀堂ノ前遺跡・高須賀道城入遺跡周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代						番号	遺跡名	時代							
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世			近世	旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	中世	近世
①	高須賀堂ノ前遺跡		○				○	26	上郷台宿東遺跡				○	○			
②	高須賀道城入遺跡		○	○	○		○	○	27	手子生遺跡	○			○	○	○	
3	高須賀中台東遺跡	○	○		○			28	野畑高野館跡						○	○	
4	上郷大山南遺跡		○		○	○		29	上郷陣屋跡							○	
5	上郷神谷森北遺跡		○			○	○	30	上郷角内遺跡		○						
6	上郷福性院塚						○	○	31	野畑天神後塚群						○	○
7	上郷神谷森遺跡		○		○				32	上郷山ノ神塚						○	○
8	上郷院内山遺跡		○						33	木俣本田遺跡							○
9	高須賀熊の山遺跡		○	○	○				34	上郷角内南遺跡				○	○		
10	高須賀熊の山古墳群					○			35	上河原崎八幡前遺跡				○			
11	熊の山城跡						○		36	上河原崎小山台古墳				○			
12	高須賀遺跡				○			○	37	中別府宮前遺跡				○	○	○	○
13	高須賀ハナ遺跡		○						38	上河原崎本田遺跡				○	○		○
14	高須賀城跡						○		39	元中北鹿島明神古墳				○			
15	高須賀中台遺跡		○		○				40	元宮本前山遺跡	○	○		○			
16	高須賀中台貝塚		○						41	下河原崎古墳群				○			
17	高須賀中台北遺跡				○			○	42	下河原崎谷中台遺跡	○	○		○	○		○
18	上郷大山遺跡						○	○	43	下河原崎高山遺跡			○	○			
19	上郷野手遺跡					○			44	下河原崎高山窯跡				○			
20	上郷金村遺跡				○	○			45	下河原崎高山古墳群				○			
21	上郷赤ほっけ遺跡		○						46	鍋沼新田長峰遺跡		○		○			
22	曲田遺跡				○				47	真瀬山田北遺跡		○		○			
23	豊田城跡						○		48	真瀬山田遺跡		○		○	○		
24	上郷台宿西遺跡				○	○			49	真瀬堀附北遺跡				○			
25	上郷台宿古墳群				○				50	真瀬堀附南遺跡		○		○			

註

- 1) 日本の地質 [関東地方] 編集委員会『日本の地質3 関東地方』 共立出版 1986年10月
- 2) 高野裕豐「元宮本前山道跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書2」『茨城県教育財団文化財調査報告』第265集 2006年3月
- 3) a 高野裕豐「下河原崎谷中台道跡 烏名ツバタ道跡 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書3」『茨城県教育財団文化財調査報告』第282集 2006年3月
b 齋藤真弥「下河原崎谷中台道跡 下河原崎高山古墳群 上河原崎・中西特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書4」『茨城県教育財団文化財調査報告』第292集 2008年3月
- 4) 茂木悦男「一般県道赤浜谷田部線県単道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書 高須賀中台道跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第142集 1998年11月
- 5) 小泉光正「一般県道土浦岩井線道路改良工事地内埋蔵文化財報告書 神谷森道跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第66集 1991年3月
- 6) 石橋充 広瀬季一郎 関口友紀「史跡小田城跡 第33・34・35次発掘調査 高須賀熊の山道跡 試掘調査」『つくば市内道跡 -平成11年度発掘調査報告-』つくば市教育委員会 2000年3月
- 7) 坂本勝彦「高須賀中台東道跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設事業地内埋蔵文化財報告書」『茨城県教育財団文化財調査報告』第382集 2014年3月
- 8) 註2に同じ
- 9) 清水哲「烏名熊の山道跡 烏名・福田坪一体型特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書XII」『茨城県教育財団文化財調査報告』第380集 2013年3月
- 10) 註3に同じ
- 11) 谷田部の歴史編さん委員会『谷田部の歴史』谷田部町教育委員会 1975年9月

参考文献

- ・茨城県教育庁文化課編『茨城県道跡地図』茨城県教育委員会 2001年3月
- ・「つくば市道跡地図」つくば市教育委員会 2001年7月
- ・豊里町史編纂委員会『豊里の歴史』豊里町 1985年3月

第3章 高須賀堂ノ前遺跡

第1節 調査の概要

高須賀堂ノ前遺跡は、つくば市の南西部に位置し、西谷田川と小貝川に挟まれた標高20～23mの樹枝状の台地上に立地している。調査面積は1,608㎡で、調査前の現況は山林である。

調査の結果、竪穴建物跡6棟（縄文時代5・時期不明1）、炬穴7基（縄文時代）、地下式坑1基（室町時代）、土坑104基（縄文時代101・室町時代3）、溝跡1条（時期不明）を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ（60×40×20cm）に6箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢）、土師質土器（小皿・内耳鍋）、石器（磨石・敲石）、銭貨（永樂通寶）などである。

第2節 基本層序

調査区北西端部の台地上の平坦面（B2a9区）にテストピットを設定し、基本土層（第2図）の観察を行った。

第1層は、暗褐色を呈する表土層である。

第2層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりとも強く、層厚は35cm～60cmである。

第3層は、褐色を呈する漸移層である。粘性・締まりともに極めて強く、層厚は5cm～40cmである。

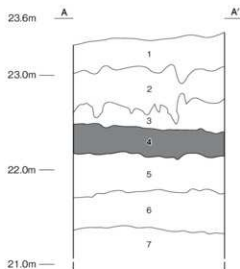
第4層は、暗褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりともに極めて強く、層厚は25cm～35cmで、第2黒色帯（BBⅡ）に相当する。

第5層は、褐色を呈するハードローム層である。白色スコリアを少量に含む。粘性・締まりともに極めて強く、層厚は50cm～60cmである。

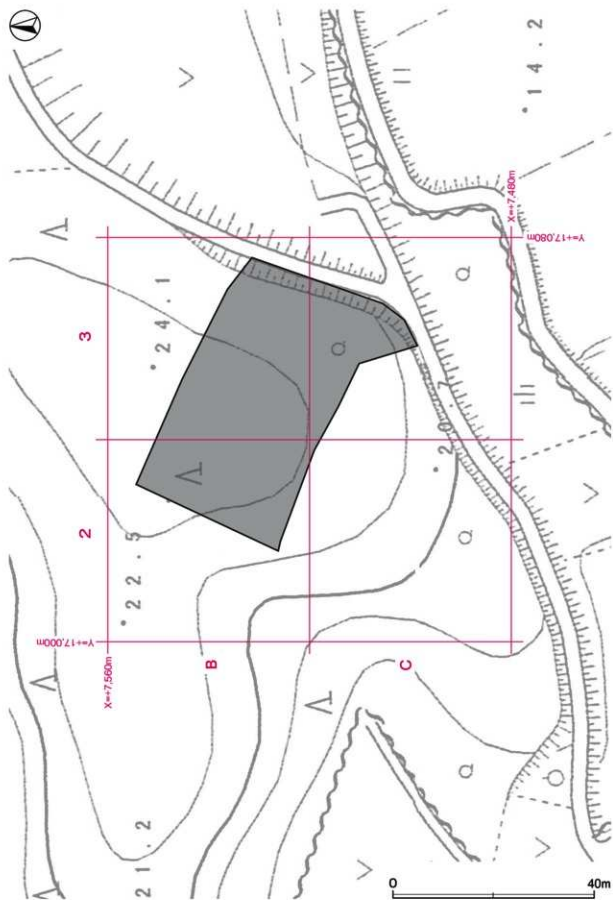
第6層は、褐色を呈するハードローム層である。砂粒を微量に含む。粘性・締まりともに極めて強く、層厚は35cm～50cmである。

第7層は、褐色を呈するハードローム層である。白色スコリア・赤色スコリアを微量に含む。粘性・締まりともに極めて強く、下部は未掘のため層厚は不明である。

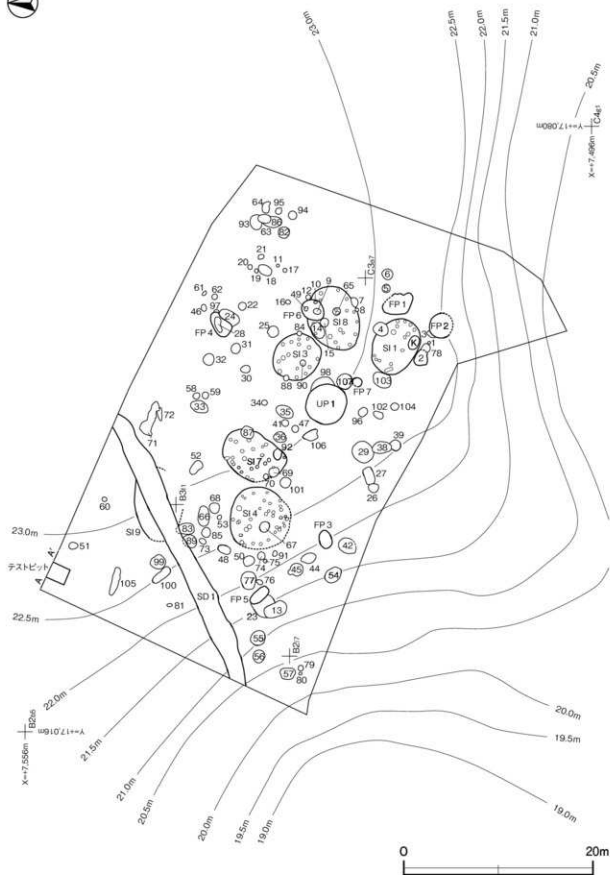
遺構は、第2層上面で確認した。



第2図 高須賀堂ノ前遺跡基本土層図



第3図 高須賀堂ノ前遺跡調査区設定図 (つくば市都市計画図 2500分の1より作成)



第4図 高須賀堂ノ前遺跡全体図

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当該時代の遺構は、竪穴建物跡5棟、炉穴7基、土坑101基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡（第5・6図）

位置 調査区南東部のC3a5区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第4号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径6.16m、短径4.53mの楕円形で、長径方向はN-62°-Wである。壁は高さ6～16cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、北西部から中央部にかけて踏み固められている。

ピット 14か所。P1～P4は深さ23～66cmで、規模と配置から主柱穴であると考えられる。P5・P6・P12は深さ16～30cmで、補助的な柱穴と考えられる。P11は深さ50cmで、主柱穴の軸線上の中央に位置し、南側に配置されていることから、出入口施設に伴うピットと考えられる。P7～P10・P13・P14は深さ18～31cmで、性格は不明である。

ピット土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量	5 暗褐色	ロームブロック多量、黄褐色砂少量
2 暗褐色	ロームブロック少量（粘性・締まり普通）	6 暗褐色	ロームブロック中量、黄褐色砂微量
3 暗褐色	ロームブロック少量（粘性普通・締まり弱）	7 暗褐色	ロームブロック少量、黄褐色砂微量
4 暗褐色	ロームブロック多量		

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが多量に含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	3 暗褐色	ロームブロック中量
2 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量		

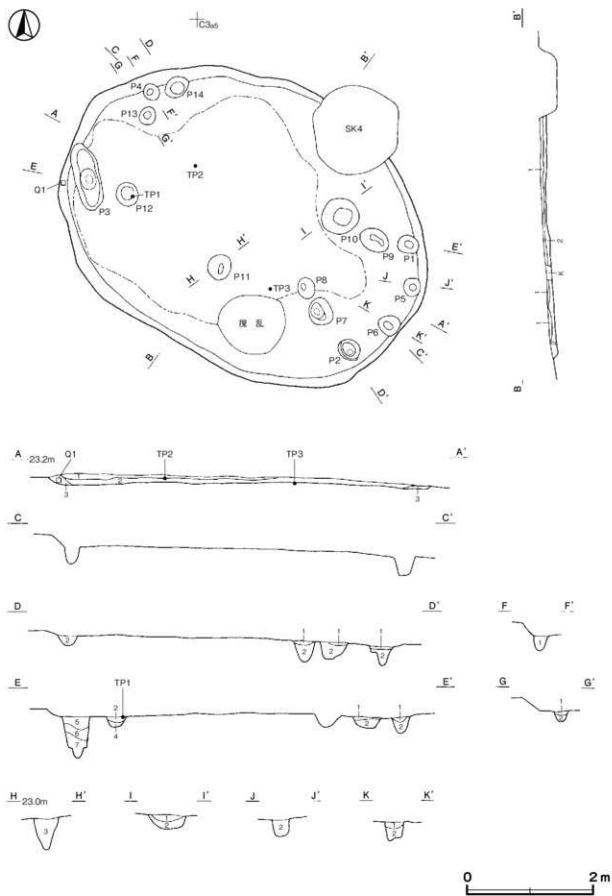
遺物出土状況 縄文土器片25点（深鉢）、石器4点（磨石）、自然礫19点が出土している。TP1はP12内、TP3は南東部の床面、Q1は西壁際の覆土下層、TP2は北西部の覆土上層、TP4は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後半（野鳥式期）と考えられる。

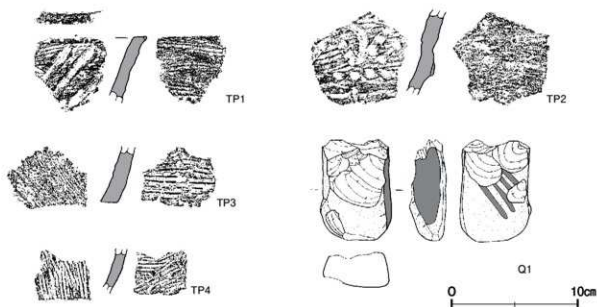
第1号竪穴建物跡出土遺物観察表（第6図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP1	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	橙	口唇部粗み 胴部外面条痕文→斜位沈線文 内面条痕文	P12内	PL.8
TP2	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	橙	外面条痕文→押引沈線文 胴部隆帯粗文 内面条痕文	覆土上層	PL.8
TP3	縄文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	橙	外面斜位の条痕文 内面横位の条痕文	床面	
TP4	縄文土器	深鉢	長石・赤色粒子・繊維	橙	外面横位の条痕文 内面横位の条痕文→斜位の条痕文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	磨石	8.0	5.7	2.9	193.8	砂岩	有溝砥石からの2次利用 断面四角 磨石として、掘りやすいため打ち欠いている。一面磨使用	覆土下層	PL.10



第5図 第1号竪穴建物跡実測図



第6図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図

第3号竪穴建物跡（第7図）

位置 調査区南東部のB314区、標高23mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第84・88・90号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径5.18m、短径4.58mの楕円形で、長径方向はN-41°-Wである。壁の高さは10～16cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、ほぼ全域が踏み固められている。

ピット 17か所。P1～P7・P9～12は深さ28～56cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P8は深さ82cmで、主柱穴に対して南縁際に配置することから、出入口施設のピットと考えられる。P13～P17は深さ30～62cmで、性格不明である。

P4土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 2 明褐色 ロームブロック多量

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが多量に混入していることから埋め戻されている。

土層解説

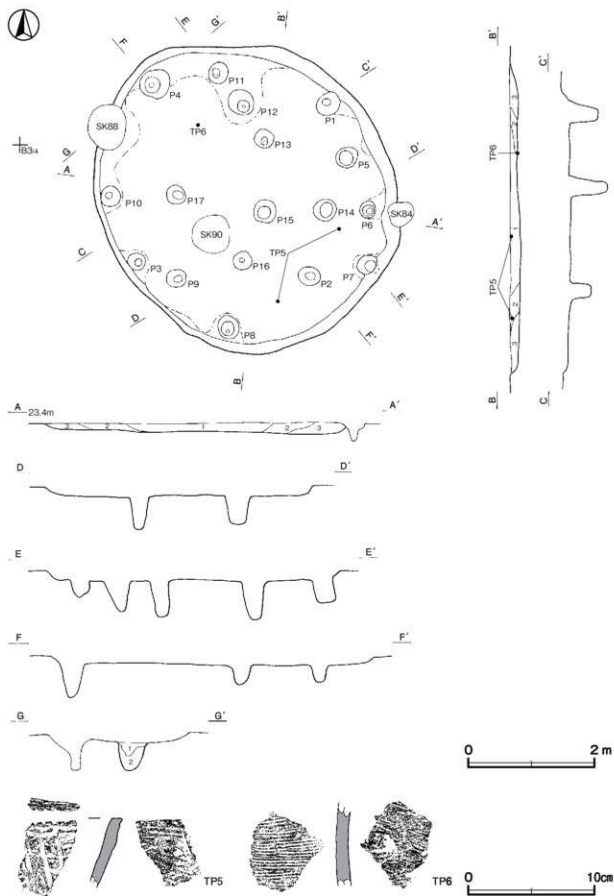
- 1 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 明褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 明褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片11点（深鉢）、自然礫6点が出土している。TP6は北西部の床面から出土し、TP5は南東部の覆土上層から、それぞれ散在して出土した2点の破片が接合したものである。

所見 時期は、出土土器から早期後半（野鳥式期）と考えられる。

第3号竪穴建物跡出土遺物観察表（第7図）

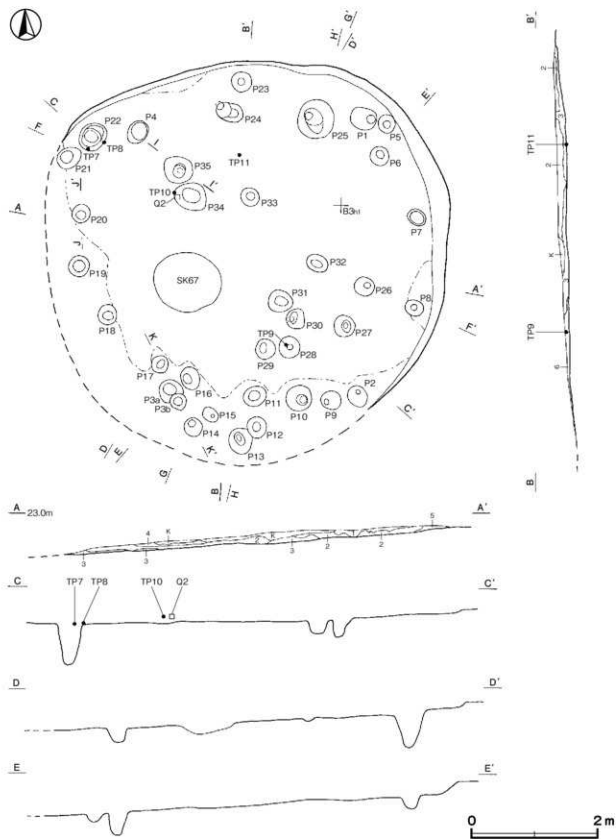
番号	種別	部種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP5	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	口唇部斜文・胴部外面横位の条状文→斜位押し引き波瀾文→縦位の押し引き波瀾文・内面横位の条状文	覆土上層	PL8
TP6	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	橙	外面横位の条状文・内面斜位の条状文	床面	PL8



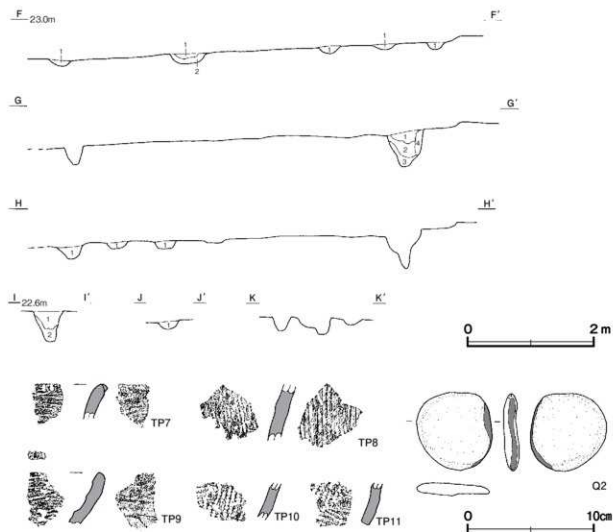
第7図 第3号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第4号竪穴建物跡 (第8・9図)

位置 調査区東部のB 2h0区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。



第8図 第4号竪穴建物跡実測図



第9図 第4号堅穴建物跡・出土遺物実測図

重複関係 第67号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南西部が削平を受けていることから、南北径6.40m、東西径6.35mしか確認できなかった。柱穴の配置からほぼ円形と推定できる。壁高は8～14cmで、壁は緩やかに立ち上がっている。

床 平坦で、南部から西部を除きほぼ全域が踏み固められている。

ビット 35か所。P1～P10・P14～P22は深さ12～63cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P11・P23・P24は深さ12～49cmで、補助的な役割を有する柱穴と考えられる。P12・P13は深さ12～20cmで、配置から出入口施設のビットと考えられる。P25～P35は深さ12～62cmで、性格は不明である。

P25土層解説

- | | |
|-------|------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量 |
| 4 明褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |

その他共通ビット土層解説

- | | |
|-------|------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 明褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗 褐 色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	4 暗 褐 色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
2 暗 褐 色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量	5 褐 色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
3 褐 色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量	6 明 褐 色	ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片 16 点 (深鉢), 石器 1 点 (磨石), 自然礫 40 点, 被熱礫 1 点が出土している。TP 7・TP 8 は P 22 内から, TP10・Q 2 は北西部の覆土下層から出土している。TP11 は北部の床面, TP 9 は南東部の覆土下層から, それぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から早期後半の (子母口式期) と考えられる。

第 4 号堅穴建物跡出土遺物観察表 (第 9 図)

番号	種 別	器 種	胎 土	色 調	文 様 の 特 徴 は か	出土位置	備 考
TP 7	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄橙	口唇部削み 胴部外・内面横位の条痕文	P 22 内	PL 8
TP 8	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	外・内面縦位の条痕文	P 22 内	
TP 9	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	外・内面縦位の条痕文	覆土下層	
TP10	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	外面縁条体圧痕文	覆土下層	
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい黄橙	外面縦位の縁条体圧痕文→横位の縁条体圧痕文	床面	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴	出土位置	備 考
Q 2	磨石	6.2	3.9	1.3	55.0	砂岩	側面片面使用面	覆土下層	PL10

第 7 号堅穴建物跡 (第 10・11 図)

位置 調査区中央部の B 3 h2 区, 標高 23 m ほどの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第 69・70・87・92 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第 69・70・87・92 号土坑に掘り込まれ, 南西部は削平を受けていることから, 北東・南西径 6.72 m, 北西・南東径 4.86 m しか確認できなかった。柱穴の配置状況から, 楕円形と推定できる。北東・南西径方向は N-27°-E である。壁の高さは 8~14 cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 平坦で, 北東部と南西部の一部を除き, 踏み固められている。

ピット 23 か所。P 1~P 4 は深さ 22~76 cm で, 規模と配置から主柱穴と考えられる。P 6~P 10 は深さ 11~63 cm で, 補助的な役割を有する柱穴と考えられる。P 5・P11~P23 は深さ 12~81 cm で, 性格不明である。

P 3 土層解説

1 褐 色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
-------	-------------------

P 11・P 12 共通土層解説

1 褐 色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
2 明 褐 色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量
3 明 褐 色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量

P 14 土層解説

1 明 褐 色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量
2 褐 色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量

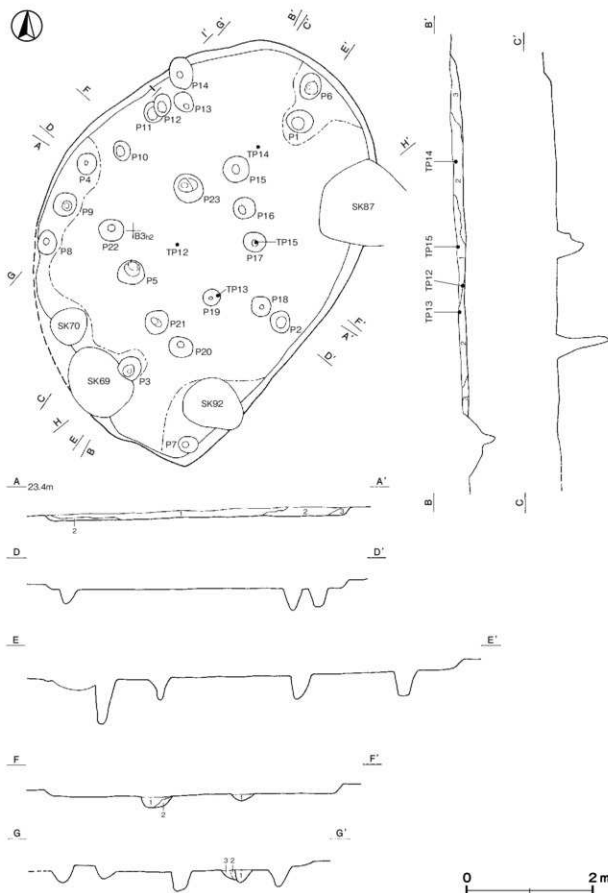
P 17・P 23 共通土層解説

1 暗 褐 色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
2 褐 色	ロームブロック少量, 炭化粒子微量

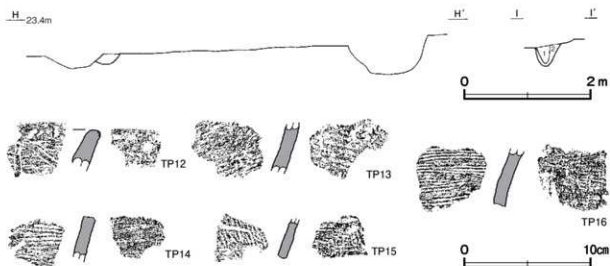
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが多量に混入していることから埋め戻されている。

土層解説

1 褐 色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	3 明 褐 色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量
2 明 褐 色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量		



第10図 第7号竪穴建物跡実測図



第11図 第7号竪穴建物跡・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片 16点（深鉢）、自然礫5点が出土している。TP12・TP15は中央部の覆土第1層、TP14は北東部、TP13は南東部の覆土第2層、TP16は覆土中からそれぞれ出土しているものである。

所見 時期は、出土土器から早期後半（野島式期）と考えられる。

第7号竪穴建物跡出土遺物観察表（第11図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄褐色	口唇部刻み 胴部外面横位の条痕文→縦位・斜位の沈線文 内面横位の条痕文	覆土第1層	PL.8
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	外・内面条痕文	覆土第2層	
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい褐	外・内面横位の条痕文	覆土第2層	
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐	外面縦位の条痕文 内面横位の条痕文	覆土第1層	
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	褐	外・内面横位の条痕文	覆土中	PL.8

第8号竪穴建物跡（第12・13図）

位置 調査区中央部のB3j5区、標高23mほどの台地の縁辺部に位置している。

重複関係 第6号炉穴、第7～9・14・15・65号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第6号炉穴、第7～9・14・15・65号土坑に掘り込まれているが、東西径7.02m、南北径は5.40mの楕円形と推定できる。長径方向は、N-62°-Eである。壁の高さは8～18cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、南部の壁際の一部を除き、ほぼ全体が踏み固められている。

ピット 18か所。P1～P4・P6～P14は深さ5～42cmで、規模と配置から主柱穴と考えられる。P5は深さ40cmで、規模と配置から、出入口施設のピットと考えられる。P15～P18は深さ29～36cmで、性格不明である。

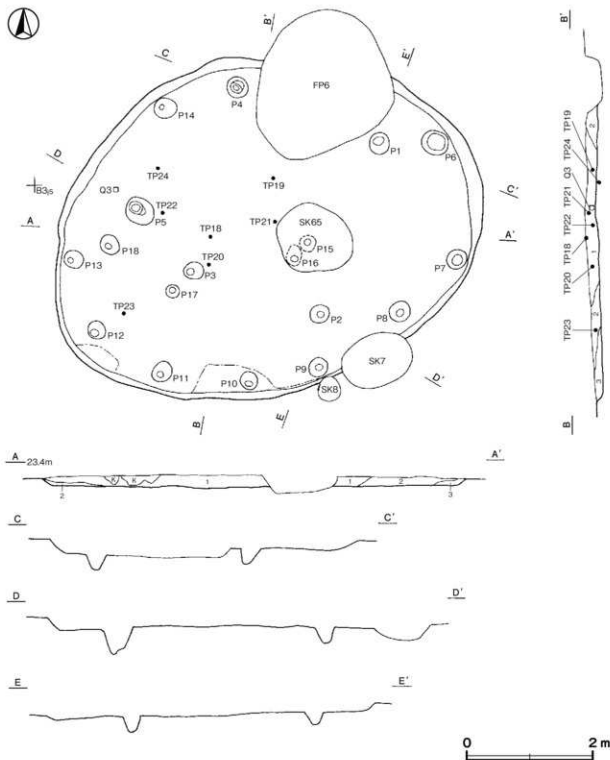
覆土 3層に分层できる。各層にロームブロックが多量に混入していることから埋め戻されている。

土層解説

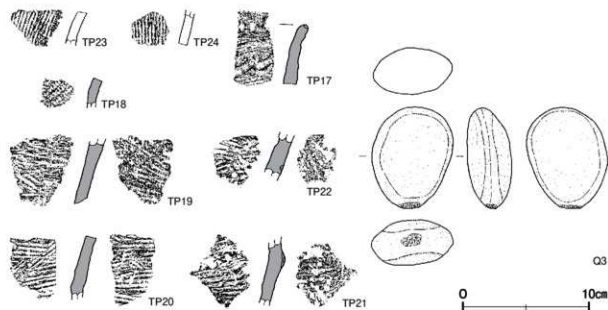
- 1 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 3 明 褐 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
 2 褐 色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片47点(深鉢), 石器6点(磨石1, 敲石片, 4, 砥石片, 1), 自然礫14点が出土している。TP24・Q3は北西部の床面から出土している。TP23は南西部の覆土第2層から, TP18～TP22は中央部から南西部の覆土第1層から散在して, TP17は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 早期後半の第6号戸穴に掘り込まれ, 覆土第1層には早期後半の子母口式, 野島式期の土器片が出土しているが, 床面と覆土第2層からの出土土器から, 時期は早期前半(撫糸文期)と考えられる。



第12図 第8号竪穴建物跡実測図



第13図 第8号竪穴建物跡出土遺物実測図

第8号竪穴建物跡出土遺物観察表(第13図)

番号	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか		出土位置	備考
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・織織	橙	口唇部削み 胴部外面斜位の沈漣文 内面無文	覆土中	PL 8
TP18	縄文土器	深鉢	長石・石英・織織	橙	外面絡糸体圧痕文	覆土第1層	
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英・織織	にぶい黄	外・内面横位の条痕文	覆土第1層	PL 8
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・織織	にぶい黄橙	外・内面条痕文	覆土第1層	PL 8
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・織織	明赤褐色	外面横位の条痕文→隆帯貼付→削み 内面横位の条痕文	覆土第1層	PL 8
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・織織	明赤褐色	外面横位の条痕文 内面斜位の条痕文	覆土第1層	
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	外面断糸文 内面無文	覆土第2層	PL 8
TP24	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄橙	外面断糸文 内面無文	床面	PL 8

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q3	凝石	8.0	6.6	3.6	233.9	安山岩	端部敲打痕	床面	PL10

表2 縄文時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		壁高	体面	内部施設				瓦土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸 (m)	(cm)			柱穴	竪入口	どり	炉・竈				
1	C 3a5	N-62°-W	楕円形	6.16 × 4.53	6-16	平照	4	1	9	-	人為	縄文土器、石器	早期後半	本跡→SK 4	
3	B 34	N-41°-W	楕円形	5.18 × 4.58	10-16	平照	11	1	5	-	人為	縄文土器	早期後半	本跡→SK84・88・90	
4	B 250	-	円形	(6.64) × 6.60	8-14	平照	19	2	14	-	人為	縄文土器	早期後半	本跡→SK67	
7	B 34a2	N-27°-E	楕円形	6.72 × (4.86)	8-14	平照	4	-	19	-	人為	縄文土器	早期後半	本跡→SK69・70・87・92	
8	B 34b	N-62°-E	楕円形	7.02 × 5.40	8-18	平照	13	1	4	-	人為	縄文土器、石器	早期前半	本跡→FP 6, SK 7-9・14・15・65	

(2) 炉穴

第1号炉穴(第14図)

位置 調査区南東部のC 3a6区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径 3.89 m, 短径 2.55 m の楕円形で、長径方向は $N - 39^{\circ} - W$ である。中央部に火焚部が3か所重複し、3期にわたって使用されていることが確認できた。火焚部1は深さ 10cm, 火焚部2は深さ 8cm, 火焚部3は深さ 12cm で、それぞれ断面形はU字状を呈し、火熱を受けて赤変硬化している。壁はいずれも緩やかに立ち上がっている。南東部が足場と考えられる。足場の深さは削平を受けているため、不明である。

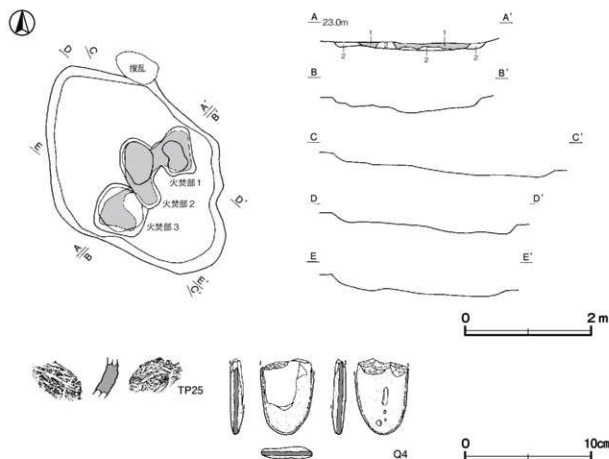
覆土 2層に分層できる。第2層は掘方への埋土である。第1層上面が火床面である。

土層解説

- 1 赤 褐色 土 ロームブロック中量, 炭化粒子微量 2 明 褐色 土 ロームブロック中量, 炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢), 石器1点(磨石)が出土している。TP25・Q4は、覆土中から出土している。その他の土器片は細片のため、図示できなかった。

所見 火焚部の新旧関係は土層の断面観察から火焚部1が一番新しく、火焚部3が古い。したがって南西部から北東部へ移動していることが確認できた。時期は、出土土器から早期後半と考えられる。



第14図 第1号炉穴・出土遺物実測図

第1号炉穴出土遺物観察表(第14図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考		
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	外・内面染灰文	覆土中			
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q4	磨石	(61)	(41)	(11)	(35.9)	砂岩	磨縁部擦痕	覆土中	PL10

第2号炉穴（第15図）

位置 調査区南東部のC3c5区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第3号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南東部が削平を受けているため、北西・南東径2.43m、北東・南西径2.16mしか確認できなかった。遺存している形状から平面形は楕円形と推定できる。北部に火焚部2か所の重複が確認できた。南部が足場で、深さは17～30cmである。壁は外傾して立ち上がっている。火焚部1が深さ11cm、火焚部2が深さ10cmで、それぞれ断面形はいずれもU字状で、火熱を受け赤変硬化している。

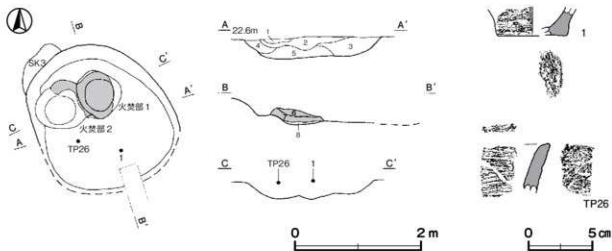
覆土 5層に分層できる。ロームブロックが混入していることや互層に堆積している状況から埋め戻されている。第8層は掘方の埋土で、第6・7層上面が火床面である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|----------|-------------------------|
| 1 黒 褐色 | ロームブロック少量 | 6 赤 褐色 | 焼土ブロック中量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 2 暗 褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 暗 赤 褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 3 暗 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子微量 | 8 褐 色 | 焼土粒子多量、ローム粒子少量、炭化粒子微量 |
| 4 暗 褐色 | ロームブロック中量 | | |
| 5 暗 褐色 | 焼土粒子中量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片2点（深鉢）、自然礫1点が出土している。TP26は南西部の覆土第3層、1は南西部の覆土第2層から、それぞれ出土している。

所見 火焚部の新旧関係は、焼土の遺存状況から火焚部1の方が新しいと考えられる。時期は、出土土器から早期後半（野鳥式期）と考えられる。



第15図 第2号炉穴・出土遺物実測図

第2号炉穴出土遺物観察表（第15図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(23)	[54]	長石・石英・繊維	橙	普通	外面染灰文 内面ナデ	覆土第2層	5%
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維				橙	外・内面染灰文		覆土第3層	PL.9

第3号炉穴 (第16図)

位置 調査区南西部のB2j0区、標高22mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.96m、短径1.14mの楕円形で、東西径方向はN-77°-Eである。東部が火焚部、西部が足場である。火焚部は平坦で、火熱を受けて赤変しているが、硬化はしていない。掘方の深さは8cmで、壁は外傾して立ち上がっている。

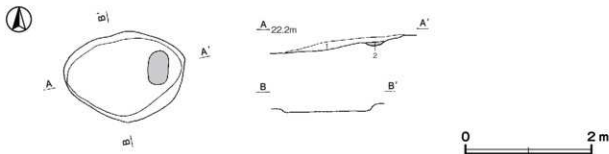
覆土 単一層である。ロームブロックが多量に含まれていることから埋め戻されている。第2層の上面が火床面である。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)、自然礫6点が覆土中から出土している。縄文土器片は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器の胎土の特徴やわずかに条痕文が確認できることから、早期後半と考えられる。

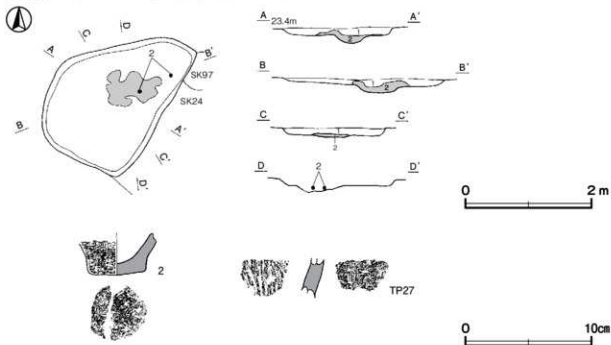


第16図 第3号炉穴実測図

第4号炉穴 (第17図)

位置 調査区北西部のB3g5区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第24・28・97号土坑を掘り込んでいる。



第17図 第4号炉穴・出土遺物実測図

規模と形状 長径 2.73 m、短径 1.94 m の楕円形で、長径方向は $N-60^{\circ}-E$ である。ほぼ中央部が火焚部で、南西部が足場である。火焚部は深さ 7～10cm の皿状で、火熱を受け赤変硬化している。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。第 2 層の上面が火焚部である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 3 点（深鉢）、自然礫 1 点が出土している。2 は北部の底面から、TP27 は覆土中からそれぞれ出土している。その他の土器片は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から早期後半と考えられる。

第 4 号炉穴出土遺物観察表（第 17 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
2	縄文土器	深鉢	—	(3.3)	4.5	長石・石英・ 繊維	明褐色	普通	外面縦位の磨き 内面ナデ	底面	5% PL.9
TP27	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・繊維	褐色	外・内面赤灰文	—	覆土中	—

第 5 号炉穴（第 18 図）

位置 調査区南西部の B 2h8 区、標高 22 m ほどの台地斜面部に位置している。

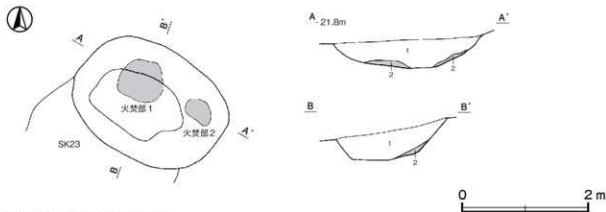
重複関係 第 23 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 3.92 m、短径 2.62 m の楕円形で、長径方向は $N-61^{\circ}-W$ である。北部で火焚部 1、北東部で火焚部 2 が確認できた。足場は平坦で、火焚部 1 が南部、火焚部 2 が南西部と考えられる。火焚部 1 は平坦で深さ 8 cm で U 字状を呈し、火熱を受けて赤変硬化している。火焚部 2 は深さ 6 cm で緩やかに立ち上がり、火熱を受けて赤変しているが、硬化はしていない。掘方の深さは 35～46 cm で、壁は南北が外傾し、東西は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層である。ロームブロックが多量に含まれていることから埋め戻されている。第 2 層上面が火床面である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子微量



第 18 図 第 5 号炉穴実測図

所見 時期は、出土遺物がないために明確ではないが、周辺の炉穴の配置状況から早期後半と考えられる。火焚部の新旧関係は、覆土の観察では確認できなかった。足場の配置状況や焼土の残存状況から火焚部1が新しいと想定できる。また、第13号土坑と重複する第23号土坑は、類似する形状から、調査当初は本跡の作り替えと考えたが、炉床が確認できないため土坑とした。

第6号炉穴（第19図）

位置 調査区南東部のB36区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第9号土坑に掘り込まれ、第8号竪穴建物跡、第10・49号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径2.46m、短径2.14mの楕円形で、長径方向はN-31°-Eである。北東部が火焚部で、南西部が足場である。火焚部は深さ6~12cmの皿状で、火熱を受けて赤変硬化している。壁は外傾して立ち上がっている。

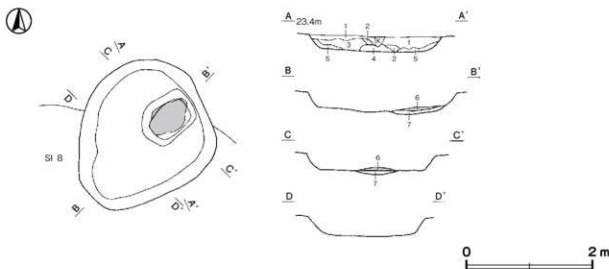
覆土 5層に分層できる。ロームブロックが不規則に多量に混入していることから埋め戻されている。第7層は掘方への埋土で、第6層上面が火焚部である。

土層解説

1 褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	4 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子少量、炭化粒子微量
2 褐色	ロームブロック多量、焼土ブロック少量、炭化粒子微量	5 濃い褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
3 褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 赤褐色	焼土ブロック多量、炭化粒子微量
		7 明褐色	ロームブロック多量、炭化粒子少量

遺物出土状況 自然礫5点が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器がないため明確ではないが、早期前半の第8号竪穴建物跡を掘り込み、周辺の出土土器や炉穴の配置状況から判断して早期後半と考えられる。



第19図 第6号炉穴実測図

第7号炉穴（第20図）

位置 調査区南東部のB34区、標高23mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 現代の耕作溝に掘り込まれているため、長径0.82mで、短径は0.67mしか確認できなかった。遺存している形状から楕円形と推定できる。長径方向はN-32'-Eである。南西部が火焚部で、その南部が足場と想定できる。火焚部は平坦で、火熱を受けて赤変しているが、硬化はしていない。掘方の深さは10cmで、壁は緩やかに立ち上がっている。

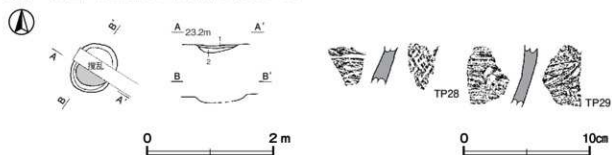
覆土 掘方は、2層に分層できる。第2層は掘方への埋土で、第1層上面が火床面である。

土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック中量、炭化 2 明褐色 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片3点(深鉢)が出土している。TP28・TP29は覆土中から出土している。その他の土器片は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から早期後半と考えられる。



第20図 第7号炉穴・出土遺物実測図

第7号炉穴出土遺物観察表(第20図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP28	縄文土器	深鉢	長石・繊維	橙	外・内面染灰文	覆土中	
TP29	縄文土器	深鉢	長石・繊維	橙	外・内面染灰文	覆土中	Pl. 9

表3 縄文時代炉穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		火焚部	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
1	C 3 a6	N-39'-W	楕円形	3.89×2.55	8-12	皿状	緩斜	人為	縄文土器、石器	
2	C 3 c5	-	[楕円形]	(2.43)×(2.16)	17-30	皿状	外傾	人為	縄文土器、自然産	SK 3→本跡
3	B 2 j0	N-77'-E	楕円形	1.96×1.14	17	平坦	外傾	不明	縄文土器、自然産	
4	B 3 d5	N-60'-E	楕円形	2.73×1.94	7-10	平坦	外傾	人為	縄文土器、自然産	SK24・28・97→本跡
5	B 2 h8	N-61'-W	楕円形	3.92×2.62	35-46	皿状	緩斜	人為		SK23→本跡
6	B 3 d5	N-31'-E	楕円形	2.46×2.14	24	皿状	外傾	人為		SI 8, SK10・49→本跡→SK 9
7	B 3 j4	N-32'-E	[楕円形]	0.82×(0.67)	10	平坦	緩斜	不明	縄文土器	

(3) 土坑

今回の調査で、出土遺物や形状、覆土の状況から、縄文時代とみられる土坑101基を確認した。以下、遺構の形状や遺物の出土状況が特徴的な19基について解説し、それ以外は一覧表で掲載する。

第4号土坑 (第21図)

位置 調査区南東部のC3a5区、標高22mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第1号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.45m、短径1.40mの円形である。深さは26cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 北部に位置している。径0.36mの円形で、深さは18cmである。

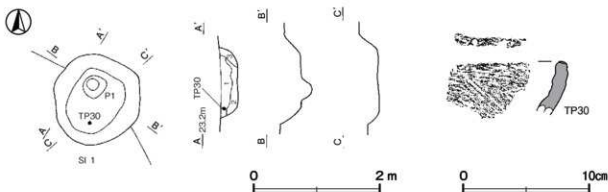
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐色 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 3 褐色 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
2 褐色 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片3点(深鉢)、自然礫1点が出土している。TP30は南部の覆土第1層から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後半(野島式期)と考えられる。



第21図 第4号土坑・出土遺物実測図

第4号土坑出土遺物観察表 (第21図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP30	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	口唇部斜み 外面横位の条痕文→斜位の条痕文 内面ナデ	覆土第1層	Pl. 9

第9号土坑 (第22図)

位置 調査区南東部のB3b6区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第8号竪穴建物跡、第6号炉穴を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.09m、短径1.00mの円形である。深さは36cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

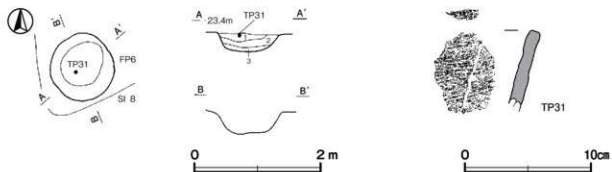
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐色 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 3 褐色 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
2 暗褐色 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)、自然礫3点が出土している。TP31は、ほぼ中央部の覆土第1層から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後半(茅山下層式期)と考えられる。



第22図 第9号土坑・出土遺物実測図

第9号土坑出土遺物観察表(第22図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP31	縄文土器	深鉢	長石・繊維	にぶい黄褐色	外面横位の条痕文→斜位の沈線文 内面ナダ	覆土第1層	

第14号土坑(第23図)

位置 調査区南東部のB3i5区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

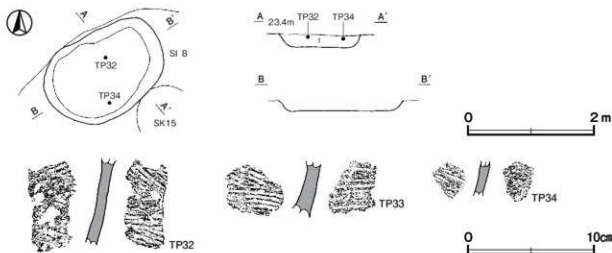
重複関係 第8号竪穴建物跡、第15号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.99m、短径1.42mの楕円形である。長径方向はN-56°-Eである。深さは16cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 階 褐色 ロームブロック中量



第23図 第14号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片7点(深鉢)、自然礫6点が出土している。TP32は北部、TP34は南部の覆土上層から、それぞれ出土している。TP33は覆土中から出土している。その他の土器片は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から早期後半と考えられる。

第14号土坑出土遺物観察表(第23図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP32	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	外・内面条痕文	覆土上層	
TP33	縄文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	橙	外面斜位の条痕文・横位の条痕文 内面横位の条痕文	覆土中	PL.9
TP34	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	橙	外・内面条痕文	覆土上層	

第25号土坑(第24図)

位置 調査区南東部のB3h5区。標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.24m、短径1.18mの円形である。深さは36cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

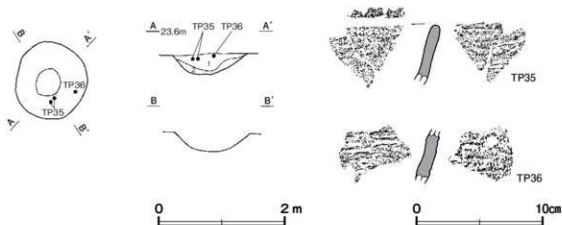
土層解説

1 層 褐色 ロームブロック中量

2 層 色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片4点(深鉢)が出土している。TP35・TP36は、南東部の覆土第1層から出土している。その他の土器片は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から早期後半と考えられる。



第24図 第25号土坑・出土遺物実測図

第25号土坑出土遺物観察表(第24図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP35	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	口唇部削み 外・内面条痕文	覆土第1層	
TP36	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	橙	外・内面条痕文	覆土第1層	PL.9

第26号土坑（第25図）

位置 調査区南東部のC3a1区、標高22mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.26m、短径1.16mの円形である。深さは45cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

ピット 北部に位置している。長径0.28m、短径0.18mの楕円形で、深さは24cmである。

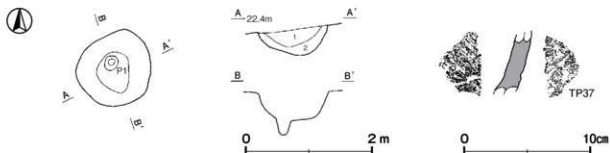
覆土 2層に分層できる。ロームブロックが混入していることから埋め戻されている。

土層解説

1 層 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 2 層 色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後半と考えられる。



第25図 第26号土坑・出土遺物実測図

第26号土坑出土遺物観察表（第25図）

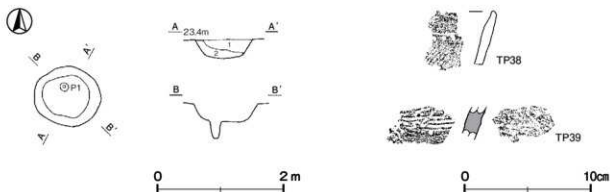
番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP37	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	外・内面斜位の条痕文	覆土中	

第31号土坑（第26図）

位置 調査区南東部のB3g5区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.06m、短径0.94mの楕円形で、長径方向はN-71°-Wである。深さは30cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

ピット 北部に位置している。径0.14mの円形で、深さ28cmである。



第26図 第31号土坑・出土遺物実測図

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量

2 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)、自然礫1点が出土している。TP38・TP39は、覆土中から出土している。

所見 早期前半の稲荷台式期の土器片が覆土中から出土しているが、条痕文系の土器片が混入しているため、時期は、早期後半と考えられる。

第31号土坑出土遺物観察表(第26図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP38	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	外面磨点文	覆土中	
TP39	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・磁礫	明赤陶	外・内面条痕文	覆土中	

第35号土坑(第27図)

位置 調査区中央部のB3h3区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.94m、短径1.30mの楕円形で、長径方向はN-29°-Eである。深さは30cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

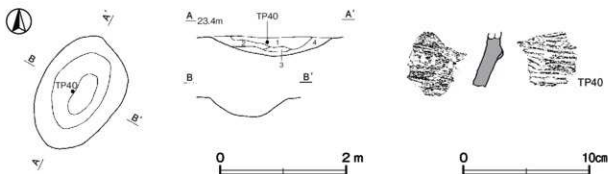
3 暗褐色 ロームブロック少量

2 褐色 ロームブロック中量

4 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片6点(深鉢)が出土している。TP40は中央部の覆土第1層から出土している。その他の土器片は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から早期後半(野島式期)と考えられる。



第27図 第35号土坑・出土遺物実測図

第35号土坑出土遺物観察表(第27図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP40	縄文土器	深鉢	長石・石英・磁礫	にぶい橙	外面条痕文→押し文→隆帯に刻み 内面斜位の条痕文→横長の条痕文	覆土第1層	PL10

第36号土坑(第28図)

位置 調査区中央部のB3h2区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.42 m、短径1.17 mの楕円形で、長径方向はN-40°-Eである。深さは12cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

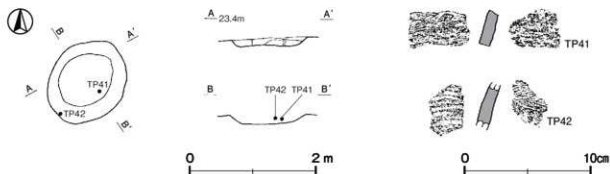
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量

2 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)、剥片1点(チャート片)が出土している。TP41は南東部の覆土第2層、TP42は南西部の覆土第1層から、それぞれ出土している。剥片は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から早期後半と考えられる。



第28図 第36号土坑・出土遺物実測図

第36号土坑出土遺物観察表(第28図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴はか	出土位置	備考
TP41	縄文土器	深鉢	灰石・石英・繊維	にぶい橙	外・内面貝殻微線文	覆土第2層	
TP42	縄文土器	深鉢	灰石・石英・雲母・繊維	橙	外面横位の条状文・内面斜位の条状文→横位の条状文	覆土第1層	

第41号土坑(第29図)

位置 調査区中央部のB3h3区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 径0.84 mの円形である。深さは8cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

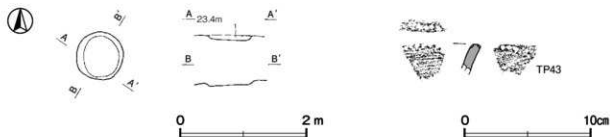
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。TP43は覆土中から出土している。その他の土器片は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から早期後半(子母口式期)と考えられる。



第29図 第41号土坑・出土遺物実測図

第41号土坑出土遺物観察表(第29図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP43	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	口唇部刷み 外・内面染灰文	覆土中	

第42号土坑(第30図)

位置 調査区南西部のB29区、標高22mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径200m、短径170mの楕円形で、長径方向はN-32°-Eである。深さは52cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

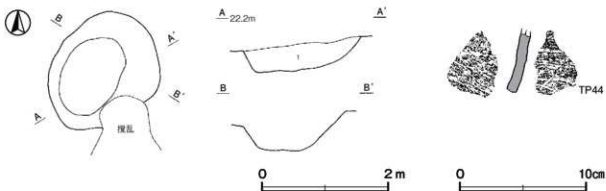
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)が出土している。TP44は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後半と考えられる。



第30図 第42号土坑・出土遺物実測図

第42号土坑出土遺物観察表(第30図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP44	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	外・内面染灰文	覆土中	

第47号土坑(第31図)

位置 調査区中央部のB32区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.78m、短径0.68mの楕円形で、長径方向はN-33°-Eである。深さは18cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから埋め戻されている。

土層解説

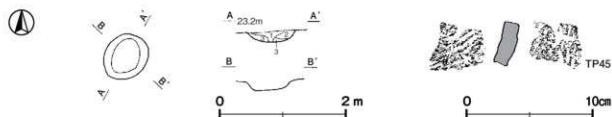
1 暗褐色 ロームブロック少量

3 褐色 ロームブロック中量

2 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)が出土している。TP45は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後半と考えられる。



第31図 第47号土坑・出土遺物実測図

第47号土坑出土遺物観察表（第31図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP45	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	外・内面糸歯文	覆土中	

第54号土坑（第32図）

位置 調査区南西部のB2J9区、標高21mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長軸1.88m、短軸1.32mの隅丸長方形で、長軸方向はN-34°-Wである。深さは60cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 中央部からやや南東部寄りに位置する。径0.28mの円形で、深さは16cmである。

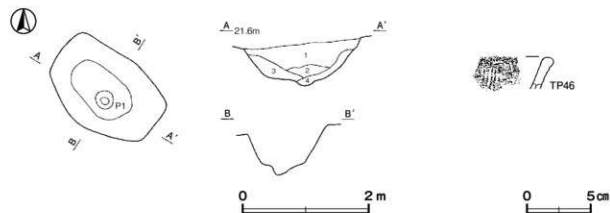
覆土 4層に分層できる。ロームブロックを多量に含み、互層を示す堆積状況から、埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
 2 黒 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 4 黄 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片3点（深鉢）が出土している。TP46は覆土中から出土している。その他の土器片は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から早期前半（稲荷台式期）と考えられる。



第32図 第54号土坑・出土遺物実測図

第54号土坑出土遺物観察表（第32図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP46	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	口縁部無文帯 外面縦位の無文	覆土中	

第77号土坑 (第33図)

位置 調査区南西部のB2g8区、標高22mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.68m、短径1.46mの楕円形で、長径方向はN-72°-Eである。深さは14cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

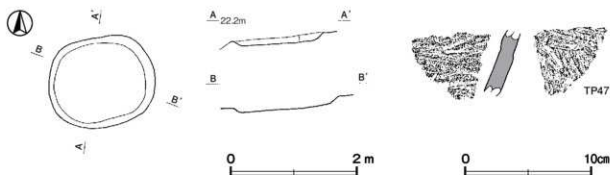
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)が出土している。TP47は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後半(茅山上層式期)と考えられる。



第33図 第77号土坑・出土遺物実測図

第77号土坑出土遺物観察表 (第33図)

番号	種別	形態	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP47	縄文土器	深鉢	長石・石英・編土	濃い黄橙	外・内面染灰文	覆土中	PL 9

第85号土坑 (第34図)

位置 調査区北西部のB2f0区、標高22mほどの台地斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.06m、短径1.04mの円形である。深さは28cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

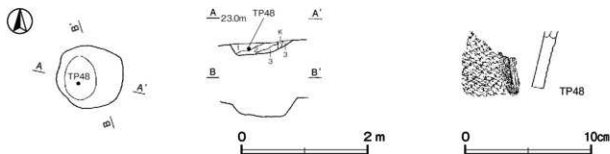
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量

2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量



第34図 第85号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片2点(深鉢)が出土している。TP48は、ほぼ中央部の覆土第1層から出土している。その他の土器片は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から中期後半(加曾利E式期)と考えられる。

第85号土坑出土遺物観察表(第34図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP48	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄橙	外面縦位の単節縄文R L→巻消懸垂文 内面ナデ	覆土第1層	PL10

第86号土坑(第35図)

位置 調査区東部のB3h8区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第63号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第63号土坑に掘り込まれているため、南北径1.66m、東西径1.28mしか確認できなかった。遺存する形状から楕円形と推定でき、南北径方向はN-16°-Eである。深さは93cmで、底面は鍋底状である。壁はほぼ直立している。

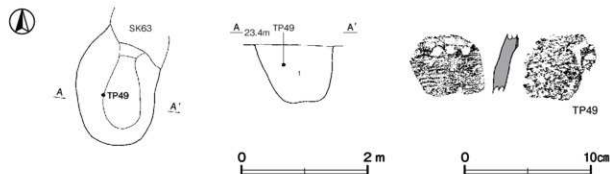
覆土 単一層である。ロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 掘 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片12点(深鉢)、自然礫2点が出土している。TP49は西部の覆土中層から出土している。その他の土器片は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から早期後半(田戸上層式期)と考えられる。



第35図 第86号土坑・出土遺物実測図

第86号土坑出土遺物観察表(第35図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP49	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄橙	外面垂文→段帯刺突文 内面垂文	覆土中層	PL9

第87号土坑(第36図)

位置 調査区中央部のB3g2区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第7号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 南東部は木の根による攪乱を受けているため、南北径1.34m、東西径は1.32mしか確認できな

かった。遺存する形状からほぼ円形と推定できる。深さは58cmで、底面は平坦である。壁は北部・西部は直立して立ち上がり、南東部は外傾しながら段を有し、上位は直立している。

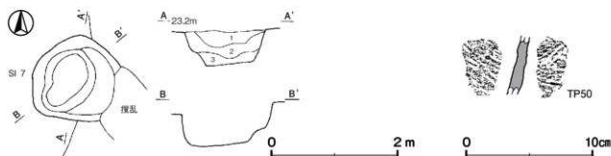
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック多量
2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）が出土している。TP50は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後半と考えられる。



第36図 第87号土坑・出土遺物実測図

第87号土坑出土遺物観察表（第36図）

番号	検別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP50	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	黄褐色	外・内面条痕文	覆土中	

第90号土坑（第37図）

位置 調査区南東部のB34区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.62m、短径0.60mの円形である。深さは18cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 明褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量



第37図 第90号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)、石器1点(磨石)、自然礫2点が出土している。TP51・Q5は、南西部の覆土第1層・第2層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後半と考えられる。

第90号土坑出土遺物観察表(第37図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP51	縄文土器	深鉢	長石・繊維	明褐色	外面横位の条状文 内面斜位の条状文	覆土第1層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q5	磨石	3.0	2.6	2.3	22.3	チャート	1カ所磨痕	覆土第2層	PL10

第93号土坑(第38図)

位置 調査区東部のB3h8区、標高23mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第63号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南部が第63号土坑に掘り込まれているため、径1.48mの円形と推定できる。深さは58cmで、底面は鍋底状である。壁は外傾して立ち上がっている。

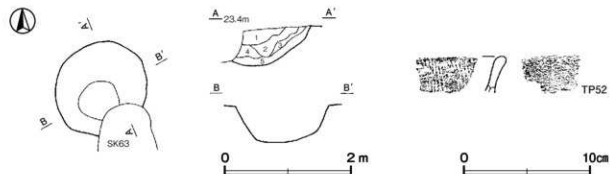
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 明褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)、剥片1点(黒曜石)が出土している。TP52は覆土中から出土している。剥片は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から早期前半(夏島式期)と考えられる。



第38図 第93号土坑・出土遺物実測図

第93号土坑出土遺物観察表(第38図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP52	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい黄褐色	外面縦位の熱糸文 内面ナデ	覆土中	PL9

第101号土坑 (第39図)

位置 調査区中央部のB3h1区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 長径1.22m、短径1.18mの円形である。深さは16cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 南部に位置する。長径0.36m、短径0.28mの楕円形で、深さは24cmである。

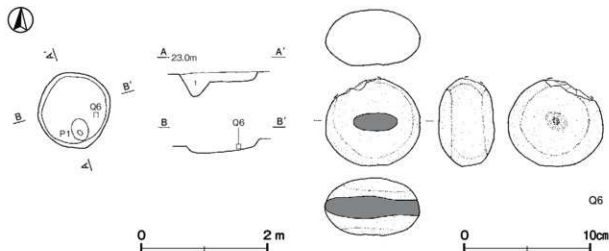
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 層 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 石器1点(磨石)が出土している。Q6は南東部の底面から出土している。

所見 時期は、出土土器がないため明確ではないが、磨石の形状から早期後半以降と考えられる。



第39図 第101号土坑・出土遺物実測図

第101号土坑出土遺物観察表 (第39図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q6	磨石	(7.0)	7.6	4.5	(254.6)	安山岩	2か所磨痕 凹石兼用	底面	PL10

表4 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	C3a5	-	円形	0.31 × 0.28	40	平坦	外傾	人為		
3	C3b4	N-8°-E	楕円形	1.10 × 0.68	52	平坦	外傾	人為	本跡→FP2	
4	C3a5	-	円形	1.45 × 1.40	26	平坦	外傾	人為	縄文土器、自然埋	SI1→本跡 ピット1か所
5	C3a6	-	円形	0.77 × 0.71	54	平坦	外傾	人為		ピット1か所
6	C3a7	-	円形	1.10 × 1.01	16	平坦	傾斜・外傾	人為		
7	C3a7	N-60°-E	楕円形	1.12 × 0.83	29	平坦	外傾	人為		SI8→本跡
8	B3a6	-	円形	0.40 × 0.37	28	平坦	外傾	人為		SI8→本跡
9	B3a6	-	円形	1.09 × 1.00	36	平坦	外傾	人為	縄文土器、自然埋	SI8、FP6→本跡
10	B3a6	-	円形	0.52 × 0.46	42	平坦	外傾・直立	人為	自然埋	FP6→本跡 ピット1か所

番号	位置	長径方向	平面形	規		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
11	B3h7	-	円形	0.31×0.27	40	顕底状	外傾	人為		
12	B2h6	N-73°-W	楕円形	0.61×0.50	24	顕底状	底斜	人為		
13	B2h8	N-52°-W	楕円形	2.35×1.26	33	平坦	外傾	人為		SK23→本跡
14	B3h5	N-56°-E	楕円形	1.99×1.42	16	平坦	外傾	人為		SI 8、SK15→本跡
15	B3h5	-	円形	1.02×0.98	6	平坦	外傾	人為		SI 8→本跡→SK14
16	B3h6	N-39°-E	楕円形	0.50×0.42	41	顕底状	外傾	人為		
17	B3h7	-	円形	0.40×0.39	10	平坦	外傾	人為		
18	B3h7	N-45°-E	楕円形	1.60×1.06	72	顕底状	外傾	人為		縄文土器
19	B3h7	-	円形	0.48×0.44	28	平坦	外傾	人為		ビット1か所
20	B3g7	N-55°-W	楕円形	0.54×0.46	6	平坦	底斜	人為		
21	B3h7	N-25°-W	楕円形	0.74×0.57	6	平坦	底斜	人為		
22	B3g6	-	円形	1.02×0.96	16	平坦	底斜	人為		縄文土器
23	B2h8	N-30°-W	楕円形	2.40×1.60	42	顕底状	外傾	人為		本跡→SK13、FP 5
24	B3g5	N-16°-E [隅丸長方形]		2.53×(1.62)	70	平坦	底斜	人為		本跡→SK9、FP 4
25	B3h5	-	円形	1.24×1.18	36	顕状	底斜	人為		縄文土器
26	C3a1	-	円形	1.26×1.16	45	平坦	底斜	人為		縄文土器
27	C3a1	N-65°-E	隅丸長方形	1.82×1.01	40	平坦	外傾	人為		自然曝
28	B3h5	N-60°-E	楕円形	3.58×1.82	81	平坦	外傾	人為		本跡→FP 4
29	B3j2	-	円形	2.36×2.16	40	平坦	外傾	人為		基石
30	B3g4	N-9°-W	楕円形	0.78×0.63	12	平坦	外傾	人為		
31	B3g5	N-71°-W	楕円形	1.06×0.94	30	平坦	底斜	人為		縄文土器、自然曝
32	B3f4	-	円形	1.18×1.17	38	平坦	凸凸	外傾	人為	
33	B3h5	N-40°-E	楕円形	1.96×1.24	16	顕底状	底斜	人為		ビット1か所
34	B3h3	N-37°-W	楕円形	0.69×0.56	56	顕底状	外傾	人為		
35	B3h3	N-29°-E	楕円形	1.94×1.30	30	顕状	底斜	人為		縄文土器
36	B3h2	N-40°-E	楕円形	1.42×1.17	12	平坦	底斜	人為		縄文土器、銅片
38	C3a2	N-10°-W	楕円形	2.00×1.05	36	顕底状	底斜	人為		SK29、39→本跡
39	C3a2	N-41°-W	楕円形	1.30×1.08	32	平坦	底斜	人為		本跡→SK28
41	B3h3	-	円形	0.84×0.84	8	平坦	外傾	人為		縄文土器
42	B2h9	N-32°-E	楕円形	2.00×1.70	52	平坦	外傾	人為		縄文土器
44	B2f9	N-39°-W	楕円形	1.32×1.00	26	平坦	底斜	人為		
45	B2f9	N-21°-W	不定形	1.68×1.22	46	平坦	外傾	人為		
46	B3h6	N-81°-W	楕円形	0.97×0.71	32	平坦	外傾	人為		
47	B3h2	N-33°-E	楕円形	0.78×0.68	18	平坦	外傾	人為		縄文土器
48	B2g9	N-30°-E	楕円形	1.36×0.80	32	顕底状	外傾	人為		
49	B3h6	-	円形	0.58×0.55	52	顕底状	外傾	人為		FP 6→本跡
50	B2g9	N-51°-W	楕円形	1.84×1.10	42	平坦	外傾	人為		自然曝
51	B2c9	N-35°-W	楕円形	1.06×0.70	24	平坦	底斜	人為		
52	B3f1	N-53°-W	楕円形	1.45×1.40	24	平坦	外傾	人為		縄文土器、自然曝
53	B2g0	-	楕円形	0.40×0.36	21	顕底状	底斜	人為		
54	B2h9	N-34°-W	隅丸長方形	1.88×1.32	60	平坦	外傾	人為		縄文土器
55	B2h7	N-52°-W	楕円形	1.66×1.46	48	平坦	外傾	人為		
56	B2h7	-	円形	1.10×1.10	40	平坦	外傾	人為		ビット1か所
57	B2h6	N-14°-E	楕円形	1.50×1.34	82	平坦	外傾	人為		
58	B3h3	-	円形	0.68×0.63	73	顕底状	直立	人為		ビット2か所
59	B3h5	N-46°-W	楕円形	0.84×0.76	29	平坦	外傾	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
60	B 3d1	-	円形	0.50 × 0.50	34	平坦	直立	人為		
61	B 3b6	N-50°-W	楕円形	0.52 × 0.32	24	有段	外傾	人為		
62	B 3b6	-	円形	0.49 × 0.48	20	平坦	外傾	人為		
63	B 3b8	N-3°-E	楕円形	1.46 × 0.89	62	有段	外傾	人為		SK86・93→本跡
64	B 3b8	N-78°-W	楕円形	1.28 × 0.83	30	平坦	外傾	人為		
66	B 3g0	N-88°-E	楕円形	2.08 × 1.28	18	凹凸	外傾	人為		
67	B 2b0	N-22°-E	楕円形	1.08 × 0.94	26	竈底状	縦斜	人為		SI 4→本跡
68	B 2g0	N-75°-W	楕円形	1.36 × 1.10	42	平坦	外傾	人為		
69	B 3h1	N-22°-W	楕円形	1.16 × 1.00	26	平坦	縦斜	人為	銅片	SI 7→本跡
70	B 3h1	-	円形	0.78 × 0.68	24	竈底状	縦斜	人為		SI 7→本跡
71	B 3e3	N-70°-W	不定形	3.56 × 1.36	113	凹凸	外傾	人為	縄文土器、自然礫	SK72→本跡 ビット2か所
72	B 3e3	N-80°-E	[楕円形]	(1.06) × 0.47	33	平坦	外傾	人為		本跡→SK71
73	B 2f0	N-45°-E	楕円形	0.86 × 0.62	16	平坦	縦斜	人為	縄文土器	
74	B 2b9	N-43°-E	楕円形	0.90 × 0.80	46	竈底状	縦斜	人為	縄文土器	
75	B 2b9	N-46°-W	楕円形	0.36 × 0.30	28	竈底状	外傾	人為		
76	B 2b8	N-33°-W	楕円形	0.88 × 0.68	16	平坦	縦斜	人為		
77	B 2g8	N-72°-E	楕円形	1.68 × 1.46	14	平坦	縦斜	人為	縄文土器	
78	C 3b5	-	[楕円形]	0.96 × (0.66)	48	平坦	外傾	人為		本跡→SK 2
79	B 2b6	-	円形	0.68 × 0.66	16	竈底状	外傾	人為		
80	B 2b6	-	円形	0.28 × 0.26	34	竈底状	外傾	人為		
81	B 2e8	N-2°-W	楕円形	0.60 × 0.34	70	竈底状	有段	人為		
83	B 2f0	N-4°-E	楕円形	1.86 × 1.00	18	竈底状	縦斜	人為		本跡→SD 1
84	B 3j5	-	円形	0.40 × 0.40	30	竈底状	有段	人為		SI 3→本跡
85	B 2f0	-	円形	1.06 × 1.04	28	平坦	外傾	人為	縄文土器	
86	B 3b8	N-16°-E	[楕円形]	(1.66) × 1.28	93	竈底状	直立	人為	縄文土器、自然礫	本跡→SK63
87	B 3g2	-	[円形]	1.34 × (1.32)	58	平坦	有段・直立	人為	縄文土器	SI 7→本跡
88	B 3b4	N-33°-W	楕円形	0.80 × 0.62	50	竈底状	外傾	人為	縄文土器	SI 3→本跡
89	B 2f9	N-36°-E	楕円形	1.54 × 1.16	18	平坦	外傾	人為		本跡→SD 1
90	B 3j4	-	円形	0.62 × 0.60	18	皿状	外傾	人為	縄文土器、磨石、自然礫	SI 3→本跡
91	B 2b9	-	円形	0.60 × 0.60	24	竈底状	外傾	人為		
92	B 3b2	N-63°-W	楕円形	0.96 × 0.80	22	竈底状	縦斜	人為		SI 7→本跡
93	B 3b8	-	[円形]	1.48 × (1.38)	58	竈底状	外傾	人為	縄文土器、銅片	本跡→SK63
94	B 3b8	-	円形	0.91 × 0.84	16	平坦	縦斜	人為		
95	B 3b8	N-73°-W	楕円形	0.86 × 0.68	20	平坦	外傾	人為		
96	B 3j3	N-36°-W	楕円形	0.96 × 0.80	14	平坦	縦斜	人為	縄文土器	
97	B 3g5	-	円形	0.68 × 0.65	40	平坦	外傾	人為	自然礫	SK21→本跡→FP 4
98	B 3j4	N-25°-W	[楕円形]	(2.62) × (1.02)	14	平坦	縦斜	人為	縄文土器、自然礫	本跡→UP 1
99	B 2e9	N-33°-E	楕円形	1.54 × 1.32	82	平坦	直立	人為		ビット1か所
100	B 2e9	N-39°-W	隅丸長方形	2.36 × 0.86	80	平坦	直立	人為	縄文土器、自然礫	
101	B 3h1	-	円形	1.22 × 1.18	16	平坦	外傾	人為	磨石	ビット1か所
102	C 3a3	-	楕円形	1.15 × 0.70	30	竈底状	外傾	人為	縄文土器	
103	C 3a4	N-26°-E	楕円形	2.00 × 1.64	30	平坦	外傾	人為	縄文土器	
104	C 3a3	-	円形	0.72 × 0.70	16	平坦	外傾	人為		
105	B 2e8	N-16°-E	楕円形	2.80 × 0.68	16	平坦	外傾	人為		
106	B 3j2	N-38°-W	不定形	1.75 × 1.07	50	平坦	外傾・直立	人為		
107	B 3j4	-	円形	1.78 × 1.70	34	竈底状	外傾	人為	縄文土器	

2 室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、地下式坑1基、土坑3基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 地下式坑

第1号地下式坑（第40・41図）

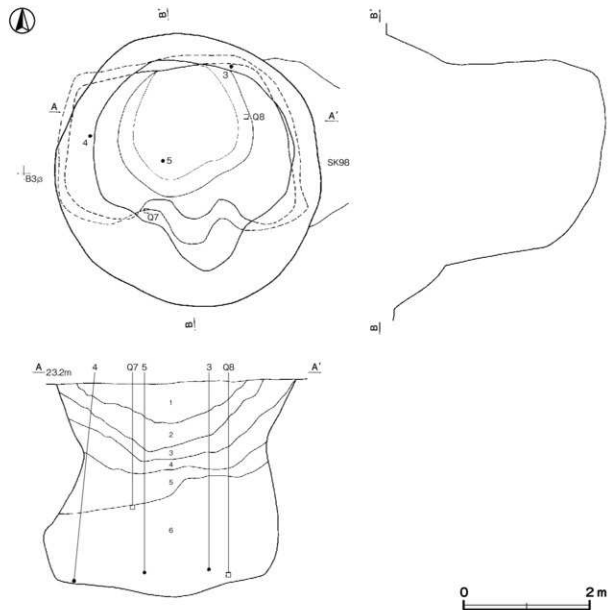
位置 調査区南東部のB313区、標高23mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第98号土坑を掘り込んでいる。

軸長・軸方向 軸長は4.39mで、軸方向はN-5°-Wである。

竪坑 主室の南側に位置し、奥行き0.50m、横幅1.00mの半円形である。降口は外傾し、確認面から80cmで、壁はほぼ直立し、昇降部は30°の坂で傾斜し、主室の底面に到達する。昇降部と主室の底面との比高は80cmである。

主室 奥行き3.75m、横幅2.35mの長方形である。底面は平坦で、底面からの深さは3.40mで、ローム層下の



第40図 第1号地下式坑実測図

白色粘土層を80cm掘り込んでいる。壁は高さ240mまで内罅し、それより上位は外傾する。

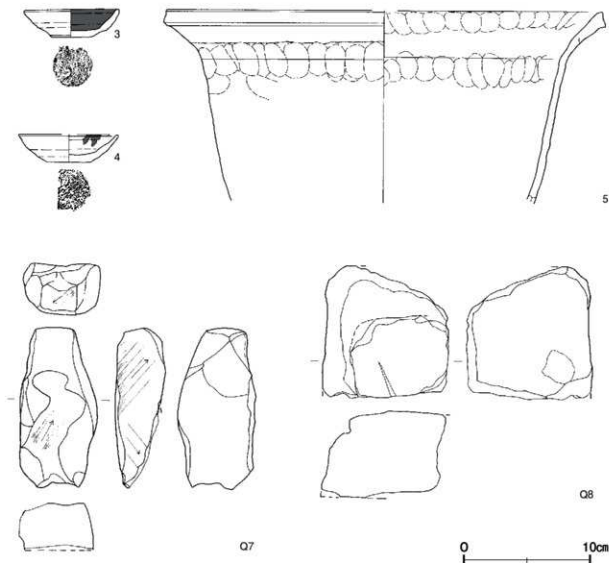
覆土 6層に分層できる。ロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。なお、堅坑から流入した堆積状況を示す自然堆積土は確認できなかった。また、第6層は安全のため、土層の観察が容易にできなかったが、天井部崩落土と推測できる。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック多量、白色粘土ブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |
| 4 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片8点(小皿3, 鉢3, 内耳鍋2), 石器11点(砥石7, 磨石4), 石製品1点(石塔片), 自然礫37点が出土している。4は西壁際の底面から、3は北東壁際、5は主室中央寄り、Q7は南壁際、Q8は東壁際の覆土第6層から、それぞれ散在して出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。



第41図 第1号地下式坑出土遺物実測図

第1号地下式坑出土遺物観察表(第41図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
3	土胎瓦土器	小皿	7.4	2.3	3.3	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り後ヘラナデ	覆土第6層	100% 内面塗白層 PL12	
4	土胎瓦土器	小皿	[7.8]	2.2	3.6	長石・雲母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り後ヘラナデ	底面	97% 口縁部塗白層	
5	土胎瓦土器	内耳罎	[34.6]	[15.3]	-	長石・石英・雲母	にぶい黄	普通	口縁部・胴部指調によるナデ	体部外・内面ヘラナデ	覆土第6層	27% 外底面塗白層 PL12

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q7	砥石	(12.8)	6.1	(3.6)	(360.0)	凝灰岩	5面砥石 潤滑しているため、内2面は砥面方向不明	覆土第6層	PL12
Q8	石塔	(10.5)	(10.0)	6.9	(191.6)	凝灰質砂岩	五輪塔地輪の破片。削り出し加工	覆土第6層	PL12

(2) 土坑

第2号土坑(第42図)

位置 調査区南東部のC3b4区、標高22mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第78号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.72m、短径1.32mの不整楕円形で、長径方向は $N-62^{\circ}-W$ である。深さは69cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

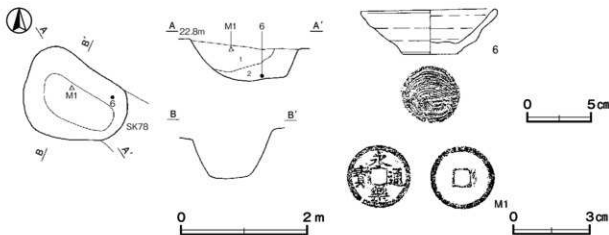
土層解説

1 褐色 ロームブロック多量

2 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)、銭貨1点(永楽通寶)、自然礫1点が出土している。6は覆土第2層の底面近くから、M1は中央部の覆土第1層から出土している。

所見 時期は、出土土器から16世紀前半と考えられる。骨などの出土は見られなかったが、覆土の状況が人為堆積で、遺構の形状や出土遺物から墓坑と考えられる。



第42図 第2号土坑・出土遺物実測図

第2号土坑出土遺物観察表(第42図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
6	土胎瓦土器	小皿	10.4	3.6	4.5	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	覆土第2層	100% PL12

番号	種別	径	孔距	厚さ	重量	材質	初鋳年	特徴	出土位置	備考
M1	永楽通寶	2.5	0.6	0.15	2.8	銅	1408	鑄造	覆土第1層	PL12

第 65 号土坑 (第 43 図)

位置 調査区南東部の B 3 区, 標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 8 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.14 m, 短径 1.07 m の楕円形で, 長径方向は $N-51^{\circ}-W$ である。深さは 22 cm で, 底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2 層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから, 埋め戻されている。

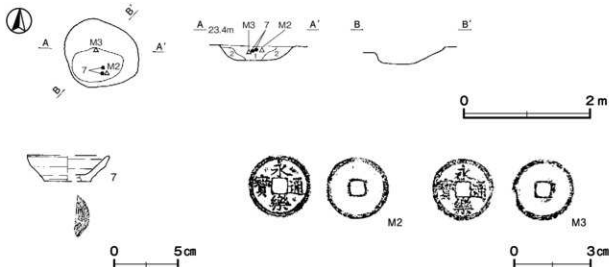
土層解説

1 層 褐色 ロームブロック少量, 炭化物微量

2 層 褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 土師質土器片 1 点 (小皿), 銭貨 2 点 (永楽通寶) が出土している。7 は, 覆土第 1 層の南壁際から出土したものが接合したものである。M 2 は南壁際, M 3 は北壁際の覆土第 1 層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から 16 世紀前半と考えられる。骨などの出土は見られなかったが, 覆土が人為堆積で, 遺構の形状や出土遺物から, 墓坑と考えられる。



第 43 図 第 65 号土坑・出土遺物実測図

第 65 号土坑出土遺物観察表 (第 43 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
7	土師質土器	小皿	[6.4]	2.1	[3.6]	長石・珉母・赤色粒子	橙	普通	底部回転糸切り	覆土第 1 層	3%
番号	銭種	径	孔径	厚さ	重量	材質	初鋳年	特徴		出土位置	備考
M 2	永楽通寶	25	0.6	0.17	3.0	銅	1408	铸造		覆土第 1 層	PL.12
M 3	永楽通寶	25	0.6	0.15	(2.5)	銅	1408	铸造		覆土第 1 層	一部欠損 PL.12

第 82 号土坑 (第 44 図)

位置 調査区北西部の B 3 b8 区, 標高 23 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.32 m, 短径 1.20 m の楕円形で, 長径方向は $N-55^{\circ}-W$ である。深さは 24 cm で, 底面は平坦である。壁は外傾して立ち上っている。

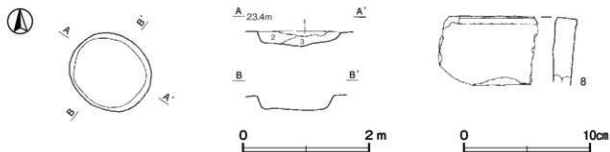
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 明褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック多量、炭化物微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(鉢)が出土している。8は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器が細片のため、明確な時期は不明であるが、器形の特徴から、室町時代後期と考えられる。骨などの出土は見られなかったが、覆土が人為堆積で、遺構の形状や出土遺物から、墓坑と考えられる。



第44図 第82号土坑・出土遺物実測図

第82号土坑出土遺物観察表(第44図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
8	土師質土器	鉢	-	(5.5)	-	長石・石英・雲母・礫	橙	普通	ロケロナデ	覆土中	5%

表5 室町時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	側面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
2	C 3 b4	N-62°-W	不整形円形	L72×L32	69	平坦	外傾	人為	土師質土器、銭貨、自然産	SK78→本跡
65	B 3 j6	N-51°-W	楕円形	L14×L07	22	平坦	外傾	人為	土師質土器、銭貨	SI 8→本跡
82	B 3 b8	N-55°-W	楕円形	L32×L20	24	平坦	外傾	人為	土師質土器	

3 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期や性格が明らかでない堅穴建物跡1棟、溝跡1条を確認した。また、遺構に伴わない遺物が出土している。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 堅穴建物跡

第9号堅穴建物跡 (第45図)

位置 調査区北西部のB 2 e0区、標高23mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 南部は第1号溝に掘り込まれ、後世に削平され、南西部は木の根による擾乱を受けているため、北西・南東径は180m、北東・南西径は5.98mしか確認できなかった。楕円形と推定でき、北西・南東径方向はN-67°-Wである。壁は高さ10~12cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、特に顕著な硬化面は確認できなかった。

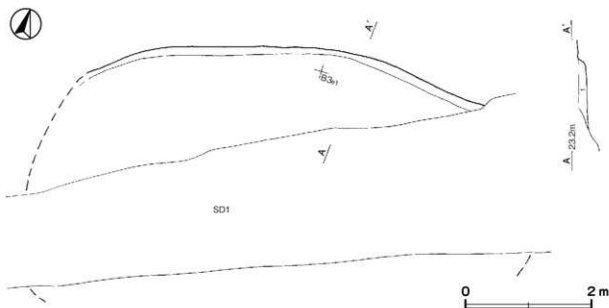
ピット 遺存部分では確認できなかった。

覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

所見 時期は、出土遺物がみられないため、不明である。他の縄文時代の遺構と覆土の状況が似ていることから、縄文時代の可能性がある。



第45図 第9号竪穴建物跡実測図

(2) 溝跡

第1号溝跡 (第46図)

位置 調査区南西部のB 2g6区から北東部のB 3d3区、標高20～23mほどの台地平坦部から斜面部に位置している。

重複関係 第9号竪穴建物跡、第83・89号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 B 2g6区から北東方向N-65°-Eに直線状に延びている。北東端部と南西端部が調査区外へ延びているため、確認できた長さは29.3mで、上幅1.90～2.56m、下幅24～40cmである。確認面からの深さは58～96cmで、地形に沿って、北東部から南西部にかけて傾斜している。断面形は逆台形で、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

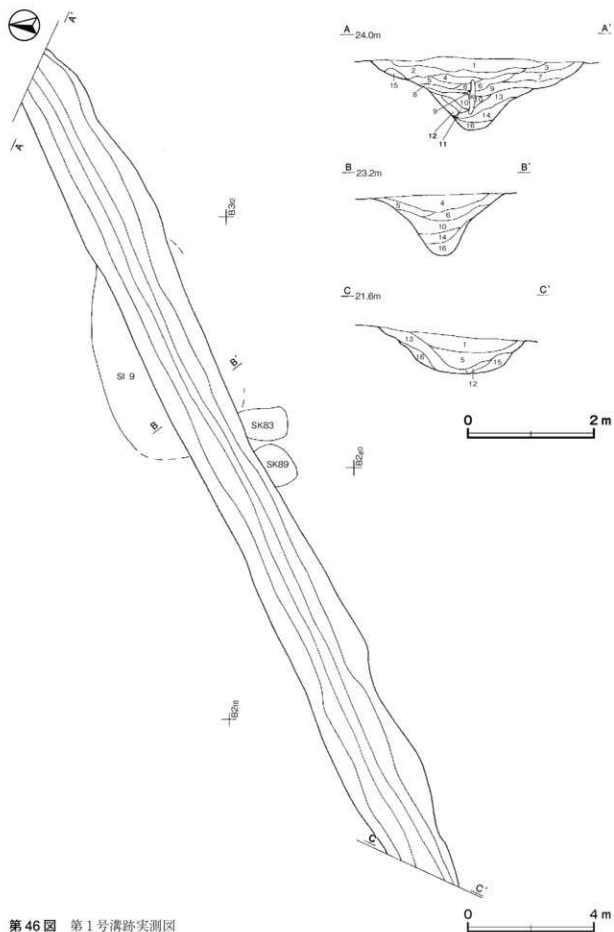
覆土 16層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|---------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 9 極暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 10 暗褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック中量 | 11 暗褐色 | ローム粒子中量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 12 褐色 | ロームブロック多量 (粘性普通、締まり強) |
| 5 暗褐色 | ロームブロック多量 (粘性普通、締まり弱) | 13 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 6 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 14 褐色 | ロームブロック多量 (粘性・締まり弱) |
| 7 暗褐色 | ロームブロック多量 (粘性普通、締まり強) | 15 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 8 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 16 ふい褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 縄文土器片31点(深鉢)が覆土中から出土している。

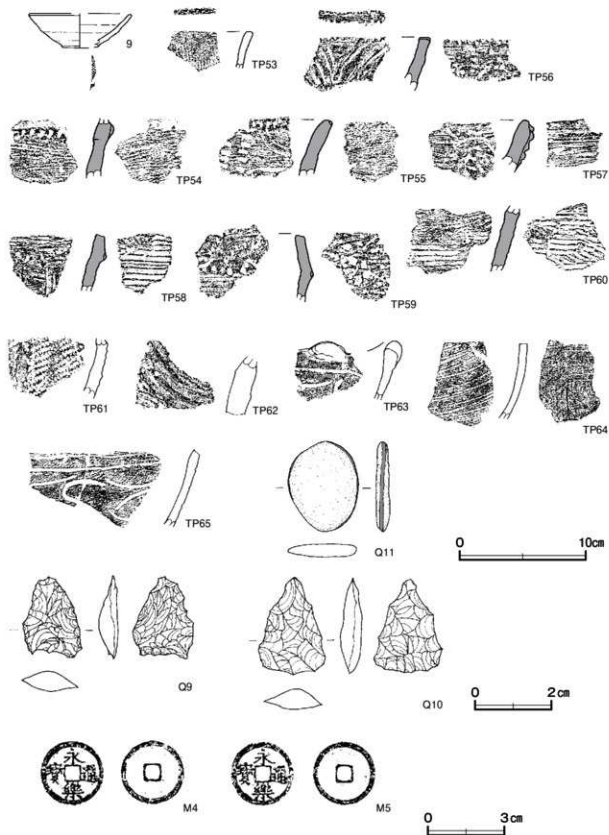
所見 縄文土器片が出土しているが、本跡に伴う遺物ではないため、時期は不明である。形状や覆土の状況から、室町時代の地下式坑や土坑に伴う区画溝の可能性もある。



第46图 第1号沟迹实测图

(3) 遺構外出土遺物

今回の調査で出土した、遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表を掲載する。



第47図 遺構外出土遺物実測図

遺構外出土遺物観察表 (第 47 図)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手 法 の 特 徴 は か	出土位置	備 考	
9	土師瓦土器	小皿	[80]	27	[28]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	表土	30%	
番号	種 別	器種	胎 土			色 調	文 様 の 特 徴 は か			出土位置	備 考	
TP53	縄文土器	深鉢	長石・石英			にぶい黄橙	外面磨糸文 内面ナデ			第1号地下式坑	変角式 PL11	
TP54	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 繊維			にぶい橙	外面条痕文→隆帯に刷み 内面条痕文			第1号地下式坑	子母口式	
TP55	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 繊維			橙	外面条痕文→押し引き文			第1号地下式坑	子母口式 PL11	
TP56	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維			にぶい黄橙	口唇部刷み 外面隆起線文 内面条痕文			表土	野島式 PL11	
TP57	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維			にぶい橙	外面たい沈線文→隆帯刷付文→刷み 内面条痕文			第1号地下式坑	茅山下層式 PL11	
TP58	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維			にぶい橙	外面横位の条痕文→隆帯刷付文→沈線文 内面条痕文			第1号地下式坑	茅山下層式 PL11	
TP59	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維			明褐色	外面条痕文→隆帯文→刷み 内面条痕文			表土	茅山下層式 PL11	
TP60	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維			橙	外・内面条痕文			第1号地下式坑	早期後半 PL11	
TP61	縄文土器	深鉢	長石・石英			橙	外面半周刷付文R→磨消整直文で区画 内面ナデ			第1号溝跡	加曾利EⅡ式 PL11	
TP62	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子			橙	外面半周刷付文R→磨消整直文で区画 内面磨き			第1号溝跡	加曾利EⅡ式 PL11	
TP63	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子			明赤褐色	口唇部刷付文 胴部外面磨消細縄文→沈線文で区画 内面横位の磨き			第1号溝跡	加曾利BⅡ式 PL11	
TP64	縄文土器	深鉢	長石・石英			にぶい橙	外面矢羽根状沈線 内面磨き			第1号溝跡	加曾利BⅡ式	
TP65	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母			橙	外面磨消細縄文→沈線文で区画			第1号溝跡	曾谷式 PL11	
番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	材 質	特 徴			出土位置	備 考	
Q 9	石 畿	2.2	1.6	0.6	1.5	チャート	押圧剥離 無葉石畿			第1号地下式坑	縄文中期 PL11	
Q 10	石 畿	2.5	1.8	0.6	2.0	頁岩	押圧剥離 平基無葉石畿			表土	縄文中期 PL11	
Q 11	磨石	7.2	5.5	1.1	60.3	砂岩	側面使用面			表土	縄文早期後半 古白漆	
番号	器 種	径	孔径	厚さ	重量	材 質	初焼年	特 徴			出土位置	備 考
M 4	水堂遺寶	2.5	0.6	0.16	3.2	銅	1408	铸造			第1号型建物跡	
M 5	水堂遺寶	2.5	0.6	0.15	2.6	銅	1408	铸造			表土	PL12

第 4 節 ま と め

1 はじめに

今回の調査で、縄文時代と室町時代の複合遺跡であることが明らかとなった。縄文時代では、堅穴建物跡 5 棟、炉穴 7 基、土坑 101 基、室町時代では、地下式坑 1 基、土坑 3 基を確認した。ここでは、各時代の様相について概観し、遺構及び遺物について所見を述べ、若干の考察をする。

2 縄文時代

今回の調査区は台地縁辺部から斜面部にかけての部分である。当時代の遺構は、調査区のはほぼ全域に分布している。

遺構別にみえていくと、堅穴建物跡が、調査区中央部の平坦部から南西部と南東部の緩斜面部にかけて弧を描くように存在し、炉穴は堅穴建物跡を囲むように平坦部から斜面部にかけて分布している。土坑は調査区全域の平坦部から斜面部にかけて散在している。出土遺物は、早期前半（惣糸文期）、早期後半（沈線文・条痕文期）、中期後半（加曾利 E 式期）、後期後半（加曾利 B 式・曾谷式期）の縄文土器（深鉢）、石器（石畿・敲石・磨石）が出土している。後期後半の縄文土器のみが遺構に伴わないものであるが、断続的に集落が営まれていたことがわかる。

(1) 竪穴建物跡について(第4・5～13図)

竪穴建物跡は、台地の縁辺部から緩斜面部にかけて確認できた。時期は、出土土器の文様の特徴から、早期前半(燃糸文期)と早期後半は貝殻沈線文、貝殻条痕文を施文する子母口式期と野鳥式期の2時期に分けられ、時期的に分類すると、早期前半は、第8号竪穴建物跡、早期後半では、子母口式期が第4号竪穴建物跡、野鳥式期が第1・3・7号竪穴建物跡である。

早期前半の第8号竪穴建物跡は、調査区南東部の台地の縁辺部に位置し、平面形状は楕円形で、炬を持たない。柱穴は壁際に廻り、内側は不規則なピットの配置状況で、出入り口施設のピットは不明である。

早期後半の子母口式期の第4号竪穴建物跡は、調査区南西部の台地の緩斜面部に位置し、平面形状はほぼ円形で、炬を持たない。柱穴は壁際に廻り、その他は不規則で、出入り口施設のピットは、配置状況から南部に配されているP11～13が考えられる。

野鳥式期の第1・3・7号竪穴建物跡は、調査区中央部の台地の縁辺部と南西部の緩斜面部に位置し、平面形状は楕円形で、炬を持たない。第1号竪穴建物跡は、主柱穴4か所が明確で、出入り口施設のピットは南東部に配されている。第3号竪穴建物跡は、柱穴が壁際に廻り、その他は不規則で、出入り口施設のピットは不明である。第7号竪穴建物跡は、ピットの配置が不規則で、出入り口施設のピットも不明である。このようにピットの配置が不規則のものが多い。早期の竪穴建物跡の県域における調査例は、平成3年の当財団縄文時代研究班による集成¹⁾から増えてきているが、現段階においても上層構造の復元は困難である。

(2) 炬穴について(第4・14～20図)

炬穴は、調査区の南西部から北東部、南東部の台地の平坦部から緩斜面部にかけて確認できた。また、早期後半の竪穴建物跡を囲むように分布している。後世の攪乱によって削平を受けているため、天井部の遺存しているものはみられなかった。時期は、野鳥式期を中心とした早期後半の条痕文系土器が伴っており、7基の炬穴は時期差はあまりないと考えられる。

形状は、楕円形で火焚部の移動があるものと、一か所のものに分かれる。前者が第1・2・5号炬穴で、火焚部の重複関係をみていくと、新しくなるほど、北東部へ移動している。後者が、第3・4・6・7号炬穴で、火焚部は北東部に配置されている。両者とも北東部に配置される点で共通することから、当時の風向きに関係²⁾、移動しているものは、時間差があるため、若干時期が古いものと考えられる。

(3) 土坑について(第4・21～39図)

土坑は、調査区の全域にわたって確認できた。土坑101基の中で、時期が明確なのは19基であった。

出土土器から早期前半(燃糸文期)、早期後半(沈線文期・条痕文期)、中期後半(加曾利E式期)に時期区分ができる。

早期前半では、第93号土坑(夏鳥式期)、第54号土坑(稲荷台式期)が該当する。

早期後半では、第4・9・14・25・26・31・35・36・41・42・47・77・86・87・90号土坑で、さらに土器型式で細分すると田戸上層・子母口・野鳥・茅山下層・茅山上層式期と、細片は条痕文期に分類でき、以下ようになる。

- ① 田戸上層式期: 第86号土坑
- ② 子母口式期: 第41号土坑

- ③ 野島式期：第4・35号土坑
- ④ 茅山下層式期：第9号土坑
- ⑤ 茅山上層式期：第77号土坑
- ⑥ 条痕文期：第14・25・26・31・36・42・47・87・90号土坑

中期後半（加曾利E式期）では、第85号土坑が該当する。

次に遺物の出土していないものも含め形状別に分類する。

- ① **ほぼ円形でピットをもつもの**：第4・5・10・19・22・26・31・33・56・58・99・101号土坑
- ② **円形のもの**：第1・4～6・8～11・15・17・19・22・25・26・29・32・41・49・56・58・60・62・70・79・80・84・85・87・90・91・93・94・97・101・104・107号土坑
- ③ **楕円形のもの**：第3・7・12～14・16・18・20・21・23・28・30・31・33～39・42・44・46～48・50～53・55・57・59・61・63・64・66～69・72～78・81・83・86・88・89・92・95・96・98・99・102・103・105号土坑
- ④ **隅丸長方形のもの**：第24・27・54・100号土坑
- ⑤ **不定形のもの**：第45・71・106号土坑

調査区が狭小なために不明な点が多いが、早期後半の野島式期以降の条痕文期が多く、楕円形の形状が最も多い。これが、時期と形状が相関するとは限らないが、そのうち7基は野島式期以降の条痕文期である。

性格は、全時期をとおして、遺物が少ないため不明な点が多いが、覆土が人為堆積で、形状から墓坑の可能性がある³⁾。

3 室町時代

当時代の遺構は、調査区の北東部の台地平坦部から南部の緩斜面部にかけて分布している。遺構別にみると、地下式坑が台地の縁辺部に位置し、その東側に土坑が列状で南北に直線上に並ぶように分布している。

(1) 地下式坑について（第4・40・41図）

地下式坑は、調査区南東部の台地縁辺部に位置している。今回は、1基のみの確認であった。時期は、出土土器の特徴から16世紀前半と考えられる⁴⁾。これまでの地下式坑の研究では、貯蔵穴説と墓坑説がある⁵⁾。さらに、墓地に伴う地下式坑は再葬施設である可能性が高い⁶⁾、とされている。近年では人骨を伴う地下式坑の発掘調査例が増えているが、現在のところ再葬施設であることについて十分な実証はなされていない。当遺跡の地下式坑では、土師質土器（小皿・内耳鍋）、砥石、石塔片（五輪塔の地輪。）が出土していることや、周辺には同時期の墓坑と考えられる土坑が確認できることから、貯蔵穴的な性格より墓坑として利用された可能性がある。しかし、人骨が確認できなかったこと、出土した遺物が破片で、天井部崩落土とともに混入している状態で出土しているため、墓坑とも断定はできない。

(2) 土坑について（第4・42～44図）

土坑は、調査区南東部の台地平坦部から斜面部にかけて、第2・65・82号土坑の3基が確認できた。遺構の性格は、人骨の出土はみられなかったが、形状や人為堆積の覆土、油煙の付着がある土師質土器皿や銭貨の出土から墓坑と考えられる。時期は、出土土器の特徴から16世紀前半と考えられる。調査区内

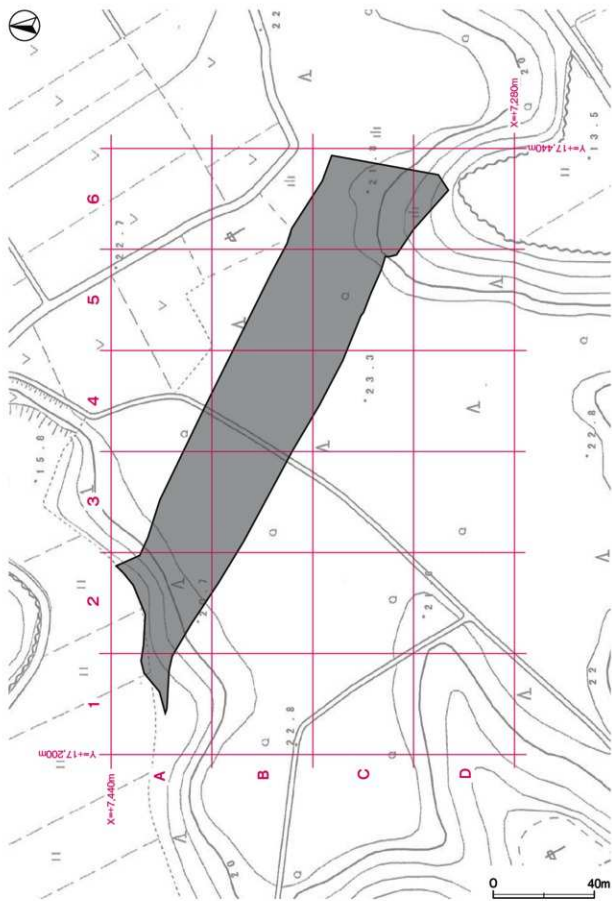
で確認した状況では、台地平坦部から緩斜面部にかけてほぼ南北に直線上に並んでいるようにも見える。同時期の地下式坑との関連性が考えられる。

4 おわりに

今回の調査区域は、遺跡の南西端部に位置する。調査区が狭小なために不明な点が多いが、縄文時代の早期後半では、同時期の竪穴建物跡と炉穴が確認でき、当地域では、初の調査例を提示することができた。室町時代では16世紀前半の地下式坑と墓坑と考えられる土坑が確認でき、墓域の一端を知ることができた。小字名である「堂ノ前」の由来を紐解く資料の一端となれば幸いである。

註

- 1) 縄文時代研究班「茨城県における縄文時代早期の住居形態について」『研究ノート』創刊号 平成3年度(財)茨城県教育財団 1992年3月 当時は、5遺跡のみであった。
- 2) 小林謙一「縄文早期後葉の南関東における居住活動」『縄文時代』第2号 縄文時代文化研究会 1991年5月
炉穴の規則的な重複について、「竪穴住居に比して耐用期間が短いため、風向きの影響を受けやすいためと考えるべきである・・・」とあることから、風向きの変化によって作り替えたと考えられる。
- 3) 谷口康浩「IV-1章 環状集落の成立過程 (5) 集落内墓の出現」『環状集落と社会構造』学生社 2005年3月
長野県飯島町カゴ田遺跡や福井県金津町桑野遺跡の事例を挙げ、「環状集落が出現した早期末葉～前期初頭は、群集する墓の出現期としても、縄文社会史上に注目すべき画期が印された時期である・・・」と述べられている。
- 4) a) 服部敏史「東国における15・16世紀の土師器皿様相」『八王子の歴史と文化』第9号 八王子市郷土資料館 1996年7月
b) 服部敏史「土師器皿からみる中世後半期の東国」『橋崎彰一先生古希記念論文集』橋崎彰一先生古希記念論文集刊行会 1998年3月
- 5) a) 中田 英「地下式土壙研究の現状について」『神奈川考古』第2号 1977年5月
b) 半田堅三「本邦地下式壙の類型学的研究」『伊知波良』2 伊知波良刊行会 1979年5月
半田堅三「地下式壙再考」『市原市文化財センター研究紀要』II 財団法人市原市文化財センター 1993年3月
c) 江崎 武「中世地下式土壙の研究」『古代探義II』早稲田大学出版部 1985年12月
d) 笹生 南「地下式坑の掘られた風景-景観復元から見た中世地下式坑の機能と歴史的意義-」『戦国時代の考古学』高志書院 2003年6月
- 6) 齋藤弘「地下式壙と葬送儀礼」- 栃木県下の事例を中心に - 『研究紀要』第4号(財)栃木県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1996年3月



第48図 高須賀道城入遺跡調査区設定図（つくば市都市計画図2500分の1から作成）

第4章 高須賀道城入遺跡

第1節 調査の概要

高須賀道城入遺跡は、つくば市の南西部に位置し、西谷田川と小貝川に挟まれた標高17～25mの樹状枝に開折された台地上に立地している。今回の調査区域は、遺跡の北部で、調査面積は8,061㎡である。調査前の現況は山林である。

調査の結果、竪穴建物跡7棟(縄文時代5、弥生時代2)、炉穴2基(縄文時代)、掘立柱建物跡5棟(江戸時代)、竪穴遺構1基(時期不明)、炉跡1基(時期不明)、窯跡1基(時期不明)、土坑463基(縄文時代307、弥生時代29、室町時代7、江戸時代48、時期不明72)、溝跡11条(江戸時代9、時期不明2)、遺物包含層1か所(古墳時代)、台地整形遺構1か所(時期不明)、柱穴列群5か所(時期不明)、ピット群1か所(時期不明)を確認した。

遺物は、遺物収納コンテナ(60×40×20cm)に22箱出土している。主な遺物は、縄文土器(深鉢・浅鉢)、弥生土器(広口壺)、土師器(埴・高坏・台付甕・甕)、土師質土器(小皿・内耳鍋)、陶器(皿・天目茶碗)、磁器(碗・皿)、石器・石製品(石鏃・石匙・磨石・敲石・凹石・スタンプ形石器・石皿・石錘・砥石・剣形模造品)、金属器・金属製品(釘・刀子・槍先・矢立・和鍔・煙管)などである。

第2節 基本層序

調査区北西部の台地上の平坦面(A3h7区)と谷津部(C6d8区)にテストピットを設定し、基本土層(第49図)の観察を行った。

第1層は、黒褐色を呈する表土層である。層厚は22～30cmである。

第2層は、暗褐色を呈する江戸時代の耕作土である。層厚は4～10cmである。

第3層は、暗褐色を呈する整地層である。ロームブロックを多量に含み、粘性・締まりともに強く、層厚は23～43cmである。構築時期は不明である。

第4層は、黒褐色を呈する整地層である。ロームブロックを少量に含み、粘性・締まりともに強く、層厚は4～5cmである。構築時期は不明である。

第5層は、黄褐色を呈する整地層である。ロームブロックを多量に含み、粘性・締まりともに強く、層厚は40～48cmである。構築時期は不明である。

第6層は、黒褐色を呈する整地層である。ロームブロックを多量に含み、粘性・締まりともに強く、層厚は5cmである。構築時期は不明である。

第7層は、黒褐色を呈する古墳時代の遺物包含層である。ローム粒子を少量、焼土粒子・炭化粒子を微量に含み、粘性・締まりともに普通で、層厚は40～50cmである。

第8層は、暗褐色を呈する古墳時代の遺物包含層である。ローム粒子を多量に含み、粘性は弱く、締まり強い。焼土粒子・炭化粒子を微量に含み、層厚は9～18cmである。

第9層は、褐色を呈するローム層への漸移層である。粘性・締まりともに極めて強く、炭化物・白色粒子を

微量に含む。層厚は5cm～40cmである。

第10層は、褐色を呈するソフトローム層である。粘性・締まりともに極めて強く、黒色スコリアを少量、赤色スコリアを微量に含む、粘性・締まりともに強く、層厚は9cm～44cmである。

第11層は、褐色を呈するハードローム層である。黒色スコリア・赤色スコリア・白色スコリアを微量に含む、粘性・締まりともに極めて強く、層厚は14cm～28cmである。

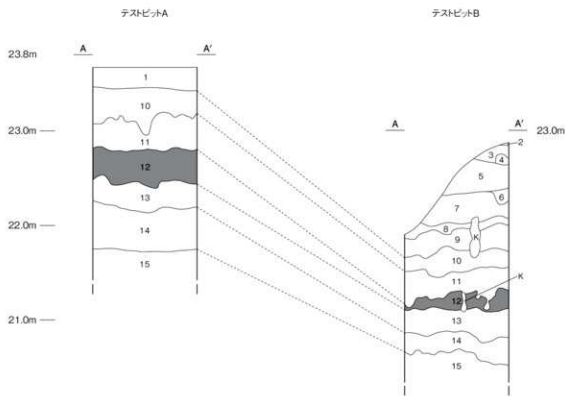
第12層は、暗褐色を呈するハードローム層である。白色スコリア少量、黒色スコリア・赤色スコリアを微量に含む、粘性・締まりともに強く、層厚は8cm～53cmである。第2黒色帯(BBII)に相当する。

第13層は、褐色を呈するハードローム層である。白色スコリア・黄褐色スコリアを微量に含む、粘性・締まりともに極めて強く、層厚は16cm～32cmである。

第14層は、褐色を呈するハードローム層である。径5mm大の礫・白色スコリアを微量に含む、粘性・締まりともに極めて強く、層厚は16cm～32cmである。

第15層は、褐色を呈するハードローム層である。白色スコリア・黄褐色スコリアを微量に含む、粘性・締まりともに極めて強い。層厚は30cmまで確認したが、以下は、未掘であるため不明である。

台地上の平坦面では、第10層上面で遺構を確認し、谷津部では、古墳時代以降は第7層上面、弥生時代は、第9層上面でそれぞれ遺構を確認した。



第49図 高須賀道城入遺跡基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡5棟、炉穴2基、土坑307基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡（第50・51図）

位置 調査区北西部のB3b1区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第26・176号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 一辺5.60mの隅丸方形である。主軸方向はN-39°-Wである。壁は高さ12～26cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、主柱穴の内側である中央部が踏み固められている。

炉 中央部のやや東寄りに付設された長径1.18m、短径1.08mの楕円形で、床面を15cmほど掘りくぼめた地床炉である。火熱を受けて赤変しているが、硬化は認められない。

炉土層解説

1 赤褐色 焼土ブロック・ローム粒子多量、炭化粒子微量 2 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物微量

ピット 13か所。P1～P6は深さ18～38cmで、規模と配置から主柱穴であると考えられる。P7・P10は深さ28・18cmで、補助的な柱穴と考えられる。P13は深さ38cmで、南西コーナ部に位置し、形状から貯蔵穴と考えられる。P8・P9・P11・P12は深さ16～28cmで性格は不明である。

P1～P12 共通土層解説

1 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物微量 2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化物微量

P13土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化物微量 2 褐色 ロームブロック多量

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

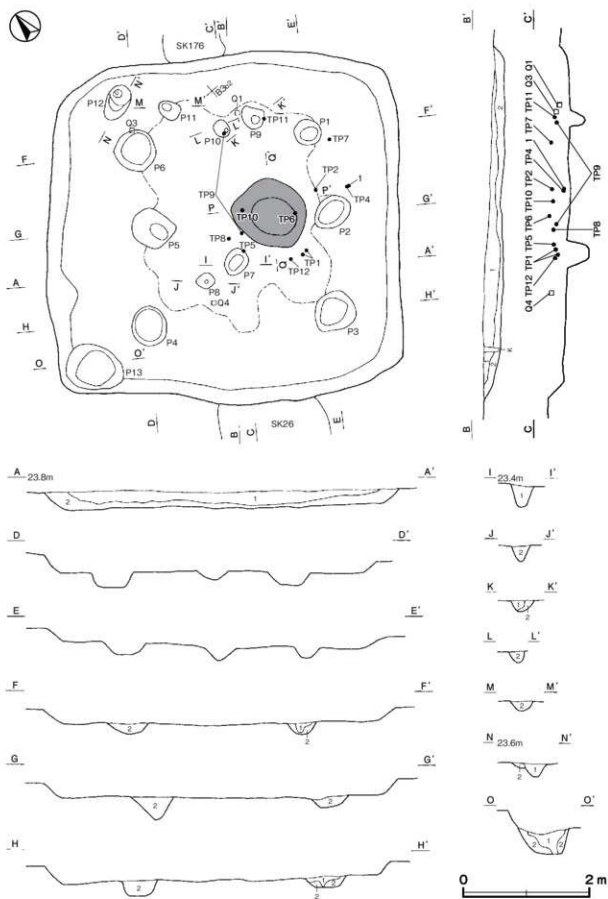
1 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物微量 2 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片174点(深鉢)、石器7点(磨石4、敲石2、凹石1)、剥片13点(砂岩)、自然礫6点が、南部に集中して投棄された状態で出土している。1・TP4は、南東部の覆土下層から出土している。TP1・TP2・TP5～TP8・TP10・TP12、Q4は南部、TP9・TP11、Q1・Q3は北部の覆土上層からそれぞれ出土している。TP3、Q2は覆土中から出土している。

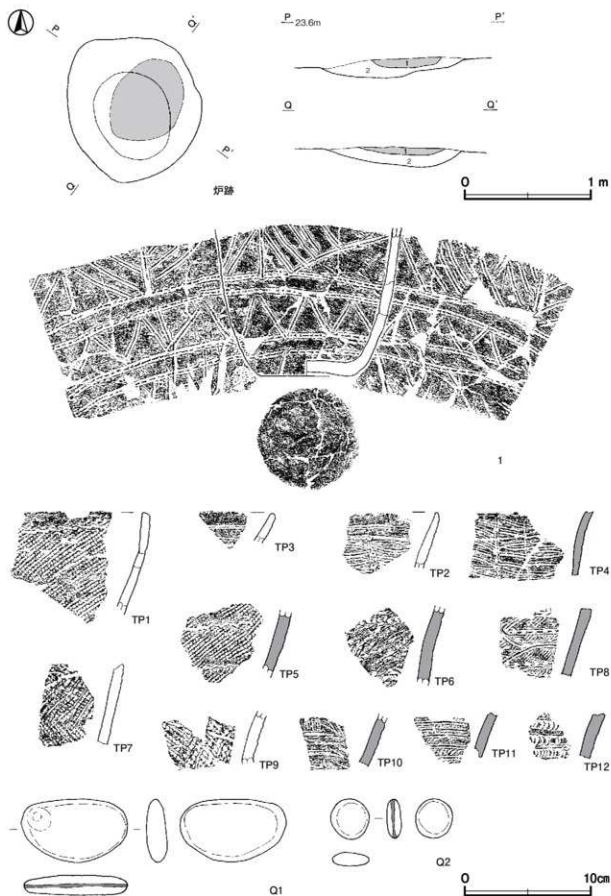
所見 覆土から前期中葉の黒浜式期新段階の土器片と前期後葉の諸磯a式期の土器片が混在して出土している。後者が覆土下層からも出土しているため、前期後葉(諸磯a式期)と考えられる。

第1号竪穴建物跡出土遺物観察表（第51図）

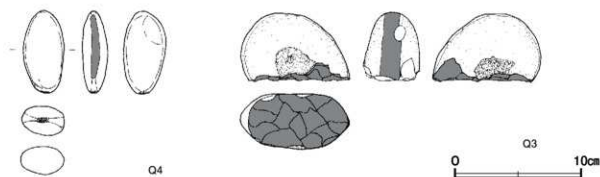
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	-	(120)	7.4	長石・石英	黒褐色	良好	平軌竹管による肋骨文・扇条状平行沈線文	覆土下層	30% PL31



第50图 第1号竖穴建物跡实测图



第51图 第1号竖穴建物跡・出土遺物実測図



第52図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図

第1号竪穴建物跡出土遺物観察表(第51・52図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP1	縄文土器	深鉢	長石・石英	明赤褐色	半筋縄文L R→口縁部結筋縄文	覆土上層	PL31
TP2	縄文土器	深鉢	石英・雲母	橙	半載竹管による横位の平行沈線文・肋骨文→縦位の連続円形竹管文	覆土上層	PL31
TP3	縄文土器	深鉢	長石・雲母	にぶい橙	横位の半載竹管文	覆土中	
TP4	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	半載竹管文による肋骨文→縦位の連続円形竹管文	覆土下層	PL31
TP5	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	赤褐色	半筋縄文L R→横位の結筋縄文	覆土上層	PL31
TP6	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・赤色粘土・繊維	明褐色	半載竹管による横位の連続爪形文	覆土上層	PL31
TP7	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	橙	半筋縄文R Lと半筋縄文L Rの羽状構成	覆土上層	PL31
TP8	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	半筋縄文L R→半載竹管による横位の押し引き文→半載竹管による太直文	覆土上層	PL31
TP9	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	にぶい黄褐色	半筋縄文R Lと半筋縄文L Rの羽状構成→沈線文	覆土上層	PL31
TP10	縄文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	橙	縦位の沈線文→横位・斜位の沈線文	覆土上層	
TP11	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	褐色	半筋縄文L R→半載竹管による横位の沈線文	覆土上層	PL31
TP12	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	半載竹管による横位の連続爪形文	覆土上層	PL31

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q1	磨石	8.4	5.0	1.6	95.2	礫岩	側縁部使用痕	覆土上層	PL33
Q2	磨石	3.2	3.1	1.1	16.7	石灰岩	側縁部使用痕	覆土中	PL33
Q3	磨石	6.6	8.6	4.6	255.5	安山岩	切断面・側縁部磨痕 凹石からの転用 スタンプ形	覆土上層	PL33
Q4	磨石	6.6	3.4	2.2	67.4	デイサイト	磨石兼用 先端部磨痕 側縁部片側磨痕	覆土上層	PL33

第2号竪穴建物跡(第53・54図)

位置 調査区北西部のB3c4区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第20・29号土坑を掘り込み、第18・19・24・41号土坑に掘り込まれている。

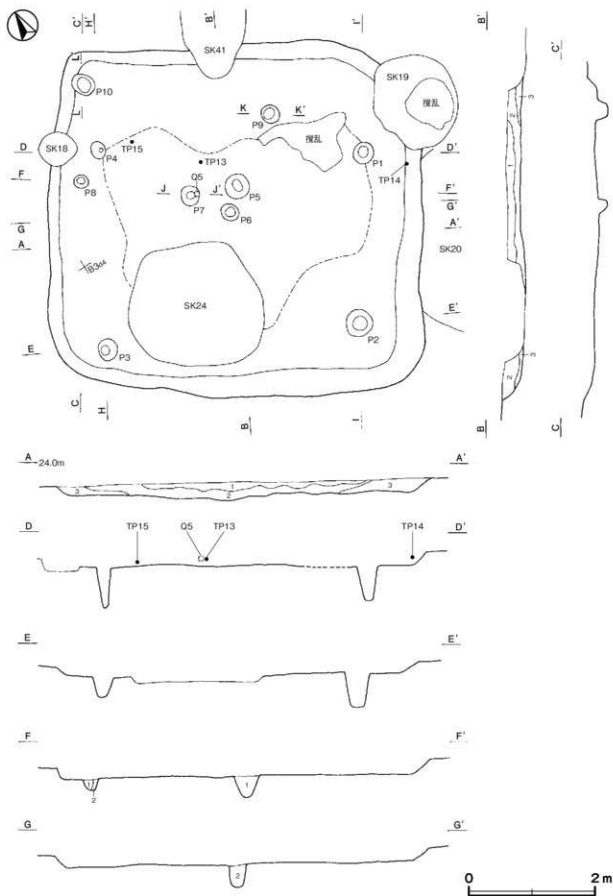
規模と形状 長軸5.64m、短軸は5.60mの隅丸方形である。長軸方向はN-54°-Wである。壁は高さ12~22cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、主柱穴の内側である中央部が踏み固められている。

ピット 10か所。P1~P4は深さ30~72cmで、規模と配置から主柱穴であると考えられる。P5~P10は、深さ12~36cmで性格は不明である。

ピット土層解説

1 層 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物微量 2 層 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物微量



第53図 第2号竪穴建物跡実測図

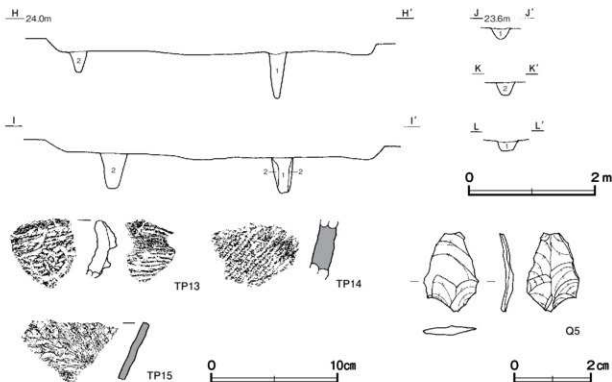
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物微量 3 明褐色 ロームブロック多量、炭化物微量
2 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片 34点（深鉢）、石器1点（スクレイパー）、剥片8点（凝灰岩）、自然礫3点が出土している。TP13・Q5は中央部、TP15は北部の覆土下層からそれぞれ出土している。TP14は東部壁際の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後葉（諸磯a式期）と考えられる。また、第1号竪穴建物跡と主軸方向や規模がほぼ同じであるため、同時期に存在した可能性がある。



第54図 第2号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第2号竪穴建物跡出土遺物観察表（第54図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考		
TP13	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	外面口縁部積段の平行沈線文 沈線貼付文 内面横段の貝殻条痕文	覆土下層	PL32		
TP14	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明黄褐色	平筋縄文LR	覆土中層	PL32		
TP15	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙	無筋縄文R→無筋縄文L	覆土下層	PL32		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q5	スクレイパー	21	1.4	0.2	0.41	黒曜石	片側縁部刃部加工	覆土下層	PL34

第3号竪穴建物跡（第55・56図）

位置 調査区北西部のA3h6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第201号土坑を掘り込み、第49・50・81・84号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.44 m、短軸は3.72 mの隅丸長方形である。長軸方向はN-66°-Wである。壁の高さは18～23 cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、全域が踏み固められている。

ピット 7か所。P1～P4は深さ16～46 cmで、規模と配置から主柱穴であると考えられる。P5～P7は深さ12 cmで、性格は不明である。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物微量 2 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物微量

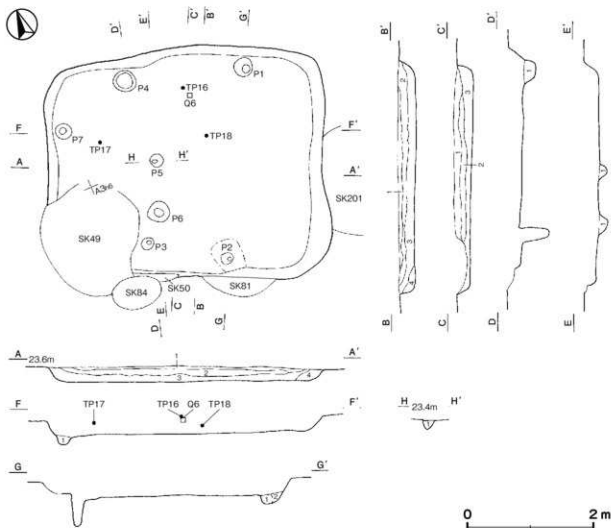
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

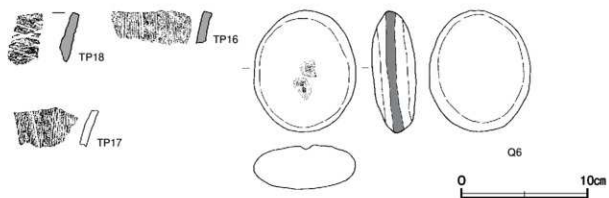
- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化物微量 3 明褐色 ロームブロック多量、炭化物微量
2 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物微量 4 褐色 ロームブロック多量、炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片63点（深鉢）、石器1点（磨石）、剥片4点（チャート）、自然礫2点が、中央部から北部寄りの、覆土上層から中層にかけて散在して出土している。TP17は西部、TP18は中央部の覆土中層からそれぞれ出土している。TP16・Q6は、北部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後葉（浮島式期）と考えられる。



第55図 第3号竪穴建物跡実測図



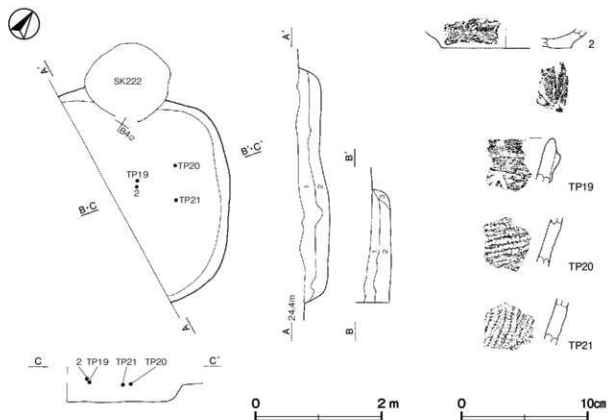
第56図 第3号竪穴建物跡出土遺物実測図

第3号竪穴建物跡出土遺物観察表（第56図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考		
TP16	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	縦位の柳掻き沈線文	覆土上層	PL32		
TP17	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	橙	縦位の柳掻き沈線文→斜位の柳掻き沈線文	覆土中層			
TP18	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	黄橙	斜位の半截竹管文	覆土中層	PL32		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q6	凹石	9.7	8.1	3.5	354.4	安山岩	側縁部磨石兼用	覆土上層	PL34

第4号竪穴建物跡（第57図）

位置 調査区中央部のB4区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。



第57図 第4号竪穴建物跡・出土遺物実測図

重複関係 第222号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 南側部が調査区域外へ延びているため、北西・南東軸は3.80m、南西・北東軸は1.98mしか確認できなかった。隅丸方形あるいは、隅丸長方形とみられる。北西・南東軸方向はN-31°-Wである。壁は高さ28～34cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、特に顕著に踏み固められている部分は認められなかった。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化物・焼土粒子微量 3 明褐色 ロームブロック多量、炭化物微量
2 明褐色 ロームブロック多量、炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片4点（深鉢）が出土している。2・TP19～TP21は、東部の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後葉（諸磯a式期）と考えられる。

第4号竪穴建物跡出土遺物観察表（第57図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
2	縄文土器	深鉢	—	(L6)	[102]	長石・石英・赤色粒子・炭屑	明赤褐	普通	外・内面ナデ	覆土上層	5%
番号	種別	器種	胎土			色調	文様の特徴ほか			出土位置	備考
TP19	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子			赤褐	外面口縁部隆帯彫付	手載竹管文	内面ナデ	覆土上層	
TP20	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子			赤褐	外面半周縄文LR	内面ナデ		覆土上層	PL32
TP21	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・炭屑			赤褐	外面半周縄文LR	内面ナデ		覆土上層	

第5号竪穴建物跡（第58・59図）

位置 調査区南東部のC6c3区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第440号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.38m、短軸は3.84mの長方形で、長軸方向はN-53°-Wである。壁は高さ10～20cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、特に顕著に踏み固められている部分は認められなかった。

炉 中央部からやや東寄りに付設された長径0.48m、短径0.32mの楕円形で、床面を18cmほど掘りくぼめた地床炉である。火床面は火熱を受けて赤変しているが、硬化は認められなかった。

炉土層解説

- 1 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化物・ローム粒子少量 2 明褐色 ロームブロック多量、炭化物微量

ピット 12か所。P1～P4は深さ16～32cmで、規模と配置から支柱穴であると考えられる。P6は深さ22cmで、支柱穴のほぼ中間に位置するため、補助的な柱穴と考えられる。P5は深さ20cmで、配置から出入口施設に伴うピットと考えられる。P10は深さ22cmで、規模と配置から貯蔵穴と考えられる。P7～P9は深さ16～26cmで、性格は不明である。さらに、P10に掘り込まれているP11・P12は、深さ22・24cmで、当遺構に伴わない可能性があり、性格不明である。

ピット土層解説（P10以外共通）

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック多量
2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

P10土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化物微量 2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化物微量

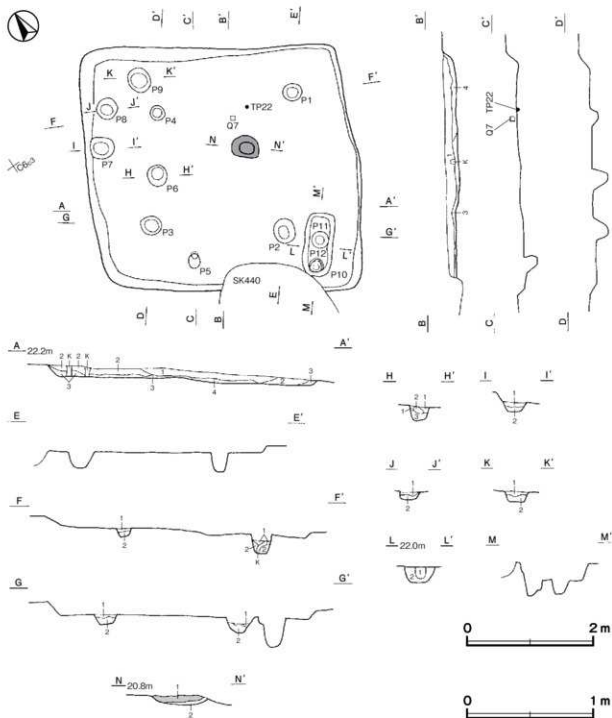
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

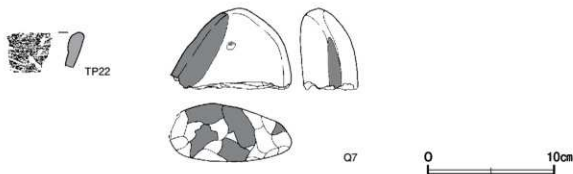
- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック・炭化粒子少量、焼土粒子微量 | 3 暗褐色 | ロームブロック少量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化物微量 | 4 褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)、石器1点(磨石)が北東部から出土している。TP22は床面、Q7は、覆土下層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉(黒浜式期)と考えられる。



第58図 第5号竪穴建物跡実測図



第59図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図

第5号竪穴建物跡出土遺物観察表(第59図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考		
TP22	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・織目	橙	半截竹管による沈線文	床面	PL32		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q7	磨石	6.4	9.6	4.6	310.9	安山岩	切断面・顔縁部磨痕 スタンパ形に転用	覆土下層	PL34

表6 縄文時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模		埋高 (cm)	床面	内部施設			覆土	主な出土遺物	時期	備考
				長軸×短軸(m)	面積(m ²)			柱	土	土				
1	B 3b1	N-39°-W	隅丸方形	5.00 × 5.00	12 ~ 26	平坦	6	-	6	9.1	人	縄文土器、石器、骨片、自然土	前期後葉	SK26・176 → 本跡
2	B 3c4	N-54°-W	隅丸方形	5.64 × 5.60	12 ~ 22	平坦	4	-	6	-	人	縄文土器、石器、骨片、自然土	前期後葉	SK20・29 → 本跡 → SK18・19・24・41
3	A 3b6	N-66°-W	隅丸長方形	4.44 × 3.72	18 ~ 23	平坦	4	-	3	-	人	縄文土器、石器、骨片、自然土	前期後葉	SK201 → 本跡 → SK49・50・81・84
4	B 4I2	N-31°-W	隅丸長方形	3.80 × (1.98)	28 ~ 34	平坦	-	-	-	-	人	縄文土器	前期後葉	本跡 → SK222
5	C 6c3	N-53°-W	長方形	4.38 × 3.84	10 ~ 20	平坦	4	1	7	9.1	人	縄文土器、石器	前期中葉	本跡 → SK440

(2) 炉穴

第1号炉穴(第60図)

位置 調査区北西部のA 27区、標高23mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第1号溝に掘り込まれている。

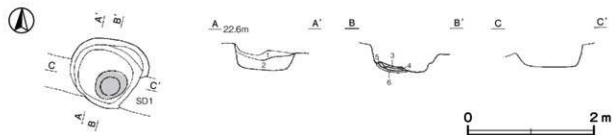
規模と形状 第1号溝に掘り込まれているため、長径1.18m、短径は1.12mしか確認できなかった。楕円形と推定できる。火焚部は深さ30cmで皿状を呈し、火熱を受けて赤変硬化している。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第3層上面が火焚部である。第3～6層は炉床の構築土である。

土層解説

1	褐色	ロームブロック中量、焼土粒子少量、炭化物少量	4	明褐色	ロームブロック多量、炭化物少量
2	暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子少量、炭化物少量	5	赤褐色	焼土ブロック多量、ロームブロック中量、炭化物少量
3	赤褐色	焼土ブロック多量、炭化物少量、ローム粒子微量	6	明褐色	ロームブロック多量、炭化物粒子微量

所見 出土土器がみられないため、時期は不明だが、形状から早期と考えられる。



第60図 第1号炉穴実測図

第2号炉穴（第61図）

位置 調査区北西部のA2J7区、標高23mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第1号溝に掘り込まれている。

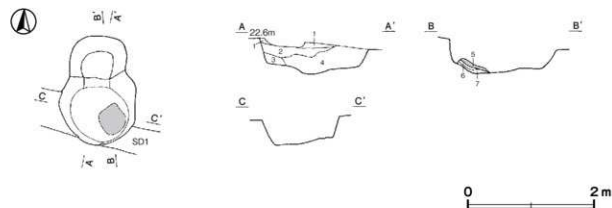
規模と形状 第1号溝に掘り込まれているため、長径1.72m、短径は1.23mしか確認できなかった。瓢箪形と推定できる。長径方向はN-7°-Eである。南部が火焚部で、北部が足場である。火焚部は深さ35cmで、皿状を呈し、火熱を受けて赤変硬化している。掘方の深さは55cmである。足場は深さ30cmで、火焚部より5cmほど高い。壁は南部が直立しており、そのほかは外傾して立ち上がっている。

覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。第5層上面が火焚部である。第5～7層が炉床の構築土である。

土層解説

- | | | |
|-------|-----------------------|---------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 明赤褐色 |
| 3 明褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 炭化粒子微量 |
| 4 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 7 におい褐色 |
| 5 赤褐色 | 焼土ブロック多量、ロームブロック少量、炭化 | |

所見 出土土器がみられないため、時期は不明だが、形状から早期と考えられる。



第61図 第2号炉穴実測図

表7 縄文時代炉穴一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		火焚部	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	A2J7	-	[楕円形]	1.18 × (1.12)	30	皿状	外傾	人為	-	本跡→SD1
2	A2J7	N-7°-E	[瓢箪形]	1.72 × (1.23)	35	皿状	直立・外傾	人為	-	本跡→SD1

(3) 土坑

今回の調査で、出土遺物や形状、覆土の状況から、縄文時代とみられる土坑307基を確認した。以下、遺構の形状や遺物の出土状況が特徴的な30基について解説し、それ以外は、一覧表で掲載する。

第1号土坑（第62図）

位置 調査区北西部のB3b2区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.43m、短径1.16mの楕円形で、長径方向はN-19°-Eである。深さは44cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

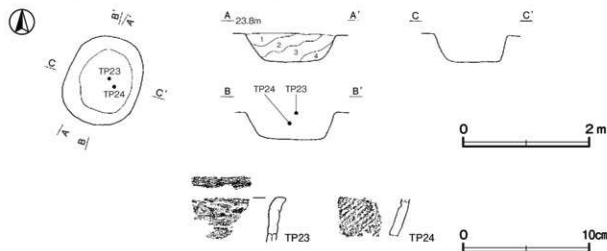
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐色 ロームブロック多量
2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化物微量 4 明褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片11点（深鉢）が出土している。TP23・TP24は、ほぼ中央部の覆土第2層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉（黒沢式期）と考えられる。



第62図 第1号土坑・出土遺物実測図

第1号土坑出土遺物観察表（第62図）

番号	種別	形種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP23	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい赤褐色	平縁口縁 外・内面ナデ 無文帯	覆土第2層	PL32
TP24	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐色	単筋縄文LR	覆土第2層	PL32

第8号土坑（第63図）

位置 調査区北西部のB3b3区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.29m、短径0.98mの楕円形で、長径方向はN-85°-Wである。深さは22cmで、底面はほぼ平坦である。壁は東部に段を有し、その他は外傾して立ち上がっている。

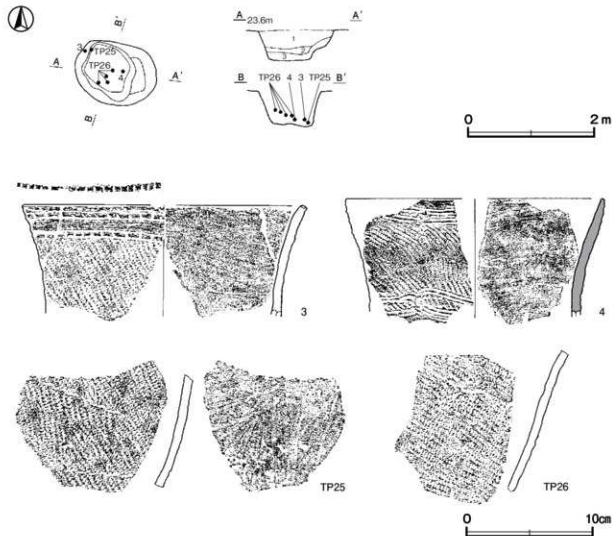
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量 3 明褐色 ロームブロック多量
 2 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 縄文土器片 8点（深鉢）；石器2点（磨石）が出土している。3・TP25は北西部の壁際、4は東部の壁際、TP26は中央部及び南部から出土した破片が接合したもので、いずれも覆土下層から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉（黒浜式期）と考えられる。



第63図 第8号土坑・出土遺物実測図

第8号土坑出土遺物観察表（第63図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	使用	文様の特徴ほか	出土位置	備考
3	縄文土器	深鉢	[220]	(89)	-	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	普通	口唇部のみ、口縁部外周平紋片貫による押し文、腹部は山形縞紋文。内面磨石の跡あり。	覆土下層	5% PI.32
4	縄文土器	深鉢	[202]	(95)	-	長石・石英・赤色・緑泥	にじみ褐色	普通	口唇部多量縞文→平紋片貫による平行波縞文→竹筒による内彫片貫文。	覆土下層	5%

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP25	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	単筋縄文. 凡. →斜位・横位の結筋縄文	覆土下層	粘土はひが、TP28と同一個体。
TP26	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐色	単筋縄文. 凡. →斜位の結筋縄文	覆土下層	粘土はひが、TP25と同一個体。

第16号土坑 (第64図)

位置 調査区北西部のA3j1区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.08m、短径0.98mの楕円形で、長径方向はN-23°-Eである。深さは58cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

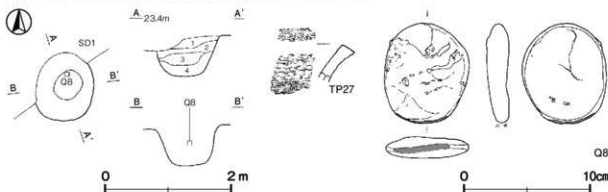
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック多量、炭化物微量
2 黒褐色 ロームブロック多量、炭化物微量 4 褐色 ロームブロック多量、炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)が覆土中、石器1点(磨石)が覆土第3層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後葉(興津式期)と考えられる。



第64図 第16号土坑・出土遺物実測図

第16号土坑出土遺物観察表 (第64図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考		
TP27	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	平縁口縁 口縁部連続刺突文→横位の沈線で区画	覆土中	PL32		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q8	磨石	29	67	1.8	133.1	アイサイト	頸縁部使用痕	覆土第3層	PL34

第19号土坑 (第65図)

位置 調査区北西部のB3d5区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.60m、短径1.45mの楕円形で、長径方向はN-20°-Wである。深さは22cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

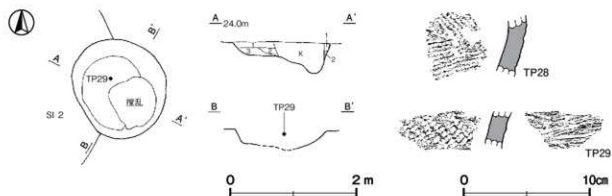
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 黒褐色 ロームブロック多量
2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片12点(深鉢)、剥片2点(砂岩・チャート)、炭化材1点が出土している。TP29は北部寄りの覆土第1層、TP28は覆土中からそれぞれ出土している。そのほかの土器片は、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から早期末葉と考えられる。



第65図 第19号土坑・出土遺物実測図

第19号土坑出土遺物観察表（第65図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP28	縄文土器	深鉢	灰石・石英・繊維	橙	単筋縄文RLと単筋縄文L皮の羽状構成	覆土中	
TP29	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	橙	外面単筋縄文RL、内面条状文	覆土第1層	

第24号土坑（第66図）

位置 調査区北西部のB3d4区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径232m、短径214mの円形である。深さは35cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

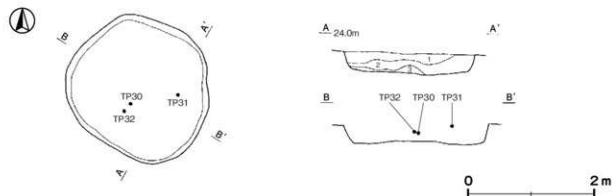
1 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 明褐色 ロームブロック多量

2 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片17点（深鉢）、刺片3点（砂岩1、チャート2）、自然礫1点が出土している。

TP30・TP32は中央部からやや南部の覆土第2層、TP31は東部の覆土第1層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、早期後半の土器片が若干みられるが、出土量の多い前期末半（浮島式期）と考えられる。



第66図 第24号土坑実測図



第 67 図 第 24 号土坑出土遺物実測図

第 24 号土坑出土遺物観察表 (第 67 図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP30	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	平縁口縁 単筋縄文 RL	覆土第 2 層	
TP31	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	赤褐	無筋縄文 R → 燃赤文 → 手載竹管による横位の波線文	覆土第 1 層	
TP32	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい橙・灰褐	外面無筋縄文 L、内面条痕文	覆土第 2 層	

第 26 号土坑 (第 68 図)

位置 調査区北西部の B 3c1 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 1 号堅穴建物に掘り込まれている。

規模と形状 北東部は第 1 号堅穴建物に掘り込まれ、南西部は調査区域外へ延びているため、北西・南東径は 1.73 m で、北東・南西径は 1.00 m しか確認できなかった。楕円形と推定できる。深さは 22cm で、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

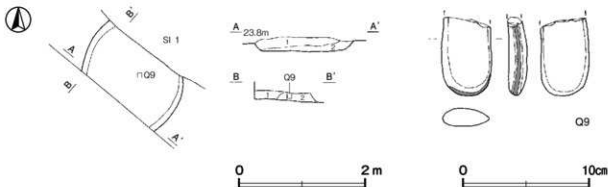
覆土 2 層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 石器 1 点 (磨石) が覆土第 2 層から出土している。

所見 時期は、形状や覆土の様相及び出土石器から、縄文時代と考えられる。



第 68 図 第 26 号土坑・出土遺物実測図

第 26 号土坑出土遺物観察表 (第 68 図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q9	磨石	(62)	39	1.5	(586)	緑色片岩	鋼線部使用痕	覆土第 2 層	PL35

第32号土坑（第69図）

位置 調査区北西部のB3c6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長軸2.02m、短軸1.58mの隅丸長方形で、長軸方向はN-58°-Eである。深さは20cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

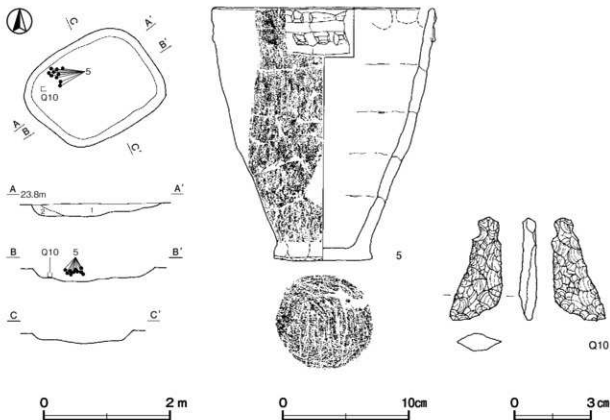
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック中量、炭化物微量

2 褐色 ロームブロック多量、炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）、石器1点（石匙）が出土している。5は、北西壁際の覆土第1層から出土している破片が接合したものである。Q10は北西壁際の覆土第2層から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後半（興津式期）と考えられる。人骨は出土していないが、遺構の形状や小型の深鉢と石匙が副葬品と考えられることから、墓坑の可能性がある。



第69図 第32号土坑・出土遺物実測図

第32号土坑出土遺物観察表（第69図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
5	縄文土器	深鉢	17.4	20.1	7.8	長石・石英・赤色粒子	にぶい	普通	口縁部外面突起状粘付文、内面指頭によるナデ、胴部へラ張り付ナデ、輪積痕、下縁指頭によるナデ、底部外面へラ張り	覆土第1層	40% PL33
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴			出土位置	備考
Q10	石匙	4.1	2.1	0.7	4.5	黒曜石	縦型	押圧剥離		覆土第2層	PL35

第34号土坑(第70図)

位置 調査区北西部のB3b4区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.16m、短径1.08mの円形である。深さは41cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

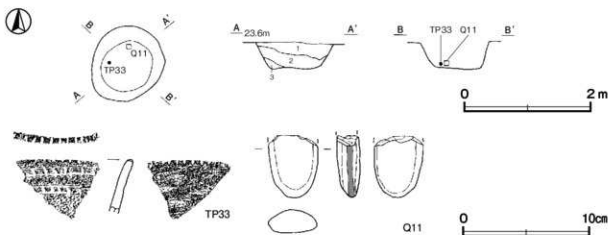
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 明褐色 ロームブロック多量
2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片35点(深鉢)、石器1点(磨石)、剥片1点(チャート)、自然礫3点が出土している。TP33は西壁際、Q11は北壁際の覆土第3層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後半(諸磯a式期)と考えられる。



第70図 第34号土坑・出土遺物実測図

第34号土坑出土遺物観察表(第70図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考		
TP33	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子	橙	口唇部斜み 細縄文付、口縁部外面平載竹管による2条の孔彩文 内面シガキ	覆土第3層	PL33		
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q11	磨石	(49)	(39)	1.9	(22.6)	砂岩	縦線部片面使用痕	覆土第3層	

第39号土坑(第71図)

位置 調査区北西部のB3a4区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.39m、短径1.14mの不整形円形で、長径方向はN-70°-Eである。深さは40cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

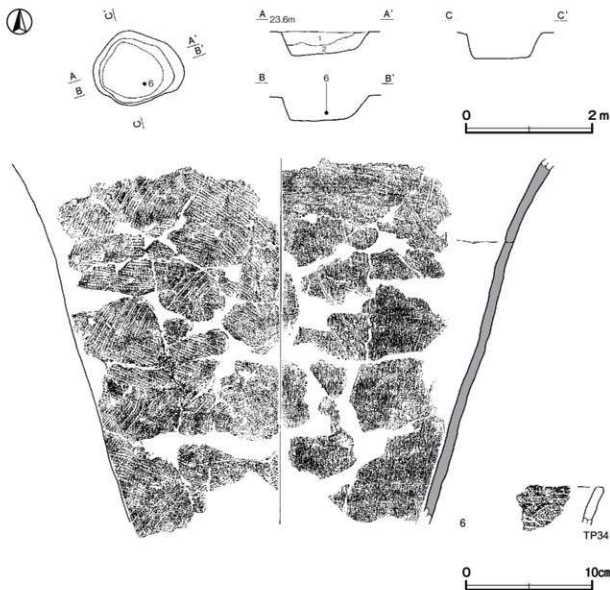
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 40 点（深鉢）、自然罅 2 点が出土している。6 はほぼ中央部の覆土第 2 層から逆位の状態、TP34 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉（黒浜式期）と考えられる。人骨は出土していないが、深鉢が伏せた状態で出土していることから、鉢被り葬の墓坑の可能性がある。



第 71 図 第 39 号土坑・出土遺物実測図

第 39 号土坑出土遺物観察表（第 71 図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
6	縄文土器	深鉢	-	(29.2)	-	長石・石英・赤色粒子・繊維	にぶい橙	普通	外面縦縄文 RL と LR の羽状構成 内面ミガキ	覆土第 2 層	30% PL33
番号	種別	器種	胎土		色調	文様の特徴ほか			出土位置	備考	
TP34	縄文土器	深鉢	長石・雲母・赤色粒子		明赤陶	外面単筋縄文 LR → 半截竹管による沈線文 内面ミガキ			覆土中		

第44号土坑 (第72図)

位置 調査区北西部のA3j1区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.98m、短径0.72mの楕円形で、長径方向はN-46°-Wである。深さは20cmで、底面は鍋底状である。壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 中央部に位置している。径30cmの円形で、深さ60cmである。

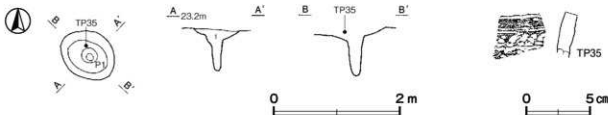
覆土 単一層である。含有物が少ないことから、自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色、ローム粒子多量、炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)が覆土第1層から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後半(興津式期)と考えられる。



第72図 第44号土坑・出土遺物実測図

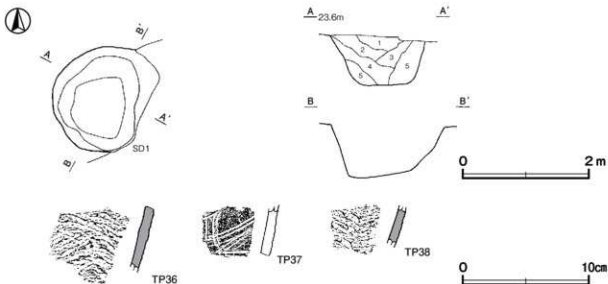
第44号土坑出土遺物観察表 (第72図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP35	縄文土器	深鉢	辰石・石英・雲母	橙	半截竹管による横位の平行比羅文・連続刺突文	覆土第1層	

第48号土坑 (第73図)

位置 調査区北西部のA35区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号溝に掘り込まれている。



第73図 第48号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 第1号溝に掘り込まれているため、長径は1.72mで、短径は1.54mしか確認できなかった。楕円形と推定でき、長径方向はN-29°-Eである。深さは76cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片41点（深鉢）、剥片2点（安山岩）、自然礫2点が出土している。TP36～TP38は、覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉（黒浜式期）と考えられる。

第48号土坑出土遺物観察表（第73図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP36	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	明赤褐	後部LRL縄文と後部LRLの羽状構成	覆土中	
TP37	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	半截竹管による沈澱文	覆土中	
TP38	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	褐	後部LRL縄文と後部LRL縄文の羽状構成	覆土中	

第49号土坑（第74図）

位置 調査区北西部のA3h57区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号竪穴建物跡を掘り込み、第50・84号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.80m、短径1.60mの楕円形で、長径方向はN-11°-Wである。深さは28cmで、底面は鍋底状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

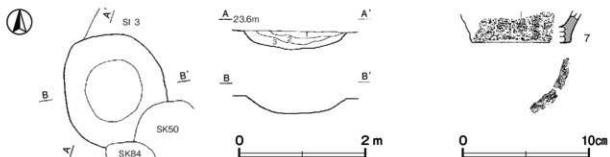
覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 3 明褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片1点（深鉢）、自然礫2点が出土している。7は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後半と考えられる。



第74図 第49号土坑・出土遺物実測図

第49号土坑出土遺物観察表（第74図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
7	縄文土器	深鉢	-	(25)	(7.8)	長石・石英・赤色粒子・繊維	明赤褐	普通	縦位の結節縄文	覆土中	5% 底部欠損意匠的碎片。

第52号土坑 (第75図)

位置 調査区北西部のB3b6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第62号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長軸1.59m、短軸1.12mの隅丸長方形で、長軸方向はN-73°-Wである。深さは26cmで、底面は鍋底状である。壁は外傾して立ち上がっている。

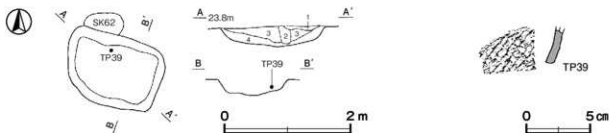
覆土 4層に分層できる。ロームブロックが互層で多量に含まれていることから、人為堆積である。

土層解説

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1 暗褐色 ローム粒子少量 | 3 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 4 褐色 ロームブロック多量 |

遺物出土状況 縄文土器片7点(深鉢)が出土している。TP39は覆土第4層から出土している。そのほかの土器片は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から前期中葉(黒浜式期)と考えられる。



第75図 第52号土坑・出土遺物実測図

第52号土坑出土遺物観察表 (第75図)

番号	種別	形種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP39	縄文土器	深鉢	長石・石英・編織	に高い橙	無筋縄文L	覆土第4層	

第53号土坑 (第76図)

位置 調査区北西部のB3d5区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

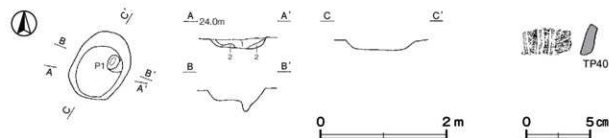
規模と形状 長径1.15m、短径0.84mの楕円形で、長径方向はN-35°-Eである。深さは16cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 北東部に位置している。長径20cm、短径16cmの楕円形で、深さ18cmである。

覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 2 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
|-----------------------------|-----------------------------|



第76図 第53号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 縄文土器片4点(深鉢)が出土している。TP40は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉(黒浜式期)と考えられる。

第53号土坑出土遺物観察表(第76図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP40	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい黄緑	半截竹管による縦位の沈線文	覆土中	

第56号土坑(第77図)

位置 調査区北西部のA3e4区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北部が調査区域外に延びているため、短径は2.08mで、長径は2.42mしか確認できなかった。楕円形と推定でき、長径方向はN-20°-Eである。深さは20cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

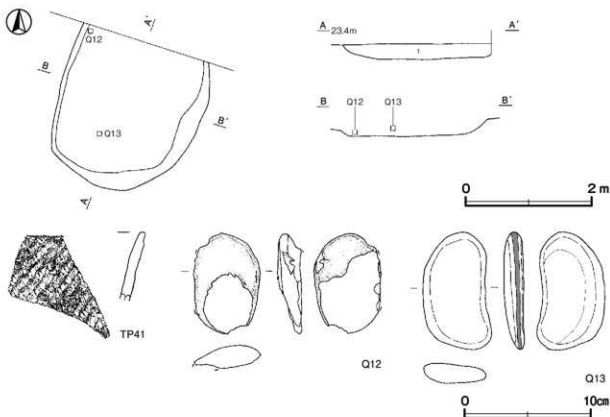
覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 層 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化物微量

遺物出土状況 縄文土器片27点(深鉢)、石器2点(石錘、磨石)、剥片3点(砂岩2、チャート1)、自然礫2点が出土している。Q12は北壁際、Q13は南壁よりの覆土第1層からそれぞれ出土している。TP41は覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉(黒浜式期)と考えられる。



第77図 第56号土坑・出土遺物実測図

第56号土坑出土遺物観察表(第77図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考		
TP41	縄文土器	深鉢	長石・石英		無施縄文し	覆土中			
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q12	石鏃	8.0	5.3	1.9	(78.3)	砂岩	鏃石鏃、基部縄掛け用の切れ目は、潤滑加工による切目と自然の凹みを利用	覆土第1層	PL35
Q13	磨石	9.4	5.5	1.6	115.8	砂岩	頸縁部片面使用	覆土第1層	PL35

第59号土坑(第78図)

位置 調査区北西部のA3g5区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.50m、短径1.24mの楕円形で、長径方向はN-29°-Eである。深さは1.05mで、底面は平坦である。壁はほぼ直立している。また、南西部の壁には、底面から80cmの高さから有段を呈し、緩やかに立ち上がっている。

ピット 北部に位置している。長径54cm、短径52cmの円形で、深さ22cmである。

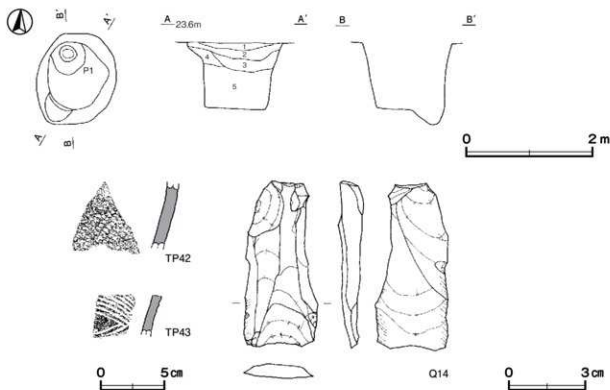
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片8点(深鉢)、石器1点(スクレイパー)、剥片1点(頁岩)が出土している。TP42・TP43・Q14は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉(黒浜式期)と考えられる。



第78図 第59号土坑・出土遺物実測図

第59号土坑出土遺物観察表（第78図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP42	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・ 磁石	橙	単純縄文LR	覆土中	
TP43	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・ 磁石・小礫	にぶい橙	半載竹管による連続沈線文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 14	スライバー	6.6	2.9	1.0	121	砂岩	縦長羽片を舞峰部に刃部加工	覆土中	PL35

第68号土坑（第79図）

位置 調査区北西部のA3h8区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.60m、短径1.42mの楕円形で、長径方向はN-41°-Wである。深さは28cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

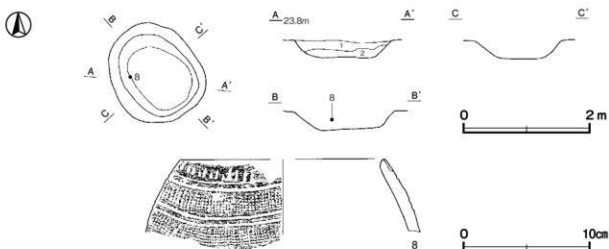
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片18点（深鉢）、剥片1点（黒曜石）が出土している。8は西壁際の覆土第2層から出土している。そのほかの土器片は、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から前期後半（興津式期）と考えられる。



第79図 第68号土坑・出土遺物実測図

第68号土坑出土遺物観察表（第79図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	焼成	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
8	縄文土器	深鉢	160	60	-	長石・石英・ 雲母		にぶい橙	普通 口縁部半載竹管による幅位の連続沈線文・胴部 一枚貝による貝殻線文・半載竹管による平行 沈線文で区画	覆土第2層	5% PL33

第71号土坑（第80図）

位置 調査区北西部のA3h7区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第201号土坑を掘り込み、第72号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.68 m、短径1.60 mの円形である。深さは60cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。北部はテラス状に立ち上がっている。

ピット 中央部に位置している。長径22cm、短径20cmの円形で、深さ10cmである。

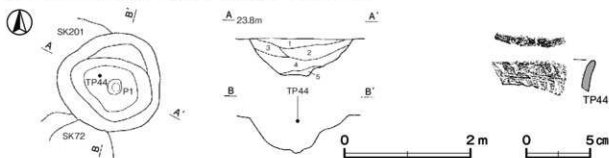
覆土 5層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 縄文土器片13点（深鉢）が出土している。TP44は西壁際の覆土第1層から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後半（浮島式期）と考えられる。



第80図 第71号土坑・出土遺物実測図

第71号土坑出土遺物観察表（第80図）

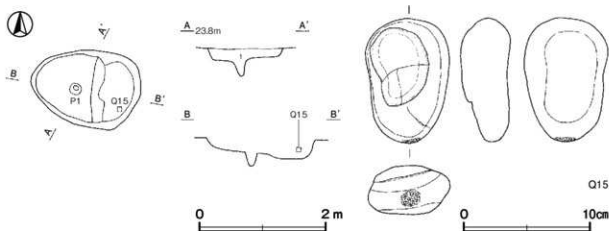
番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP44	縄文土器	深鉢	長石・石英・編織	明赤褐	口縁部唇頭圧痕 貝殻炭線による波状文	覆土第1層	

第80号土坑（第81図）

位置 調査区北西部のA3h0区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.72 m、短径1.22 mの楕円形で、長径方向はN-83°-Wである。深さは30cmで、底面は有段である。壁は外傾して立ち上がっている。

ピット 中央部に位置している。長径18cm、短径16cmの円形で、深さ22cmである。



第81図 第80号土坑・出土遺物実測図

覆土 単一層である。ロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 石器1点(敲石)が出土している。Q15は東壁際の覆土第1層から出土している。

所見 時期は、形状や覆土の状況及び出土石器から縄文時代と考えられる。

第80号土坑出土遺物観察表(第81図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q15	敲石	100	66	4.0	363.1	砂岩	先端部使用痕	覆土第1層	PL34

第82号土坑(第82図)

位置 調査区北西部のA3j6区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.80m、短径1.53mの楕円形で、長径方向はN-62°-Wである。深さは52cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

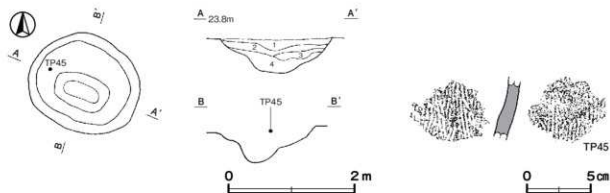
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 2 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
 3 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
 4 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片4点(深鉢)が出土している。TP45は北西壁際の覆土第1層から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後半と考えられる。



第82図 第82号土坑・出土遺物実測図

第82号土坑出土遺物観察表(第82図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP45	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	明赤褐色	外面斜位の条状文→縦位の条状文 内面縦位の条状文	覆土第1層	

第93号土坑(第83図)

位置 調査区北西部のA4h1区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びているため、北西・南東径2.38m、北東・南西径は0.91mしか確認で

きなかった。円形あるいは楕円形と推定できる。底面は平坦で、深さは40cmである。壁は緩やかに立ち上がっている。

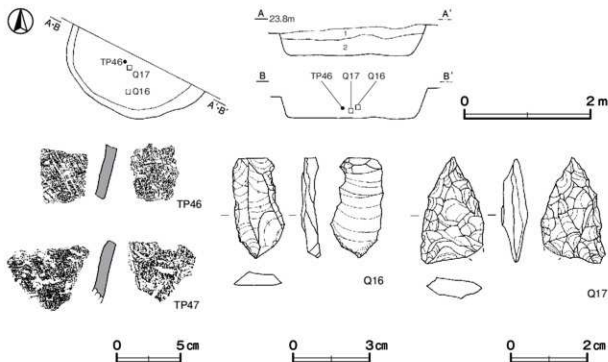
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片6点（深鉢）、石器2点（石鏃・剥片石器）、剥片4点（チャート）、自然礫4点が出土している。TP46・Q17は北部、Q16は南壁際の覆土第2層、TP47は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後半と考えられる。



第83図 第93号土坑・出土遺物実測図

第93号土坑出土遺物観察表（第83図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP46	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	にぶい明赤褐色	外面斜位の条痕文→縦位の条痕文 内面縦位の条痕文	覆土第2層	
TP47	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	にぶい明赤褐色	外・内面条痕文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q16	使用痕のある剥片	3.9	2.0	0.7	5.1	チャート	細縁部使用痕	覆土第2層	PL35
Q17	石鏃	2.7	(1.7)	0.6	(2.5)	砂岩	平基無茎鏃 端部一部欠損 押圧痕跡	覆土第2層	PL35

第112号土坑（第84図）

位置 調査区北西部のB 3a1区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.68m、短径1.58mの円形である。深さは20cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

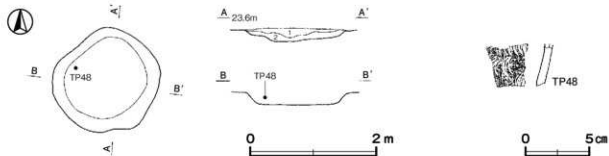
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)、自然礫1点が出土している。TP48は、北西壁際の覆土第1層から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期後半(浮島式期)と考えられる。



第84図 第112号土坑・出土遺物実測図

第112号土坑出土遺物観察表(第84図)

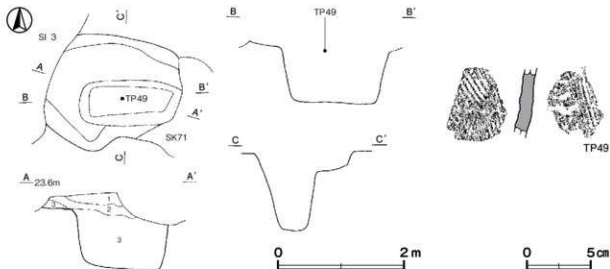
番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP48	縄文土器	深鉢	辰石・石英・雲母	橙	平織竹笠による爪形文	覆土第1層	

第201号土坑(第85図)

位置 調査区北西部のA3h7区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号竪穴建物、第71号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第3号竪穴建物、第71号土坑に掘り込まれているため、南北径1.80m、東西径2.06mしか確認できなかった。精円形と推定でき、東西径方向は $N-85^{\circ}-E$ である。深さは1.22mで、底面は平坦である。壁は底面から84cmまでは直立し、それより上は段を有して、緩やかに立ち上がっている。



第85図 第201号土坑・出土遺物実測図

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)が出土している。TP49は、ほぼ中央部の覆土第1層から出土している。

所見 時期は、出土土器から早期後半と考えられる。

第201号土坑出土遺物観察表(第85図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP49	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母・繊維	橙	外・内面条痕文	覆土第1層	

第208号土坑(第86図)

位置 調査区北西部のB4h6区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第2号掘立柱建物P4に掘り込まれている。

規模と形状 第2号掘立柱建物に掘り込まれているため、北東・南西径は0.72mで、北西・南東径は0.78mしか確認できなかった。楕円形と推定でき、北東・南西径方向はN-30°-Eである。深さは26cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

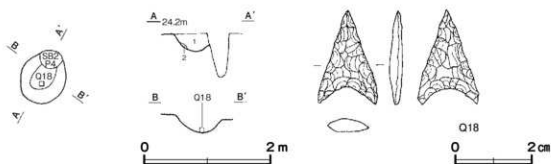
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)、石器1点(石鏃)が出土している。Q18は南壁際の底面から出土している。縄文土器片は、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から前期と考えられる。



第86図 第208号土坑・出土遺物実測図

第208号土坑出土遺物観察表(第86図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q18	石鏃	2.5	1.6	0.4	0.8	チャート	四基無茎鏃 押圧刃鏃	底面	PL35

第227号土坑(第87図)

位置 調査区北西部のC4a7区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.48 m, 短径 1.39 m の円形である。深さは 12cm で、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

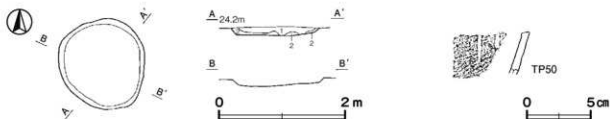
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 明褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 3点（深鉢）が出土している。TP50 は覆土中から出土している。そのほかの縄文土器片は、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から前期後半（浮島Ⅰ式期）と考えられる。



第 87 図 第 227 号土坑・出土遺物実測図

第 227 号土坑出土遺物観察表（第 87 図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP50	縄文土器	深鉢	長石・雲母	橙	熱赤文→手載竹管による縦位の平行沈線文	覆土中	

第 234 号土坑（第 88 図）

位置 調査区北西部の B 4 g3 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 3 号掘立柱建物跡と重複している。

規模と形状 長径 0.66 m, 短径 0.58 m の楕円形で、長径方向は N - 50° - W である。深さは 28cm で、底面は東部が一段下がっている。壁は外傾して立ち上がっている。

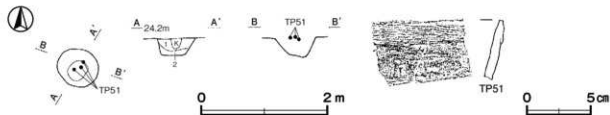
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片 2点（深鉢）、剥片 1点（安山岩）が出土している。TP51 は北壁際と中央部から出土した破片が接合したもので、覆土第 1層から出土している。そのほかの土器片は、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から前期後半（興津式期）と考えられる。



第 88 図 第 234 号土坑・出土遺物実測図

第234号土坑出土遺物観察表（第88図）

番号	種別	形種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP51	縄文土器	深鉢	長石・石英	黒褐	口縁部外面縦位の帯水文→磨消 胴部外面磨き 内面ナシ	覆土第1層	

第269号土坑（第89図）

位置 調査区北西部のA2j0区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第281号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.62m、短径0.58mの円形である。深さは28cmで、底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

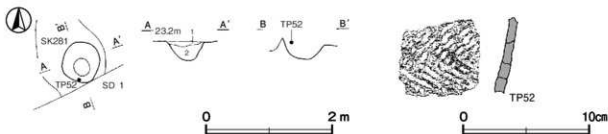
覆土 2層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片5点（深鉢）が出土している。TP52は南壁際の覆土第1層から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉（黒浜式期）と考えられる。



第89図 第269号土坑・出土遺物実測図

第269号土坑出土遺物観察表（第89図）

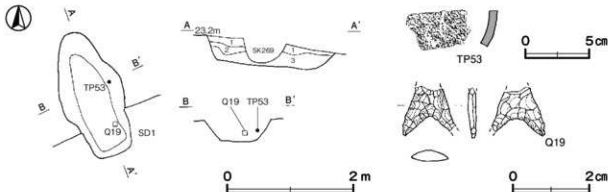
番号	種別	形種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP52	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・炭粒	にぶい橙	無筋縄文Lと無筋縄文Rの羽状構成	覆土第1層	

第281号土坑（第90図）

位置 調査区北西部のA2j0区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第269号土坑、第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径2.60m、短径1.07mの楕円形で、長径方向はN-22°-Wである。深さは36cmで、底面



第90図 第281号土坑・出土遺物実測図

は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。各層にロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 3 明褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

遺物出土状況 縄文土器片3点（深鉢）、石器1点（石鏃）が出土している。TP53は北東壁際、Q19は南東壁際の覆土第3層からそれぞれ出土している。そのほかの土器片は、細片のため図示できなかった。

所見 時期は、出土土器から早期前半と考えられる。

第281号土坑出土遺物観察表（第90図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考		
TP53	縄文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	橙	熱点文	覆土第3層			
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q19	石鏃	(1.3)	(1.4)	0.3	(0.3)	チャート	両端無茎鏃 押圧剥離	覆土第3層	先端部・基部一部欠損

第297号土坑（第91図）

位置 調査区北西部のB2a0区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.46m、短径1.32mの楕円形で、長径方向はN-66°-Wである。深さは32cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

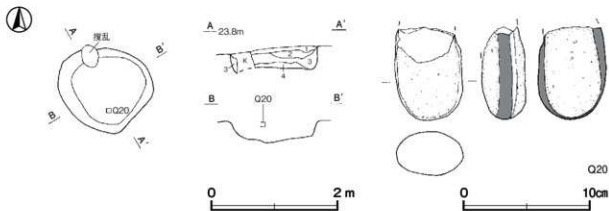
覆土 4層に分層できる。各層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量 3 褐色 ロームブロック少量
2 暗褐色 焼土粒子中量、ロームブロック微量 4 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 石器1点（磨石）が南壁寄りの覆土第1層から出土している。

所見 時期は、形状や覆土の状況及び出土土器から縄文時代と考えられる。



第91図 第297号土坑・出土遺物実測図

第297号土坑出土遺物観察表（第91図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q20	磨石	(7.4)	5.4	3.4	(201.9)	輝岩	細縁部使用痕	覆土第1層	PL35

第383号土坑 (第92図)

位置 調査区北西部のC5b3区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.00m、短径0.78mの楕円形で、長径方向はN-40°-Wである。深さは30cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

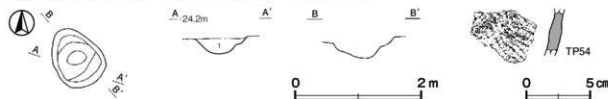
覆土 単一層である。ロームブロックが多量に含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片1点(深鉢)が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土土器から前期中葉(黒浜式期)と考えられる。



第92図 第383号土坑・出土遺物実測図

第383号土坑出土遺物観察表 (第92図)

番号	種別	器種	動土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP54	縄文土器	深鉢	長石・雲母・繊維	橙	単節縄文1区	覆土中	

表8 縄文時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	B3b2	N-19°-E	楕円形	1.43×1.16	44	平坦	外傾	人為	縄文土器	
2	B3b2	N-50°-W	楕円形	0.66×0.56	30	皿状	外傾	人為	縄文土器	SK7→本跡 ピット1か所
3	B3b3	-	円形	0.52	46	平坦	外傾	人為		ピット1か所
4	B3c2	N-38°-W	楕円形	0.84×0.68	22	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
5	B3c3	N-10°-E	[楕円形]	1.18×(0.84)	18	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
6	B3c3	N-60°-W	楕円形	2.54×2.38	22	平坦	緩斜・外傾	人為	縄文土器	ピット1か所
7	B3b2	N-36°-E	楕円形	1.52×0.86	22	皿状	緩斜	人為		本跡→SD1
8	B3b3	N-85°-W	楕円形	1.29×0.98	22	平坦	右段・外傾	人為	縄文土器、石器	
9	B3b3	N-59°-W	楕円形	1.28×1.06	16	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
10	B3c3	N-82°-W	楕円形	0.66×0.48	45	右段	緩斜・外傾	人為		SK11・23→SK10 ピット1か所
11	B3c3	N-71°-E	[楕円形]	0.82×(0.52)	32	右段	緩斜	人為		ピット1か所
12	B2b8	N-52°-W	楕円形	2.35×1.26	33	平坦	外傾	人為		
13	B3a3	N-80°-W	楕円形	1.29×1.00	10	平坦	緩斜・外傾	人為		
14	B3b3	N-3°-W	楕円形	1.92×1.74	20	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
15	B3a3	N-70°-W	楕円形	0.45×0.32	19	皿状	緩斜	人為		
16	A3j1	N-23°-E	楕円形	1.08×0.98	58	平坦	外傾	人為	縄文土器、石器	本跡→SD1
17	B3c3	N-22°-E	楕円形	1.45×1.00	18	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
18	B3e4	-	円形	0.65×0.55	22	平坦	外傾	人為		SI2→本跡
19	B3c5	N-20°-W	楕円形	1.60×1.45	22	平坦	外傾	人為	縄文土器、銅片、炭化材	SI2→本跡
20	B3c5	N-2°-E	[楕円形]	(3.02)×2.36	22	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡→SI2
21	B3b4	-	円形	1.48×1.35	145	平坦	外傾	人為	縄文土器	SK45→本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
22	B3b4	N-65°-W	[楕円形]	1.16×0.70	42	平坦	緩斜	人為		
23	B3c3	N-13°-W	[楕円形]	2.53×(1.62)	70	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
24	B3d4	-	円形	2.32×2.14	35	平坦	外傾	人為	縄文土器、銅片、自然礫	SI 2→本跡
25	B3c3	N-52°-W	[楕円形]	2.08×(1.32)	35	平坦	緩斜	人為		本跡→SK61
26	B3c1	-	[楕円形]	1.73×(1.00)	22	平坦	外傾	人為	石器	本跡→SI 1
27	B3c6	-	円形	0.59×0.50	11	平坦	外傾	人為		ビット1か所
28	B3c5	N-39°-E	楕円形	0.62×0.48	12	平坦	緩斜	人為		
29	B3c4	N-54°-E	楕円形	0.59×0.50	20	平坦	外傾	人為		本跡→SI 2
30	B3b5	N-50°-E	楕円形	1.14×0.88	40	有段	外傾	人為	縄文土器	
31	B3c5	-	円形	1.18×1.17	38	平坦	外傾	人為		ビット3か所
32	B3c6	N-58°-E	隅丸長方形	2.02×1.58	30	平坦	外傾	人為	縄文土器、石器	
33	B3c6	N-63°-W	楕円形	0.55×0.44	34	有段	緩斜・外傾	人為		
34	B3b4	-	円形	1.16×1.08	41	平坦	外傾	人為	縄文土器、石器、銅片、自然礫	
35	B3b5	N-10°-E	楕円形	0.35×0.28	12	凹状	緩斜	人為		
37	A3d5	-	円形	0.98×0.90	16	平坦	緩斜	人為		
38	B3c6	N-88°-E	楕円形	1.30×1.08	32	平坦	緩斜	人為		ビット1か所
39	B3a4	N-70°-E	不整楕円形	1.29×1.14	40	平坦	緩斜・外傾	人為	縄文土器、自然礫	
41	B3c5	N-26°-E	[楕円形]	(1.62)×1.04	24	平坦	緩斜	人為	自然礫	SI 2→本跡
43	B3b6	N-10°-W	楕円形	(1.50)×1.10	52	平坦	外傾	人為	縄文土器、銅片、自然礫	
44	A3j1	N-46°-W	楕円形	0.98×0.72	20	顕底状	外傾	自然	縄文土器	ビット1か所
45	B3b4	-	[円形]	(0.74)×0.76	24	平坦	外傾	人為		
46	B3b4	N-65°-W	楕円形	0.78×0.68	28	平坦	外傾	人為		
47	B3b4	N-72°-W	楕円形	1.18×0.96	15	平坦	緩斜	人為	縄文土器	
48	A3d5	N-29°-E	[楕円形]	1.72×(1.54)	76	平坦	緩斜・外傾	人為	縄文土器、銅片、自然礫	本跡→SD 1
49	B3b5	N-11°-W	[楕円形]	(1.80)×1.60	28	顕底状	緩斜	人為	縄文土器、自然礫	SI 3→本跡→SK30-81
50	B3b2	N-65°-E	楕円形	(1.10)×0.93	24	平坦	緩斜	人為	縄文土器	SI 3、SK49→本跡→SK84
51	B3c3	-	円形	0.42×0.38	12	平坦	緩斜	人為		
52	B3b6	N-73°-W	隅丸長方形	1.59×1.12	26	顕底状	外傾	人為	縄文土器	SK62→本跡
53	B3d5	N-35°-E	楕円形	1.15×0.84	16	平坦	緩斜・外傾	人為	縄文土器	ビット1か所
54	B3b4	-	円形	0.31×0.30	22	平坦	外傾	人為	縄文土器	
56	A3e4	N-29°-E	[楕円形]	(2.42)×2.08	20	平坦	緩斜	人為	縄文土器、石器、銅片、自然礫	
57	A3g7	N-58°-E	楕円形	1.29×0.98	54	平坦	緩斜・外傾	人為		ビット1か所
58	A3d5	-	円形	0.58×0.53	76	平坦	緩斜・外傾	人為		ビット1か所
59	A3g5	N-29°-E	楕円形	1.50×1.24	105	平坦・有段	直立	人為	縄文土器、銅片	ビット1か所
60	A3b2	N-69°-W	長楕円形	2.24×0.82	22	凹凸	外傾	人為	縄文土器、銅片	
61	B3c3	N-30°-W	[楕円形]	0.34×(0.22)	62	凹状	直立	人為		SK25→本跡
62	B3b6	N-70°-W	楕円形	0.60×0.50	50	平坦	外傾	人為		本跡→SK52
63	B3c6	N-36°-E	楕円形	0.37×0.31	12	有段	緩斜	人為		SK52→本跡 ビット1か所
64	B3c5	-	円形	0.52×0.48	40	有段	外傾	人為		本跡→SK65 ビット1か所
65	B3c5	-	円形	0.40	15	平坦	緩斜	人為		SK64→本跡 ビット1か所
66	A3g8	N-80°-E	楕円形	1.92×1.60	18	平坦	外傾	人為	縄文土器	ビット1か所
67	A3h8	-	円形	0.80×0.78	52	平坦	緩斜・外傾	人為		ビット1か所
68	A3h8	N-41°-W	楕円形	1.60×1.42	28	平坦	緩斜	人為	縄文土器、銅片	
69	A3f9	N-25°-E	不定形	1.94×1.55	10-68	平坦	緩斜・外傾	人為		ビット3か所
70	B3a7	-	円形	1.96×1.80	78	平坦	外傾	人為		ビット2か所
71	A3h7	-	円形	1.68×1.60	60	凹状	有段・緩斜	人為	縄文土器	SK31→本跡→SK72 ビット1か所

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
72	A 3b7	N-20°-W	[精円形]	1.18×0.92	16	平坦	縦斜	人為		SK71→本跡
73	A 3a7	N-58°-W	[精円形]	1.60×0.94	70	平坦	縦斜	人為	縄文土器、自然礫	
75	A 3a9	N-10°-W	不定形	2.44×1.70	18	平坦	縦斜・外傾	人為		本跡→SK77
76	B 3a6	N-47°-W	精円形	2.00×1.73	97	平坦	縦斜・外傾	人為		
77	A 3a9	N-40°-E	精円形	1.18×0.80	20	平坦	外傾	人為		SK75→本跡
80	A 3b0	N-83°-W	精円形	1.72×1.22	30	有段	外傾	人為	石器	ビット1か所
82	A 3b5	N-62°-W	精円形	1.80×1.53	52	皿状	縦斜	人為	縄文土器	
83	A 3b4	N-30°-W	精円形	0.76×0.68	21	皿状	縦斜	人為	縄文土器、自然礫	
84	A 3b5	N-78°-W	精円形	1.80×1.17	38	平坦	外傾	人為	須片	S1, S6b, 30→E
85	A 3b0	N-15°-W	[精円形]	[0.92×0.85]	15	平坦	外傾	人為	縄文土器、自然礫	
86	A 3b0	N-74°-E	[精円形]	[1.10]×1.05	40	皿状	縦斜	人為	縄文土器	ビット1か所
87	B 3b9	-	円形	1.54×1.48	92	有段	縦斜	人為		
88	B 3b9	N-8°-E	精円形	1.62×1.10	17	平坦	縦斜	人為		
91	A 3b0	N-58°-E	精円形	0.80×0.60	15	平坦	縦斜・外傾	人為		
93	A 4b1	-	[円形・精円形]	2.38×(0.91)	40	平坦	縦斜・外傾	人為	縄文土器、石器、須片、自然礫	
94	A 4b1	N-42°-W	精円形	1.04×0.43	30	鍋底状	直立・外傾	人為		
95	A 3b0	N-7°-W	精円形	0.78×0.55	64	有段	縦斜	人為		ビット1か所
96	B 3c8	-	円形	0.80×0.78	9	平坦	縦斜	人為		
97	B 3b8	-	円形	0.98	56	鍋底状	外傾	人為		ビット1か所
98	B 3c8	N-25°-E	不定形	2.06×1.85	35	平坦	外傾	人為	自然礫	
99	A 4b1	N-60°-W	精円形	1.32×1.00	13	平坦	縦斜	人為		
101	A 4b1	N-5°-E	不整精円形	1.45×1.05	40	平坦	縦斜	人為	縄文土器、自然礫	ビット1か所
102	A 4b1	N-53°-E	精円形	1.46×0.96	97	平坦	縦斜	人為		ビット1か所
104	A 3b0	-	円形	0.65×0.60	16	平坦	縦斜	人為		
105	A 4b1	N-3°-W	精円形	1.10×0.88	45	平坦	縦斜	人為	縄文土器	ビット1か所
107	B 3a7	N-3°-W	精円形	1.82×1.50	120	平坦	縦斜	人為	縄文土器	
108	B 3b7	N-65°-W	精円形	0.78×0.66	18	平坦	縦斜	人為	縄文土器、自然礫	
109	A 3b1	-	円形	0.62	11	平坦	外傾	人為		
110	A 3b1	-	円形	2.28×2.14	16	平坦	縦斜	人為	縄文土器	
112	B 3a1	-	円形	1.68×1.58	20	平坦	外傾	人為	縄文土器、自然礫	
113	B 3a2	N-28°-E	精円形	1.42×1.13	28	平坦	縦斜・外傾	人為		
114	B 3a2	-	円形	0.82×0.80	22	平坦	縦斜・外傾	人為		
115	A 4b1	N-87°-E	精円形	0.70×0.51	78	平坦	縦斜・外傾	人為		ビット1か所
116	A 4b1	-	円形	1.24×1.22	37	有段	縦斜・外傾	人為	縄文土器、自然礫	ビット1か所
117	A 4b1	-	[円形・精円形]	[0.76×0.55]	16	平坦	縦斜	人為		本跡→SD 2
119	A 4b1	N-68°-E	精円形	1.12×0.86	23	有段	外傾	人為	自然礫	
121	B 3b8	N-12°-W	精円形	1.16×0.64	12	平坦	縦斜	人為		
122	B 3c6	-	円形	0.80	42	有段	縦斜	人為		ビット1か所
123	B 4a5	-	円形	0.64×0.58	17	平坦	外傾	人為		
124	B 3c5	N-11°-E	精円形	1.32×1.17	18	円凸	縦斜	人為		ビット1か所
125	B 3c6	-	円形	0.32×0.30	58	皿状	外傾	人為		
126	B 3c6	N-5°-E	精円形	0.41×0.21	22	皿状	外傾	人為		
127	B 4c5	N-45°-E	精円形	2.02×1.36	70	平坦	縦斜・外傾	人為		
130	B 4c7	N-69°-W	円形	1.72×1.28	20	平坦	縦斜	人為		
131	B 3c8	-	円形	0.56×0.51	44	平坦	外傾	人為		ビット1か所
132	B 4c5	N-80°-W	精円形	0.63×0.46	37	平坦	縦斜	人為		ビット1か所

番号	位置	長径方向	平面形	規		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
134	B 4 a4	N - 66° - W	楕円形	0.60 × 0.19	16	平坦	縦斜・外傾	人為	縄文土器	
135	B 4 e2	N - 87° - W	楕円形	1.90 × 1.65	8	平坦	縦斜	人為		
137	B 4 d2	-	円形	0.97 × 0.96	15	有段	縦斜・外傾	人為		本跡→SD 2
138	B 4 g3	N - 40° - W	楕円形	0.53 × 0.48	12	皿状	縦斜	人為		
140	B 4 e1	-	円形	1.38 × 1.35	50	平坦	外傾	人為		
143	B 4 a3	-	[円形・楕円形]	(1.04 × 0.50)	42	平坦	外傾	人為		
144	B 4 a5	N - 60° - E	楕円形	0.62 × 0.52	36	平坦	外傾	人為		本跡→SD 2
146	B 4 g3	-	円形	1.50 × 1.48	28	皿状	縦斜	人為		ビット1か所
147	B 4 h2	N - 45° - W	楕円形	1.20 × 0.76	26	平坦	外傾	人為		SK154→本跡
148	B 4 g2	-	円形	0.88 × 0.86	16	平坦	縦斜	人為		
149	B 4 f1	-	円形	1.01 × 0.98	57	平坦	外傾	人為		
150	B 3 f9	-	円形	0.75 × 0.72	50	皿状	縦斜	人為		ビット1か所
151	B 4 c5	N - 20° - E	楕円形	1.32 × 1.16	27	平坦	縦斜	人為		
152	B 4 b7	N - 49° - E	楕円形	0.98 × 0.60	25	平坦	縦斜	人為		
153	B 3 f9	N - 55° - W	楕円形	0.45 × 0.32	15	平坦	縦斜・外傾	人為		
154	B 4 h2	-	[円形]	1.50 × (1.43)	16	平坦	縦斜	人為		本跡→SK147
155	B 4 g2	-	円形	0.50	6	平坦	縦斜	人為		
156	B 4 f7	-	円形	0.77 × 0.76	32	平坦	外傾	人為	縄文土器、自然産	
159	B 4 f3	-	円形	0.57 × 0.53	20	平坦	縦斜	人為		
160	B 4 g5	N - 38° - E	楕円形	1.13 × 0.80	70	平坦	外傾	人為	縄文土器	
161	B 4 f4	N - 30° - E	楕円形	0.80 × 0.62	22	平坦	縦斜・外傾	人為		
162	B 4 f5	-	円形	1.52 × 1.50	78	平坦	縦斜	人為		
163	B 4 f3	-	円形	1.68 × 1.62	30	平坦	縦斜	人為	縄文土器	SK202・216→本跡
164	B 3 e8	N - 75° - E	楕円形	0.72 × 0.63	15	平坦	縦斜	人為		
165	B 4 c5	N - 34° - W	[楕円形]	1.93 × (1.29)	58	平坦	外傾	人為		本跡→SK127
168	B 4 g3	N - 12° - E	楕円形	0.68 × 0.56	10	平坦	縦斜	人為		
170	B 4 e7	N - 25° - E	楕円形	1.11 × 0.94	22	平坦	縦斜	人為	縄文土器	
174	B 4 h5	N - 34° - W	楕円形	1.50 × 1.30	10	平坦	縦斜	人為		本跡→SK218
175	A 4 j3	N - 66° - W	[円形]	0.35 × 0.28	64	皿状	外傾	人為		本跡→SD 2
176	B 3 a2	N - 42° - E	[楕円形]	(1.13) × 0.95	12	平坦	縦斜	人為	縄文土器	本跡→SI 1
177	B 4 g4	-	円形	0.64 × 0.60	14	平坦	縦斜・外傾	人為	縄文土器	
178	B 4 c6	N - 55° - W	楕円形	1.14 × 0.98	52	皿状	外傾	人為	縄文土器	
180	B 4 g6	N - 46° - E	楕円形	1.98 × 1.42	26	平坦	縦斜	人為		本跡→SB 4
181	B 4 f4	N - 30° - E	楕円形	1.00 × 0.73	23	平坦	縦斜	人為		
182	B 4 h5	N - 45° - W	楕円形	1.26 × 1.06	26	平坦	縦斜	人為		本跡→SK218
183	B 4 f5	N - 75° - E	楕円形	0.88 × 0.63	32	平坦	縦斜	人為		
187	C 4 a7	N - 20° - E	楕円形	0.96 × 0.66	14	平坦	縦斜	人為		
189	B 4 d6	N - 61° - E	楕円形	1.56 × 1.30	29	平坦	縦斜	人為	縄文土器	
190	B 4 h6	N - 22° - E	楕円形	1.10 × 1.00	58・88	平坦	外傾	人為	縄文土器	ビット2か所
195	B 4 f7	N - 87° - W	楕円形	0.90 × 0.74	16	平坦	縦斜	人為		
199	B 4 g7	N - 25° - E	[楕円形]	0.72 × 0.63	12	皿状	外傾	人為		本跡→SK194
200	B 4 f1	-	円形	1.36 × 1.28	55	平坦	外傾	人為		ビット1か所
201	A 3 h7	N - 85° - W	[楕円形]	(2.06) × 1.80	122	平坦	直立・有段	人為	縄文土器	本跡→SI 3、SK71
202	B 4 f3	N - 51° - W	[楕円形]	1.98 × 1.74	46	平坦	縦斜	人為	縄文土器	本跡→SK163・216 ビット1か所
203	B 4 f2	N - 57° - E	楕円形	1.28 × 1.04	30・78	有段	外傾	人為		ビット1か所
205	B 4 h4	N - 20° - E	楕円形	1.10 × 0.92	16	平坦	縦斜・外傾	人為		

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
208	B 4 6b	N-30°-E	楕円形	0.78×0.72	26	皿状	縦斜	人為	縄文土器、石器	本跡→SB 2
211	B 4 6d	N-29°-W	楕円形	1.94×1.58	32	有段	外傾	人為		
212	B 4 6e	N-18°-E	楕円形	1.00×0.76	30	凹凸	縦斜・外傾	人為		ビッド1か所
213	B 4 6f	N-80°-W	楕円形	0.81×0.54	14	平坦	外傾	人為		
214	B 4 7	N-51°-E	楕円形	0.89×0.74	42	平坦	外傾	人為		ビッド1か所
215	B 4 3	N-31°-W	[楕円形]	1.04×0.80	14	平坦	縦斜	人為		
216	B 4 3	N-45°-E	[楕円形]	1.05×0.76	36	平坦	外傾	人為		SK202→本跡→SK303
219	B 4 6	N-25°-E	楕円形	0.66×0.58	32	平坦	外傾・直立	人為		ビッド1か所
220	B 4 6	N-65°-E	楕円形	1.28×0.88	70	有段	外傾	人為	縄文土器	ビッド1か所
223	B 4 3	-	円形	0.54×0.49	10	平坦	縦斜	人為		
224	B 4 5	N-77°-E	楕円形	1.16×0.90	24	平坦	縦斜	人為		
225	B 3 9	N-13°-E	楕円形	0.46×0.33	12	平坦	縦斜・外傾	人為		本跡→SK226
226	B 3 9	-	円形	0.42×0.40	31	平坦	外傾	人為		SK225→本跡
227	C 4 a7	-	円形	1.48×1.39	12	平坦	外傾	人為	縄文土器	
228	C 4 a7	N-25°-W	楕円形	1.54×1.36	38・72	平坦	縦斜・外傾	人為	縄文土器	SK251・307→本跡 ビッド2か所
229	C 4 a8	N-51°-E	楕円形	1.06×0.94	41	平坦	縦斜・外傾	人為	縄文土器	
230	C 4 b8	N-57°-E	楕円形	1.58×1.46	70	平坦	縦斜	人為	縄文土器	
231	B 4 8	-	円形	1.04×1.00	26	平坦	外傾	人為	縄文土器	
232	C 4 a6	-	楕丸方形	1.00×0.98	42	平坦	縦斜	人為		ビッド1か所
233	B 4 7	-	[円形]	0.92×(0.86)	32	平坦	外傾	人為		本跡→SK247
234	B 4 g3	N-50°-W	楕円形	0.66×0.58	28	傾斜	外傾	人為	縄文土器、銅片	SB 3と重複
235	B 4 3	-	円形	0.46	12	平坦	縦斜	人為		
237	B 4 g8	N-56°-E	楕丸長方形	1.02×0.78	44	平坦	外傾・直立	人為	縄文土器	本跡→SD 3
238	B 4 3	N-56°-E	楕円形	1.26×0.78	28	平坦	縦斜	人為		
239	B 3 e8	N-8°-E	[楕円形]	0.55×0.39	12	平坦	外傾	人為		本跡→SK127
240	B 3 8	N-11°-E	楕円形	0.51×0.45	12	平坦	外傾	人為		
242	B 4 7	N-45°-E	楕円形	0.68×0.58	54	有段	外傾	人為	縄文土器	ビッド1か所
243	C 4 a7	-	円形	1.12×1.06	106	平坦	外傾	人為	縄文土器	ビッド1か所
244	C 4 a8	N-45°-E	楕円形	0.64×0.52	25	皿状	外傾	人為	自然礫	ビッド1か所
245	C 4 b8	N-43°-E	楕円形	0.42×0.35	36	外傾	有段	人為		
246	B 3 10	N-88°-E	楕円形	1.18×0.95	62	平坦	外傾	人為		本跡→SD 2
247	B 4 7	N-60°-E	楕円形	1.12×0.92	50	平坦	外傾	人為		
249	B 4 5	N-22°-E	[楕円形]	1.92×(0.94)	80・86	有段	外傾	人為	縄文土器	ビッド2か所
250	C 4 a6	N-3°-W	[楕円形]	1.18×(0.84)	68	平坦	外傾	人為		
251	C 4 a7	N-36°-W	[楕円形]	1.29×(1.14)	16	平坦	縦斜	人為		本跡→SK228・309
252	C 4 b8	-	円形	1.10×1.08	60	皿状	縦斜・外傾	人為		SK332→本跡 →SK230・262
253	B 4 6	N-48°-E	楕円形	0.82×0.60	12	平坦	縦斜	人為		
254	C 4 a7	N-30°-E	楕円形	1.45×1.08	16	平坦	外傾	人為		
255	C 4 a8	N-35°-W	不定形	1.21×1.00	62	有段	外傾	人為	縄文土器、銅片	SK256・338・339 →本跡
256	C 4 a8	N-57°-W	[楕円形]	(1.00)×0.94	56	皿状	縦斜	人為		ビッド1か所
259	C 4 a0	N-85°-W	楕円形	0.76×0.64	42	平坦	外傾	人為		SK260→本跡 →SD 3
260	C 4 a0	N-38°-E	楕円形	2.12×1.90	46	平坦	外傾	人為	銅片	SK333→本跡 →SK259・SD 3 SK335→本跡 →SD 3
261	C 4 b8	N-31°-W	楕円形	0.86×0.60	26	皿状	縦斜・外傾	人為	縄文土器	
262	C 4 b8	N-33°-E	楕円形	1.12×1.86	26	平坦	縦斜	人為	縄文土器、自然礫	SK252・332 →本跡→SK230
263	B 4 5	-	円形	1.00×0.91	56	有段	外傾	人為		SK278→本跡
266	B 4 c1	-	円形	0.52×0.50	14	平坦	外傾	人為	縄文土器	本跡→SD 2

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
267	A 3 h4	N-30'-W	楕円形	0.96×0.67	18	平坦	外傾	人為		本跡→SD 1
268	A 2 j0	N-21'-W	楕円形	1.84×0.83	16	平坦	外傾	人為	縄文土器、自然礫	本跡→SD 1
269	A 2 j0	-	円形	0.62×0.58	28	皿状	外傾	人為	縄文土器	SK281→本跡
270	A 3 j1	N-21'-W	楕円形	0.49×0.43	16	皿状	縦斜・外傾	人為		本跡→SD 1
271	B 4 d1	N-6'-E	楕円形	0.98×0.80	21	平坦	縦斜・外傾	人為		
273	B 4 d9	N-6'-W	[楕円形]	1.08×(0.76)	21	平坦	外傾	人為		本跡→SK299
274	B 4 b8	N-14'-W	[楕円形]	(1.84)×1.48	32	平坦	外傾	人為		本跡→SK299
275	B 4 b8	N-23'-E	楕円形	0.72×0.62	52	平坦	縦斜・外傾	人為		SK276→本跡 ビット1か所
278	B 4 f6	N-41'-E	[楕円形]	(0.97)×0.83	22	平坦	外傾	人為		本跡→SK263
280	B 4 j9	N-64'-W	[楕円形]	(1.47)×1.24	14	平坦	縦斜	人為		本跡→SK279
281	A 2 j0	N-22'-W	楕円形	2.60×1.07	36	平坦	外傾	人為	縄文土器、石器	本跡→SK289、SD 1
282	B 4 g6	N-40'-E	楕円形	0.54×0.48	20	平坦	外傾	人為		
283	B 4 j6	N-72'-W	楕円形	1.24×1.10	10	平坦	縦斜	人為		
284	B 4 j6	N-70'-W	楕円形	0.98×0.80	84	平坦	外傾	人為		ビット1か所
290	B 4 k0	N-8'-W	楕円形	1.86×1.30	56	右段	縦斜・外傾	人為	縄文土器	SK306→本跡
291	C 4 a9	N-32'-E	楕円形	1.04×0.82	30	右段	縦斜・外傾	人為		
292	A 2 j9	N-22'-W	楕円形	0.88×0.59	39	皿状	外傾	人為	縄文土器	
293	A 2 j9	N-10'-W	楕円形	0.72×0.51	40	皿状	縦斜・直立	人為		
294	A 3 h3	-	円形	0.98	86	平坦	外傾・直立	人為	縄文土器、自然礫	
295	C 4 a8	N-30'-W	楕円形	0.92×0.79	30	皿状	縦斜	人為		
296	A 3 i3	-	円形	0.44×0.43	32	平坦	外傾	人為		
297	B 2 a0	N-66'-W	楕円形	1.46×1.32	32	平坦	外傾	人為	石器	
298	B 4 h9	N-18'-E	楕円形	1.75×1.13	59	右段	外傾	人為	縄文土器	ビット1か所
299	B 4 i8	N-3'-W	楕円長方形	1.92×1.56	60	平坦	外傾	人為		SK273、294→本跡
300	C 4 b0	N-31'-W	楕円形	1.70×1.53	36	平坦	縦斜・外傾	人為		本跡→SK127
301	B 4 h0	N-43'-E	楕円形	1.92×1.56	57	凹凸	外傾	人為	縄文土器	
303	B 5 g1	-	円形	1.54×1.42	43	皿状	縦斜	人為		
304	B 4 k0	N-11'-W	楕円形	1.08×1.92	28	平坦	外傾	人為		
306	B 4 k0	N-7'-W	[楕円形]	(0.68×0.58)	56	皿状	外傾	人為		本跡→SK290 ビット1か所
307	C 4 a7	-	円形	0.80×(0.37)	12	外傾	右段	人為		本跡→SK228
310	B 4 b8	-	[円形・楕円形]	0.70×(0.48)	68	平坦	外傾	人為	縄文土器	
312	C 5 b1	N-83'-W	楕円形	1.06×0.68	62	平坦	縦斜・外傾	人為		ビット1か所
313	B 4 h0	-	円形	1.66×1.60	57	右段	外傾	人為		
317	B 4 b8	N-36'-W	[楕円形]	1.78×(0.92)	74	右段	外傾	人為		
318	B 4 c0	N-38'-E	楕円形	1.56×1.41	58	平坦	縦斜・外傾	人為		
319	C 5 a8	N-17'-E	楕円形	2.46×1.50	72	右段	縦斜・外傾	人為		本跡→SD 4
320	B 4 b5	-	[円形・楕円形]	1.32×(0.58)	20	平坦	外傾	人為		本跡→SK204
323	B 4 j8	-	円形	0.79×0.69	115	平坦	外傾	人為		本跡→SK222 ビット1か所
324	B 5 c1	N-19'-W	[楕円形]	(1.18×1.08)	58	皿状	外傾	人為		SK325→本跡
325	B 5 c1	N-22'-W	楕円形	1.57×1.20	78	平坦	外傾	人為		本跡→SK324
327	B 5 d1	N-73'-E	楕円形	1.57×0.96	32	右段	外傾	人為		
331	C 4 b8	N-49'-W	[楕円形]	1.32×(1.12)	82	右段	縦斜	人為		
332	C 4 b8	N-23'-E	[円形・楕円形]	1.42×(1.14)	18	平坦	縦斜・外傾	人為		本跡→SK20、22、25
333	C 4 a0	-	円形	1.56×1.46	38	平坦	縦斜	人為		本跡→SK290、281
335	B 5 e1	N-19'-E	楕円形	1.44×0.94	48	皿状	縦斜・外傾	人為		SK336→本跡
336	B 5 e1	N-40'-W	[楕円形]	(0.40×0.20)	14	平坦	平坦	人為		本跡→SK335、434

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
337	C 4c9	N-63°-W	[円形・楕円形]	2.38×1.08	46	有段	縦斜	人為		本跡→SD 3
338	C 4a8	-	[円形・楕円形]	0.62×0.38	29	平坦	外傾	人為		本跡→SK236→SK253
339	C 4a8	-	[円形・楕円形]	0.40×0.20	14	平坦	外傾	人為		本跡→SK236→SK253
342	B 5e2	-	円形	0.88×0.86	30	平坦	外傾	人為		
345	B 5d1	N-41°-E	楕円形	0.89×0.72	28	皿状	縦斜・外傾	人為		
347	C 5a2	N-44°-W	楕円形	1.20×1.04	18	平坦	縦斜	人為		
348	C 5c1	N-36°-W	楕円形	1.00×0.89	36	平坦	外傾	人為		
350	C 5d2	N-14°-E	楕円形	1.30×1.28	28	平坦	縦斜	人為		
352	B 5j3	N-56°-W	楕円形	1.78×1.10	57	平坦	外傾	人為		SK376→本跡
354	C 4e9	N-61°-W	楕円形	3.05×2.72	90	平坦	外傾	人為	縄文土器、炭化材	ビット1か所
355	C 5c1	N-55°-E	不整楕円形	2.94×2.58	132	平坦	縦斜	人為		SK480・481→本跡 →SK354
356	C 5b3	N-2°-W	不整楕円形	1.98×1.58	72	平坦	縦斜・外傾	人為	縄文土器	
357	C 5b3	-	[円形・楕円形]	0.92×0.80	16	平坦	縦斜	人為		本跡→SK358
358	C 5b3	-	円形	1.41×1.39	12	平坦	縦斜	人為	縄文土器	
365	C 5d2	N-32°-W	楕円形	0.84×0.73	68	平坦	縦斜	人為		ビット1か所
366	C 5d3	N-11°-W	楕円形	2.00×1.62	17	平坦	縦斜	人為		
368	B 5e3	-	円形	0.72×0.68	67	平坦	外傾	人為		ビット1か所
370	B 5d4	-	円形	0.78×0.72	48	平坦	外傾	人為		ビット1か所
371	B 5f4	-	円形	1.08×1.04	35	平坦	外傾	人為		
372	B 5e4	N-23°-W	楕円形	1.62×1.32	63	有段	外傾	人為	縄文土器	本跡→SD 2
373	B 4d1	N-50°-E	楕円形	0.62×0.40	32	鍋底状	縦斜	人為		本跡→SD 2
375	B 4c1	N-45°-E	楕円形	0.68×0.53	70	皿状	縦斜・外傾	人為		本跡→SD 2 ビット1か所
376	B 5c1	N-42°-E	[楕円形]	1.76×1.68	28	凹凸	縦斜・外傾	人為		本跡→SK352
377	B 5i1	N-45°-E	楕円形	0.76×0.66	89	有段	外傾・直立	人為		ビット1か所
379	B 5h1	-	円形	0.84×0.80	28	平坦	外傾・直立	人為		本跡→SK343
382	B 5e5	N-65°-W	楕円形	2.05×1.56	45	有段	外傾	人為		
383	C 5b3	N-40°-W	楕円形	1.00×0.78	30	皿状	縦斜	人為	縄文土器	
388	B 5f4	N-22°-W	楕円形	1.80×1.45	28	平坦	外傾	人為		本跡→SK290
389	B 5g5	-	円形	0.68×0.58	24	平坦	縦斜・外傾	人為		
391	B 4f9	N-5°-W	楕円形	1.93×1.32	112	有段	外傾	人為		
392	B 5j3	-	円形	0.73×0.68	42	平坦	外傾・直立	人為		
393	B 5g5	N-90°-E	楕円形	0.82×0.72	30	平坦	外傾	人為		
395	B 5f5	N-15°-E	楕円形	0.70×0.63	18	平坦	縦斜	人為		
396	B 5g3	N-54°-W	楕円形	0.88×0.70	28	平坦	縦斜	人為		本跡→SD 4
397	B 5g5	N-14°-E	楕円形	1.35×1.02	32	平坦	縦斜	人為		
398	B 5g7	N-5°-W	楕円形	0.95×0.80	40	平坦	縦斜	人為		
399	B 4j8	N-51°-W	楕円形	1.80×1.53	30	平坦	縦斜	人為		
402	B 3d0	-	円形	0.78×0.72	24	平坦	縦斜・外傾	人為		
403	C 5d6	N-46°-W	楕円形	2.26×1.72	38	平坦	縦斜	人為		
412	B 5b9	N-32°-E	楕円形	2.08×1.45	30	平坦	縦斜	人為		
417	B 5f4	-	円形	0.68×0.63	29	平坦	縦斜・外傾	人為		
419	B 5f9	N-64°-E	楕円形	0.98×0.80	90	平坦	縦斜	人為		ビット1か所
423	C 5b1	N-30°-E	楕円形	1.38×0.90	50	有段	縦斜	人為		ビット1か所
431	B 5f5	N-5°-W	楕円形	1.00×(0.90)	14	平坦	縦斜	人為		
433	B 5b9	N-77°-W	楕円形	2.10×1.54	45	平坦	外傾	人為	縄文土器	
434	B 5e2	-	[円形]	1.14×1.12	89	平坦	縦斜	人為		SK336→本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
436	C 4 a9	N-3°-E	長方形	1.02×0.76	20	平坦	縦斜	人為		
437	C 4 a9	N-15°-W	長方形	1.00×0.66	12	平坦	縦斜	人為	縄文土器	SK438→本跡
438	C 4 a9	N-12°-E	楕円形	1.20×1.00	12	平坦	縦斜	人為		本跡→SK437
440	C 5 d2	N-15°-W	楕円形	2.08×1.60	22	平坦	縦斜	人為	縄文土器	SI 5, SK454→本跡
442	C 6 a3	N-30°-E	楕円形	0.96×0.86	30	平坦	縦斜	人為	縄文土器	
443	C 5 e3	-	円形	1.38×1.32	24	平坦	縦斜	人為	瀬片	
446	C 6 a4	N-40°-W	楕円形	2.88×2.38	32	平坦	縦斜	人為	縄文土器	
451	C 3 e5	N-38°-W	楕円形	1.96×1.76	20	平坦	縦斜	人為		本跡→SK20
457	B 5 h4	N-62°-E	楕円形	1.68×1.30	64	平坦	縦斜	人為		本跡→SD 4
481	C 5 c1	N-31°-W	楕円形	1.17×(1.06)	108	平坦	外傾	人為		本跡→SK35 ビット1か所

2 弥生時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡2棟、土坑29基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第6号竪穴建物跡 (93・94 図)

位置 調査区南東部のC 6 c5区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第458号土坑に掘り込まれ、古墳時代の遺物包含層に覆われている。

規模と形状 第458号土坑に中央部から北西部にかけて覆土中から床面の一部を掘り込まれているが、規模と形状は確認できた。長軸5.54m、短軸は4.24mの不整隅丸長方形で、長軸方向はN-73°-Wである。壁は、高さ22～44cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、中央部から東部にかけて踏み固められている。南東コーナー部には、焼土とわずかな炭化材が確認できた。

ピット 7か所。P1～P4は深さ16～56cmで、規模と配置から主柱穴であると考えられる。P5は深さ22cmで、主柱穴の対角線上に位置することから、補助的な柱穴と考えられる。P6・P7は深さ20・25cmで性格は不明である。各柱穴の覆土は柱抜き取り後の埋土である。

P1・P2・P6・P7土層解説

1 黒褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量

2 明褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

P3・P5土層解説

1 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 明褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

P4土層解説

1 明褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 明褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

覆土 6層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

4 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量

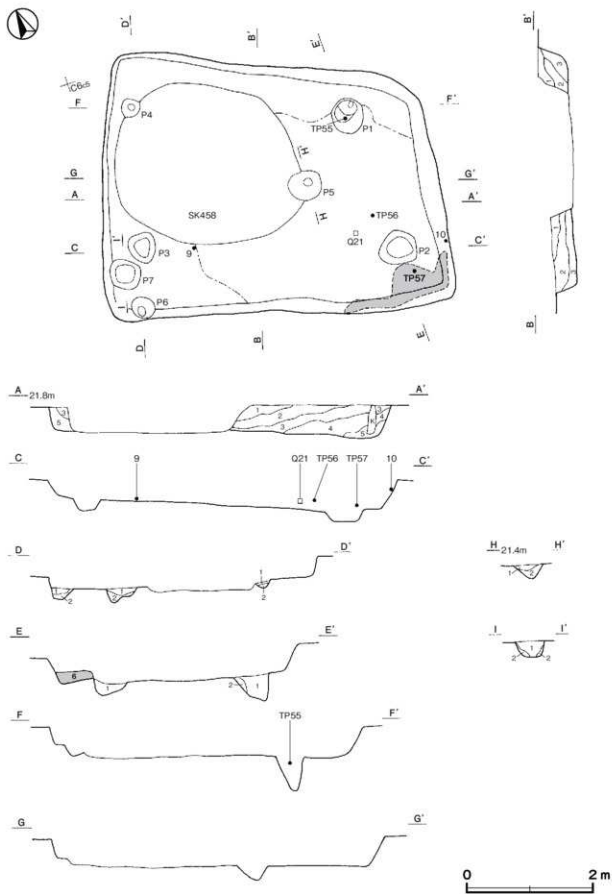
2 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

5 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

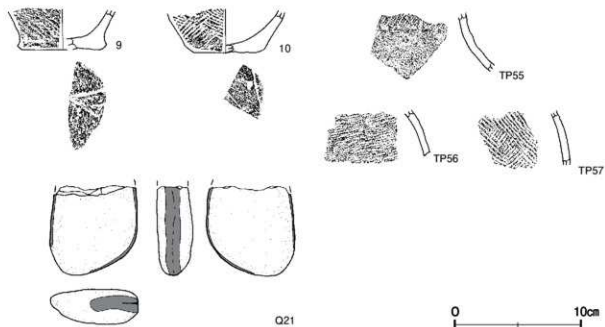
6 赤褐色 焼土ブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片37点(広口壺)、石器1点(磨石)、石英片9点が、覆土中層から下層にかけて散在して出土している。9は南西部の床面、TP55はP1内、TP56・Q21は南東部、TP57は南東壁際の覆土下層、10は東壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。



第93図 第6号竪穴建物跡実測図

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。床面から焼土ブロックや炭化材が出土しているため、焼失家屋と考えられる。また、床面からの遺物が極めて少ないことから、建物廃絶後に焼失し、埋め戻されたと考えられる。



第94図 第6号竪穴建物跡出土遺物実測図

第6号竪穴建物跡出土遺物観察表(第94図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
9	弥生土器	広口壺	-	(3.2)	[7.0]	長石・石英	褐	普通	胴部下端無筋縄文R(0段の条) 底部木葉痕	床面	20% PL36
10	弥生土器	広口壺	-	(3.4)	[5.0]	長石・石英・雲母	黒	普通	胴部下端筋加条一種(附加2条)の縄文を引状構成 底部木葉痕	覆土中層	5% PL36
番号	種別	器種	胎土		色調		文様の特徴ほか			出土位置	備考
TP55	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母		褐		胴部外面無文帯	胴部附加条一種(附加2条)の縄文		P1内	PL36
TP56	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母		にぶい褐		外面細縄文L段			覆土下層	PL36
TP57	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母		橙		附加条一種(附加2条)の縄文を引状構成			覆土下層	PL36
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考	
Q21	磨石	(7.1)	(2.9)	(6.9)	(220.3)	安山岩	細線部使用痕		覆土下層	PL37	

第7号竪穴建物跡(第95～97図)

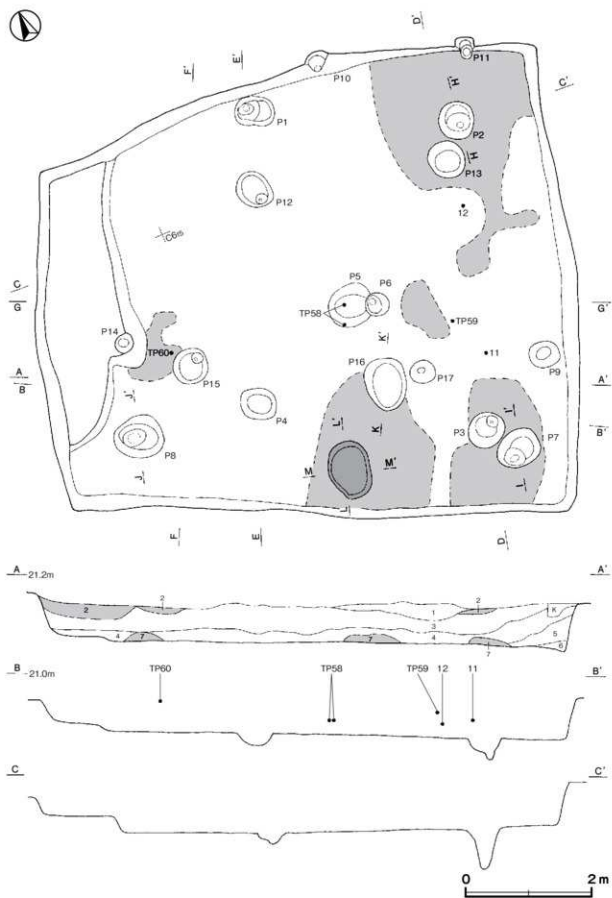
位置 調査区南東部のC6f5区、標高21mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 古墳時代の遺物包含層に覆われている。

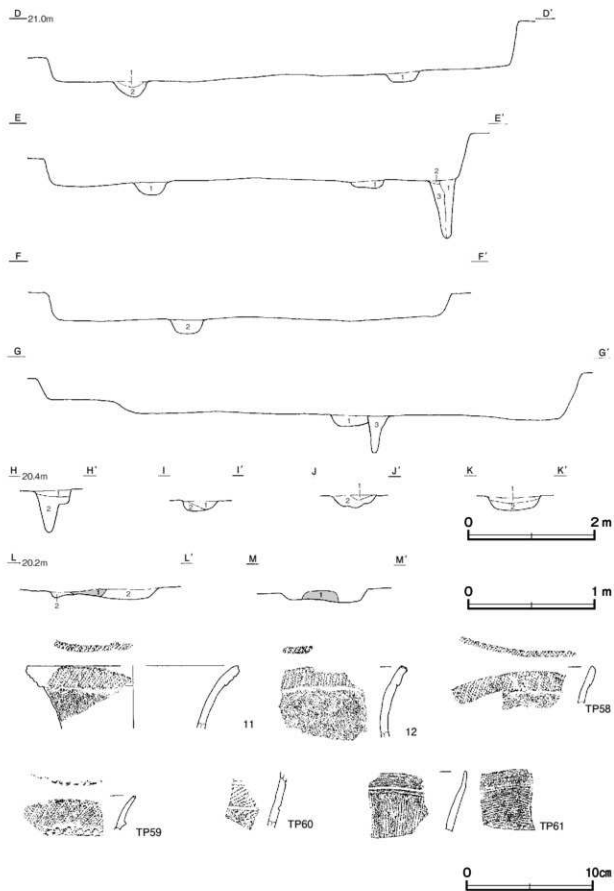
規模と形状 長軸8.65m、短軸は7.40mの不整長方形で、長軸方向はN-73°-Wである。壁は高さ38～68cmで、外傾して立ち上がっている。

床 平坦で、全体が踏み固められている。西壁際にはベッド状施設があり、床面との高低差が20cmほどで、幅4.30m、奥行き1.20mほどの広さがある。西部と北東部から南東部には、焼土と細かい炭化材が確認できた。

炉 南壁際寄りのほぼ中央部に付設された地床炉である。長径0.90m、短径0.68mの楕円形で、床面を18cm掘り込んでいる。炉床面は第1層上面で、火熱を受けて赤変硬化している。



第95図 第7号竪穴建物跡実測図



第96图 第7号竖穴建物跡・出土遺物実測図

炉土層解説

- 1 赤褐色 焼土ブロック多量
2 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

ピット 17か所。P1～P4は深さ16～90cmで、規模と配置から主柱穴である。P5・P6は深さ18・58cmで、主柱穴の対角線上。P7・P8は深さ15・20cmで主柱穴の延長上にそれぞれ位置することから、補助的な柱穴と考えられる。P9は深さ20cmで、出入り口施設に伴うピットと考えられる。P10・P11は深さ70・78cmで壁柱穴と考えられる。P12～P17は深さ14～20cmで性格は不明である。各柱穴の覆土は、柱抜き取り後の埋土である。

ピット土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
3 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

覆土 7層に分層できる。各層にロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。また、第2層には廃棄されたと考えられる焼土層が確認できた。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
2 明赤褐色 焼土ブロック多量、炭化物中量
3 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子多量、焼土粒子微量
5 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
6 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
7 明赤褐色 焼土ブロック多量、炭化材少量

遺物出土状況 弥生土器片16点(広口壺)、石器6点(磨石)、石英片2点、銅片3点(チャート)が覆土上層から下層にかけて散在して出土している。11は南東部、12は北東部、TP58は中央部の覆土下層、TP59南東部の覆土中層、TP60は西部の覆土上層、TP61は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。床面から焼土ブロックや炭化材が出土しているため、焼失家屋と考えられる。また、床面からの遺物の出土がみられないことから、建物廃絶後に焼失し、埋め戻されたと考えられる。

第7号竪穴建物跡出土遺物観察表(第96図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
11	弥生土器	広口壺	[166]	(5.1)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	複合口縁 1編部平縁縄文LIR 頸部無文帯	覆土下層	5% PL36
12	弥生土器	広口壺	-	(5.7)	-	長石・石英・雲母	にぶい橙	普通	複合口縁 口縁部縄文室体押圧 口縁部附加条一種(附加条)の縄文 頸部無文帯	覆土下層	5% PL36

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP58	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	灰褐色	複合口縁 口唇部縄文室体押圧 頸部無文帯	覆土下層	PL36
TP59	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母・赤色粒子	灰褐色	複合口縁 口唇部山形の刷み 口縁部附加条一種(附加条) 口縁部下縁山形押圧文	覆土中層	PL36
TP60	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母	黒褐色	編縄文LIRを平行波線文で区画	覆土上層	
TP61	弥生土器	広口壺	長石・石英	にぶい橙	口縁部外面機位の平行波線文 外・内面機ノテ 頸部外面機位の縦横波線文 内面機位の縦横波線文	覆土中	PL36

表9 弥生時代竪穴建物跡一覧表

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	器高	床面	傾斜	内部施設				覆土	主な出土遺物	時期	備考
								柱穴	出入口	ピット	伊・電				
6	C 6c5	N-73°-W	不整形長方形	5.54 × 4.24	22-44	平坦	-	4	-	3	-	人為	弥生土器、石器、石炭	後期前半	本跡→SK458
7	C 6c5	N-73°-W	不整形長方形	8.65 × 7.40	38-68	有段	-	4	1	12	伊1	人為	弥生土器、石器、石英片、銅片	後期前半	

(2) 土坑

遺構の形状や遺物の出土状況が特徴的な3基について解説し、それ以外は一覧表で掲載する。

第169号土坑（第97図）

位置 調査区北西部のA3g4区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径133m、短径100mの楕円形で、長径方向はN-55°-Wである。第1号溝に掘り込まれているため、深さは72cmしか確認できなかった。底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

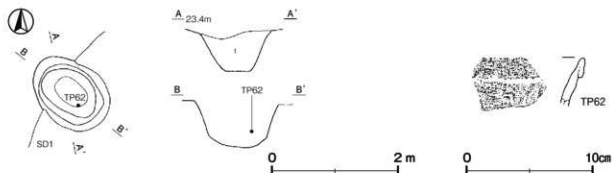
覆土 単一層である。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 弥生土器片1点（広口壺）が、南東部壁際の覆土第1層の下位から出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。また、人骨の出土はなかったが、形状や覆土の状況が人為堆積であることから、墓坑の可能性がある。



第97図 第169号土坑・出土遺物実測図

第169号土坑出土遺物観察表（第97図）

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP62	弥生土器	広口壺	長石・石英・雲母・赤色粒子	明赤褐色	複合口縁 口縁部横位のナデ 縦位の頸部描洗線文	覆土第1層下位	PL37

第458号土坑（第98図）

位置 調査区南東部のC6c5区、標高22mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第6号竪穴建物跡を掘り込み、古墳時代の遺物包含層に被覆されている。

規模と形状 長径3.10m、短径250mの楕円形で、長径方向はN-58°-Wである。深さは36cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

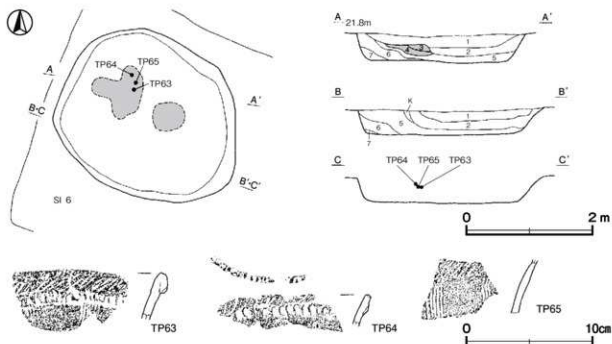
覆土 7層に分類できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。第3・4層は焼土を廃棄した層である。

土層解説

- | | | | |
|--------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 暗赤褐色 | 焼土ブロック多量、ローム粒子・炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 4 明赤褐色 | 焼土ブロック多量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 弥生土器片3点（広口壺）、石器1点（磨石）、自然礫1点が出土している。TP63～TP65は、北西部の覆土第1層からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。また、人骨の出土はなかったが、形状や覆土の状況が人為堆積である。墓坑の可能性がある。



第98図 第458号土坑・出土遺物実測図

第458号土坑出土遺物観察表(第98図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP63	赤生土器	広口甕	長石・石英・雲母	赤褐	複合口縁 口縁部附加条一種(附加2条)縄文→下端部山形押片文 頸部縦位の横線と沈線文	覆土第1層	PL37
TP64	赤生土器	広口甕	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	口縁部附加条一種(附加2条)縄文→下端部山形押片文 頸部縦位の横線と沈線文	覆土第1層	
TP65	赤生土器	広口甕	長石・石英・雲母	にぶい赤褐	口唇部文 口縁部附加条一種(附加2条)縄文 頸部縦位の横線と沈線文	覆土第1層	PL37

第492号土坑(第99図)

位置 調査区南東部のC6h5区、標高21mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第11号溝に掘り込まれている。

規模と形状 長径1.28m、短径0.90mの楕円形で、長径方向はN-0°である。第11号溝に掘り込まれているため、深さは10cmしか確認できなかった。底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土 単一層である。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 層 色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

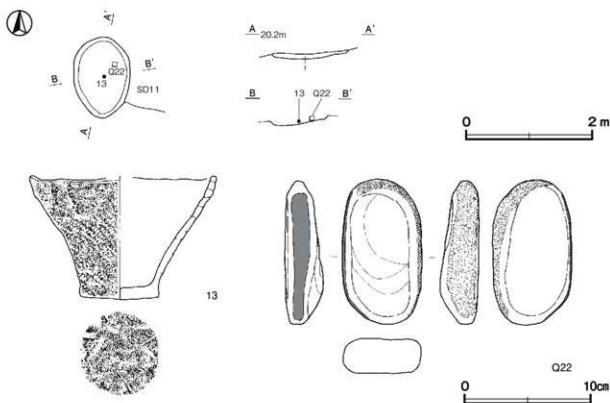
遺物出土状況 弥生土器片1点(鉢)、石器1点(敲石)がほぼ中央部の底面から出土している。13は横位の状態で、口縁部を南側に向けて出土している。Q22は、13の東部に置かれた状態で出土している。

所見 時期は、出土土器から後期前半と考えられる。また、人骨の出土はなかったが、鉢が横位の状態で、口縁部を南方に向けて置かれた状態で出土している。このことから、仰向けの鉢被り葬で、石器は副葬品と考えられ、墓坑の可能性はある。

第492号土坑出土遺物観察表(第99図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
13	弥生土器	鉢	[142]	9.9	6.2	長石・石英・雲母	明赤褐	普通	口縁部一部分欠損 口縁部・胴部上半輪横直下半半筋縄文押し 底部木漆痕	底面	60% PL37

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 22	磁石	11.5	6.2	3.1	339.3	砂岩	頸縁部敲打痕 一小所無縁部磨痕 磨石兼用	底面	PL37



第99図 第492号土坑・出土遺物実測図

表10 弥生時代土坑一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	形状	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
169	A 3g4	N-55°-W	[楕円形]	1.33×1.00	(72)	皿状	磁斜	人為	弥生土器	本跡→SD 1
452	C 6h6	-	円形	1.02	44	平皿	外楕	人為	弥生土器	本跡→HG 1
453	C 6g6	-	円形	1.74×1.72	34	平皿	外楕	人為		本跡→HG 1
458	C 6c5	N-58°-W	楕円形	3.10×2.50	36	平皿	外楕	人為	弥生土器、石器、自然産	SI 6→本跡→HG 1
460	C 6d6	N-90°-W	楕円形	1.12×0.90	32	平皿	磁斜	人為		本跡→HG 1
461	C 6d8	N-30°-E	楕円形	1.38×0.90	17	平皿	磁斜	人為		本跡→HG 1
462	C 6f8	N-4°-E	楕円形	1.20×0.68	14	平皿	磁斜	人為		本跡→HG 1
463	C 6e9	N-18°-E	楕円形	0.55×0.43	67	皿状	磁斜	人為		本跡→HG 1, SD 9
464	C 6d8	N-35°-E	楕円形	1.13×0.99	40	右段	磁斜	人為		本跡→HG 1 ビッド1か所
465	C 6e9	N-12°-E	楕円形	0.73×0.60	14	平皿	磁斜	人為		本跡→HG 1
467	C 6d7	-	円形	1.14×1.12	40	平皿	磁斜	人為		本跡→HG 1
468	C 6e7	N-33°-W	楕円形	0.66×0.51	22	平皿	外楕	人為		本跡→HG 1
469	C 6e6	N-56°-E	楕円形	0.98×0.80	52	平皿	外楕	人為		本跡→HG 1
470	C 6e7	N-85°-W	楕円形	0.73×0.50	48	平皿	外楕、直立	人為		本跡→HG 1
477	C 6h6	-	円形	0.92×0.85	23	平皿	磁斜	人為		本跡→HG 1
479	C 6e7	-	円形	0.57×0.53	46	平皿	外楕	人為		本跡→HG 1
487	C 6d4	-	円形	0.47	30	皿状	外楕	人為		SK88 本跡→HG 1
488	C 6d4	N-47°-W	[楕円形]	(0.60)×0.52	19	平皿	磁斜	人為		本跡→SK87, HG 1

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
89	C 6d4	N-43°-E	精円形	0.75 × 0.53	21	平坦	外傾	人為		本跡→HG 1
90	C 6e4	-	円形	0.36	20	皿状	外傾	人為		本跡→SK03, HG 1
91	C 6h5	N-39°-W	[溝丸長方形]	3.21 × (1.57)	30	傾斜	縦斜	人為	弥生土器	本跡→SD11, HG 1
92	C 6h5	N-0°	精円形	1.28 × 0.90	(10)	平坦	縦斜	人為	弥生土器、石器	本跡→SD11, HG 1
93	C 6e3	N-2°-W	精円形	0.63 × 0.42	28	皿状	縦斜	人為		SK08・本跡→HG 1
94	C 6e3	N-9°-E	精円形	0.53 × 0.48	37	皿状	縦斜・外傾	人為		本跡→HG 1
95	C 6d4	-	円形	0.37	16	平坦	外傾	人為		本跡→HG 1
96	C 6e3	-	円形	0.54 × 0.52	19	平坦	縦斜	人為		本跡→HG 1
97	C 6d5	N-47°-E	精円形	0.97 × 0.76	29	平坦	縦斜・外傾	人為		SK08・本跡→HG 1
98	C 6d5	N-34°-W	精円形	(0.62) × 0.56	20	平坦	縦斜	人為		本跡→E07, HG 1
99	C 6e4	N-66°-W	精円形	0.68 × 0.57	29	皿状	縦斜	人為		本跡→HG 1

3 古墳時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、遺物包含層1か所を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

遺物包含層

第1号遺物包含層 (第100～103区)

位置 調査区南東部のC 6d3区～C 6h9区。谷に向かって北から南へ緩やかに傾斜する標高21～23mの台地斜面部に、南北27.1m、東西228mの範囲で確認した。

調査の方法 4m四方のグリッド毎に掘り下げを行った。遺物は、器形がわかるものや比較的大きい破片などについて、座標値の記録を行い、それ以外の小破片についてはグリッド毎に一括で取り上げた。

重複関係 古墳時代以降の段切りに南部を掘削、肩部を盛土整地され、第3号柱穴、第459・486号土坑と第9・10・11号溝に掘り込まれている。また、第6・7号竪穴建物跡、第452・453・458・460～465・467～477・479・487～499号土坑を被覆している。

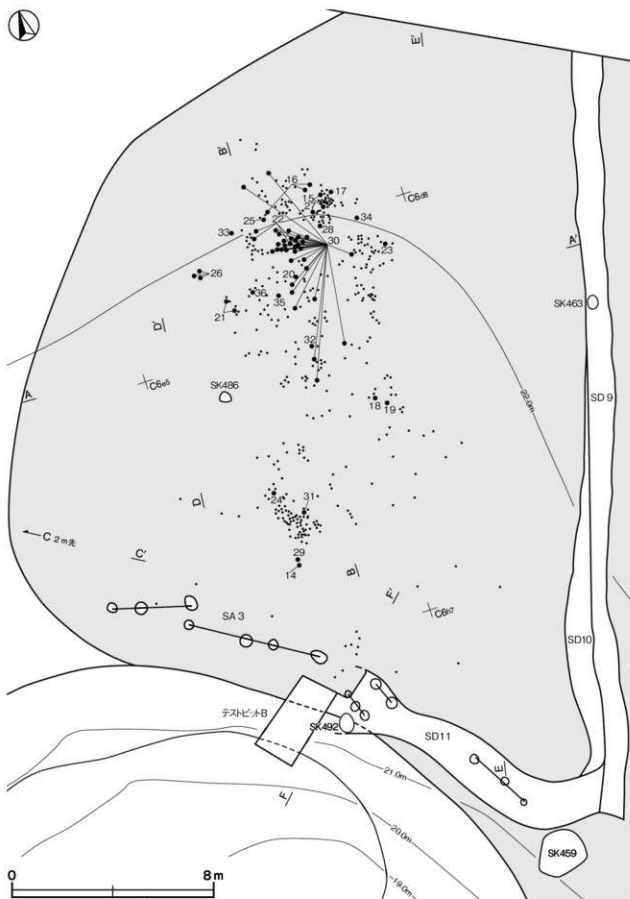
堆積状況 表土層から地山面まで、8層に分層できる。第1層は、表土層(現代の耕作土)、第2層は、江戸時代の耕作土、第3層～第6層は、古墳時代以降の整地層である。第7・8層は古墳時代の遺物を包含する層である。

土層解説

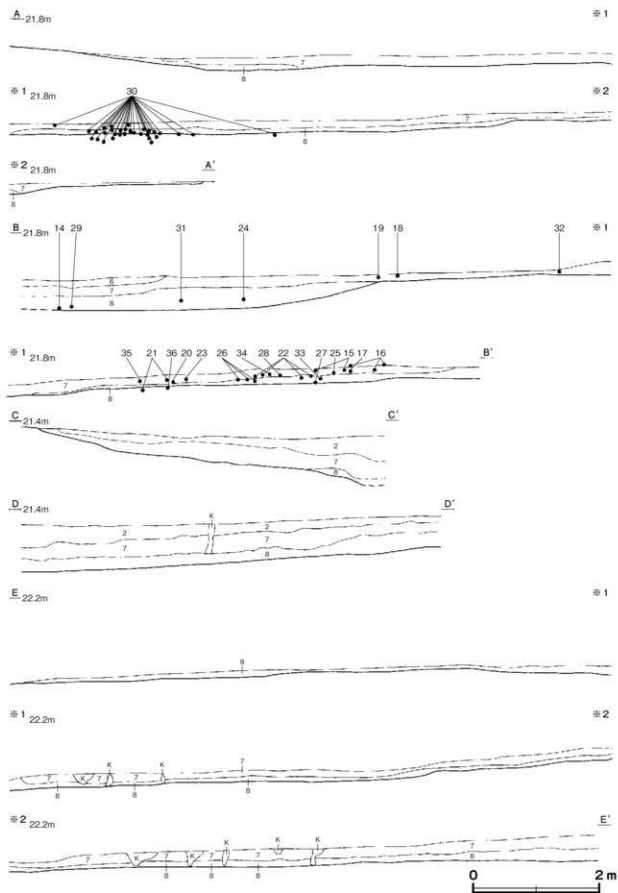
1 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子少量	5 黄褐色	ロームブロック少量、炭化粒子微量
2 暗褐色	ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量	6 黒褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量
3 明褐色	ロームブロック多量、炭化粒子微量	7 黒褐色	ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
4 黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	8 暗褐色	ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片1724点(埴68、器台1、高坏278、甕1377)が、北部から南部にかけて、投棄された状態で出土している。特に、北部のC 6d6・C 6d7区と南部のC 6f5・C 6f6区の出土量が多い。そのほか、南部の一部(C 6h6・C 6h7区)は攪乱を受け、土師質土器片10点(小皿4、焙谷6)、瓦質土器片1点(鉢)、陶器片2点(甕)、磁器片1点(急須)が、土師器片と混在して出土している。

所見 時期は、出土土器から中期(5世紀前半)と考えられる。赤彩を施した土器片が散見されるが、細片が多いことから、祭祀行為ではなく、通常の廃棄行為と考えられる。また、南部の一部の攪乱は出土遺物から、江戸時代の耕作等によるものと考えられる。

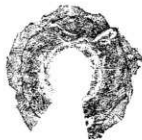
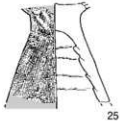
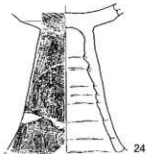
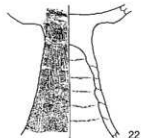
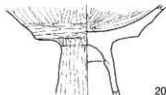
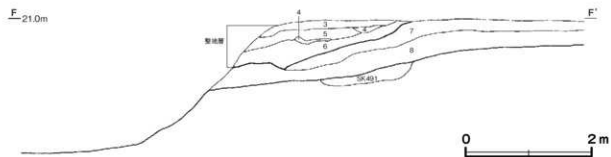


第 100 図 第 1 号遺物包含層実測図 (1)



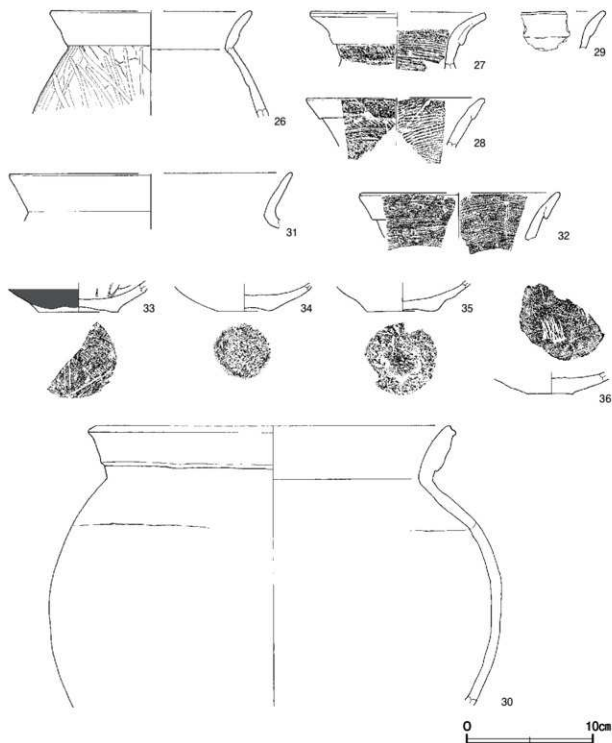
第101図 第1号遺物包含層実測図(2)

F-21.0m



0 10cm

第102图 第1号遺物包含層・出土遺物実測図



第103図 第1号遺物包含層出土遺物実測図

第1号遺物包含層出土遺物観察表 (第102・103図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
14	土師器	埴	-	(3.1)	-	長石・石英・ 雲母	明赤褐	普通	外・内面横ナデ	C 6c5第8層	5%
15	土師器	埴	-	(3.4)	4.4	長石・石英・ 雲母	明赤褐	普通	体部下縁外面へう割り→ミガキ・内面へう割り →ナデ 底部外・内面へう割り→ナデ	C 6c6第7層	10%
16	土師器	埴	-	(2.8)	4.8	長石・石英	明赤褐	普通	体部下縁外面へう割り→ナデ 内面ナデ 底部 外・内面ナデ	C 6c5・c7第7層	10%
17	土師器	野合	-	(2.2)	-	長石・石英	赤褐・橙	良好	外・内面ミガキ→赤彩	C 6c7第7層	10% PL28

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
18	土師器	高坏	[162]	(40)	-	長石・石英	橙	普通	環状口縁部外・内面横ナテ 底部外面ハケ目内面ナテ	C 6e7 第7層	5%
19	土師器	高坏	-	(39)	-	長石・石英・赤母	明赤褐	普通	環状口縁部外・内面横ナテ 底部外面ハケ目内面ナテ	C 6e7 第7層	5% PL38
20	土師器	高坏	-	(72)	-	長石・石英	橙	普通	環状口縁部外・内面横ナテ 底部外面ハケ目内面ナテ	C 6e6 第7層	20% PL38
21	土師器	高坏	-	(43)	-	長石・石英	にぶい黄赤	普通	外面へう割り→縦位のミガキ 内面ナテ	C 6e6 第8層	30% PL38
22	土師器	高坏	-	(107)	-	長石・石英	明赤褐	普通	環状口縁部外・内面横ナテ 内面ナテ 脚部縦位のハケ目 内面横ナテ	C 6e6 第7層	30% PL38
23	土師器	高坏	-	(57)	-	長石・石英・赤母	明赤褐	普通	環状口縁部外・内面横ナテ 脚部外面縦位のハケ目 内面横ナテ	C 6e7 第7層	10% PL38
24	土師器	高坏	-	(117)	-	長石・石英・赤色粒子	明褐	普通	環状口縁部外・内面横ナテ 内面ナテ 脚部縦位のハケ目 内面横ナテ	C 6e5 第8層	20% PL38
25	土師器	高坏	-	(79)	-	長石・石英・赤色粒子	赤褐・橙	普通	環状口縁部外・内面横ナテ 脚部外面縦位のハケ目→赤彩 内面横ナテ	C 6e6 第7層	10% PL38
26	土師器	壺	[160]	(84)	-	長石・石英・赤色粒子	灰褐	普通	口縁部外・内面横ナテ 体部外面へう割り→斜位・縦位のミガキ 内面横ナテ	C 6e5 第8層	10% PL39
27	土師器	壺	[138]	(46)	-	長石・石英・赤母	橙	普通	複合口縁 口縁部外面横ナテ 内面横位のハケ目→斜位のハケ目 脚部外面縦位のハケ目 内面横位のハケ目→斜位のハケ目	C 6e5 第8層	5% 外面わずかに赤彩
28	土師器	壺	[140]	38	-	長石・石英	明赤褐	普通	口縁部外・内面横ナテ 内面横位のハケ目→斜位のハケ目 脚部外面縦位のハケ目 内面横位のハケ目→斜位のハケ目	C 6e7 第8層	5%
29	土師器	壺	-	(30)	-	長石・石英	明赤褐	普通	外・内面横ナテ	C 6e5 第8層	5% PL39
30	土師器	甕	282	(224)	-	長石・石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	複合口縁 口縁部外・内面横ナテ 体部外・内面へう割り→ナテ 外・内面横ナテ	C 6e6 第7層・8層	40% PL29
31	土師器	甕	[224]	(44)	-	長石・石英	橙	普通	外・内面横ナテ	C 6e5 第8層	10%
32	土師器	甕	[158]	(38)	-	長石・石英・赤母・赤色粒子	明赤褐	普通	複合口縁 口縁部外面横ナテ 内面横位のハケ目→斜位のハケ目 脚部外面縦位のハケ目 内面横位のハケ目→斜位のハケ目	C 6e6 第7層	5%
33	土師器	甕	-	(24)	64	長石・石英	明赤褐	普通	外・内面へう割り→ナテ	C 6e6 第8層	10% 外面わずかに赤彩
34	土師器	甕	-	(22)	40	長石・石英・赤母・赤色粒子	にぶい橙	普通	外・内面へう割り→ナテ	C 6e7 第7層	5% 外面わずかに赤彩
35	土師器	甕	-	(23)	57	長石・石英・赤母	橙	普通	外・内面へう割り→ナテ	C 6e6 第7層	10% PL29
36	土師器	甕	-	(17)	[34]	長石・石英・赤母・赤色粒子	橙	普通	外・内面ナテ 内面に押痕 砥石転用	C 6e6 第8層	10% PL38

4 室町時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、土坑7基を確認した。以下、遺構の形状や遺物の出土状況が特徴的な4基について詳述し、それ以外は一覧表で掲載する。

土坑

第136号土坑（第104図）

位置 調査区中央部のB 4e3区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

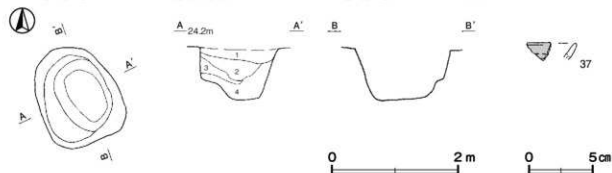
規模と形状 長径160m、短径128mの楕円形で、長径方向はN-37°-Wである。深さは85cmで、底面はほぼ平坦である。壁は緩やかに立ち上がり、西部にテラス状の段を有している。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック多量（粘性普通、締まり弱）
2 暗褐色 ロームブロック・焼土粒子少量

- 3 暗褐色 ロームブロック多量（粘性普通、締まり強）
4 暗褐色 ロームブロック中量



第104図 第136号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況 陶器片1点(皿)が、覆土中から出土している。

所見 時期は、出土陶器から室町時代と考えられる。人骨の出土はなかったが、形状や覆土の状況から墓坑の可能性はある。

第136号土坑出土遺物観察表(第104図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
37	陶器	皿	-	(1.4)	-	緻密・浅黄	口縁部外面から内面にかけて施釉	灰釉	瀬戸・美濃	覆土中	5% PL40

第363号土坑(第105図)

位置 調査区南東部のC5d5区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第362・364号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第362・364号土坑に掘り込まれているため、北西・南東径は188mしか確認できなかった。北東・南西径は1.28mで、楕円形と推定できる。北西・南東径方向はN-55°-Wである。深さは12cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

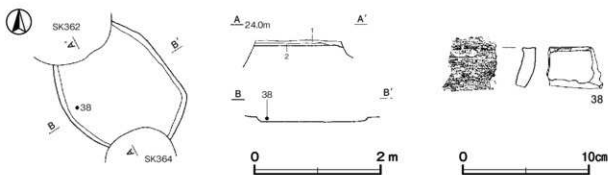
覆土 2層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 2 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(内耳鍋)が、覆土第2層から出土している。

所見 時期は、出土土器から室町時代と考えられる。人骨の出土はなかったが、形状や覆土の状況から墓坑の可能性はある。



第105図 第363号土坑・出土遺物実測図

第363号土坑出土遺物観察表(第105図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考	
38	土師質土器	内耳鍋	-	(3.1)	-	長石・石英・雲母・赤鉄粒子	赤い橙	普通	外・内面ナデ	覆土第2層	5%

第400号土坑(第106図)

位置 調査区中央部のB4a1区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.98m、短径1.73mの楕円形で、長径方向はN-46°-Wである。深さは29cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

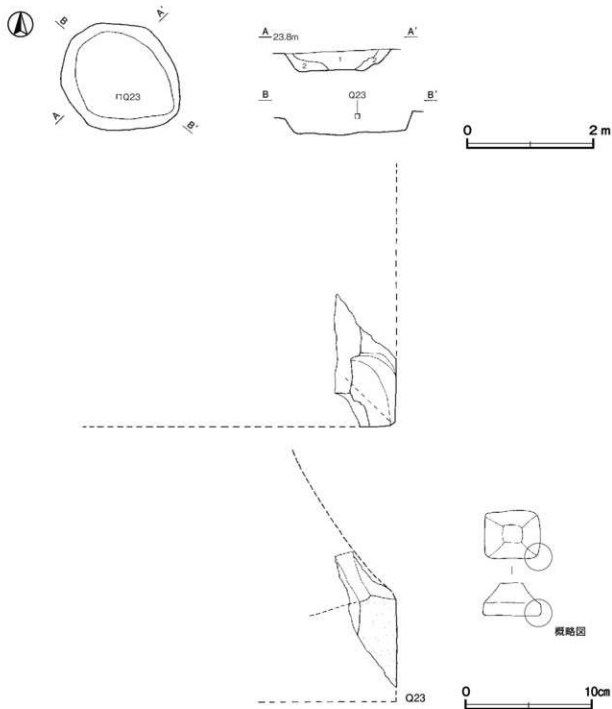
覆土 2層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(鉢)、陶器片1点(碗)、石器1点(砥石)、石製品片1点(石塔火輪部₉)が、覆土中から出土している。Q 23は覆土第1層から出土している。そのほか、土師質土器片、陶器片、砥石は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土遺物から室町時代と考えられる。人骨の出土はなかったが、形状や覆土の状況、出土遺物から墓坑の可能性がある。



第106図 第400号土坑・出土遺物実測図

第400号土坑出土遺物観察表(第106図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q23	石帯	(10.3)	(5.8)	(11.0)	(331.7)	花崗岩	軒先明瞭 根根内反	覆土第1層	古輪塚の大輪部。P4.29

第486号土坑(第107図)

位置 調査区南東部のC6e5区、標高21mほどの台地斜面部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層(古墳時代の遺物包含層)を掘り込んでいる。

規模と形状 長径0.70m、短径0.50mの楕円形で、長径方向はN-50°-Wである。深さは22cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

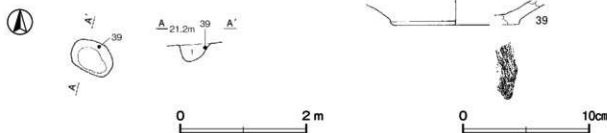
覆土 単一層である。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点(鉢)が、北壁際の覆土中層から出土している。

所見 時期は、出土土器から室町時代と考えられる。人骨の出土はなかったが、形状や覆土の状況から墓坑の可能性はある。



第107図 第486号土坑・出土遺物実測図

第486号土坑出土遺物観察表(第107図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	数	はか	出土位置	備考
39	土師質土器	鉢	-	(20)	(10)	長石・石英	紅・赤黒	普通	外・内面ロクロナデ			覆土中層	5% P4.29

表11 室町時代土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
136	B4e3	N-37°-W	楕円形	1.60×1.28	85	平坦	縦斜・有段	人為	陶器	
166	B4b2	N-34°-E	楕円形	2.28×1.70	125	皿状	縦斜・有段	人為	土師質土器	SK41→F8→SD2
308	B4b9	N-49°-E	楕円形	0.96×0.84	83	皿状	縦斜・有段	人為	土師質土器	SK310→本跡ピット1か所
363	C5d5	N-55°-W	[楕円形]	1.88×1.28	12	平坦	縦斜	人為	土師質土器	本跡→SK362・364
400	B4a1	N-46°-W	楕円形	1.98×1.73	29	平坦	外傾	人為	土師質土器、陶器、磁石、石帯火輪	
441	B4b3	-	円形	1.74×1.72	34	平坦	外傾	人為		本跡→SK166 SD2
486	C6e5	N-50°-W	楕円形	0.70×0.50	22	皿状	縦斜	人為	土師質土器	HG1→本跡

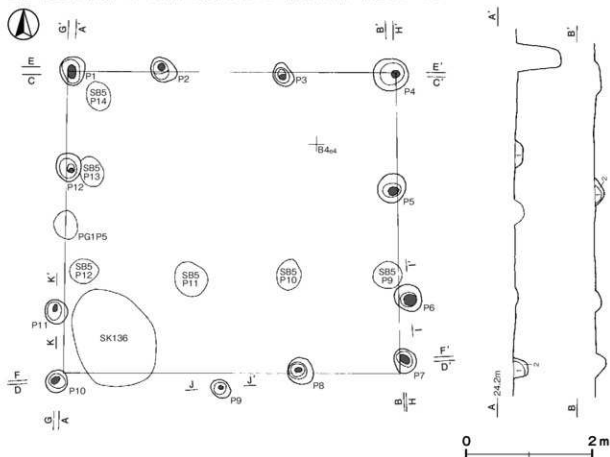
5 江戸時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、掘立柱建物跡5棟、土坑48基、溝跡9条を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 掘立柱建物跡

第1号掘立柱建物跡 (第108・109図)

位置 調査区中央部のB4d3区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。



第108図 第1号掘立柱建物跡実測図(1)

重複関係 第5号掘立柱建物、第136号土坑、第1号ピット群P5と重複しているが、新旧は不明である。

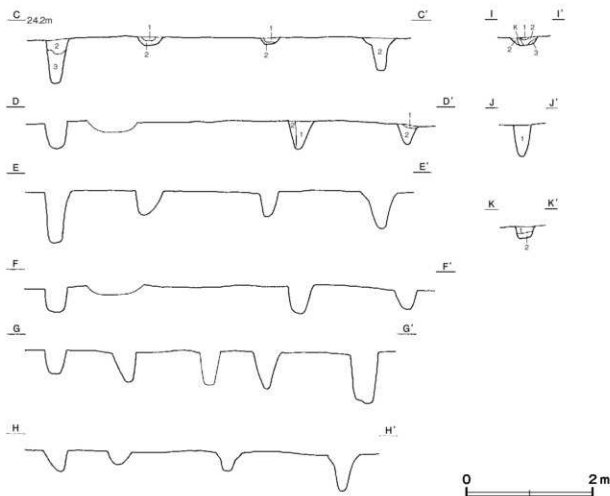
規模と構造 桁行3間、梁行3間の側柱建物跡で、桁行方向が $N-87^{\circ}-E$ の東西棟である。規模は桁行5.20m、梁行4.80mで、面積は24.96 m^2 である。柱間寸法は、桁行が西妻から1.5m(5尺)・1.9m(6尺)・1.8m(6尺)で、梁行が北平から1.9m(6尺)・1.7m(6尺)・1.2m(4尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 12か所。平面形は円形ないし楕円形で、長径32～60cm、短径28～52cm、深さ22～82cmで、掘方の断面はU字状である。堆積状況から、第1層は柱抜き取り後の覆土で、第2・3層は埋土である。

柱穴土層解説 (各柱穴共通)

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | 3 明褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 土師質土器片1点(小皿)がP10から出土している。土師質土器片は細片のため、図示できなかった。



第109図 第1号掘立柱建物跡実測図(2)

所見 時期は、出土遺物が細片であるため不明であるが、近接する溝と同軸であり、同時期と考えられることから、17世紀代と考えられる。柱穴が方形に配置された形状や、周囲に墓坑と考えられる土坑が存在していることなどから、小堂的な建物と考えられる。

第2号掘立柱建物跡(第110図)

位置 調査区中央部のB4h6区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第204号土坑に掘り込まれ、第171号土坑、第1号ピット群P10と重複しているが、新旧は不明である。

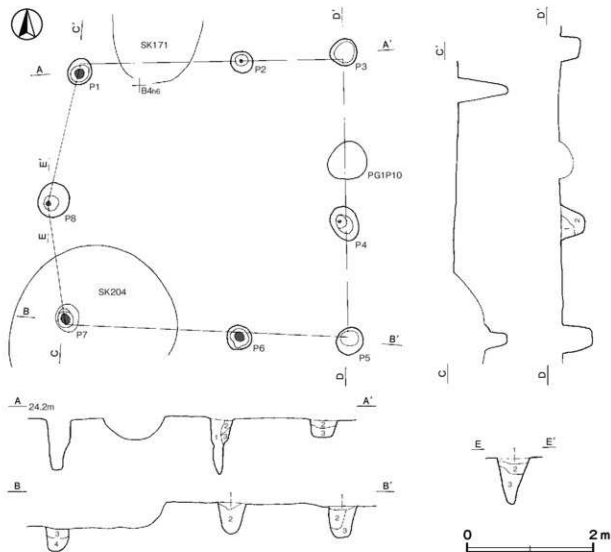
規模と構造 桁行2間、梁行2間の側柱建物跡で、桁行方向が $N-0^\circ$ の南北棟である。規模は桁行4.50m、梁行4.50mで、面積は20.25 m^2 である。柱間寸法は、桁行が北妻から2.6m(9尺) \cdot 1.9m(6尺)で、梁行が西平から2.7m(9尺) \cdot 1.8m(6尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 8か所。平面形は円形ないし楕円形で、長径38~62cm、短径28~32cm、深さ31~91cmで、掘方の断面はU字状である。堆積状況から、第1層は柱抜き取り後の覆土で、第2~4層は埋め土である。

柱穴土層解説(各柱穴共通)

- | | | | |
|-------|-----------|-------|-----------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量 | 3 褐色 | ロームブロック多量 |
| 2 褐色 | ロームブロック少量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量 |

所見 時期は、出土遺物がなかったが、近接する溝と同軸であり、同時期と考えられることから、17世紀代と考えられる。ほぼ方形の形状や、周囲に墓坑と考えられる土坑が存在していることから、小堂的な建物と考えられる。また、墓坑の可能性のある第204号土坑に掘り込まれ、第1号掘立柱建物跡と似た構造の建物であることから、第1号掘立柱建物に改築する以前の小堂の可能性がある。



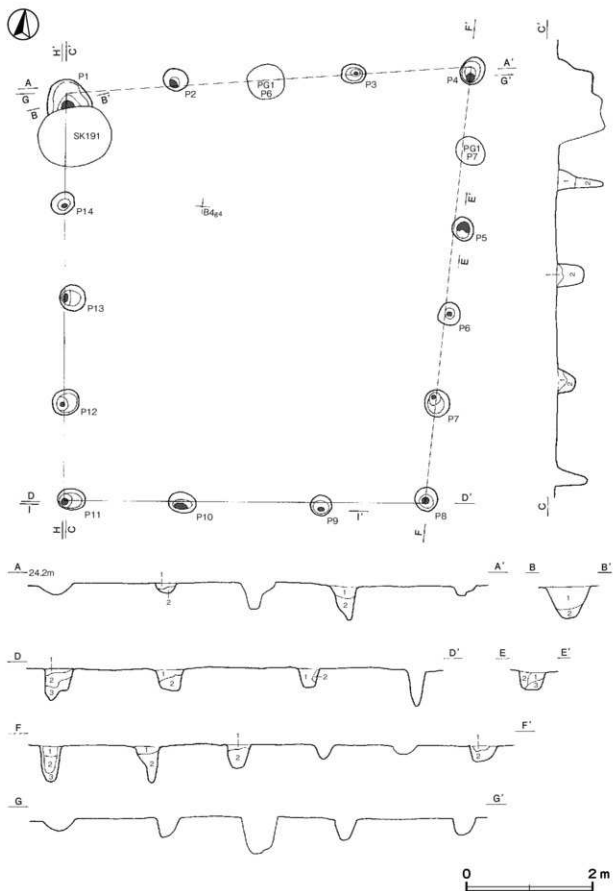
第110図 第2号掘立柱建物跡実測図

第3号掘立柱建物跡 (第111・112図)

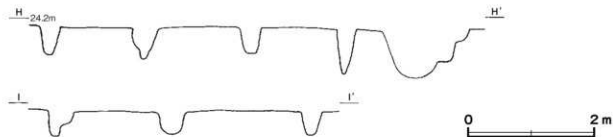
位置 調査区中央部のB4区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第191号土坑に掘り込まれ、第1号ピット群P6・P7と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と構造 桁行4間、梁行3間の側柱建物跡で、桁行方向がN-4°-Eの南北棟である。規模は桁行6.90m、梁行6.44mで、面積は44.44㎡である。柱間寸法は、桁行が北妻から2.6m(9尺)・1.3m(5尺)・1.5m(5尺)・1.5m(5尺)で、梁行が西平から1.8m(6尺)・2.8m(9尺)・1.8m(6尺)で、柱筋はほぼ揃っているが、不整形な矩形である。



第111图 第3号掘立柱建物跡実測图(1)



第112図 第3号掘立柱建物跡実測図(2)

柱穴 14か所。平面形は円形ないし楕円形で、長径22～42cm、短径22～28cm、深さ18～68cmで、掘方の断面はU字状である。堆積状況から、第1層は柱抜き取り後の覆土で、第2・3層は埋土である。

柱穴土層解説(各柱穴共通)

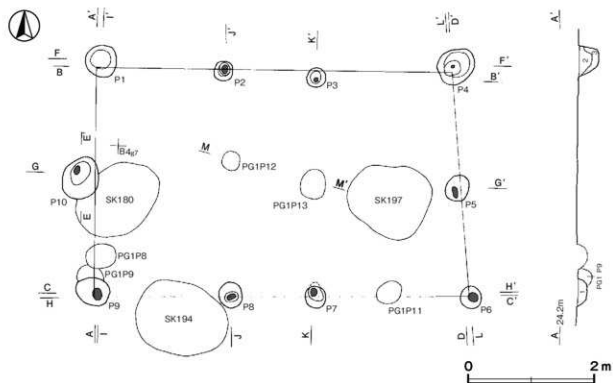
- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 3 明褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | | |

所見 時期は、出土遺物がなかったが、近接する溝と同軸のため、同時期と考えられることから、17世紀代と考えられる。掘立柱建物跡に比べ規模が大きいが、不整な矩形であることから、性格は不明である。

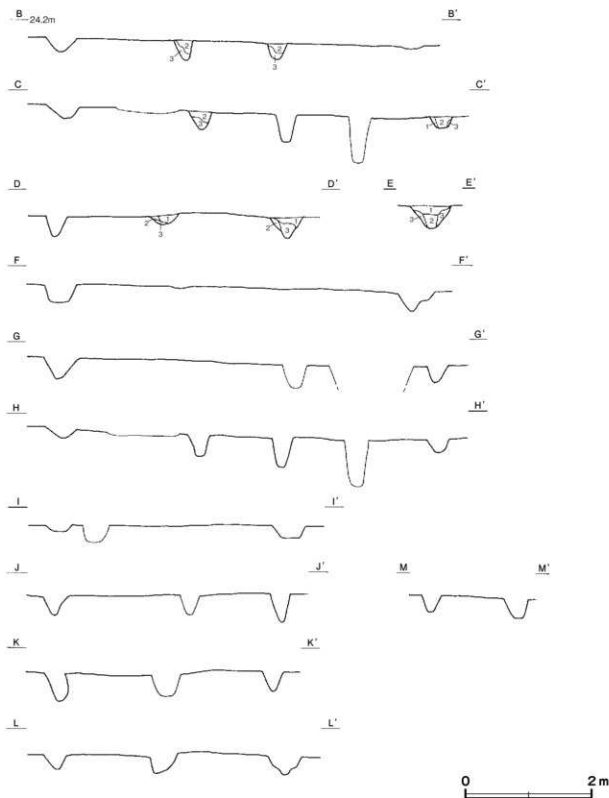
第4号掘立柱建物跡(第113・114図)

位置 調査区中央部のB46区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第180号土坑、第1号ビット群P9を掘り込み、第194・197号土坑、第1号ビット群P8・P11～P13と重複しているが、新旧は不明である。



第113図 第4号掘立柱建物跡実測図(1)



第114図 第4号掘立柱建物跡実測図(2)

規模と構造 桁行3間、梁行2間の掘立柱建物跡で、桁行方向が $N-87^{\circ}-E$ の東西棟である。規模は桁行6.02m、梁行3.60mで、面積は21.67 m^2 である。柱間寸法は、桁行が西妻から2.2m(7尺)・1.3m(4尺)・2.5m(8尺)で、梁行が北平から1.7m(6尺)・1.9m(6尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 10か所。平面形は円形ないし楕円形で、長径28～62cm、短径26～52cm、深さ13～48cmで、掘方の断面はU字状である。堆積状況から、第1層は柱抜き取り後の覆土で、第2・3層は埋土である。

柱穴土層解説 (P 10 以外各柱穴共通)

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 3 明褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

P10 土層解説

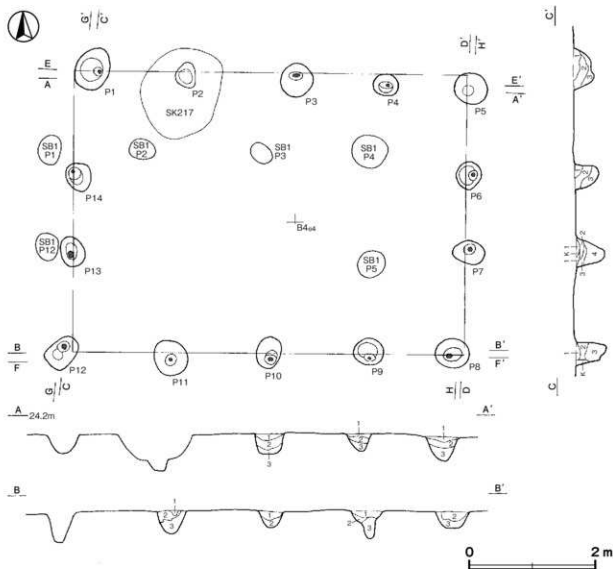
- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 3 明褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | | |

所見 時期は、出土遺物がなかったが、近接する溝と同軸であり、同時期と考えられることから、17世紀代と考えられる。形状から倉庫的な建物が考えられる。

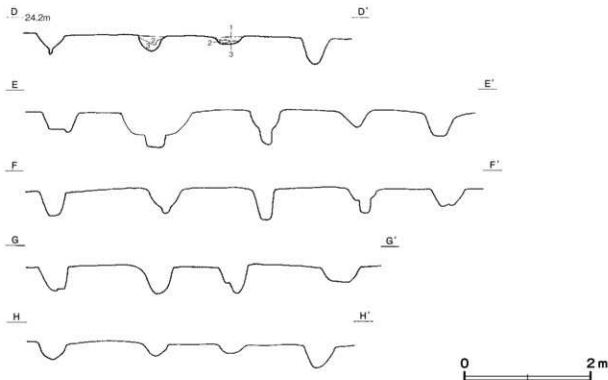
第5号掘立柱建物跡 (第115・116図)

位置 調査区中央部のB4d3区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第217号土坑に掘り込まれ、第1号掘立柱建物と重複しているが、新旧は不明である。



第115図 第5号掘立柱建物跡実測図(1)



第116図 第5号掘立柱建物跡実測図(2)

規模と構造 桁行4間、梁行3間の掘立柱建物跡で、桁行方向がN-87°-Eの東西棟である。規模は桁行6.20m、梁行4.40mで、面積は27.28㎡である。柱間寸法は、桁行が西妻から1.8m(6尺)・1.7m(6尺)・1.4m(5尺)・1.3m(5尺)で、梁行が北平から1.5m(5尺)・1.2m(6尺)・1.7m(6尺)で、柱筋はほぼ揃っている。

柱穴 14か所。平面形は円形ないし楕円形で、長径36～68cmで、短径は36～54cmで、深さは28～54cmで、掘方の断面は箱型またはU字状である。堆積状況から、第1層は柱抜き取り後の覆土で、第2・3層は埋土である。

柱穴土層解説(各柱穴共通)

- 1 箱 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
 2 箱 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
 3 箱 褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量
 4 明 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

所見 時期は、出土遺物がなかったが、近接する溝と同軸であり、時期が近いと考えられることから、17世紀代と考えられる。また、墓坑と考えられる第217号土坑に掘り込まれ、第1号掘立柱建物と重複していることから、第1号掘立柱建物より古い時期の可能性が有る。形状からは、倉庫的な建物と考えられる。

表12 江戸時代掘立柱建物跡一覧表

番号	位置	桁行方向	柱間数		規模	面積 (㎡)	柱間寸法			柱 穴		主な出土遺物	時期	備 考
			桁×梁間	桁×梁			桁間(m)	梁間(m)	構造	柱穴数	平面形			
1	B 4/3	N-87°-E	3×3	5.20×4.80	24.96	1.5～1.9	1.2～1.9	欄柱	12	円形・楕円形	22～82	土師質土器	17世紀代	
2	B 4/6	N-0°	2×2	4.50×4.50	20.25	1.9～2.6	1.8～2.7	欄柱	8	円形・楕円形	31～91	-	17世紀代	本跡→SK204
3	B 4/3	N-4°-E	4×3	6.90×6.44	44.44	1.3～2.6	1.8～2.8	欄柱	14	円形・楕円形	18～68	-	17世紀代	本跡→SK191
4	B 4/6	N-87°-E	3×2	6.02×3.60	21.67	1.3～2.5	1.7～1.9	欄柱	10	円形・楕円形	13～48	-	17世紀代	SK180、PG 1F 9→ 5層
5	B 4/3	N-87°-E	4×3	6.20×4.40	27.28	1.3～1.8	1.2～1.7	欄柱	14	円形・楕円形	28～54	-	17世紀代	本跡→SK217

(2) 土坑

今回の調査で、出土遺物や形状、覆土の状況から、江戸時代とみられる土坑 48 基を確認した。以下、遺構の形状や遺物の出土状況が特徴的な 21 基について詳述し、それ以外は一覧表で掲載する。

第 81 号土坑（第 117 図）

位置 調査区北西部の A 3 h6 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 3 号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.50 m、短径 1.18 m の楕円形で、長径方向は $N - 65^\circ - W$ である。深さは 26 cm で、底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

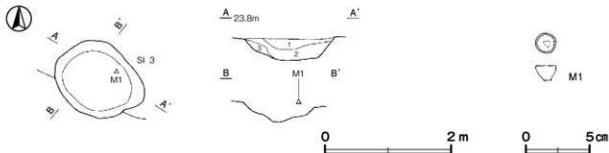
覆土 3 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 3 明褐色 ロームブロック多量
2 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 金属製品 1 点（煙管）が覆土第 1 層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から 17 世紀後半と考えられる。人骨の出土はなかったが、形状や覆土の状況から墓坑の可能性がある。



第 117 図 第 81 号土坑・出土遺物実測図

第 81 号土坑出土遺物観察表（第 117 図）

番号	器種	径	高さ	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 1	煙管	1.6	(1.2)	0.1	(291)	銅	火頭部・鍛造	覆土第 1 層	古泉館年 1 期

第 103 号土坑（第 118 図）

位置 調査区北西部の A 4 i2 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 調査区域外へ延びているため、北西・南東軸は 1.52 m で、北東・南西軸は 1.47 m しか確認できなかった。隅丸長方形と推定でき、北東・南西軸方向は $N - 20^\circ - E$ である。深さは 26 cm で、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

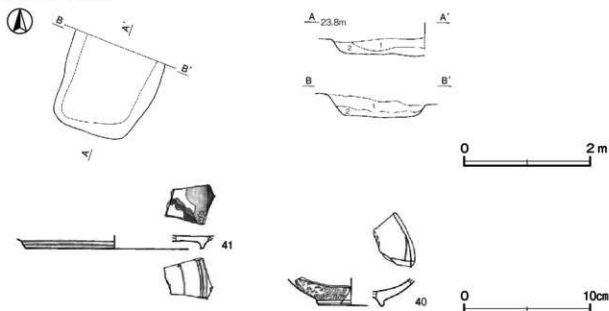
覆土 2 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 磁器片 2 点（碗・皿）が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土磁器から19世紀中葉と考えられる。人骨の出土はなかったが、形状や覆土の状況から墓坑の可能性がある。



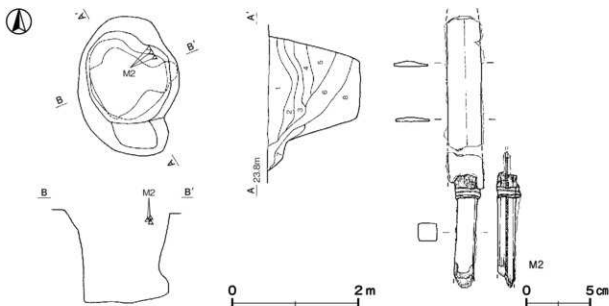
第118図 第103号土坑・出土遺物実測図

第103号土坑出土遺物観察表(第118図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
40	磁器	碗	-	(22)	[50]	細密・灰白	体部外面松文 区画間文 下縁輪目文 内面磨釉文	透明軸	肥前	覆土中	10% PL41
41	磁器	皿	-	(10)	[142]	細密・灰白	底面外面磨釉文 内面草花文 高台一面磨釉文	透明軸	肥前	覆土中	5% PL41

第106号土坑(第119図)

位置 調査区北西部のB3b7区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。



第119図 第106号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 長径 2.28 m、短径 1.64 m の不整楕円形で、長径方向は N-5°-W である。深さは 1.46 m で、底面はほぼ平坦である。壁は、南部に段を有し、西部は中位まで直立し、上位は外傾して立ち上がっている。東部は、下位が内湾し、中位から上位にかけて外傾して立ち上がっている。

覆土 8 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|---------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 に近い褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 7 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 4 明褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 8 明褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 鉄器片 1 点（槍先）が北東部の覆土第 1 層から出土している。

所見 時期は、出土遺物や遺構の形状から江戸時代と考えられる。人骨の出土はなかったが、形状や覆土の状況から、墓坑の可能性がある。

第 106 号土坑出土遺物観察表（第 119 図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M.2	槍先	(21.6)	2.8	1.4	(71.54)	鉄	製造 先端部・柄部欠損 柄部 2 枚板にはさみ針状金具による装着	覆土第 1 層	PL41

第 128 号土坑（第 120 図）

位置 調査区中央部の B 4 b5 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 1.66 m、短径 1.42 m の不整楕円形で、長径方向は N-69°-E である。深さは 62cm で、底面はほぼ平坦である。壁は段を有し、外傾して立ち上がっている。

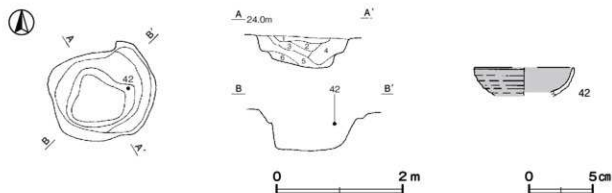
覆土 6 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |

遺物出土状況 陶器片 1 点（灯明皿）、金属製品片 1 点（煙管吸口）が出土している。42 は、東壁際の覆土第 4 層から出土している。金属製品は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土陶器から 18 世紀後半以降と考えられる。人骨の出土はなかったが、形状や覆土の状況から、墓坑の可能性がある。



第 120 図 第 128 号土坑・出土遺物実測図

第128号土坑出土遺物観察表(第120図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸葉	産地	出土位置	備考
42	陶器	灯明皿	[78]	(23)	-	緻密・にぶい黄褐色	ロクロナデ 外・内面施軸	鉄軸	瀬戸・美濃	覆土第4層	10% おずかに油煙臭

第158号土坑(第121図)

位置 調査区中央部のB4g4区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第3号掘立柱建物と重複している。

規模と形状 長径1.37m、短径1.30mの円形である。深さは93cmで、底面はほぼ平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

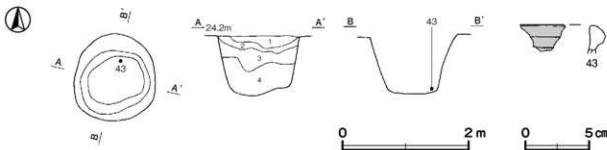
覆土 4層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 2 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
 3 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
 4 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 陶器片1点(搔鉢)が出土している。43は、北壁際の底面から出土している。

所見 時期は、出土陶器から江戸時代後期と考えられる。形状や覆土の状況から、墓坑の可能性がある。



第121図 第158号土坑・出土遺物実測図

第158号土坑出土遺物観察表(第121図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸葉	産地	出土位置	備考
43	陶器	搔鉢	-	(22)	-	緻密・にぶい黄褐色	有段口径 外・内面施軸	鉄軸	瀬戸・美濃	底面	5%

第172号土坑(第122図)

位置 調査区中央部のB4h5区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.50m、短径1.20mの楕円形で、長径方向はN-57°-Eである。深さは40cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

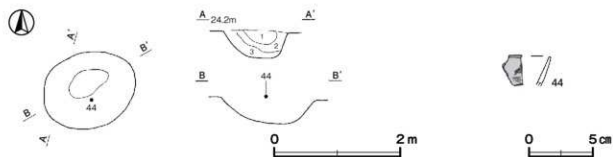
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
 2 褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 3 明褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 陶器片1点(碗)が出土している。44は、南壁際の覆土第1層から出土している。

所見 時期は、出土陶器から17世紀代と考えられる。性格は不明である。



第 122 図 第 172 号土坑・出土遺物実測図

第 172 号土坑出土遺物観察表 (第 122 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪業	産地	出土位置	備考
44	陶器	碗	-	(24)	-	黄赤・にぶい黄赤	外・内面輪轆 草花文*	黄轆	瀬戸・美濃	覆土第1層	5%

第 197 号土坑 (第 123 図)

位置 調査区中央部の B 4 g8 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 4 号掘立柱建物と重複している。

規模と形状 長径 130 m、短径 1.18 m の楕円形で、長径方向は $N-50^{\circ}-W$ である。深さは 1.06 m で、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

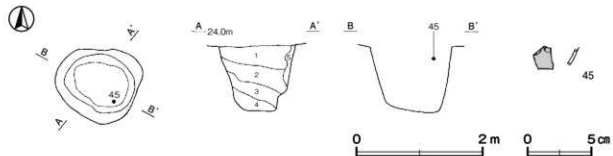
覆土 5 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量 | 5 明褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 陶器片 1 点 (碗) が出土している。45 は、南壁際の覆土第 1 層から出土している。

所見 時期は、出土陶器から江戸時代後期と考えられる。人骨の出土はなかったが、形状や覆土の状況から、墓坑の可能性はある。



第 123 図 第 197 号土坑・出土遺物実測図

第 197 号土坑出土遺物観察表 (第 123 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪業	産地	出土位置	備考
45	陶器	碗	-	(1.6)	-	黄赤・灰白	外・内面輪轆 鉄絵	灰轆	瀬戸・美濃	覆土第1層	5%

第 204 号土坑 (第 124 図)

位置 調査区中央部の B 4 h5 区、標高 25 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 2 号掘立柱建物跡 P 7、第 320 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 2.68 m、短径 2.48 m の楕円形で、長径方向は $N-55^{\circ}-E$ である。深さは 50 cm で、底面は凹凸である。壁は緩やかに立ち上がっている。

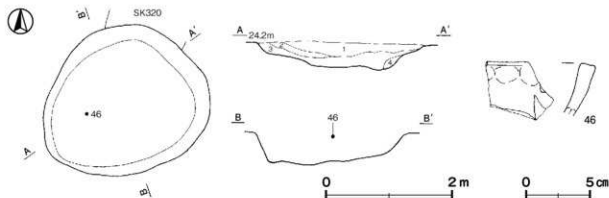
覆土 4 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 4 明褐色 | ロームブロック多量 |

遺物出土状況 土師質土器片 1 点 (焙烙)、陶器片 2 点 (碗)、自然礫 3 点、炭化材 1 点が出土している。46 は、南西部の覆土第 1 層から出土している。陶器は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土遺物から 17 世紀後半と考えられる。性格は不明である。



第 124 図 第 204 号土坑・出土遺物実測図

第 204 号土坑出土遺物観察表 (第 124 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	構成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
46	土師質土器	焙烙	-	(4.3)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にお濁	普通	口縁部外面指頭によるナデ 体部外・内面横ナ	覆土第 1 層	5%

第 217 号土坑 (第 125 図)

位置 調査区中央部の B 4 d3 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 5 号掘立柱建物跡 P 2 を掘り込んでいる。

規模と形状 長径 1.48 m、短径 1.20 m の楕円形で、長径方向は $N-24^{\circ}-E$ である。深さは 43 cm で、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

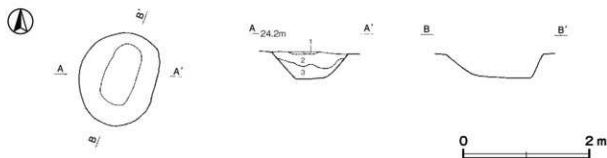
覆土 3 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 3 明褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 陶器片 1 点 (碗) が覆土中から出土している。陶器は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土陶器から江戸時代後期と考えられる。性格は不明である。



第125図 第217号土坑実測図

第218号土坑 (第126図)

位置 調査区中央部のB4h5区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第174・182号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 長径130m、短径128mの円形である。深さは66cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

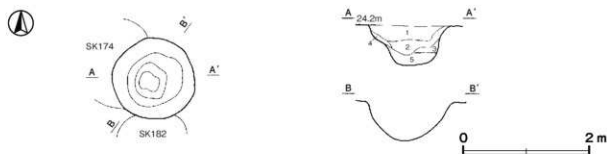
覆土 5層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 5 明褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 金属製品1点(不明鉄片)が覆土中から出土している。

所見 時期の決定できる出土遺物はなかったが、墓坑の可能性がある。形状や覆土の状況から江戸時代と考えられる。



第126図 第218号土坑実測図

第222号土坑 (第127図)

位置 調査区中央部のB4h1区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第4号堅穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 径128mの円形である。深さは63cmで、底面はほぼ平坦である。壁は、北東部は直立し、そのほかは外傾して立ち上がっている。

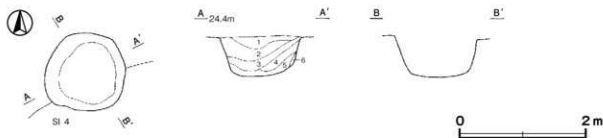
覆土 6層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|------------------|
| 1 黒褐色 | ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 4 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 5 褐色 | ロームブロック多量 |
| 3 黒褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 6 明褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 瓦質土器片1点(鉢)、陶器片1点(碗)が、覆土中から出土している。出土遺物は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土遺物から江戸時代と考えられる。人骨の出土はなかったが、形状や覆土の状況から墓坑の可能性はある。



第127図 第222号土坑実測図

第287号土坑(第128図)

位置 調査区中央部のB49区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.62m、短径1.32mの隅丸長方形で、長径方向はN-56°-Eである。深さは35cmで、底面は皿状である。壁は緩やかに立ち上がっている。

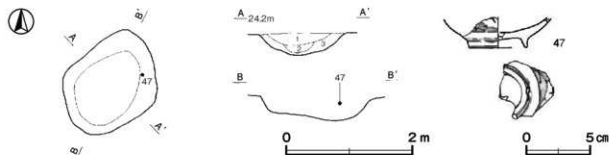
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|-----------------------|------|-----------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 | 3 褐色 | ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 2 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 | | |

遺物出土状況 磁器片1点(碗)が、東壁際の覆土第1層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から17世紀後半と考えられる。人骨の出土はなかったが、形状や覆土の状況から、墓坑の可能性はある。



第128図 第287号土坑・出土遺物実測図

第287号土坑出土遺物観察表(第128図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
47	磁器	碗	-	(2.5)	[4.6]	緻密・灰白	発行準備 体部外周区画刻文内区・輪文。高台部二重輪刻文 底花輪刻文	透明釉	肥前	覆土第1層	10% PL40

第302号土坑（第129図）

位置 調査区中央部のB5h1区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径0.92m、短径0.82mの楕円形で、長径方向はN-65°-Wである。深さは18cmで、底面は平坦である。壁は緩やかに立ち上がっている。

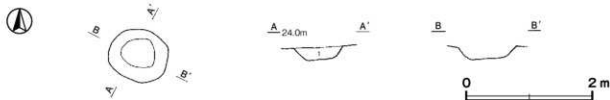
覆土 単一層である。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 陶器片1点（碗）が覆土中から出土している。出土遺物は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土遺物から江戸時代と考えられる。性格は不明である。



第129図 第302号土坑実測図

第321号土坑（第130図）

位置 調査区中央部のB4j8区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第322号土坑を掘り込み、第309号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第309号土坑に掘り込まれているが、長軸1.40m、短軸0.76mの隅丸長方形と推定でき、長軸方向はN-80°-Wである。深さは12cmで、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

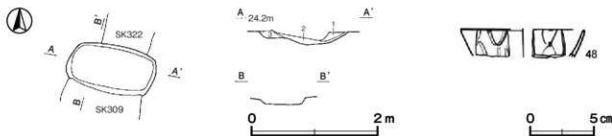
1 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

2 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

3 明褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 磁器片1点（碗）が覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物から18世紀後半と考えられる。人骨の出土はなかったが、形状や覆土の状況から墓坑の可能性がある。



第130図 第321号土坑・出土遺物実測図

第321号土坑出土遺物観察表（第130図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	釉薬	産地	出土位置	備考
48	磁器	碗	[100]	(22)	-	細密・灰白	傘付華籠 外・内面二重刺目文	透明釉	肥前	覆土中	5% PL40

第 322 号土坑 (第 131 図)

位置 調査区中央部の B 4 8 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第 323 号土坑を掘り込み、第 321 号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 第 321 号土坑に掘り込まれているため、東西軸は 0.82 m、南北軸は 1.06 m しか確認できなかった。隅丸長方形と推定できる。長軸方向は N-21°-E である。深さは 16 cm で、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

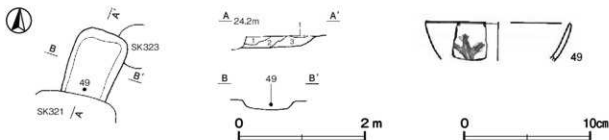
覆土 3 層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量
2 褐色 ロームブロック中量、焼土粒子微量
3 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 磁器片 1 点 (碗) が、覆土第 3 層から出土している。

所見 時期は、出土磁器から 18 世紀中葉と考えられる。人骨の出土はなかったが、形状や覆土の状況から、墓坑の可能性はある。



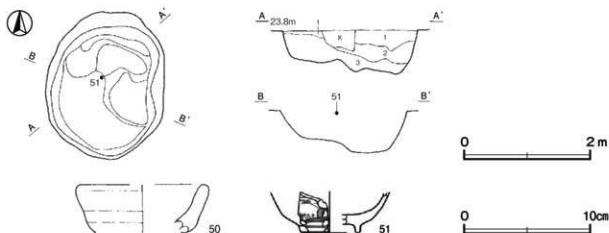
第 131 図 第 322 号土坑・出土遺物実測図

第 322 号土坑出土遺物観察表 (第 131 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	軸差	産地	出土位置	備考	
49	磁器	碗	[114]	(3.1)	-	緻密・灰白	糸付筆描 外面松文		透明釉	肥前	覆土第 3 層	5% PL40

第 407 号土坑 (第 132 図)

位置 調査区中央部の B 5 b 8 区、標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。



第 132 図 第 407 号土坑・出土遺物実測図

規模と形状 長径 232 m, 短径 180 m の楕円形で, 長径方向は N-5°-E である。深さは 68cm で, 底面はほぼ平坦である。壁は西部に段を有し, 緩やかに立ち上がり, そのほかは外傾して立ち上がっている。

覆土 3層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量 3 褐 色 ロームブロック多量
2 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子微量

遺物出土状況 瓦質土器片 1点 (鉢), 磁器片 1点 (碗) が出土している。51 はほぼ中央部の覆土第 1層, 50 は覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土遺物から 18 世紀前半と考えられる。人骨の出土はなかったが, 形状や覆土の状況から墓坑の可能性がある。

第 407 号土坑出土遺物観察表 (第 132 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	地成	手法の特徴	備考	
50	瓦質土器	鉢	(99)	(39)	-	長石・石英・雲母	にひ・赤黒	普通	外・内面横ナデ	覆土中 5%	
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪業	産地	出土位置	備考
51	磁器	碗	-	(22)	(46)	細密・灰白	金付華輪 透繪文	透明輪	肥前	覆土第 1層	5% PL40

第 420 号土坑 (第 133 図)

位置 調査区中央部の B5i9 区, 標高 24 m ほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径 156 m, 短径 132 m の楕円形で, 長径方向は N-25°-E である。深さは 43cm で, 底面はほぼ平坦である。壁は東部はほぼ直立し, 西部は外傾して立ち上がっている。

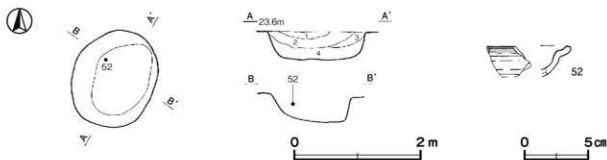
覆土 4層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗 褐 色 ロームブロック中量, 焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量 4 黒 褐 色 ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片 1点 (鉢), 陶器片 1点 (皿) が出土している。52 は, 北西壁際の覆土第 2層から出土している。土師質土器片は細片のため, 図示できなかった。

所見 時期は, 出土陶器から 17 世紀後半と考えられる。人骨の出土はなかったが, 形状や覆土の状況から, 墓坑の可能性がある。



第 133 図 第 420 号土坑・出土遺物実測図

第 420 号土坑出土遺物観察表 (第 133 図)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
52	陶器	小皿	-	(25)	-	細密・灰白	折縁口縁 口下子字字 口縁部外・内	灰軸	瀬戸・美濃	覆土第 2 層	5%

表 13 江戸時代土坑一覽表

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	傾 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
81	A 3b6	N-65°-W	楕円形	1.50×1.18	26	皿状	縦斜	人為	銅製品	SI 3→本跡
103	A 4c2	N-20°-E	[隅丸長方形]	1.52×(1.47)	26	平坦	外傾	人為	磁器	
106	B 3b7	N-5°-W	不整形四角形	2.28×1.64	146	平坦	右段・外傾	人為	鉄器	
111	A 3d0	N-75°-W	楕円形	1.74×1.40	126	平坦	直立・外傾	人為		
120	A 4j4	N-20°-W	楕円形	2.23×2.00	96	皿状	縦斜	人為		
128	B 4b5	N-69°-E	不整形四角形	1.66×1.42	62	平坦	右段・外傾	人為	陶器、銅製品	
129	B 4a6	-	円形	1.76×1.70	120	平坦	右段・外傾	人為		
133	A 4j5	N-31°-E	楕円形	1.75×1.35	102	平坦	右段・外傾 直立	人為		
141	B 4c2	N-57°-W	楕円形	1.08×0.84	56	平坦	外傾	人為		
145	B 4g3	N-35°-E	楕円形	1.38×1.18	70	平坦	外傾	人為		
158	B 4g4	-	円形	1.37×1.30	93	平坦	外傾	人為	陶器	
171	B 4g6	-	円形	1.54×1.48	100	平坦	右段・外傾	人為		SK179→本跡
172	B 4b5	N-57°-E	楕円形	1.50×1.20	40	皿状	縦斜	人為	陶器	
186	B 4d1	N-69°-E	楕円形	0.98×0.78	43	平坦	直立・外傾	人為		
191	B 4d3	N-74°-E	楕円形	1.18×0.96	75	平坦	外傾	人為		SB 3、SK215→ 本跡
192	B 4c5	N-47°-E	楕円形	1.42×1.08	69	平坦	右段・外傾	人為		
197	B 4g8	N-50°-W	楕円形	1.30×1.18	106	平坦	外傾	人為		
198	B 4b8	N-71°-W	不整形四角形	2.08×1.88	86	平坦	外傾	人為		
204	B 4b5	N-55°-E	楕円形	2.68×2.48	50	凹凸	縦斜	人為	土師質土器、陶器、自然産、炭化材	SB 2、SK230→本跡
210	B 4c5	-	不整形四角形	1.62×1.52	72	平坦	右段・外傾	人為		
217	B 4d3	N-24°-E	楕円形	1.48×1.20	43	平坦	外傾	人為	陶器	SB 5→本跡
218	B 4b5	-	円形	1.30×1.28	66	皿状	縦斜	人為	鉄製品	SK174・182→本跡
221	B 4b6	N-45°-E	楕円形	1.42×1.27	70	平坦	縦斜	人為		
222	B 4b1	-	円形	1.28×1.28	63	平坦	直立・外傾	人為	瓦質土器、陶器	SI 4→本跡
287	B 4j9	N-56°-E	隅丸長方形	1.62×1.32	35	皿状	縦斜	人為	磁器	
302	B 5h1	N-65°-W	楕円形	0.92×0.82	18	平坦	縦斜	人為	陶器	
309	B 4b8	N-18°-E	[楕円形]	(1.54)×1.30	8	平坦	外傾	人為	陶器	SK251・321→本跡
314	B 4c5	N-19°-E	楕円形	1.02×0.83	51	平坦	外傾	人為		
321	B 4j8	N-18°-E	隅丸長方形	1.40×0.76	12	平坦	外傾	人為	磁器	SK32→本跡-SK309
322	B 4j8	N-21°-E	[隅丸長方形]	(1.06)×0.82	16	平坦	外傾	人為	磁器	SK32→本跡-SK321
340	B 5h1	N-68°-E	楕円形	1.38×1.22	58	平坦	外傾	人為		SK343→本跡
343	B 5h1	N-67°-E	[楕円形]	(1.86)×1.78	62	平坦	外傾	人為		SK379→本跡-SK330
360	C 5a4	N-11°-W	楕円形	1.98×1.10	60 (ビッド部)	平坦	外傾	人為		ビッド 1 か所
362	C 5d5	-	円形	1.50×1.48	84	平坦	外傾	人為		SK363→本跡
364	C 5d5	N-71°-W	楕円形	1.18×1.07	24	平坦	縦斜	人為		SK363→本跡
384	C 5a2	N-5°-E	楕円形	0.82×0.64	30	平坦	直立・外傾	人為	炭化材	SK386→本跡
385	C 5a3	N-81°-W	楕円形	1.38×1.02	68	皿状	右段・外傾	人為		SK386→本跡
386	C 5a3	N-2°-W	[楕円形]	1.20×(0.70)	54	平坦	外傾	人為		本跡→SK384・385
394	B 5g6	N-3°-E	楕円形	1.36×1.20	98	凹凸	外傾	人為		SK421→本跡 ビッド 1 か所

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
404	B 5 f5	N - 13° - W	楕円形	0.60 × 0.54	30	平坦	外堀	人為	陶器	
406	B 5 g8	N - 30° - E	不整形円形	1.48 × 1.15	68	平坦	有段・外堀	人為		
407	B 5 h8	N - 5° - E	楕円形	2.32 × 1.80	68	平坦	有段・外堀	人為	瓦質土器、磁器	
413	B 5 h8	N - 25° - E	楕円形	1.97 × 1.37	98	平坦	有段・外堀	人為	瓦質土器、磁器	SK414 → 本跡
414	B 5 h8	N - 72° - W	[楕円形]	(1.60) × 1.55	14	平坦	外堀	人為		本跡 → SK413
415	B 5 h8	N - 72° - E	楕円形	1.38 × 1.08	122	平坦	有段・外堀	人為		
416	B 5 h8	-	円形	1.08 × 1.03	55	凹状	有段・縦溝	人為		
420	B 5 i9	N - 25° - E	楕円形	1.56 × 1.32	43	平坦	外堀	人為	土師質土器、陶器	
435	B 5 i9	N - 43° - E	楕円形	1.75 × 1.35	74	平坦	外堀	人為		

(3) 溝跡

当時代の溝跡は9条について記述するが、第2・3号溝跡以外の平面図は遺構全体図（付図）に示す。

第2号溝跡（第134～136図）

位置 調査区中央部のA 4 i2～B 4 h1区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第265・374号土坑、第1号ビット群に掘り込まれ、第117・137・143・166・175・246・266・271・373・375・441号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北部と南部が調査区域外へ延びているため、確認できた長さは37.5mである。B 4 h1区からやや蛇行しているが、ほぼ直線的に北方向（N - 10° - E）に延びている。上幅0.80m～3.70m、下幅14～40cmである。深さは22～64cmで北部ほど深くなっている。断面形は南部の一部が浅いU字状、そのほかは菜研状で、底面はほぼ平坦である。

ビット B 4 g1区内の底面に2か所。長径48～52cm、短径41～48cmの円形で、深さ25～45cmである。溝の方向と同軸であるため伴う遺構と考えられる。覆土は、柱抜き取り後に堆積したものである。

ビット土層解説

8 褐 色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 9 暗 褐 色 ロームブロック中量

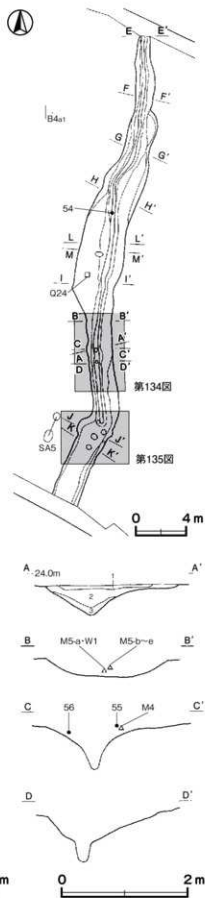
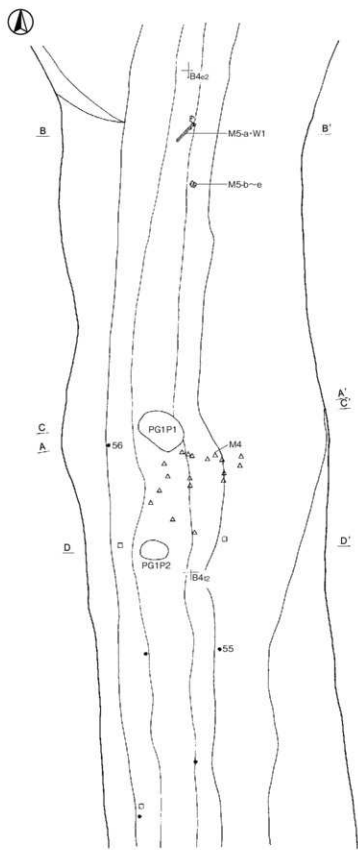
覆土 7層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

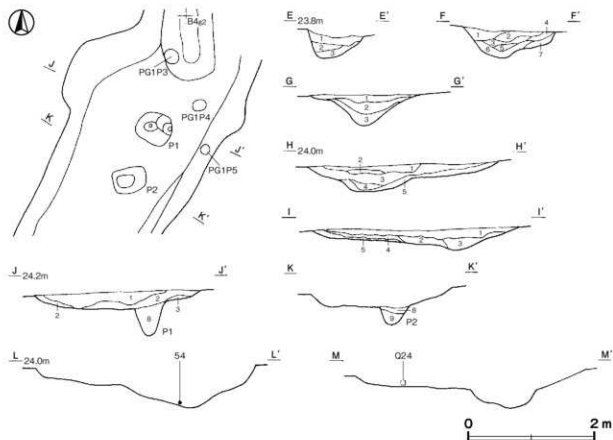
1 暗 褐 色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 5 暗 褐 色 ロームブロック少量
 2 褐 色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 6 褐 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
 3 暗 褐 色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 7 明 褐 色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
 4 暗 褐 色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片13点（小皿11、焙烙1、鉢1）、瓦質土器片1点（鉢）、陶器片5点（碗3、壺1、掃鉢1）、磁器片4点（碗）、石器1点（礫石）、石製品1点（数珠玉）、金属製品19点（煙管1、吊金具1、矢立1、釘1、不明鉄片15）、瓦片1点（平瓦）が出土している。54はB 4 e2区の底面から出土している。55・56・M 4は南部、Q 24はB 4 c1区、M 5・W 1はB 4 e2区内で本体と蓋が散在して、覆土第1層から出土しており、投棄されたものである。そのほかの土師質土器片や瓦質土器片は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土遺物から17世紀後半と考えられる。配置状況から第1～5号掘立柱建物、第3号溝と関連し、地形に合わせて掘り込まれていることから、区画と排水を目的としていると考えられる。ビットの性格は橋脚の一部と考えられる。



第134图 第2号溝跡実測图(1)



第135図 第2号溝跡実測図(2)

第2号溝跡出土遺物観察表(第136図)

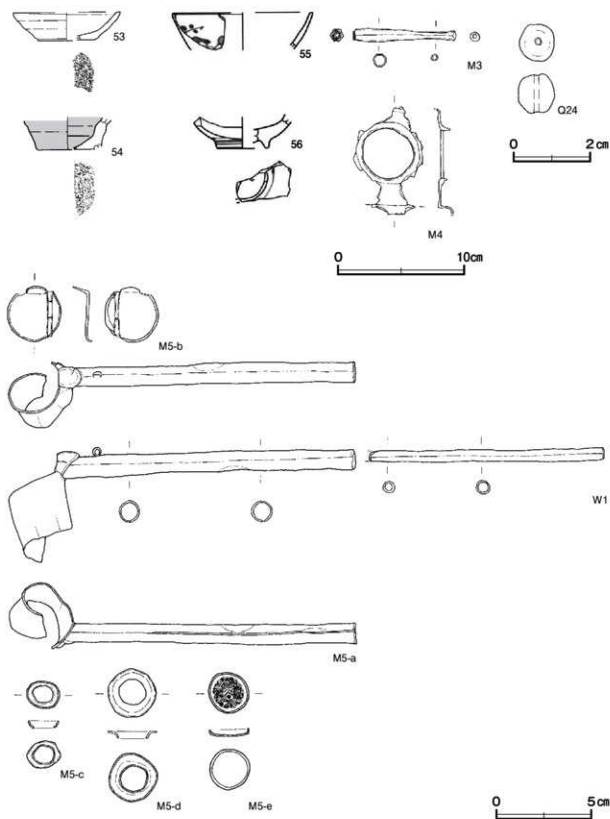
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
53	土師土器	小皿	[8.4]	22	[4.4]	長石・石英・黄緑	普通	底部回転糸切り		覆土中	20%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
54	陶器	仏花瓶	-	[26]	[5.0]	細密・灰黄緑	瓶子丸身形。外・内面施釉 底部回転糸切り	鉄軸	瀬戸・美濃	底面	5% 一部残存 古集層生立層
55	細器	椀	[11.2]	[29]	-	細密・灰白	染付華輪 外面折枝梅文	透明軸	肥前	覆土第1層	10% PL40
56	細器	椀	-	[25]	[4.0]	細密・灰白	染付華輪 体部下層雲南文 高台部外面一重雲南文 内面筋(質感不明)	透明軸	肥前	覆土第1層	10%

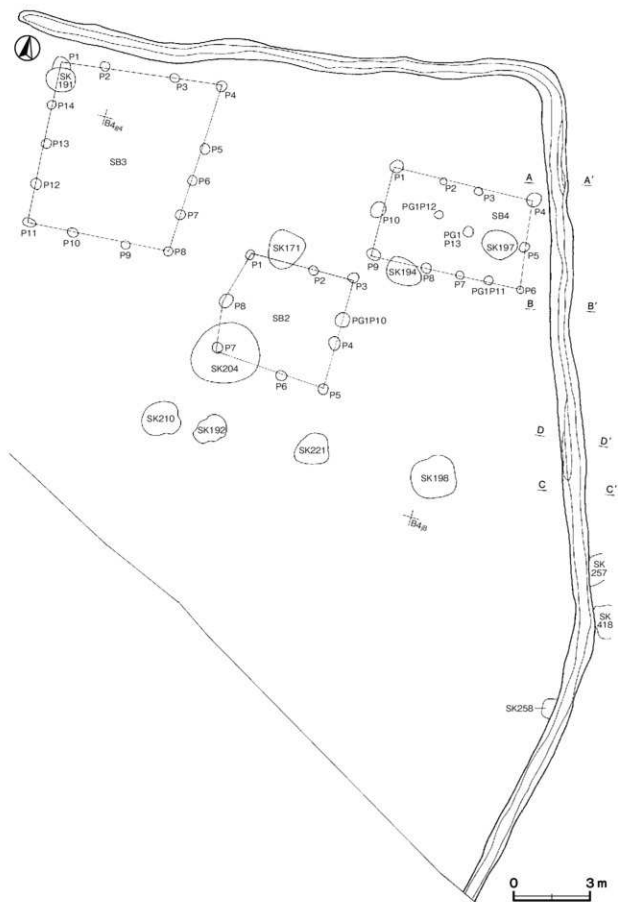
番号	器種	径	厚さ	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q24	数珠玉	1.0	1.0	0.2	0.54	チャート	片面からの穿孔 丁寧なミガキ	覆土第1層	PL41

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M3	煙管	81	1.0	0.1	152	真鍮	吸口部 六角形 鍛造→金属板巻き輪付け	覆土中	PL41 木質部一部残存 古集層生立層
M4	吊金具	(8.6)	(5.4)	0.1	(9.82)	鉄	提灯の吊金具。鍛造	覆土第1層	PL41
M5	矢立	18.5	(5.9)	(3.5)	(29.65)	銅	本体一体型(約矢立) 鍛造→銅板巻き輪付け	覆土第1層	PL42
M5a	矢立基部上部部金具	28	29	1.0	4.25	銅	蓋 鍛造	覆土第1層	PL42
M5b	矢立基部中部部金具	1.4	1.8	0.4	1.87	銅	上部金具 鍛造	覆土第1層	PL42
M5c	矢立基部下部部金具	26	26	0.4	0.66	銅	中部金具 鍛造	覆土第1層	PL42 内面染付垂れ使用
M5d	矢立基部下部部金具	22	21	0.4	2.90	銅	下部金具 彫金加工 内部に「久」の文字高内彫	覆土第1層	PL42

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
W1	筆軸 (柄)	(125)	0.8	0.7	(0.87)	竹	筆毛部欠損 裁断加工	掘土第1層	PL12-56 立 の付 塚山筆 筒部1-城存



第136図 第2号溝跡出土遺物実測図



第 137 图 第 3 号沟跡実測图 (1)

第3号溝跡 (第137・138図)

位置 調査区中央部のB4d3～C4e9区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第237・257～261・418号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 南部が調査区域外へ延びているため、確認できた長さは51.5mである。B4e8区から逆L字状に屈曲し、B4j9区まで直線的に南方向(S-20°-E)に延び、B4j9区からやや南西方向(S-15°-W)に折れて調査区域外へ延びている。上幅0.55～1.00m、下幅24～60cmである。深さは0.8～22cmで南部ほど深くなっている。断面形は浅いU字状である。

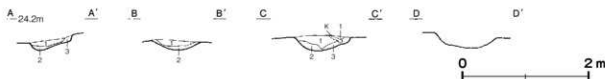
覆土 3層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐色 ロームブロック多量
2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

所見 時期は、出土遺物がないが、第2号溝との配置状況から同時期と考えられ、17世紀後半と推定できる。

第2・3・4号掘立柱建物や同時期の土坑群を囲む区画溝として機能していたと考えられる。



第138図 第3号溝跡実測図(2)

第4号溝跡 (第139図)

位置 調査区南東部のB5d2～C5a8区、標高24mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第315・316・319・396・449・456・457号土坑を掘り込み、第5号溝と合流している。

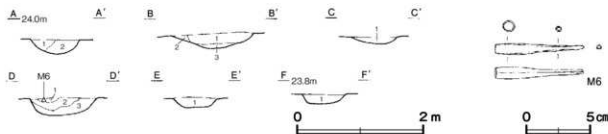
規模と形状 北部は調査区域外へ延びているため、確認できた長さは40.5mである。B5d2から曲線的に南東方向(S-40°-E)に延び、第5号溝に合流している。上幅0.60m～1.40m、下幅0.30～0.90mである。深さは10～24cmで、東部ほど深くなっている。断面形は浅いU字状である。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量 3 褐色 ロームブロック多量
2 暗褐色 ロームブロック中量

遺物出土状況 金属製品1点(煙管)が覆土第1層から出土している。

所見 時期は、出土遺物から17世紀後半と考えられる。地形に合わせて掘り込まれていることと、同時期の土坑との位置関係から、区画と排水を目的としていると考えられる。



第139図 第4号溝跡・出土遺物実測図

第4号溝跡出土遺物観察表 (第139図)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 6	標管	7.0	0.9	0.9	4.3	銅	鍛造→銅板巻き編み付け	覆土第1層	乳石 古銅編年5期

第5号溝跡 (第140図)

位置 調査区南東部のB 6h1～C 5f8区、標高23～25mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第4号溝跡と合流している。

規模と形状 北部と南部が調査区域外へ延びているため、確認できた長さは37.4mである。B 6h1から曲線的に南東方向(S-42°-W)の調査区域外へ延びている。上幅0.55～1.00m、下幅10～50cmである。深さは46～56cmで、東部ほど深くなっている。断面形はU字状である。

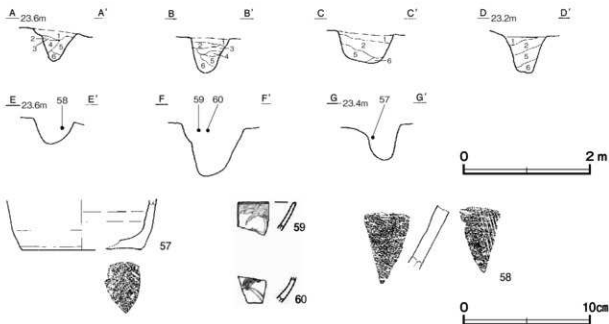
覆土 6層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 5 明褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |
| 3 褐色 | ロームブロック中量、炭化粒子微量 | 6 褐色 | ロームブロック多量、炭化粒子微量 |

遺物出土状況 土師質土器片7点(小皿2, 焙烙4, 鉢1), 瓦質土器片1点(火鉢), 陶器片3点(碗2, 擂鉢1) 磁器片12点(碗10, 皿1, 急須1), 瓦片1点(平瓦)が出土している。58はC 5b8区の覆土中層, 59・60はC 5b7区, 57はC 5e7区の覆土上層から、それぞれ出土している。そのほかの出土遺物は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土遺物から17世紀後半で、地形に合わせて掘り込まれていることから、排水を目的としていると考えられる。



第140図 第5号溝跡・出土遺物実測図

第5号溝跡出土遺物観察表 (第140図)

番号	種別	器種	口径	器高	口径	胎土	色調	地成	手法の特徴	備考	出土位置	備考
57	土師質土器	鉢	-	(4.0)	(9.5)	長石・石英・雲母・赤色粒子	にがい堀	普通	体部ロクロナテ 底部ヘラナテ		覆土上層	5%

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪索	産地	出土位置	備考
58	陶器	磁鉢	-	(5.1)	-	長石・石英 褐色陶色	外・内面施釉 様目8~9本単位。	鉄軸	瀬戸・美濃	覆土中層	5%
59	磁器	碗	-	(2.2)	-	緻密 灰白	染付華籠 外面草花文	透明釉	肥前	覆土上層	5% PL40
60	磁器	碗	-	(2.1)	-	緻密 灰白	染付華籠 外面草花文	透明釉	肥前	覆土上層	5% PL40

第6号溝跡 (第141図)

位置 調査区南東部のB6⑫~C5g④区、標高22~23mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第430・455号土坑、第7号溝跡を掘り込み、第450号土坑に掘り込まれ、江戸時代以降に段切りされている。

規模と形状 北部と南部が調査区域外へ延びているため、確認できた長さは36.5mである。B6⑫区から蛇行して南方向(S-10°-E)の調査区域外へ延びている。上幅0.60~1.40m、下幅20~70cmで、深さは18~34cmで、南部ほど深くなっている。断面形は浅いU字状である。

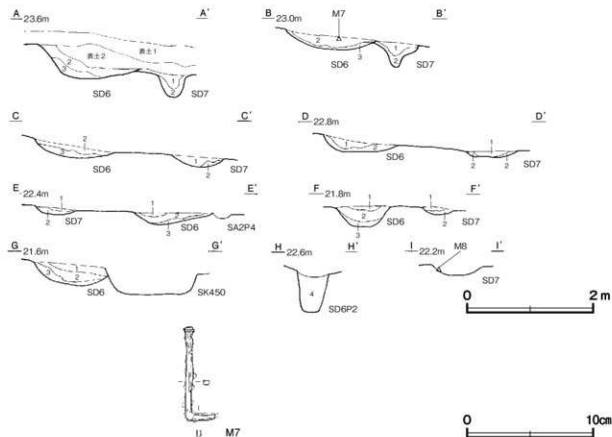
ピット C6b1・C6b2区内の底面に2か所。径52~58cmの円形で、深さ64~70cmである。溝の方向と同軸であるため伴う遺構と考えられる。覆土は、柱抜き取り後に堆積したものである。

覆土 ピット部を含み4層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
2 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 4 褐色 ロームブロック多量

遺物出土状況 土師質土器片2点(小皿)、陶器片1点(碗)、金属製品1点(角釘)、瓦片1点(丸瓦)、粘土塊が出土している。M7は、C6a2区の覆土第2層から出土している。そのほかの出土遺物は細片のため、図示できなかった。



第141図 第6号溝跡・出土遺物、第7号溝跡実測図

所見 時期は、出土遺物から江戸時代と考えられる。地形に合わせて掘り込まれていることから、排水を目的としたものと考えられる。

第6号溝跡出土遺物観察表（第141図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M7	角釘	7.4	(27)	0.4	(7.0)	鉄	先端部欠損 鍛造	覆土第2層	PL41

第7号溝跡（第142図）

位置 調査区南東部のB6i3～C5h0区、標高22～23mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第426号土坑を掘り込み、第450号土坑、第6号溝に掘り込まれ、江戸時代以降の段切りに削平されている。

規模と形状 北部と南部が調査区域外へ延び、C6d2区からC6e2区の間が3mほど途切れるため、確認できた長さは、北部が19.7m、南部が14.4mである。B6i3区からやや曲線状に南方向（S-20°-E）の調査区域外へ延びている。上幅0.20～0.56m、下幅0.8～0.44mで、深さは8～38cmで、南部ほど深くなっている。断面形は北部がU字状、南部が浅いU字状である。

覆土 2層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

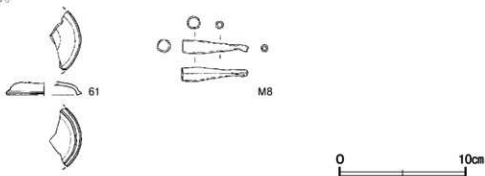
土層解説

1 暗褐色 ロームブロック少量、炭化粒子微量

2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

遺物出土状況 土師質土器片1点（小皿）、磁器片1点（蓋）、金属製品1点（煙管）が出土している。M8は、C6d1区の西壁際の覆土上層、61は覆土中からそれぞれ出土している。そのほかの出土遺物は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土遺物から18世紀前半と考えられる。地形に合わせて掘り込まれているため、排水を目的としていると考えられる。



第142図 第7号溝跡出土遺物実測図

第7号溝跡出土遺物観察表（第142図）

番号	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪業	産地	出土位置	備考	
61	磁器	蓋	(60)	(1.1)	-	顔面 灰白	外・内面輪飾	透明輪	肥前	覆土中	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M8	煙管	(5.3)	1.1	0.1	(4.2)	銅	角釘 先端部欠損 鍛造→鉄板加工	覆土上層	古泉編年V期

第9号溝跡（第143図）

位置 調査区南東部のC6c0～C6j8区、標高21～23mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第10・11号溝跡、第1号遺物包含層を掘り込んでいる。

規模と形状 北部が調査区域外へ延びているため、確認できた長さは29.9mである。C6c0区から直線状に南方向（S-16°-W）に延び、C6j8区で後世の削平を受けて消滅している。上幅0.65～1.20m、下幅10～30cmで、深さは50～65cmで、南部ほど深くなっている。断面形は菜研状で、底面はほぼ平坦である。

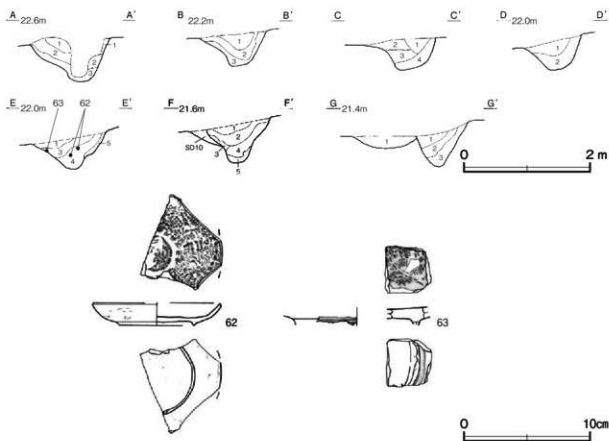
覆土 5層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | | | |
|-------|----------------------|-------|------------------|
| 1 暗褐色 | ロームブロック中量 | 4 暗褐色 | ロームブロック少量、炭化粒子微量 |
| 2 褐色 | ロームブロック多量 | 5 褐色 | ロームブロック中量 |
| 3 暗褐色 | ロームブロック少量（粘性弱・織まり普通） | | |

遺物出土状況 土師質土器片18点（焙烙5、鉢13）、陶器片3点（碗）、磁器片6点（碗4、皿2）、金属製品1点（釘）、瓦片4点（丸瓦1、平瓦3）が出土している。62はC6g8区の西壁際とC6f9区から出土した破片が接合したものである。63はC6e9区の西壁際の覆土第2層からそれぞれ出土している。そのほかの出土遺物は細片のため、図示できなかった。

所見 時期は、出土磁器から19世紀前半で、地形に合わせて掘り込まれているため、排水を目的としていると考えられる。



第143図 第9号溝跡・出土遺物、第10号溝跡実測図

第9号溝跡出土遺物観察表（第143図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	文様・特徴	輪軸	産地	出土位置	備考
62	磁器	小皿	[10.2]	2.7	[6.0]	緻密 灰白	染付印判手・口唇部簡線文	透明軸	肥前	覆土第2層	40% PL40
63	磁器	皿	-	(1.5)	-	緻密 灰白	外・内面施軸	透明軸	肥前	覆土第2層	5% PL41

第10号溝跡 (第143図)

位置 調査区南東部のC6f9～C6f8区、標高21mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 古墳時代の遺物包含層を掘り込み、第9・11号溝に掘り込まれている。

規模と形状 第9・11号溝に掘り込まれているため、長さは11.6mしか確認できなかった。B6g8区から直線状に南方向(S-18°-W)に延び、東部が第9号溝及び、C6f8区が第11号溝に掘り込まれている。上幅0.70～1.10m、下幅20～40cmで、深さは20～24cmで、南部ほど深くなっている。断面形は浅いU字状である。

覆土 単一層である。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

所見 時期は、出土遺物はなかったが、第9・11号溝以前の溝で、両遺構の作り替え前の遺構であることから、江戸時代と考えられる。地形に合わせて掘り込まれているため、排水を目的としていると考えられる。

第11号溝跡 (第144図)

位置 調査区南東部のC6h5～C6f8区、標高21mほどの台地緩斜面部に位置している。

重複関係 第10号溝跡・古墳時代の遺物包含層・第491号土坑を掘り込み、第9号溝に掘り込まれている。

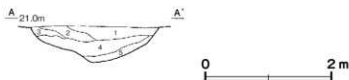
規模と形状 東部が第9号溝に掘り込まれているため、11.7mしか確認できなかった。C6h5区から緩やかな曲線状に東方向(S-42°-E)に延び、C6f8区で第9号溝に掘り込まれている。上幅1.35～2.10m、下幅22～32cmで、深さは22～32cmで、東部ほど深くなっている。断面形はU字状である。

覆土 5層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
 2 暗褐色 ロームブロック少量、焼土粒子・炭化粒子微量
 3 明褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量
 4 黒褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
 5 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

所見 時期は、出土遺物はなかったが、形状や配置状況から江戸時代と考えられる。第9号溝に掘り込まれているため、19世紀前半より古い時期と考えられる。地形に合わせて掘り込まれているため、排水を目的とした溝と考えられる。



第144図 第11号溝跡出土遺物実測図

表14 江戸時代溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)					
2	A42-B4h	N-10°-E	直線状	37.5	0.80-37.0	0.14-0.80	22-64	赤・白土 研削	緩斜・ 内傾	人為	土師質土器、瓦質土器、 陶器、磁器、石器・石製品、 金属製品、瓦	SK17-115-117-116- 117-118-119-120- 121-41-42-43-44- 45-46-47-48- 49-50
3	B4d-C4e	S-20°-E S-10°-W	準L字状	51.5	0.40-1.00	0.24-0.60	0.8-22	赤・白土 研削	緩斜	人為	土師質土器、瓦質土器、 陶器、磁器、石器・石製品、 金属製品	SK25-25-26-27-28- 29-30-31-32-33- 34-35-36-37-38- 39-40-41-42-43-44- 45-46-47-48-49-50
4	B5d2-C5a8	S-40°-E	曲線状	40.5	0.60-1.40	0.30-0.90	10-24	赤・白土 研削	緩斜	人為	金属製品	SK15-116-119-120- 118-66-67-68
5	B6h1-C5f8	S-42°-W	曲線状	37.4	0.55-1.00	0.10-0.50	46-56	U字状	緩斜	人為	土師質土器、瓦質土器、 陶器、磁器、瓦	

番号	位置	方向	平面形	規模				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ(m)	土幅(m)	丁幅(m)	深さ(m)					
6	B 6i2-C 5g0	S-10°-E	S字状	36.5	0.60-1.40	0.20-0.70	18-34	赤い土状	碓砂	人為	土師質土器、陶器、金属製品、瓦、粘土塊	SK430-455, SD 7 →本跡→SK490 高代以降の段取り
7	B 6i3-C 5h0	S-20°-E	曲線状	北部19.7 南部14.4	0.20-0.56	0.08-0.44	8-38	赤い土状 U字状	碓砂	人為	土師質土器、磁器、金属製品	SK430→本跡→ SK450, SD 6, 高代以降の段取り
9	C 6e0-C 6f8	S-16°-W	直線状	29.9	0.65-1.20	0.10-0.30	50-65	薬研状	有段	人為	土師質土器、陶器、磁器、金属製品、瓦	SD10-11, HGI→本跡
10	C 6f9-C 6g8	S-18°-W	直線状	11.6	0.20-1.10	0.20-0.40	20-34	赤い土状	碓砂	人為		HGI→本跡→SD 9・11
11	C 6h5-C 6f8	S-44°-E	横曲線状	11.7	1.35-2.30	0.22-0.32	22-32	U字状	外傾	人為		SK691, SD10, HGI→ 本跡→SD 9

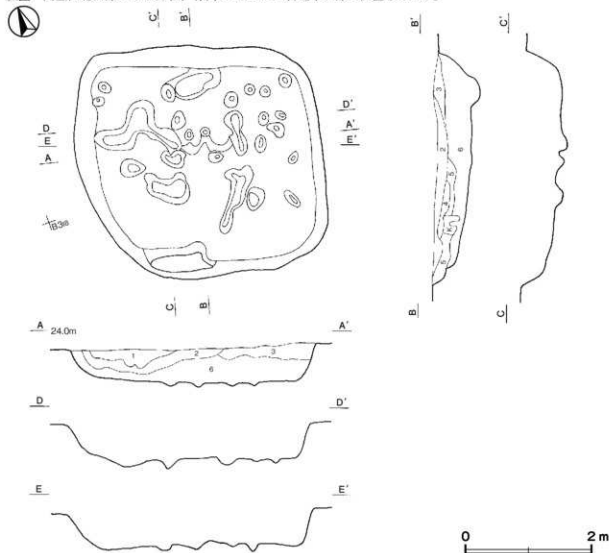
6 その他の遺構と遺物

今回の調査で、時期が不明の竪穴遺構1基、炉跡1基、竈跡1基、土坑72基、溝跡2条、台地整形遺構1か所、柱穴列群5か所、ピット群1か所を確認した。また、遺構に伴わない遺物が出土している。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴遺構

第1号竪穴遺構(第145図)

位置 調査区北西部のB3e8区、標高24mほどの台地平坦部に位置している。



第145図 第1号竪穴遺構実測図

規模と形状 長軸 3.90 m, 短軸は 3.65 m の不整隅丸方形で, 長軸方向は $N-73^{\circ}-W$ である。壁は高さ 45 ~ 56 cm で, 外傾して立ち上がっている。

床 凹凸がある。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。第4層には, 炭化物が多量に混入している。

土層解説

1 暗褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	4 暗褐色	ロームブロック・炭化物多量, 焼土粒子微量
2 褐色	ロームブロック多量	5 明褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量
3 明褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	6 明褐色	ロームブロック多量

遺物出土状況 縄文土器片 1点 (深鉢), 剥片 2点 (チャート), 自然礫 8点が覆土中から出土している。

所見 縄文土器片が出土しているが, 本跡に伴う遺物ではないため, 時期は不明である。底面が平坦でない形状や覆土の状況から, 古墳時代以降の竪穴建物の掘方のように見える。何らかの原因で, 構築の途中で放棄し, 埋め戻された可能性がある。

(2) 炉跡

第1号炉跡 (第146図)

位置 調査区南東部の C 6 j 6 区, 標高 25 m ほどの台地平坦部に位置している。

重複関係 第1号台地整形遺構に掘り込まれている。

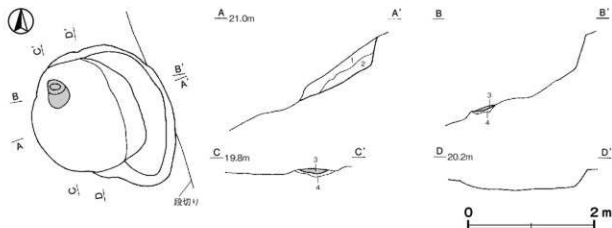
規模と形状 北西・南東径 2.50 m, 北東・南西径 2.10 m の不整楕円形で, 北西・南東径方向は $N-23^{\circ}-W$ である。第1号台地整形遺構に掘り込まれていることから, 深さ 0.50 ~ 1.00 m で, 壁は外傾している。底面は地山を利用して, 東から西側へ傾斜している。底面は火熱を受けて, 赤変硬化している。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから, 埋め戻されている。第3層上面が燃焼部で, 第4層は掘方への埋土である。

土層解説

1 黒褐色	ロームブロック中量, 炭化粒子微量	炭化粒子微量	
2 褐色	ロームブロック多量, 炭化粒子微量	4 褐色	ロームブロック多量, 焼土粒子・炭化粒子微量
3 赤褐色	焼土ブロック多量, ロームブロック少量		

所見 出土遺物がないことや, 段切りによって掘り込まれていることから, 時期や形状の詳細は不明であるが, 緩斜面に位置し, 焼土の確認状況から, 縄文時代の炉穴の可能性はある。



第146図 第1号炉跡実測図

(3) 窯跡

第1号窯跡(第147図)

位置 調査区南東部のC5e6区、標高25mほどの台地平坦部に位置している。

規模と形状 長径1.90m、短径1.28mの楕円形で、長径方向はN-23°-Eである。深さ6~20cmで、壁は外傾している。底面は地山で、南から北側へ緩やかに傾斜している。底面は火熱を受けているが、硬化はしていない。

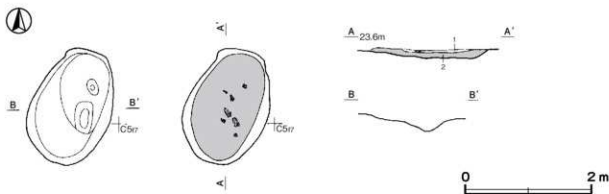
覆土 2層に分層できる。各層に炭化物、焼土ブロック、ロームブロックなどが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

1 黒褐色 炭化物多量、ロームブロック・焼土ブロック少量 2 赤褐色 焼土ブロック多量、ロームブロック少量

遺物出土状況 木炭片6点が底面から、土師質土器片1点(小皿)が覆土中から出土している。

所見 出土土器は、細片のため、図示できなかった。遺構の形状と木炭が出土していることから炭窯と考えられ、江戸時代以降の可能性がある。



第147図 第1号窯跡実測図

(4) 土坑

今回の調査で、時期・性格ともに不明の土坑72基を確認した。これらの土坑については、一覧表を掲載する。

表15 その他の土坑一覧表

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
74	A3g8	N-22°-E	[楕円形]	1.22×(0.90)	100	平坦	直立・外傾	人為	-	SK78→本跡
78	A3g8	N-23°-E	[楕円形]	1.22×(0.66)	22	平坦	緩斜	人為	-	本跡→SK74
130	B4g4	N-35°-W	楕円形	0.92×0.83	36	皿状	緩斜・外傾	人為	-	
157	B4j3	N-16°-E	楕円形	0.90×0.60	36	平坦	直立・外傾	人為	-	
173	B4i4	N-39°-E	楕円形	1.84×1.43	53	皿状	緩斜	人為	-	
179	B4g5	N-9°-W	楕円形	1.36×1.14	64	皿状	緩斜・外傾	人為	-	本跡→SK171 ビット1か所
184	B4j3	N-40°-E	楕円形	0.68×0.54	33	皿状	緩斜・外傾	人為	-	ビット1か所
185	B4i4	N-80°-W	楕円形	0.73×0.42	47	皿状	緩斜・外傾	人為	-	ビット2か所
188	B4j3	N-45°-W	[楕円形]	(0.90)×(0.72)	34	皿状	緩斜	人為	-	

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
193	B 4 i5	-	不規則円形	0.78 × 0.78	60	皿状	右段・外堀	人為	-	SK424→本跡
194	B 4 g7	N-75°-W	楕円形	1.52 × 1.14	46	平皿	縦斜・外堀	人為	-	SK199→本跡
207	B 4 g7	-	円形	0.63 × 0.60	21	皿状	右段・外堀	人為	-	
241	B 4 i8	N-70°-E	楕円形	0.88 × 0.71	49	ほぼ平皿	縦斜・外堀	人為	-	ビット1か所
248	B 4 g8	N-32°-W	楕円形	0.82 × 0.62	20	平皿	右段・外堀	人為	-	
257	B 4 i9	N-46°-E	楕円形	1.38 × 1.04	77	皿状	直立・外堀	人為	-	本跡→SD 3
258	C 4 a8	N-19°-E	楕円形	1.00 × 0.84	28	平皿	縦斜・外堀	人為	-	本跡→SD 3
265	B 4 c2	N-19°-E	楕円形	1.26 × 1.10	24	平皿	外堀	人為	-	SD 2→本跡
272	B 4 g8	N-47°-E	楕円形	0.46 × 0.36	13	皿状	縦斜・外堀	人為	-	
276	B 4 i8	N-30°-E	楕円形	0.94 × 0.62	65	皿状	縦斜・外堀	人為	-	SK275→本跡 ビット1か所
279	B 4 j9	N-33°-E	楕円形	1.06 × (0.74)	38	皿状	縦斜	人為	-	SK280→本跡
285	B 4 j5	N-64°-E	楕円形	1.80 × 1.50	60	凹凸	縦斜	人為	-	
288	B 4 g9	N-7°-W	楕円形	1.60 × 1.00	44	凹凸	縦斜	人為	-	SK289→本跡
289	B 4 g9	N-26°-E	楕円形	0.92 × 0.58	16	皿状	縦斜	人為	-	本跡→SK288
305	B 4 i0	N-7°-W	楕円形	0.80 × 0.58	28	皿状	右段・外堀	人為	-	
311	B 5 f1	N-23°-E	楕円形	1.20 × 0.90	88	皿状	右段・外堀	人為	-	
315	B 5 e3	N-64°-W	楕円形	1.52 × 0.80	88	平皿	外堀	人為	-	本跡→SD 4 ビット1か所
316	B 5 i3	N-31°-E	楕円形	2.34 × 1.84	76	平皿	外堀	人為	-	SK30→本跡→SD 4
326	B 5 d2	N-78°-W	楕円形	2.04 × 1.20	97	平皿	右段・外堀	人為	-	ビット1か所
328	B 5 d2	-	円形	1.62 × 1.52	90	皿状	縦斜・外堀	人為	-	
334	B 5 i2	N-45°-E	楕円形	1.14 × 1.03	62	平皿	外堀	人為	-	ビット1か所
341	B 5 e2	N-36°-E	楕円形	1.00 × 0.86	88	平皿	外堀	人為	-	ビット1か所
346	C 5 a2	-	円形	1.20 × 1.14	86	皿状	右段・外堀	人為	-	
351	B 5 e3	-	円形	1.30 × 1.24	58	ほぼ平皿	外堀	人為	-	
353	D 5 i3	N-11°-E	楕円形	1.48 × 1.06	72	平皿	右段・外堀	人為	-	本跡→SK316
359	C 5 b4	N-78°-W	楕円形	2.10 × 1.28	32	皿状	縦斜・外堀	人為	-	本跡→SK381
361	B 5 j3	-	円形	1.05 × 1.04	81	平皿	縦斜	人為	-	ビット1か所
369	B 5 e3	-	円形	1.16 × 1.06	36	平皿	縦斜	人為	-	
374	B 4 c2	N-28°-W	楕円形	0.56 × 0.46	62	皿状	縦斜	人為	-	SD 2→本跡
378	B 5 i3	N-42°-E	楕円形	0.74 × 0.57	20	平皿	外堀	人為	-	SK380→本跡
380	B 5 i2	N-23°-E	楕円形	1.66 × 1.49	63	平皿	縦斜	人為	-	本跡→SK378
381	C 5 b4	-	円形	0.84 × 0.83	56	平皿	外堀	人為	-	SK359→本跡
409	B 5 g7	N-14°-W	楕円形	1.94 × 1.55	68	平皿	右段・外堀	人為	-	
418	B 4 j0	N-78°-W	楕円形	1.56 × 1.32	66	平皿	右段・外堀	人為	-	本跡→SD 3
421	B 5 b6	-	[円形]	0.72 × (0.65)	36	皿状	縦斜	人為	-	本跡→SK394
424	B 4 i5	-	[円形]	0.56 × (0.26)	16	[皿状]	縦斜	人為	-	本跡→SK193
426	C 5 c2	N-80°-W	楕円形	1.00 × 0.72	20	ほぼ平皿	縦斜・外堀	人為	-	本跡→SD 7
427	C 5 f8	N-47°-W	楕円形	0.66 × 0.53	32	皿状	縦斜・外堀	人為	-	
428	C 5 f8	-	円形	0.64 × 0.57	50	皿状	縦斜	人為	-	
429	C 5 f8	N-52°-W	楕円形	0.98 × 0.83	74	皿状	右段・外堀	人為	-	
430	C 5 i9	N-69°-E	楕円形	1.10 × 0.70	26	皿状	縦斜・外堀	人為	-	本跡→SD 6
432	B 5 g6	N-77°-E	楕円形	0.53 × 0.47	74	皿状	縦斜	人為	-	
444	C 5 e2	-	円形	0.78 × 0.72	18	皿状	縦斜	人為	-	
445	C 6 e2	-	円形	0.62 × 0.60	34	皿状	縦斜	人為	-	ビット2か所
447	C 6 e2	N-42°-W	楕円形	1.66 × 1.38	28	皿状	縦斜	人為	-	
449	B 5 g3	N-21°-W	[楕円形]	1.00 × 0.74	50	ほぼ平皿	外堀	人為	-	本跡→SD 4
450	C 6 f1	-	円形	1.60 × 0.58	22	平皿	縦斜・外堀	人為	-	SD 6・7→本跡

番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
454	C 5 d3	N - 12° - W	楕円形	2.34 × 2.04	16	平坦	縦斜	人為	-	SK440 → 本跡
455	C 6 g1	N - 20° - W	楕円形	2.18 × 1.90	92	皿状	縦斜	人為	-	本跡 → SD 6
456	B 5 b4	N - 88° - E	楕円形	0.72 × 0.52	20	皿状	縦斜	人為	-	本跡 → SD 4
459	C 6 f7	-	円形	2.00 × 1.88	24	平坦	縦斜・外傾	人為	-	
471	C 6 j6	N - 5° - W	楕円形	1.20 × 0.73	55	平坦	右段・外傾	人為	-	
472	B 6 j6	N - 24° - E	楕円形	0.47 × 0.42	22	平坦	外傾	人為	-	
473	B 6 j6	-	円形	0.64 × 0.59	16	皿状	縦斜	人為	-	
474	C 6 a4	N - 40° - E	楕円形	1.17 × 0.90	36	皿状	右段・縦斜	人為	-	
475	C 6 a4	N - 52° - W	楕円形	1.32 × 1.17	40	皿状	右段・縦斜	人為	-	
476	C 6 a5	-	円形	1.48 × 1.47	24	平坦	縦斜	人為	-	
478	C 6 a4	N - 11° - E	楕円形	0.80 × 0.65	22	平坦	縦斜	人為	-	
480	C 5 c1	N - 45° - W	円形・楕円形	0.90 × (0.34)	46	皿状	直立	人為	-	本跡 → SK355
482	C 6 E2	N - 25° - E	楕円形	0.84 × 0.70	25	平坦	外傾	人為	-	
483	C 6 g2	N - 60° - E	楕円形	1.90 × 1.08	25	皿状	右段・外傾	人為	-	SK485 → 4B → SA 3
484	C 6 g1	-	不整形円形	1.60 × (1.47)	46	平坦	右段・外傾	人為	-	SK484 → 4B → SA 3
485	C 6 g2	-	円形	0.52 × 0.48	54	皿状	縦斜	人為	-	本跡 → SK483, SA 3

(5) 溝跡

第1号溝跡 (第148図)

位置 調査区北西部のA3f6～A2j6区、標高24mほどの台地平坦部から緩斜面部に位置している。

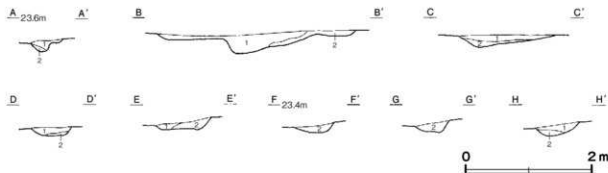
重複関係 第1・2号炉穴、第16・48・169・267～270・281号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 北部と南西部が調査区域外へ延びているため、確認できた長さは46.7mである。A3f6区から緩やかに蛇行しながら南西方向(S-68°-W)へ延びている。上幅0.54～2.84m、下幅14～62cmで、深さは12～30cmで、南部ほど深くなっている。断面形は浅いU字状である。

土層解説

1 暗褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 2 明褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

所見 出土遺物がないため、時期は不明である。形状や覆土の状況から中世以降と考えられる。地形に合わせ掘り込まれているため、排水を目的としていると考えられる。



第148図 第1号溝跡実測図

第8号溝跡 (第149図)

位置 調査区北西部のC6i1～C6i4区、標高17～20mほどの低台地緩斜面部に位置している。

規模と形状 南部が調査区域外へ延びているため、確認できた長さは、西部が13.7m、東部が12.0mである。

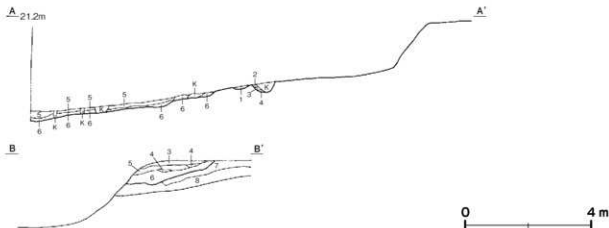
C 614区から、北西部方向(N-60°-W)、曲線的に南東部方向(S-70°-W)へ延びている。上幅0.50～1.00m、下幅20～60cmで、深さは6～12cmで南部ほど深くなっている。断面形は、浅いU字状である。

覆土 4層に分層できる。ロームブロックが多く含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 3 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
2 褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量 4 明褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

所見 出土遺物がないため、時期は不明である。形状や覆土の状況から、中世以降と考えられる。第1号台地整形遺構の地形に合わせて掘り込まれているため、同遺構に伴う、排水を目的としていると考えられる。



第149図 第8号溝跡、第1号台地整形遺構実測図

表16 その他の溝跡一覧表

番号	位置	方向	平面形	概 観				断面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考		
				長さ(m)	上幅(m)	下幅(m)	深さ(cm)							
1	A3軒-A26	S-68°-W	蛇行	46.7	0.54	2.84	0.14～0.62	12～30	浅いU字状 裏面状	礫砂	人為	-	PF1・2、SK16・48・100・267・270・281→本跡	
8	C614-C614	N-60°-W S-70°-W	弧状	13.7 12.0	0.50	1.00	0.20～0.80 0.60～0.70	0.20～0.80 0.20～0.60	8～12 6～10	浅いU字状	礫砂	人為	-	

(6) 台地整形遺構

第1号台地整形遺構(第149図)

位置 調査区南東部のC5h0～D6a6区、標高17～21mほどの台地平坦部から緩斜面部に位置している。

重複関係 第1号遺物包含層、第1号炉跡を掘り込み、上部は江戸時代以降の耕作土によって攪乱を受けている。

規模と形状 南部が調査区域外へ延びているため、確認できた規模は、東西32.0m、南北13.2mである。掘り込み面の深さは1.50～3.00mで、南部ほど緩やかに傾斜して調査区域外へ延びている。法面の傾斜角は40度ほどで、外傾している。

盛土整地の状況 確認面から1.50mほど古墳時代の遺物包含層や地山を掘り込み、ロームブロックが混入した暗褐色土などを古墳時代の遺物包含層の上に積み上げて構築されている。盛土は突き固められ、締まりが強い。

土層解説

- 3 明褐色 ロームブロック多量 5 黄褐色 ロームブロック多量
4 黒褐色 ロームブロック多量 6 黒褐色 ロームブロック多量

所見 出土遺物がないため、時期は不明である。当遺構は、江戸時代以降の耕作土に攪乱され、古墳時代中期の遺物包含層を掘り込み、斜面を開削して平坦部を作りだしている。平坦部の主要な部分は調査区域外の南側へ延びている。また、第8号溝は段切りに沿って掘り込まれているため、排水を目的として当遺構に付随する施設と考えられる。

(7) 柱穴列群

今回の調査で、時期不明の柱穴列群5か所を確認した。遺構の形状が特徴的な1か所について記述し、それ以外は実測図と土層解説、一覧表で掲載する。

第3号柱穴列 (第150図)

位置 調査区南東部のC6g1～C6i7区、標高21mほどの台地縁辺部に位置している。

重複関係 第483～485・491号土坑を掘り込み、第11号溝に掘り込まれている。

規模と形状 おおむね第1号台地整形遺構に沿って彎曲して柱穴が存在している。確認できた距離は29.2mで、柱間寸法は、1.2～6.2mである。

柱穴 26か所。長径30～73cm、短径21～44cmの円形または楕円形で、深さは15～76cmである。土層は、すべての層にロームブロックが含まれていることから、埋め戻されている。

土層解説

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 暗褐色 ロームブロック中量 | 3 暗褐色 ロームブロック中量、炭化粒子微量 |
| 2 黒褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 | 4 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量 |

所見 第1号台地整形遺構に沿っていることや柱間に統一性がないことから、平坦部と谷部を区画する杭列か土止めの可能性がある。時期は第1号台地整形遺構と同時期と考えられるが、出土遺物がないため、明確な時期は不明である。

第1号柱穴列土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック少量

第4号柱穴列土層解説

- 1 黒褐色 ロームブロック多量
- 2 暗褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ロームブロック中量
- 4 褐色 ロームブロック多量、炭化粒子微量

第2号柱穴列土層解説

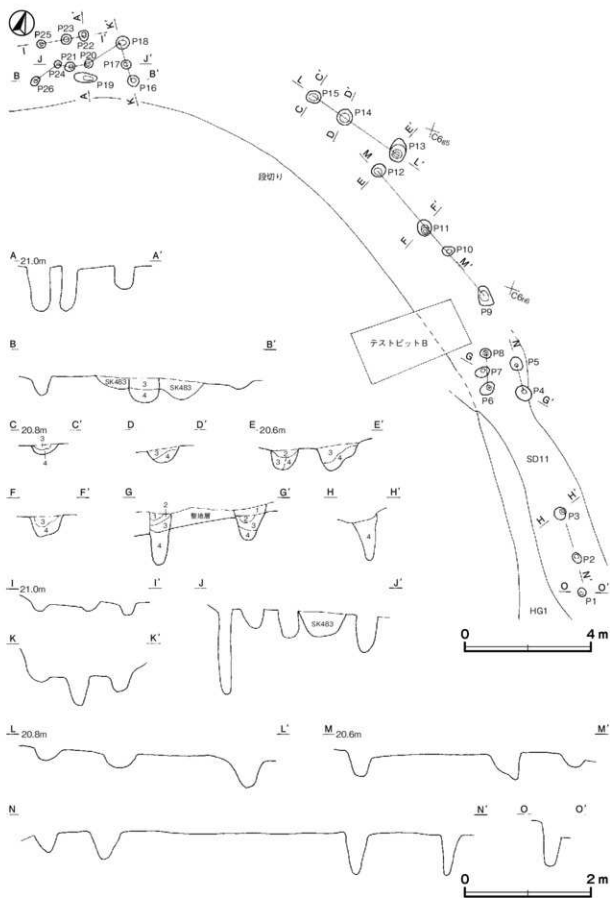
- 1 黒褐色 ロームブロック中量
- 2 暗褐色 ロームブロック中量
- 3 暗褐色 ロームブロック多量

第5号柱穴列土層解説

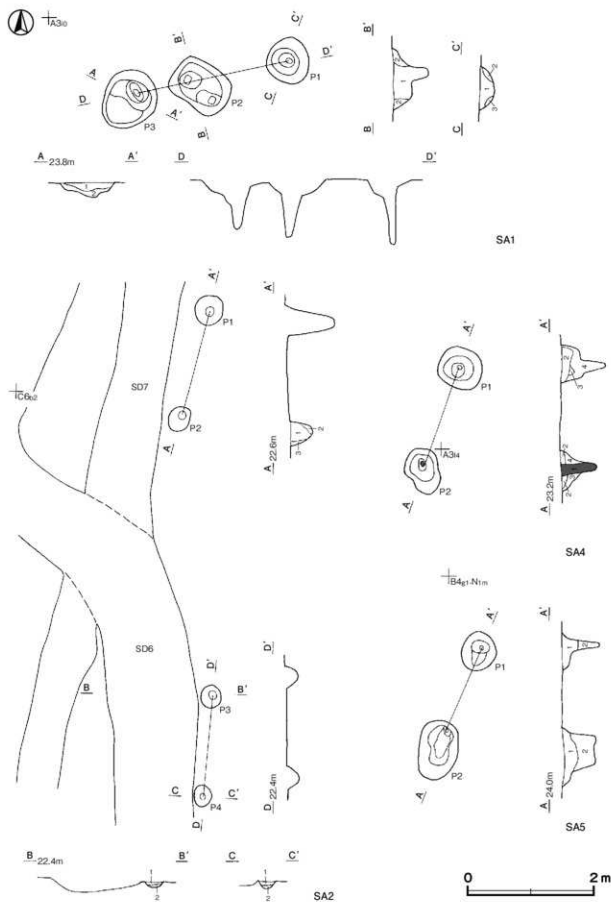
- 1 暗褐色 ロームブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 明褐色 ロームブロック多量、焼土粒子・炭化粒子微量

表17 その他の柱穴列一覧表

番号	位置	方向	長さ(m)	柱間(m)	柱 穴				備 考	
					柱穴数	平面形	長径(cm)	短径(cm)		深さ(cm)
1	A3j0	N-80°-E	2.50	1.0-1.6	3	楕円形・溝丸長方形	70-97	67-84	25-103	
2	C6a2 N-14°-E ~C6a2 N-6°-E	-	7.90	1.7-4.5	4	円形・楕円形	32-46	28-44	18-76	杭列。
3	C6g1 ~C6i7	-	29.2	1.2-6.2	26	円形・楕円形	30-73	21-44	15-76	SR483-485・491→本跡 →SD11 杭列・土止め。
4	A3e1 ~A3j3	N-22°-E	1.7	1.7	2	円形・楕円形	68-74	50-63	58-72	
5	B4g1	N-25°-E	1.6	1.6	2	円形・楕円形	58-92	54-62	54-62	



第150図 第3号柱穴列実測図



第151图 第1・2・4・5号柱穴列実測図

(8) ビット群

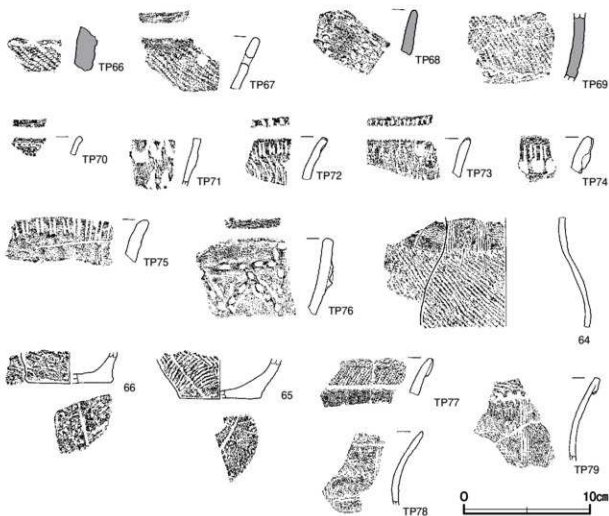
ビット群1か所について一覧表を掲載する。なお、実測図は付図で示す。

表18 第1号ビット群ビット一覧表

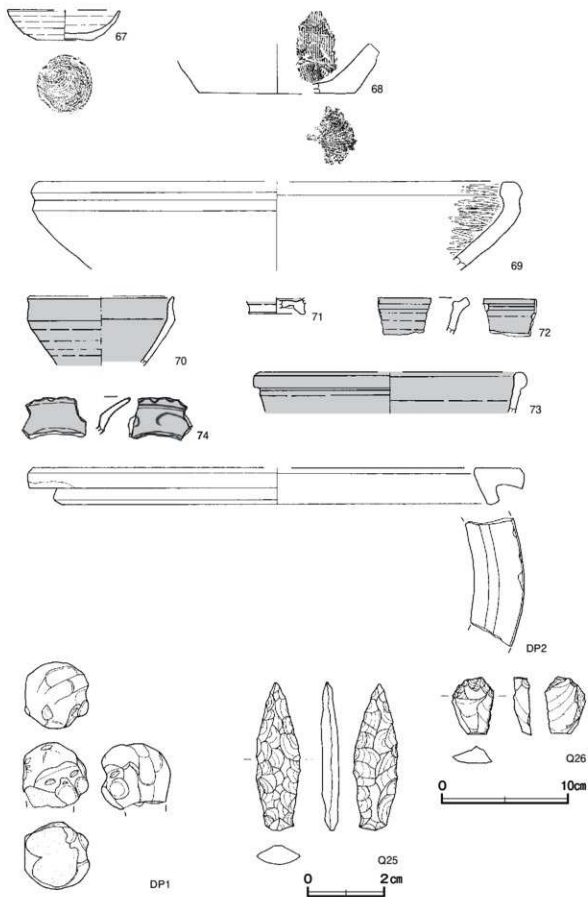
番号	位置	形状	規 模 (cm)		番号	位置	形状	規 模 (cm)	
			長径(軸) × 短径(軸)	深さ				長径(軸) × 短径(軸)	深さ
1	B 4e1	円形	16 × 17	28	8	B 4g6	円形	42 × 40	20
2	B 4e1	円形	10 × 8	31	9	B 4g6	楕円形	42 × 30	24
3	B 4e1	円形	11 × 10	50	10	B 4g6	円形	64 × 62	20
4	B 4e2	円形	10 × 8	33	11	B 4g7	円形	41 × 40	74
5	B 4e3	円形	38 × 36	56	12	B 4g7	円形	30 × 28	28
6	B 4f4	円形	60 × 58	42	13	B 4g7	円形	46 × 40	32
7	B 4f4	円形	46 × 42	70					

(9) 遺構外出土遺物(第152～154図)

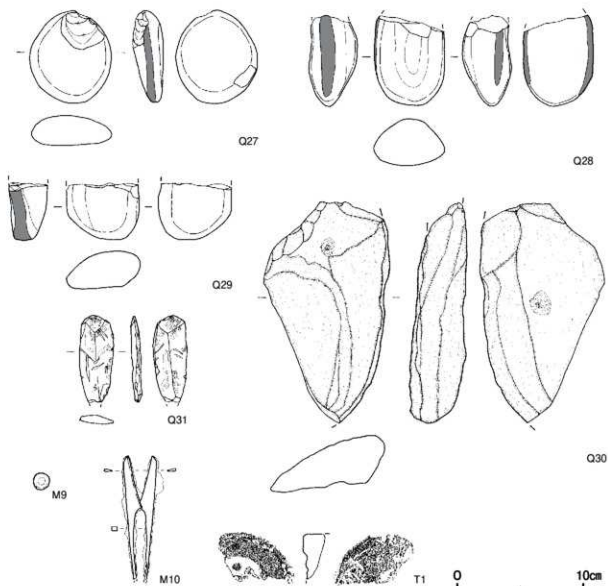
今回の調査で出土した遺構に伴わない遺物について、実測図と観察表を掲載する。



第152図 遺構外出土遺物実測図(1)



第 153 図 遺構外出土遺物実測図 (2)



第154図 遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表(第152~154図)

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP66	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	半筋縄文RL→結筋縄文	西北部表土	黒溝式
TP67	縄文土器	深鉢	長石・石英	にぶい橙	半筋縄文RL	西北部表土	遺構外 黒溝式 PL43
TP68	縄文土器	深鉢	長石・石英・繊維	橙	山形突起 竹管による連続刺突文	西北部表土	黒溝式 PL43
TP69	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子・繊維	橙	半筋縄文RL→結筋縄文	西北部表土	黒溝式
TP70	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	半載竹管による爪形文	西北部表土	後期後半
TP71	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	貝殻腹縁による成状文	西北部表土	浮島式
TP72	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	明赤褐	口唇部刺突文 口縁部半載竹管による縦位の沈線文 肩部貝殻腹縁による成状文	西北部斜面	浮島式 PL43
TP73	縄文土器	深鉢	長石・石英・雲母	黒褐	口唇部刺突文 貝殻腹縁による成状文	南東部表土	浮島式 PL43
TP74	縄文土器	深鉢	長石・石英・赤色粒子	明赤褐	口縁部半載竹管による縦位の沈線文 隆起線文	西北部表土	黒溝式 PL43
TP75	縄文土器	深鉢	長石・石英	明褐	口縁部半載竹管による縦位の沈線文→横位の沈線で区画	西北部表土	黒溝式 PL43
TP76	縄文土器	深鉢	長石・石英	橙	隆帯貼付文→刺突文	西北部斜面	後期後半 PL43

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	文様の特徴ほか	出土位置	備考
64	養生土器	広口甕	-	(8.7)	-	長石・石英	黒黒	普通	頸部外面磨損状文→縦位の襷帯線文・内面ナデ・胴部外面磨損帯一種(附加2条)縄文	南東部表土	10% 後期前半 5%
65	養生土器	広口甕	-	(3.2)	(6.2)	長石・石英・雲母	黒黒	普通	頸部外面附加帯一種(附加2条)縄文羽状構成内面ナデ・底部木葉取	南東部表土	5% 後期前半 PL43
66	養生土器	広口甕	-	(2.5)	(6.4)	長石・石英・雲母	橙	普通	頸部外面附加帯一種(附加2条)縄文羽状構成内面ナデ・底部木葉取	南東部表土	5% 後期前半

番号	種別	器種	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
TP77	養生土器	広口甕	長石・石英	暗黒	複合口縁 口縁部附加帯一種(附加2条)縄文 頸部無文帯	南東部表土	後期前半 PL42
TP78	養生土器	広口甕	長石・石英・雲母	にぶい・暗	口縁部摩滅のため施文不明 頸部磨損状文→縦位の襷帯線文	南東部表土	後期前半 PL43
TP79	養生土器	広口甕	長石・石英・雲母	にぶい・黄橙	複合口縁 口縁部縦位の附加帯一種(附加2条)縄文→波形刻印文	南東部表土	後期前半

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴ほか	出土位置	備考
67	土師質土器	小皿	(8.9)	2.4	4.4	長石・石英・雲母	橙	普通	底部回転糸切り	表土	20% 16世紀前半 PL43
68	土師質土器	椀鉢	-	(4.0)	(12.8)	長石・石英	にぶい・橙	普通	径目9~10単位、底部回転糸切り	表土	5% 埋蔵
69	瓦質土器	拾得	(38.0)	(7.1)	-	長石・石英・雲母・赤色粒子	にぶい・橙	普通	外面ナデ 内面ナデ→ミガキ	表土	5% 19世紀前半

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土・色調	手法・特徴	軸索	産地	出土位置	備考
70	陶器	碗	[11.4]	(5.5)	-	緻密 にぶい・橙	大目茶碗 外・内面施軸(カギ掛け) 体部下施無軸	鉄軸	瀬戸・美濃	北西部斜面	20% 17世紀後半 PL44 軸調が異なるため20上は別個体
71	陶器	碗	-	(1.3)	[4.4]	緻密 にぶい・黄橙	大目茶碗 側出高台 底部内面施軸	鉄軸	瀬戸・美濃	北西部斜面	18世紀代
72	陶器	鉢	-	(3.0)	-	緻密 浅黄	楕木鉢 外・内面施軸	灰軸	瀬戸・美濃	北西部斜面	18世紀代
73	陶器	鉢	[21.0]	(3.2)	-	緻密 にぶい・黄	丸鉢 外・内面施軸	灰軸	瀬戸・美濃	北西部斜面	18世紀後半
74	磁器	皿	-	(2.9)	-	緻密 浅黄	青磁 口唇部山形の刻み 横目画文文、青磁軸	龍泉窯	中央部表土	明代 PL44	

番号	器種	長さ・径	径	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
DP 1	土人形	(1.7)	(1.7)	(1.9)	(4.37)	長石・石英・雲母	橙	頸 頸部付 型押成形 首をかかげている様子	南東部表土	PL44
DP 2	甕罎	[39.6]	[31.6]	2.9	(114.7)	長石・石英・雲母	にぶい・暗	外・内面横ナデ	南東部表土	甕部外面保存 PL44

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q 25	有舌石部	3.9	1.2	0.5	2.2	チャート	押圧潤滑	北西部表土	PL44
Q 26	滑片	4.7	3.2	1.4	1.95	黒曜石	使用痕有り 片面対面調整	北西部斜面	
Q 27	磨石	7.4	6.6	2.5	140.1	砂岩	頸縁部片側使用痕	表土	PL44
Q 28	磨石	(7.2)	5.6	3.9	(198.9)	礫岩	頸縁部両側使用痕	北西部斜面	
Q 29	磨石	(4.5)	5.9	(2.9)	(120.7)	チャート	頸縁部片側使用痕	表土	
Q 30	石皿	(17.5)	(10.0)	(4.6)	(80.0)	雲母片岩	凹石兼用 磨面1か所 凹部2か所	北西部表土	
Q 31	石製道具	(6.9)	2.7	0.8	(21.5)	滑石	斜削 全面研削 一方からの穿孔 孔径1mm~1.5mm 刃物状の傷が顕著	南東部表土	PL44

番号	器種	長さ・径	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M 9	銅玉	1.3	1.3	-	11.2	銅	大縄長玉・錫箔(鉛を純重という真鍮で木の柄をついた玉杵子状の容器で溶かし、玉型という鉄状の筒型に入れて作る。)	南東部表土	PL44
M10	和紙	(10.0)	2.6	0.3~0.4	(18.4)	紙	製造	南東部表土	PL44

番号	器種	長さ・径	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
T 1	軒瓦	(1.8)	(3.5)	(2.1)	(33.1)	長石・石英	細灰	丸瓦の破片 左巻き三つ巴、通珠12。	表土	江戸在産。

第4節 ま と め

1 はじめに

今回の調査で、高須賀道城入遺跡においては、縄文時代から江戸時代にかけて断続的に土地利用されてきたことが明らかとなった。縄文時代では竪穴建物跡5棟、炉穴2基、土坑307基、弥生時代では竪穴建物跡2棟、土坑29基、古墳時代では遺物包含層1か所、室町時代では土坑7基、江戸時代では掘立柱建物跡5棟、土坑48基、溝跡9条を確認した。ここでは、各時代の様相について概観し、遺構及び遺物について所見を述べ、若干の考察をする。

2 縄文時代

今回の調査区は遺跡の北部にあたる台地の平坦部から低地部にかけてである。当時代の遺構は、調査区の低地部を除き、台地部のほぼ全域に分布している。

遺構は、竪穴建物跡が、調査区北西部の平坦部と南東部の緩斜面部に点在し、炉穴は北西部の緩斜面部に分布している。土坑は、調査区全域の平坦部から斜面部にかけて散在している。出土遺物は、早期前半（惣糸文期）、早期後半（貝殻条痕文期）、前期中葉（黒浜式期）、前期後半（諸磯a・浮島・興津式期）、後期前半（堀之内式期）の縄文土器（深鉢）、石器（石鏃・敲石・磨石）が出土している。後期前半の縄文土器のみが遺構に伴わないものであるが、断続的に集落が営まれていたことがわかる。

(1) 竪穴建物跡について（第50～59図、付図）

竪穴建物跡は、台地の縁辺部寄りから緩斜面部に散在して確認できた。出土土器の文様では、胎土に織維を含み、単節縄文や半緩竹管による沈線文を施文する前期中葉の黒浜式期と前期後半の諸磯a式期と、浮島1式の3時期に分けられる。なお、諸磯a式と浮島1式は土器編年においては、並行関係にあるが、遺構の形状から時期差があるものと考えられる。

前期中葉（黒浜式期）の第5号竪穴建物跡は、調査区南東部の低台地縁辺部に位置し、平面形状は、長方形で、炉は地床炉で、中央部からやや東寄りに設置され、柱穴は主柱穴が4か所、補助柱穴1か所、出入口施設のパットが南西部に配置され、不規則なピットは、北コーナー壁際に配置されている。また、南コーナー部には、貯蔵穴状の長方形の土坑が配置されている。

諸磯a式期の第1・2・4号竪穴建物跡は、調査区北西部の台地の平坦部に位置し、平面形状は第1・2号が隅丸方形である。第1号は、地床炉で、中央部からやや東寄りに付設され、柱穴は主柱穴が6本、補助柱穴2本配置されるなど黒浜式期の系統を受け継いでいる¹¹⁾。また、不規則なピットが北コーナー壁際に配置されている。南西コーナー部には、貯蔵穴状の楕円形の土坑が配置されている。出土遺物も黒浜式期の遺物が混在していることから、諸磯式期との過度期の竪穴建物跡と考えられる。第2号竪穴建物跡は、主柱穴が4か所で、その対角線上に補助柱穴が1か所、そのほかは性格不明である。当時期の典型的なタイプである²⁾。第1・2号竪穴建物跡ともに、主軸方向や、規模がほぼ同じであることから、第1号は柱穴の配置がやや古い様相を示すが、ほぼ同時期に存在した可能性がある。第4号竪穴建物跡は調査区域外へ延びているため、形状は不明である。

浮島式1期の第3号竪穴建物跡は、調査区南西部の台地の平坦部に位置している。平面形状は隅丸長方

形で、炉は不明である。柱穴は壁際に主柱穴が4本、その他は不規則で掘り込みが浅いため、性格は不明である。

(2) 炉穴について(第60・61図、付図)

炉穴は、第1・2号炉穴ともに、調査区北西部の緩斜面部に位置している。出土遺物がないため、明確な時期は不明であるが、周辺の表採遺物から早期後半の条痕文の時期と考えられる。同時期の遺構は、第19・82・93・201号土坑である。今後、調査の進展に伴い、北西側対岸の台地に隣接する高須賀堂ノ前遺跡との比較検討が必要となる。

(3) 土坑について(第62～92図、付図)

土坑は、調査区南東部の低地部を除く、ほぼ全域から確認できた。307基中、時期が明確なのは26基であった。出土土器から、早期前半(摺糸文期)、早期後半(条痕文期)、前期中葉(黒浜式期)、前期後半(諸磯a式期・浮島式期・興津式期)に時期区分ができる。

- ・早期前半(摺糸文期):第281号土坑
- ・早期後半(条痕文期):第19・82・93・201号土坑
- ・前期中葉(黒浜式期):第1・8・39・48・52・53・56・59・269・383号土坑
- ・前期後半(諸磯a式期):第34号土坑、(浮島式期):第24・49・71・117・227号土坑
(興津式期):第16・32・44・68・234号土坑

以上のように前期中葉のものが多く、出土遺物がない土坑が多いため不明な点があるが、時期分類のできた土坑の分布状況を見ていくと、早期前半が調査区北西部の台地縁辺部寄りに、早期後半は調査区西部の平坦部に散在している。前期中葉は調査区北西部の縁辺部寄りに集中し、第383号土坑のみ南東部の当期の第5号堅穴建物跡寄りに位置している。前期後半は、土器型式から3時期に細分され、諸磯a式期では、第34号土坑が調査区北西部の当期にあたる第1・2号堅穴建物跡のほぼ中間の北寄りに位置している。浮島式期では、調査区北西部から中央部にかけて分布している。興津式期では、調査区北西部の縁辺部から調査区中央部にかけて分布している。

土坑の性格については、副葬品と考えられる小型の深鉢や石匙が出土している第32号土坑(興津式期)、逆位で伏せた状態で出土している鉢被り葬の可能性のある第39号土坑(黒浜式期)や深鉢の底部を意図的に穿孔している第49号土坑(浮島式期)などから、墓坑の可能性もある。そのほかの土坑についても、覆土が人為堆積で、形状からも墓坑の可能性もある。出土遺物では深鉢のほかには凹石、磨石が出土しているものが散見できる。このことから、木の実などを割ったり、つぶしたりするのに使う石の道具を、死者にもたせる抱石葬が考えられる³⁾。

小结 以上のように、早期では、調査区北西部台地の縁辺部寄りに立地し、前期中葉では、調査区北西部の台地縁辺部寄りと調査区南東部に分布が分かれており、小規模な集落が少なくとも2か所に存在する可能性がある。

前期後半においては、諸磯a式期では、調査区北西部の平坦部に分布し、浮島式期では、出土土器が細片であるため、土器型式においては細分できないが、当期の第3号堅穴建物跡と第49号土坑が重複していることから、少なくとも2時期に分かれる。興津式期は、調査区区域内では堅穴建物跡は確認できず、土坑のみの確認であった。それぞれの覆土が人為堆積で、形状から墓坑の可能性もある。

黒浜式期以降には集落の中央に広場を持つ、いわゆる馬蹄形集落ないし環状集落などの定型的縄文集落

が出現すると考えられている⁴⁾。県内では、石岡市外山遺跡が該当する⁵⁾。また、千葉県船橋市飯山満東遺跡⁶⁾のように集落の一隅に密集するものや、群馬県北橋村分郷八崎遺跡⁷⁾のように竪穴建物跡と混在する例がある。当遺跡がそのどれにあてはまるかは、調査区域が限定されているため、現状では不明である。

なお、出土土器においては、東関東を文化圏とする浮島式・興津式と西関東を文化圏とする諸磯式の双方の文化が重なり合う場所に当遺跡が位置している⁸⁾が、調査区域内では諸磯a式以降の諸磯b・c式の出土がなく、興津式のみが出土している。

3 弥生時代

当該時代の遺構は、調査区南東部の低地部に位置している。上面は、古墳時代の遺物包含層に覆われていた。遺構別にみていくと、竪穴建物跡2棟が並列するように存在し、その周囲に集中する形で土坑が分布している。遺物は、後期前半の弥生土器（広口壺・鉢）、石器（鼓石・磨石）が出土している。出土土器が細片であることから、時期の細分は困難であるが、竪穴建物跡と土坑の重複があるものがみられ、当該時代は、少なくとも2時期に分かれる。

(1) 竪穴建物跡について（第93～96図、付図）

竪穴建物跡は、調査区南東部の低地部の縁辺部寄りに小型と大型の2棟が並列する形で確認できた。出土土器の特徴から、後期前半に比定できる。

竪穴の構造は、第6号竪穴建物跡が不整隅丸長方形で、床面積が23.50㎡、柱穴は、壁際寄りに主柱穴が4か所、対角線上に補助柱穴が1か所である。第7号竪穴建物跡は、不整長方形で床面積が60.08㎡、西壁際にはベッド状施設があり、炉は南壁際に位置し、柱穴は、主柱穴が4か所、補助柱穴が、主柱穴の対角線上1か所と主柱穴の延長上に2か所、さらに北東部に壁柱穴が2か所、東壁際に出入り口施設のピットが1本付設される。

特筆すべきことは、両遺構ともに焼失家屋で、土器は、細片で、床面からの出土がほとんどないことから、建物の廃絶後に焼失したことがわかる。廃絶に伴う焼却行為の後に、不用な破片を投げ捨てたものと考えられる。また、両遺構ともに覆土の第2層からも焼土が確認できた。第2層以下を埋め戻した後に、焼土を廃棄している。焼土内からは、土器の細片が若干出土したのみであることから、祭祀行為ではなく、通常のゴミ捨てを目的とした廃棄行為と考えられる。

(2) 土坑について（第97～99図、付図）

土坑は、調査区北西部の台地縁辺部寄りに1基、そのほかは、調査区南東部の低台地上から集中して確認できた。29基中、時期が明確なのは3基であった。出土した広口壺は、複合口縁で口縁部に附加条1種（附加2条）縄文を施文、下端部に山形押印文を施文や、頭部に縦位の区画をもつ櫛描沈線文、口縁部が無文で、頭部に横位の多条櫛描き沈線文が施文された鉢形土器は、口縁部、胴部上半に輪轡痕を残し、器面には単筋縄文LRを施文する特徴から後期前半のほぼ一時期に比定できる。

第492号土坑から人骨の出土はなかったが、ほぼ完形の鉢形土器が、横位の状態で口縁部を南方に向けて置かれた状態で出土している。このことから、仰向けの鉢被り葬で、東部には石器が置かれた状態で出土していることから副葬品と考えられ、墓坑の可能性もある。類例としては、中期の遺跡であるが、福島県会津若松市一ノ塚B遺跡の第88号土坑墓と遺構の形状と鉢形土器の出土状況が類似している⁹⁾。その

ほかの土坑も覆土が人為堆積で、形状や配置状況から墓坑の可能性はある。

4 古墳時代（第100～103図、付図）

当時代の遺構は、第1号遺物包含層のみを確認した。第1号遺物包含層は、調査区南東部の低地部に1か所確認できた。土師器片1727点（埴68、器台1、高坏278、壺3、甕1377）が出土している。出土土器の特徴から、5世紀前葉と考えられる。

遺物は、地形の傾斜に沿って北部から南部にかけて、投棄された状態で出土している。赤彩を施した土器や剣形模造品が散見できるが、土器は、細片が多いことや1個体に復元できるものがないことから、通常の廃棄行為と考えられる。廃棄の方向から、当時代の集落は調査区域外の北側に展開しているものと考えられる。

5 室町時代（第104～107図、付図）

当時代の土坑7基は、調査区中央部の台地平坦部と調査区南東部の台地平坦部及び低地部に散在して分布している。江戸時代（17世紀代）の第1号掘立柱建物跡や第2号溝跡に掘り込まれているものもある。

土坑からは、人為的な埋土からわずかに土器、陶器の細片が出土している。出土土器・陶器が細片のため時期は明確でないが、その特徴から室町時代後期と考えられる。人骨の出土はないが、形状や人為堆積である覆土の状況、石塔片の出土から墓坑と考えられる。遺物が細片であるのは、骨や副葬品を他の場所に改葬し、埋め戻した際の残骸の可能性もある。歴史的背景をみると、高須賀の地は室町時代には、佐竹氏の一門東義久の支配下となり、関ヶ原の戦い後、豊臣方についていた佐竹氏の秋田国替により、江戸時代になると幕府の天領となっている¹⁰⁾。改葬とは断言できないが、支配者の変遷による影響の可能性もある。

6 江戸時代

当時代の遺構は、調査区のほぼ全域に分布している。台地の平坦部に位置する溝跡は、掘立柱建物跡と土坑を区画するように溝が掘り込まれている。

(1) 掘立柱建物跡について（第108～116図、付図）

当遺構群は、調査区中央部に位置する。第1号掘立柱建物跡と第5号掘立柱建物跡に重複があるため、少なくとも2時期の造営が考えられる。また、そのほかは重複がみられないことから比較的短期間の造営と考えられる。時期は、近接する溝跡と同軸であるため、17世紀代と考えられ、17世紀後半の第204号土坑に掘り込まれていることから、17世紀後半以前には廃絶したものと考えられる。また、当遺跡が描かれている現存する絵図では、貞享3年（1686）の『上郷村と別府村境論裁許絵図』（個人蔵）²⁰⁾があり、当遺跡の地点は、山林と畑になっている。17世紀後半には、建物は存在しないことがわかる。

建物の形状はほぼ正方形を基調とするものと、長方形を基調とするものに分かれる。確認できた掘立柱建物跡は、すべて側柱建物である。周囲の墓坑と考えられる土坑の配置状況から、寺院関連の建物で、正方形を基調とするものが小堂、長方形を基調とするものが倉庫の建物と考えられる。同時期の類例としては、『新編武蔵風土記稿』などに記載されている「教福寺」の跡地とされる東京都町田市多摩ニュータウンN0.405遺跡¹¹⁾や東京都清瀬市下宿内山遺跡¹²⁾と類似する。両者ともに17世紀代で、梶原勝氏の見解¹³⁾では、正方形を基調とするものは、仏堂のような小堂社の可能性を指摘されている。この根拠としては、

教福寺と推定される建物群と寛政2年(1742)の出羽国村山郡山口組の「堂社書上帳」の記載されている建物の規模を参考にしている。また、長方形のものは作業小屋としている。

また、当時代の区画溝を伴う掘立柱建物跡の周辺の調査例では、当遺跡南東約4kmの古屋敷遺跡¹⁴¹で、17世紀代の遺物が出土している。周囲には、墓坑の可能性がある土坑もみられるが、ゴミ捨て用の土坑から多量の遺物が出土している。方形基調の建物はなく、長方形基調の建物のみであることから、屋敷跡とされ、墓坑の可能性のある土坑は屋敷墓と考えられている。報告では、有力な名主層の屋敷跡としている¹⁵⁰。当遺跡を以上の視点から検討しても、周辺の土坑からの遺物の出土が極めて少なく、細片のみで、生活臭が感じられないことから、屋敷跡より村落寺院に関する建物の可能性がある。

(2) 土坑について(第117～133図、付図)

土坑は、調査区の北西部から南東部の台地平坦部に散在して、溝に囲まれるように分布している。遺物の出土がないものが多く、明確な時期がわかるものは、9基のみである。出土遺物の時期から、17世紀後半、18世紀前半、18世紀後半、19世紀前半のものがある。17世紀後半は第81・204・287・420号土坑、18世紀前半は第407号土坑、18世紀後半は第128・321・322号土坑、19世紀前半は第103号土坑がそれぞれ該当する。

土坑の性格は、形状や覆土が人為堆積であることから、墓坑の可能性がある。形状は、円形と楕円形、隅丸長方形のものに分かれる。円形のものには第128号土坑、楕円形が第81・204・287・407・420号土坑、隅丸長方形が第103・321・322号土坑となり、時期別に見ていくと、楕円形、円形、隅丸長方形の順に時期的な変遷がたどれる。形状からの埋葬形態¹⁶⁰は、臥葬、座葬、臥葬の順に変遷がたどれる。

(3) 溝跡について(第134～144図、付図)

溝跡7条は、調査区中央部から南東部にかけて、区画するような形で、規則的に掘り込まれている。出土遺物から17世紀後半、18世紀前半、19世紀前半の3時期に分けられる。17世紀後半が、第2・4・5号溝跡、第3号溝跡からは、出土遺物がないが、同時期の関連する溝と考えられる。18世紀前半には第7号溝跡、19世紀前半には第9号溝跡が、それぞれ該当する。なお、第6号溝跡は出土遺物がないため、詳細な時期は不明であるが、18世紀前半の第7号溝跡を掘り込んでいる。第7号溝跡と形状が似ているため、付け替えの溝で、18世紀前半以降と考えられる。性格は、地形に合わせて掘り込まれていること、一定の間隔をあけていることなどから、排水と区画の機能をあわせもった溝と考えられる。溝の遺物の中で特筆すべきものは、第2号溝跡の覆土第1層から投棄された状態で出土した矢立である。矢立の遺跡からの出土は、県内初である。

矢立は、筆と墨壺を組み合わせた携行用の筆記用具一式のことで、当遺跡のものは、銅一体型(杓矢立)である。伝世品は数多くあるが、遺跡からの出土例は全国的にも類例が少なく、管見に触れるものでは、東京都港区三田済海寺長岡藩主牧野家墓所¹⁷¹の銀製筆矢立、神奈川県厚木市東町遺跡¹⁶⁸の銅一体型(杓矢立)、群馬県前橋市山王・柴遺跡¹⁶⁹から銅一体型(杓矢立)が、それぞれ墓坑から出土している。

7 おわりに

今回の調査区域は、遺跡の北部にあたる。遺跡の一部分の調査のため、不明な点が多いが、調査区北西部

から南東部の台地平坦部では、縄文時代には、早期では集落の一部である竈穴や土坑、前期中葉から後半では集落跡や墓域として、その後、室町時代から江戸時代にかけては、墓域として、それぞれ土地利用されていることが明らかとなった。また、矢立や天目茶碗、龍泉窯の青磁などの出土が見られ、武士や僧侶等の有力な人物の存在が考えられる。

南東部の低地部では、弥生時代には後期前半の集落と墓域が確認でき、廃絶後にはその上を古墳時代中期に廃棄場所として利用され、さらに江戸時代になると耕作地の排水用の溝として土地利用されていることが確認できた。

最後に、道城入という地名から当初、中世城郭を念頭において調査にあたったが、直接それに繋がる遺構は確認できなかった。南東部の低地部には火縄銃の玉が一点出土しているが、狩り場であった可能性がある。推測の域はでないが、「道城」は「道場」の意味で考えると、浄土真宗や時宗の寺院などに信徒が集まって念仏を唱える集会所になる。つまり、江戸時代の方形の建物は、時宗などの阿弥陀信仰からきた阿弥陀堂の宝形造を意識した建物の可能性がある。

註

- 1) a 菅森健一「Ⅳ 鷲森遺跡からの考察 4. 住居跡について」『郷土史料』第33集 埼玉県上福岡市教育委員会 1987年2月
- b 早坂廣人「第5章まとめ 2住居跡と集落 壑穴住居跡について」『富士見市文化財報告』第46集 富士見市教育委員会 1995年3月
- c 佐藤一也「第3章 第4節まとめ」『茨城県教育財団文化財調査報告』第379集 2013年3月
- 2) 註1)に同じ。
- 3) a 大工原豊『中野谷長原遺跡』縄文時代遺構編 安中市教育委員会 1998年3月
- b 坪田(館)弘子「縄文時代前期の墓域と土壘墓 - 関東・中部地方の事例から -」『縄文時代』第15号 縄文時代文化研究会 2004年5月
- 4) 鈴木保彦「第3章 縄文集落の変遷 第2節 定形的集落の成立と墓域の確立」『縄文時代集落の研究』雄山閣 2006年3月
- 5) a 山本静男「石岡市都市計画事業南台土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書 兵崎遺跡 大谷津A遺跡 刈馬塚遺跡 大谷津B遺跡 大谷津C遺跡 外山遺跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』第13集 1982年3月
- b 瓦吹堅「茨城県における縄文時代集落の諸様相」第1回研究集会発表要旨『縄文時代研究の現段階』縄文時代文化研究会 2001年12月
- 6) 野村幸希『飯山溝東遺跡』千葉県市社 1975年3月
- 7) 林沼忠介「分那八崎遺跡 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵文化財発掘報告書」本文編 群馬県北橋村教育委員会・群馬県教育委員会・日本道路公団 1986年3月
- 8) a 今村啓爾「5. 前期の土器 諸儀式土器」『縄文文化の研究』3 縄文土器1 雄山閣 1981年11月
- b 松田光太郎「諸儀・浮島土器の変遷と型式間の影響関係」『神奈川考古』第44号 神奈川考古同人会 2008年5月
- 9) 泉すま子・長谷川聖二・小森哲也・山田倫也「Ⅳ まつり・村・墓 ③土坑墓」第4回企画展図録『弥生人のくらし』- 卑弥呼の時代の北関東 - 栃木県立なす風土記の丘資料館 1996年10月
- 10) 筑波町史編纂専門委員会編「第3編 近世 第1章 幕藩社会の成立」『筑波町史』上巻 筑波町 1989年9月
- 11) 山口慶一「NO.405遺跡 5 近世」『多摩ニュータウン遺跡』平成3年度 第1分冊 (財)東京都教育文化財団・(財)東京都埋蔵文化財センター 1993年3月

- 12) 内田祐治 『東京都清瀬市下宿内山道跡』 下宿内山道跡調査会 1986年3月
- 13) 梶原勝 「第1章 東日本の中近世掘立柱建物 第2節多摩地域における近世の掘立柱建物」『埋もれた中近世の住まい 奈良国立文化財研究所シンポジウム報告』 同成社 2001年5月
- 14) a 白田正子 「(仮称) 萱丸地区特定土地地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ 三度山道跡 古屋敷道跡」『茨城県教育財団文化財調査報告』 第132集 1998年3月
b 經潤和彦 「古屋敷道跡における近世の屋敷跡の様相についての一考察」『研究ノート』 12号 茨城県教育財団 2003年6月
- 15) 註14) に同じ。
- 16) 長佐古真也 「発掘事例にみる多摩丘陵の墓制」『江戸時代の墓と葬制』江戸道跡研究会第9回大会発表要旨 江戸道跡研究会 1996年2月で、埋葬形態の復元を行っている。
- 17) 松本建・鮫留三俊 『港区三田寺 長岡藩主牧野家墓所発掘報告書』 東京都港区教育委員会 1986年3月
- 18) 飯田孝・山田不二郎・富永樹之・平本元一ほか 『東町二番 市街地再開発事業に伴う旧厚木宿の埋蔵文化財発掘調査報告書(1)』 厚木市教育委員会 1995年3月
- 19) (公財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団ホームページ 整理道跡の最新情報 山王・榮道跡群 2014年10月
- 20) 地図と測量の科学館編 「いまに残る郷土の文化遺産つくばの古地図」『地図で知るふるさとつくば』開館10周年記念特別展展示図録 財団法人 日本地図センター 2006年3月

写 真 図 版

高須賀堂ノ前遺跡

高須賀道城入遺跡



高須賀堂ノ前遺跡・高須賀道城入遺跡遠景

PL1



遺跡遠景 (南東上空から)



調査区全景 (上空から)

PL2



第1号竖穴建物跡
完掘状況



第3号竖穴建物跡
完掘状況



第4号竖穴建物跡
完掘状況

PL3

第7号竖穴建物跡
完掘状況

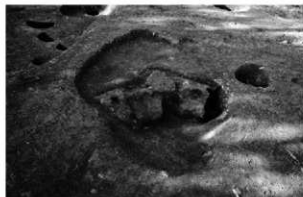


第8号竖穴建物跡
遺物出土状況

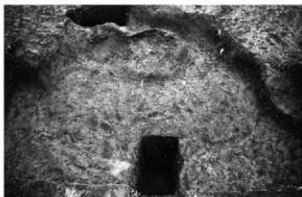


第8号竖穴建物跡
完掘状況





第1号炉穴完掘状况



第2号炉穴完掘状况



第3号炉穴完掘状况



第4号炉穴完掘状况



第5号炉穴完掘状况



第6号炉穴完掘状况



第7号炉穴完掘状况



第4号土坑完掘状况



第14号土坑遺物出土状況



第25号土坑遺物出土状況



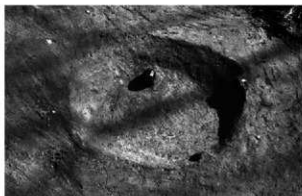
第26号土坑完掘状況



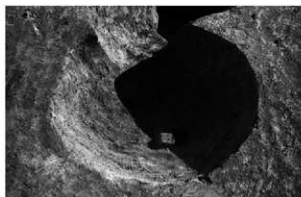
第31号土坑完掘状況



第35号土坑遺物出土状況



第36号土坑遺物出土状況



第93号土坑遺物出土状況



第101号土坑遺物出土状況



第1号地下式坑完掘状况



第1号地下式坑土层断面



第1号地下式坑遗物出土状况



第2号土坑遗物出土状况



第65号土坑完掘状况

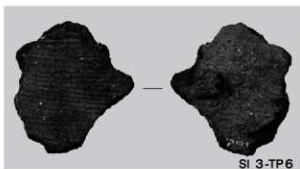
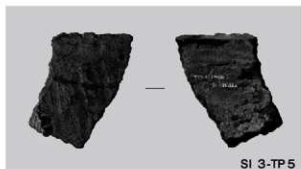
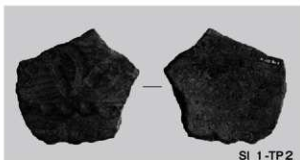


第1号溝跡完掘状況



第1号溝跡土層断面

PL8



第1·3·4·7·8号竖穴建物跡出土土器

PL9



FP 4-2



FP 2-TP26



FP 7-TP29



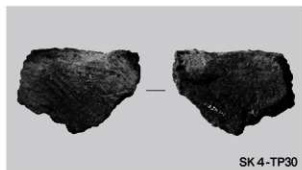
SK54-TP46



SK93-TP52



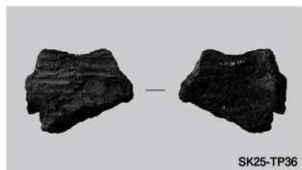
SK86-TP49



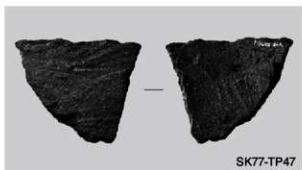
SK 4-TP30



SK14-TP33

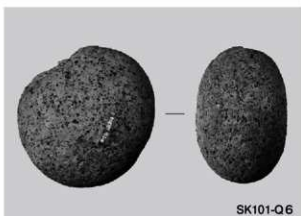
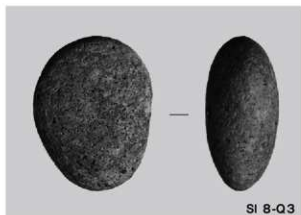
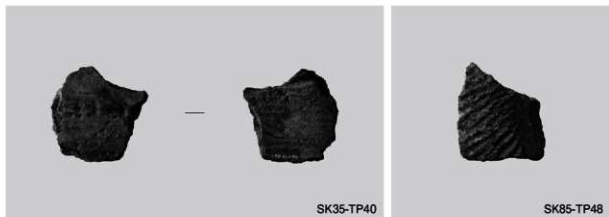


SK25-TP36

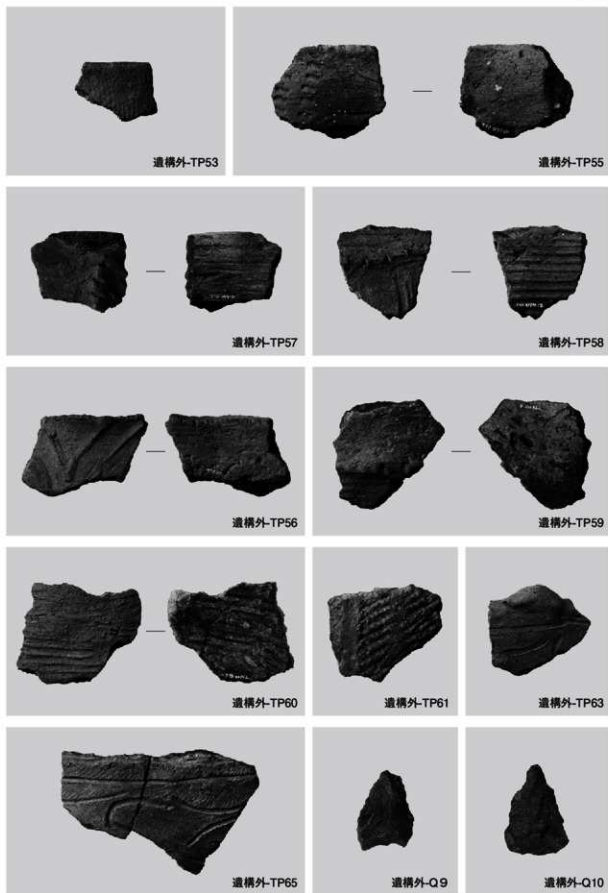


SK77-TP47

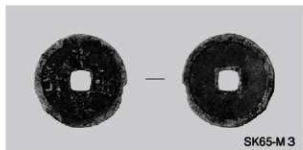
第2・4・7号炉穴・第4・14・25・54・77・86・93号土坑出土土器



第35·85号土坑出土石器，第1·4·8号竖穴建物跡·第1号炉穴·第90·101号土坑出土石器



遺構外出土土器・石器（縄文時代）



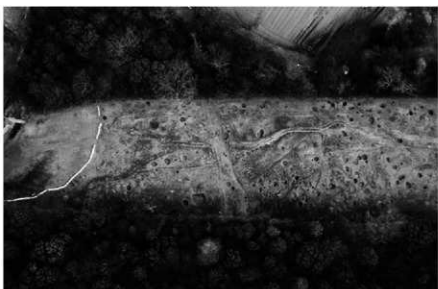
第 1 号地下式坑・第 2 号土坑出土土器，第 1 号地下式坑出土石器，第 2・65 号土坑・遺構外出土銭貨

PL13

遺跡遠景
(南東上空から)



調査区全景
(北西部)



調査区全景
(南東部)



PL14



第1号竖穴建物跡
遺物出土状況



第1号竖穴建物跡
遺物出土状況(近景)



第1号竖穴建物跡
完掘状況

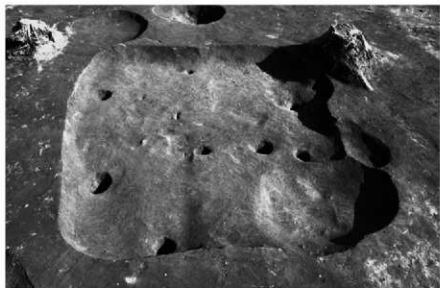
第3号竖穴建物跡
遺物出土状況



第3号竖穴建物跡
遺物出土状況(近景)



第3号竖穴建物跡
完掘状況





第4号豎穴建物跡
遺物出土狀況



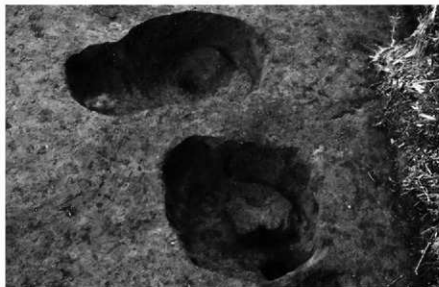
第5号豎穴建物跡
遺物出土狀況



第5号豎穴建物跡
遺物出土狀況(近景)

PL17

第1・2号炉穴
完掘状況

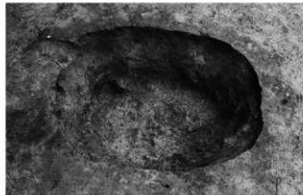


第1号炉穴
焼土断ち割り状況



第2号炉穴
焼土断ち割り状況





第1号土坑完掘状况



第8号土坑遗物出土状况



第8号土坑完掘状况



第16号土坑遗物出土状况



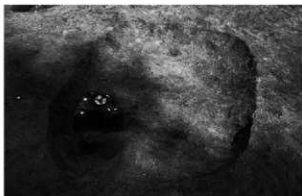
第19号土坑完掘状况



第24号土坑遗物出土状况



第26号土坑遗物出土状况



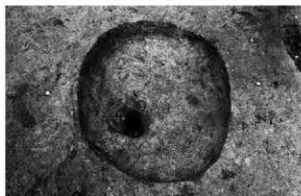
第32号土坑遗物出土状况



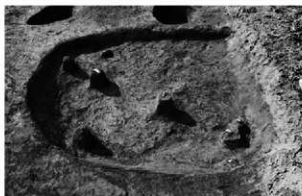
第34号土坑完掘状況



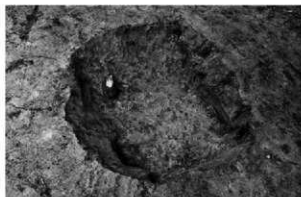
第39号土坑遺物出土状況



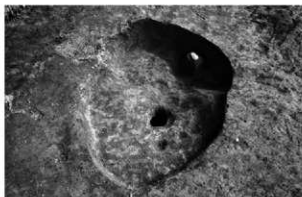
第53号土坑完掘状況



第56号土坑遺物出土状況



第68号土坑遺物出土状況



第80号土坑遺物出土状況



第201号土坑完掘状況



第281号土坑遺物出土状況

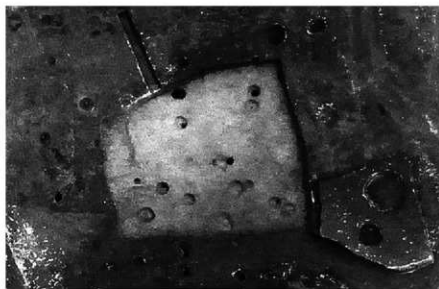
PL20



第6号竖穴建物跡
遺物出土状況全景



第6号竖穴建物跡
完掘状況



第7号竖穴建物跡
完掘状況

PL21

第 169 号 土 坑
完 掘 状 况



第 460 号 土 坑
完 掘 状 况



第 492 号 土 坑
遺 物 出 土 状 况





第1号遺物包含層
遺物出土状況全景
(北から)



第1号遺物包含層
遺物出土状況近景①



第1号遺物包含層
遺物出土状況近景②



第1号掘立柱建物跡完掘状況



第2号掘立柱建物跡完掘状況



第3号掘立柱建物跡完掘状況



第4号掘立柱建物跡完掘状況



第5号掘立柱建物跡完掘状況



掘立柱建物跡群全景

PL24



第 136 号 土 坑
完 掘 状 况



第 400 号 土 坑
遗 物 出 土 状 况



第 486 号 土 坑
完 掘 状 况



第81号土坑遺物出土状況



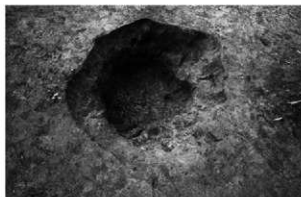
第103号土坑完掘状況



第106号土坑完掘状況



第107号土坑完掘状況



第128号土坑完掘状況



第158号土坑完掘状況



第210号土坑完掘状況



第321号土坑遺物出土状況

PL26



第 2 号 溝 跡
土 層 断 面



第 2 号 溝 跡
遺 物 出 土 状 況



第 2 号 溝 跡
完 掘 状 況 (北 从 从)



第1号溝跡完掘状況（北から）



第3号溝跡完掘状況（南西から）



第3号溝跡完掘状況（北東から）



第4号溝跡完掘状況（北東から）



第4号溝跡完掘状況（東から）



第5号溝跡完掘状況（北から）



第5号溝跡完掘状況（南から）



第6・7号溝跡完掘状況（北から）



第8号溝跡完掘状況（西から）



第9号溝跡遺物出土状況（北から）



第9号溝跡完掘状況（北から）



第1号竪穴遺構完掘状況



柱穴列群全景



第2号柱穴列完掘状況（東から）



第3号柱穴列完掘状況P1～P3全景（東から）



第3号柱穴列完掘状況P7～P11全景（西から）



第3号柱穴列完掘状況P12～P16全景（東から）



第1号台地整形遺構全景（東から）



台地整形盛土整地層土層断面①



台地整形盛土整地層土層断面②

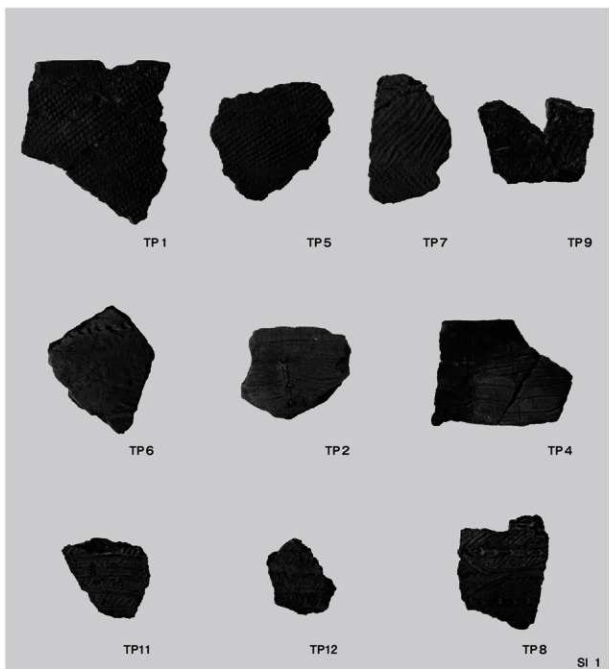
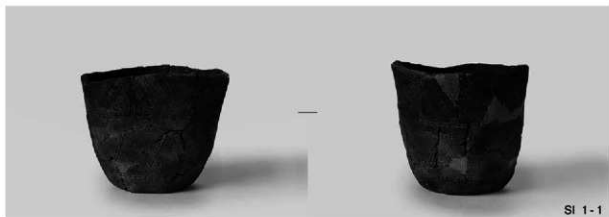


台地整形盛土整地層土層断面③

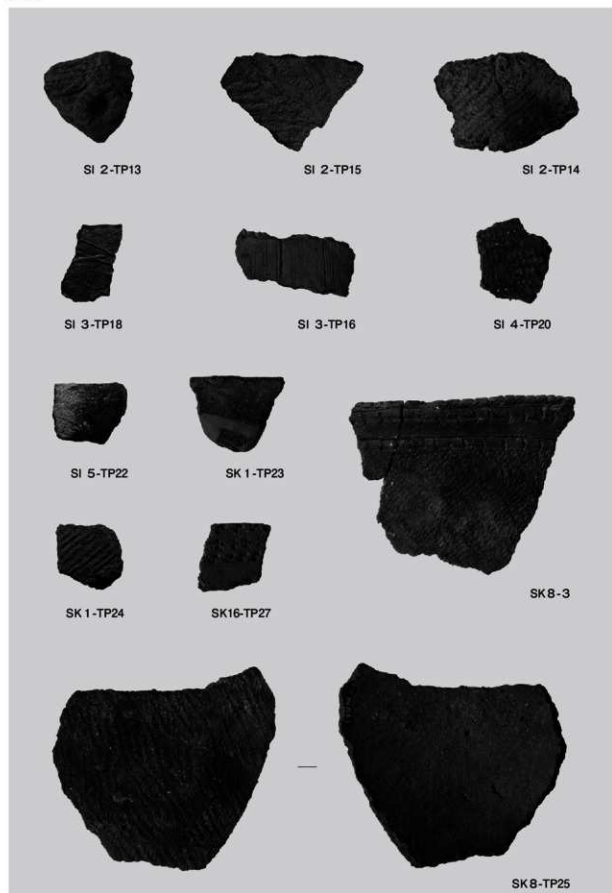


台地整形断ち割り土層断面

PL31

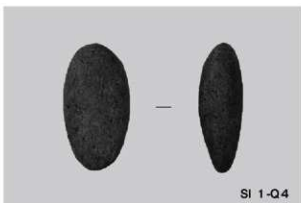
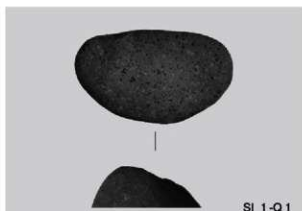


第1号竖穴建物跡出土土器



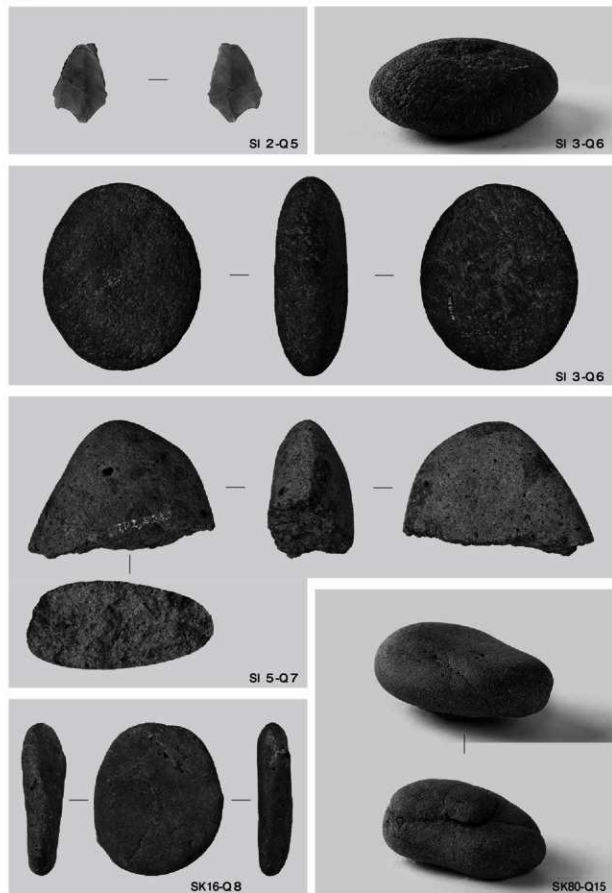
第2～5号竖穴建物跡・第1・8・16号土坑出土土器

PL33



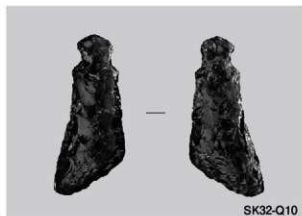
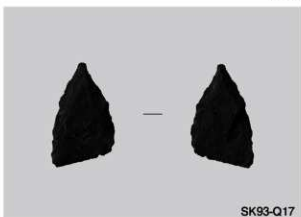
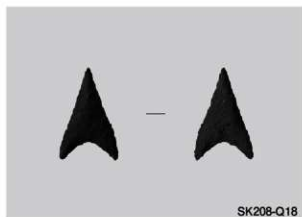
第32・34・39・68号土坑出土土器，第1号竖穴建物跡出土土器

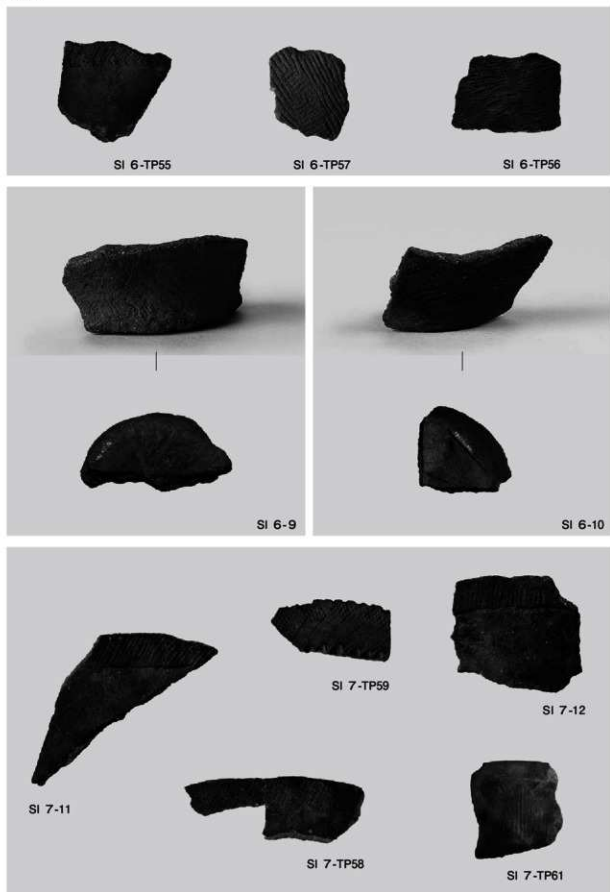
PL34



第2・3・5号竖穴建物跡・第16・80号土坑出土石器

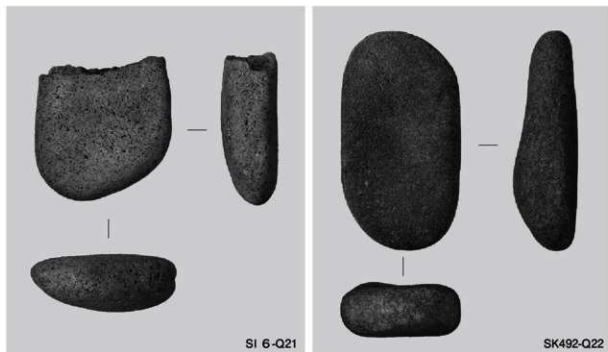
PL35



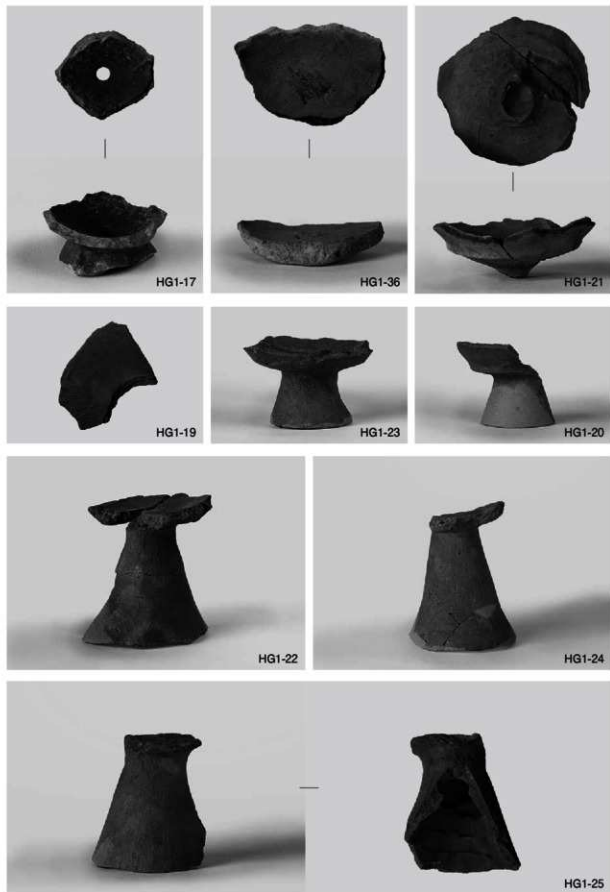


第6・7号竖穴建物跡出土土器

PL37

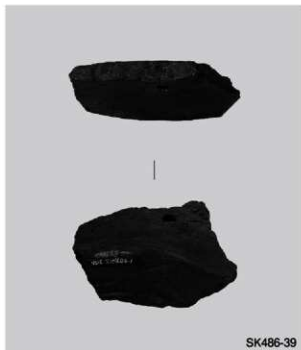
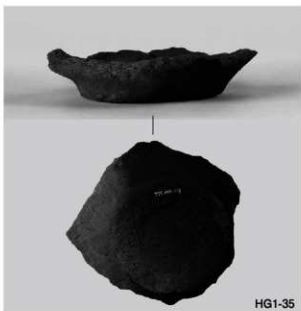


第169・458・492号土坑出土土器, 第6号竪穴建物跡・第492号土坑出土石器



第1号遺物包含層出土土器

PL39



第1号遺物包含層・第486号土坑出土土器、第400号土坑出土石器

PL40



第136·287·321·322·407号土坑·第2·5·9号满迹出土陶器·磁器

PL41



第103号土坑・第9号溝跡出土磁器，第2号溝跡出土石製品，第106号土坑・第2・4・6号溝跡出土金属製品



第2号溝跡出土金属製品・木製品（矢立・筆軸）

PL43



遺構外-TP67



遺構外-TP68



遺構外-TP74



遺構外-TP73



遺構外-TP72



遺構外-TP75



遺構外-TP76



遺構外-TP77



遺構外-TP78

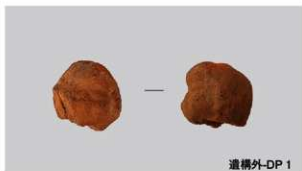
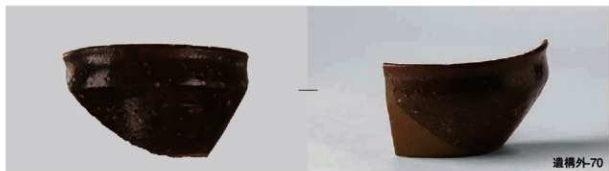


遺構外-65



遺構外-67

遺構外出土土器



抄 録

ふりがな	たかすかどうのまえいせき たかすかどうじょういりいせき				
書名	高須賀堂ノ前遺跡	高須賀道城入遺跡			
副書名	一般国道468号首都圏中央連絡自動車道建設事業地内埋蔵文化財調査報告書				
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第406集				
著者名	近江屋成隆 奥沢智也				
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団				
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL029-225-6587				
発行日	2016(平成28)年3月15日				
ふりがな所収遺跡	ふりがな所在地	コード 北緯 東経 標高 調査期間 調査面積 調査原因			
高須賀堂ノ前遺跡	茨城県つくば市高須賀字堂ノ前1385-3番地ほか	08220 - 626 36度06分28秒 140度02分24秒 20 ~ 23m 20121119 ~ 20130331 1,608㎡ 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道建設事業に伴う事前調査			
高須賀道城入遺跡	茨城県つくば市高須賀字道城入1939-2番地ほか	08220 - 627 36度06分05秒 140度02分56秒 17 ~ 25m 20120801 ~ 20130331 8,061㎡ 調査			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
高須賀堂ノ前遺跡	集落跡	縄文	竪穴建物跡 竪穴 土坑	5棟 7基 101基	縄文土器(深鉢), 石器(磨石・敲石)
	墓域	室町	地下式坑 土坑	1基 3基	土師質土器(小皿, 内耳鍋), 銭貨(永楽通寶)
	その他	時期不明	竪穴建物跡 溝跡	1棟 1条	
高須賀道城入遺跡	集落跡	縄文	竪穴建物跡 竪穴 土坑	5棟 2基 307基	縄文土器(深鉢), 石器(石鎌・石匙・磨石・敲石・凹石・スタンプ形石器・石皿・石錘)
		弥生	竪穴建物跡 土坑	2棟 29基	弥生土器(広口壺・鉢), 石器(磨石・敲石)
	古墳		遺物包含層	1か所	土師器(器台・高坏・埴・甕)
	室町		土坑	7基	土師質土器(小皿・内耳鍋・鉢), 石塔(火輪)
	江戸		掘立柱建物跡 土坑 溝跡	5棟 48基 9条	土師質土器(小皿・埴塔), 陶器(碗・灯明皿・播鉢), 鋳器(碗・皿), 金属製品(釘・槍先・煙管・矢立・稻鉢)瓦(軒椀瓦)
		その他	時期不明	竪穴遺構・竪穴・竪穴各1基 土坑72基, 溝跡2条 台地整形遺構 柱穴列群 ピット群	1か所 5か所 1か所
要約	高須賀堂ノ前遺跡では、縄文時代早期の集落跡と室町時代の墓域が確認できた。特に、調査例の少ない縄文時代早期後半の竪穴建物跡と同時期の竪穴が確認できたことは、貴重な資料である。道城入遺跡では、縄文時代前期中葉から後半、弥生時代後期前半のそれぞれの集落と墓域を、古墳時代中期の廃棄場所、室町時代及び江戸時代の墓域と排水を目的とした溝跡を調査し、断続的な土地利用の痕跡が確認できた。				

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 7 Home Premium ServicePack1
	編集	Adobe InDesign CS5
	図版作成	Adobe Illustrator CS5
	写真調整	Adobe Photoshop CS5
	Scanning	6×7 film Nikon SUPER COOLSCAN9000 図面類 EPSON ES-1000G
使用Font	OpenType	リュウミンPro・L
写真	線数	モノクロ175線以上 カラー210線以上
印刷	印刷所へは、	Adobe InDesign CS5でレイアウトして入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第406集

高須賀堂ノ前遺跡 高須賀道城入遺跡

一般国道468号首都圏中央連絡自動車道
建設事業地内埋蔵文化財調査報告書

平成28(2016)年 3月15日 印刷

平成28(2016)年 3月18日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 八幡印刷株式会社
〒310-0911 水戸市見和3丁目1528-38
TEL 0120-23-1473



X=+7,440m
A1a5
Y=+17,210m



付図 高須賀道城入遺跡遺構全体図（『茨城県教育財団文化財調査報告』第406集）